

奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域について

Disribution areas of rare or endemic plant species in Aami Islands

堀田 満

HOTTA Mitsuru

(Received November 30, 2004)

はじめに

世界自然遺産指定を目指しての「奄美群島重要生態系地域調査」は、群島のなかの重要な生態系が存在する地域を保護地域として設定するための基礎資料の取りまとめが課題となっている。言うまでもなく生態系は多くの生物種の競争・協同・共生の相互関係の複雑なネットワークによって成り立っているし、生態系をになっているのは多様な生物種の存在である。生態系の健全な存続と多様性の保全のためには、生態系をになう多様な種の存在の様式がまず第一に明らかにならなければならないだろう。その視点から、この報告では奄美群島地域内に分布する生態系の基盤を作っている植物種の空間的な存在の様式（分布）を明らかにすることを主要な目標にした。

奄美群島域には多くの絶滅危惧植物が分布している。日本の亜熱帯域に広がる島々、奄美群島を含む南西諸島は、絶滅危惧植物が植物相を構成する種の20～30%におよび、残念なことに「絶滅危惧種の宝庫」となっている。これらの問題については植物の絶滅危惧種をまとめた報告を参照されたい（種分科会 1988；沖縄県環境保護部自然保護課 1996；環境庁 2000；鹿児島県 2003）。また奄美群島の絶滅危惧植物については、堀田（2000, 2001b, 2002）がいろいろな側面から論じ、奄美の絶滅危惧植物の特徴や保護の問題点を明らかにしている。

奄美群島地域の植物環境の特徴は、湿潤な亜熱帯であると共に、地史的には東アジア大陸との断続を繰り返してきた島嶼地域であるといえよう。そのため第四紀の寒冷期の海面が低下し、陸域が連続的になった時期に中国大陸や西南日本から分布してきて、気候が温暖化しても遺存的に生き残り、あるいはさらに亜熱帯環境に適応的に分化した温帯系の種が多く存在する。また東アジアの亜熱帯環境の北限地域に位置することから東南アジアを中心に分布する熱帯・亜熱帯系植物種の分布北限地域ともなっている（堀田 2003）。分布域の周辺地域にあたり、島のために生

育可能な陸地面積も小さく、生態環境の多様性も低く、多くの植物種の分布地域が局限され、集団数も個体数もごく僅かである種が多く存在している。1度は採集されたが、その後は再発見されないナルコユリ、スズサイコなどのような種が存在する。知られている生育地は1ヶ所のみで個体数も少ないという絶滅寸前の種はアマミカジカエデやヤドリコケモモを始めとして多く存在している。

これらの絶滅危惧・稀少種の群島内での生育地を喪失すると、奄美群島の種の多様性が低下するだけでなく、群島独自の特徴ある生態系の取り返しがつかない変質を引き起こすであろう。それで、これら稀少種は一体どこに分布しているのか、どのように保全を図るべきなのかが重要な問題となる。いわゆる自然度の高い地域を人手を加えてはいけない「Aランク」の保全地域とし、人為的な影響の著しい地域は自由な生産活動が出来る「Cランク」地域とし、その間には緩衝地域としての「Bランク」地域を設定して保全を図る手法は、温帯に位置する白神山地や屋久島に適用されたが、より多様性とんだ生態系を有していて亜熱帯に位置する奄美群島では、この手法によると多くの稀少種を絶滅に追い込む可能性がある。

国有林における全面的な伐採（現在ではほぼ停止）、奄美振興法の下での不要な土木工事、徳之島に見られるような大規模な耕地整備事業、ダム建設、県下では唯一のシマタキミシダ産地の喪失になったような大規模な採石事業、最近目立つ過度の道路脇の草刈り、フォレストポリスに見られるような自然環境を無視した公園造成などは、多くの稀少種の生存環境を破壊してきた。そして保全のための「Aランク」地域指定だけでは群島に生育する稀少種は守りきれない。なぜなら「Cランク」地域にも、その地域にしか見られない奄美群島固有種や稀少種が存在しているからだ。そのような種が生育する地点は稀少種が生育するホットスポットとして注意深く保護される必要がある。

本報告が、奄美群島の植物世界の特異性、稀少種の保護の手がかりになることを願っている。奄美群島地域は多くの絶滅危惧種やその候補種を有している（堀田 2001b）。「鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物（植物編）」（鹿児島県 2003）に群島地域の絶滅危惧植物については一応まとめられているが、その中には記録はあるが、現在では生存が確認できない種や分布地が失われた種が多く見られる。緊急の現状調査が必要だろう。

地図とメッシュについて

今回の調査結果の整理で使用した地図は、20万分の1の地図をスキャナーで取り込み、河川や池、海岸線、サンゴ礁などの自然地形を書き込み、それ以外の地形コンターや市町村境界、市街地や道路などは消去し、さらに五万分の1地形図を基準にして、その1/4あるいは1/16に分割したメッシュをかぶせて作成された。

この作業には Mac Cube と Super Paint ver. 3.5 を使用した。

基本データを標本資料に基づいているので、分布地点の表示はラベルの地名によっている。そのため分布図の分布地点の表示は正確ではないし、異なった種の点ができるべく重ならないように作業をしているので、実際の分布地点（標本が採集された地点）と分布図の分布地点の表示とは多少の違いが発生するのは避けられない。しかし実際の分布地点があると推定されるメッシュから分布図での分布地点がはみ出さないように注意して作図をした。

分布情報の基礎とした標本データ

この調査では基礎資料として最初に絶滅危惧種、稀少種、分布上重要な種についての53枚の基本分布図が作成された（資料編参照）。分布地点は(1) 鹿児島大学総合研究博物館所蔵の標本（KAG 旧農学部標本室所蔵）、(2) 未整理であるが、鹿児島大学理学部に保管されている標本（KAGS）、(3) 西南日本植物情報研究所に所蔵されている植物映像データ（PPH）などの確実で再検討に耐える資料に基づいて整理された。奄美群島関係の標本を多く所蔵している琉球大学理学部、京都大学総合博物館、鹿児島県立博物館、奄美地域の標本を膨大に所蔵されている田畑満大氏の標本などは、時間的な余裕が無く、また資金的にも十分な調査をすることが出来なかった。

鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている南九州から南西諸島地域の標本（約10万点と推定される）は、戦前の高等農林専門学校時代の河越・内藤コレクションと戦後の初島住彦名誉教授と迫静男元講師を中心とする初島・迫コレクションがまとまったものである。そのうち奄美群島関係の標本は約1万点と推定されるが、両コレクションを比較することによって、奄美地域における植物の分布状態だけでなく、分布変遷の状況をおよそ伺うことができる。

鹿児島大学理学部の標本は1980年代末から堀田と学生たちが収集したもので、その多くは田畑氏との協同採集品である。ビデオ映像はこの採集調査に際して撮影されたもので、その多くは標本を伴っている。

標本ラベルの地名から正確な分布地点を決定することは困難なことが多い。戦前に採集された標本の中には「大島」とか「奄美大島」としか採集地が記されていないものもある。戦後の標本でも「大和村」とか「徳之島」としか記されていない場合がある。そのような標本は「分布地点不明」として基本分布図（付図1～52）に記録した。

分布図に記録した種類数（種と変種）は343種類になった。双子葉植物と単子葉植物に類別してそれらの種を学名のABC順に次にまとめて置くが、分布や保護上問題になる点については簡単なノートを付してある。

これらの種は(1) 分布地点が3ヶ所以下の稀少な種、(2) 奄美群島あるいは南西諸島地域に固有な種、または変種、(3) 奄美群島域が南限あるいは北限となる種、といった基準で選ばれている。

が機械的には処理をしていないので厳密ではない。第3番目のカテゴリーに関しては全ての種が網羅されてはいないし、(1)と(2)のカテゴリーの種で、奄美群島地域から初島(1975, 1986)や島袋(1997)によって分布の報告がなされている種であっても、標本や実地の確認がなされなかった種は分布図には入れていない。これらの報告は、ほとんどの種の分布は島単位で記録されていて、正確な産地の記録が無く、地図上に分布地点を記することが出来なかったからである。またこのように文献上で記録されている種のなかには本当に分布していたかどうか疑問な種もある。

分布を記録した種と保護上の問題点

奄美群島では稀少な種、絶滅が危惧されている種、分布上問題の種などを記録した。双子葉植物と単子葉植物に類別し、各種の配列は学名のアルファベット順にしてある。また付属資料の付図番号をFを附して示してある。

双子葉植物

Abelia chinensis var. *ionandra* (Hayata) Masam. タイワンツクバネウツギ (スイカズラ科) F29

奄美大島西南部に数ヶ所知られていたが、園芸的に乱採され、現在は少数個体が知られるのみ。このまま推移すれば絶滅する。

Acer amamianum Yamazaki アマミカジカエデ (カエデ科) F16, 53

奄美大島名音に1集団約10個体、被圧された雌個体が2個体知られるのみ。集団は道路のすぐそばにあり存続は非常に危険な状態である。

Acer insulare Makino シマウリカエデ (カエデ科) F53

奄美大島と徳之島。林道や川沿いなど二次林的な環境に見られ、大島では個体数も多いが徳之島では天城岳に知られるだけである。

Acer oblongum var. *itoanum* Hayata クスノハカエデ (カエデ科) F16

与論島には集団数も個体数も多く、稚樹も見られる。喜界島と沖永良部島にも分布する。

Adenophora triphylla var. *insularis* Kitamura ナンゴクシャジン (キキョウ科) F23

一時は集団数も個体数も増加したが、過度の草刈りで路傍集団は著しく減少している。

Ainsliaea macroclinidioides var. *okinawensis* (Hayata) Kitam. オキナワハグマ (キク科) F23

奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布する。次変種も含めて南西諸島に分布するこの種は分類学的な再検討が必要である。

Ainsliaea macroclinidioides var. *latifolia* (Kitamura) Hatusima オオシマハグマ (キク科) F23

住用川流域に知られる。個体数は少ない。

Ajuga dictyocarpa Hayata オニキランソウ (シソ科) F20

奄美大島、徳之島、沖永良部島の林道脇や林床に散在的に分布し、時には大きな集団を形成している。

Ajuga taiwanensis Nakai ヤエヤマキランソウ (シソ科) F20

- 奄美群島では沖永良部島大山地域にのみ知られる。他にも分布する可能性はある。
Alchornea liukuensis Hayata アミガサギリ (トウダイグサ科) F6
沖永良部島大山に知られる。北限産地になる。
- Anisomeles indica* (L.) O. Kuntze ブゾロイバナ (シソ科) F20
南方系の種で、沖永良部島と与論島、加計呂麻島から知られている。また奄美大島 (名瀬) からも採集されているが、人為的な分布である可能性が高い。奄美群島が北限の分布域である。
- Antidesma pentandrum* var. *barbatum* (Presl.) Merrile コウトウヤマヒハツ (トウダイグサ科) F6
与論島で1度採集されている南方系の種で、中央部の隆起サンゴ石灰岩の崖に見られる。
- Ardisia chinensis* Benth. シナヤブコウジ (サクラソウ科) F8
徳之島天城岳と三方通山にのみ知られる。集団数・個体数とも少なくはないが、他の地域には知られていない。
- Aristolochia debilis* Sieb. et Zucc. ウマノスズクサ (ウマノスズクサ科) F3
奄美大島赤尾木に分布していたが、耕地整理で産地は失われて、絶滅が心配されていた。最近 (2004) に龍郷町大勝に3株からなる小さな集団が発見された。人為的な導入か？
- Aristolochia liukuensis* Hatusima リュウキュウウマノスズクサ (ウマノスズクサ科) F3
林縁などに散在的に見られる木質つる性植物で、集団数は少なくない。
- Artemisia capillaris* Thunb. (Kamegaoka type) カワラヨモギ (キク科) F24
九州南部から南西諸島に分布する「亀が丘タイプ」と呼ばれる葉の裂片幅が広い特徴的な系統である。
- Aster asa-grayi* Makino イソノギク (キク科) F25
奄美大島、沖永良部島に分布するが、集団数も個体数も多いものではない。アヤマル岬の集団は道路工事と除草のため消滅した。
- Aster miyagii* Koidz. オキナワギク (キク科) F24
南西諸島固有種で、奄美大島と徳之島に分布し、集団数は多くはないが匍枝を延ばし栄養繁殖で大きな集団を形成する。しかし種子繁殖はほとんどやっていないように見られるから、集団の保全には問題がある。
- Aucuba japonica* Thunb. *ovoidea* Koidzumi ナンゴクアオキ (ミズキ科) F14
まとまった集団が湯湾岳に見られる。他ではあまり見かけないが、長雲峠、金作原、高鉢山、松長山などから知られている。徳之島では天城岳とその周辺と井之川岳に見られる。
- Balanophora yuwanensis* Akuzawa et Sakuta コワンツチトリモチ (ツチトリモチ科) F14
奄美大島に固有で、現在のところ2ヶ所の産地 (湯湾岳、高鉢山) が知られているのみであるが、金作原にも分布するという。
- Barringtonia racemosa* (L.) Bl. サガリバナ (サガリバナ科) F8
北限種、以前は大島各地に見られたというが、現在確認できるのは5集団で、個体数も少ないが、現地ではよく結実発芽している。しかし稚苗が岩崎蚕業によって商品化されて売られているのは問題である。与路島、請島にも分布するという。
- Berchemia lineata* DC. ヒメクマヤナギ (クロウメモドキ科) F15
隆起サンゴ石灰岩や岩石海岸に生育し、請島や加計呂麻島を含む奄美群島各島に分布する。奄美大島嘉徳が北限分布地点である。

- Blastus cochinchinensis* Lour. ミヤマハシカンボク (ノボタン科) F13
奄美大島の湿潤な林内に見られるが、比較的稀である。
- Bruguiera gymnorhiza* (L.) Lam. オヒルギ (ヒルギ科) F13
住用村の3ヶ所から知られていたが、そのうちの2ヶ所は埋め立てでほぼ消滅した。標本はないが笠利(手花部)が北限産地である。
- Callicarpa japonica* var. *luxurians* Rehder オオムラサキシキブ (クマツヅラ科) F19
散在的に知られるが、個体数は多くない。宮古崎には果実の白い個体が分布する。
- Callicarpa oshimensis* Hayata オオシマムラサキ (クマツヅラ科) F53
奄美大島と徳之島に分布し、林縁などで散在的に見られる。2次林的な種であるが、個体数は多くない。
- Camellia lutchuensis* T. Ito ヒメサザンカ (ツバキ科) F7
沖永良部島大山と徳之島井之川岳から知られる。産地は限定されている。
- Campanumoea lancifolia* (Roxb.) Merr. タングヅ (キキョウ科) F23
奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布する。集団数も個体数も少ない。
- Cardiandra amamioksimensis* Koidz. アマミクサアジサイ (ユキノシタ科) F9
奄美大島に固有、龍郷、本茶峠など数ヶ所の産地が知られるが、川沿いや道路脇の湿った岩場に生育し、多い種ではない。
- Carmona retusa* (Vahl.) Masamune フクマンギ (ムラサキ科) F19
群島の各島に分布しているが、個体数はそれほど多くない。
- Cerbera manghas* L. ミフクラギ (キョウチクトウ科) F18
奄美大島、沖永良部島、与論島に知られるが、種子は海流散布をするから、喜界島と徳之島にも分布する可能性が高い。
- Cinnamomum daphnoides* Sieb. et Zucc. マルバニッケイ (クスノキ科) F4
南西諸島から九州南部に固有。大島宮古崎周辺の海岸風衝低木林を形成する。
- Cinnamomum doederleinii* Engl. シバニッケイ (クスノキ科) F4
海岸風衝低木林を形成するが、金作原や天城岳のように内陸部にも見られることがある。
- Cinnamomum doederleinii* var. *pseudodaphnoides* Hatusima ケシバニッケイ (クスノキ科) F4
母種と同じように海岸や山地の風衝低木林を形成するが、マルバニッケイ、シバニッケイ、ケシバニッケイの関係は再検討する必要がある。
- Cinnamomum sieboldii* Nees ニッケイ (クスノキ科) F4
確実な野生集団は徳之島南西部の三京や犬田布岳、南部のギナ山に見られる。種子繁殖をした稚樹も存在する。
- Cirsium brevicaule* A. Gray シマアザミ (キク科) F24
南西諸島中南部に固有。群島各島の海岸地域に分布する。稀な種ではない。
- Citrus depressa* Hayata ヒラミレモン (ミカン科) F16
喜界島、沖永良部島、与論島に知られるが、本来の野生か栽培から野生化した系統かは、はっきりしない。タチバナとの関係を含め再検討が必要である。徳之島にも分布する。
- Colubria asiatica* (L.) Brongn. ヤエヤマハマナツメ (クロウメモドキ科) F15
沖永良部島田皆崎(北限)に分布する。
- Coptosapelta diffusum* (Champ.) van Steenis ヒョウタンカズラ (アカネ科) F26

奄美大島（笠利）で一度採集されている（北限）。徳之島では三京から西阿木名の間で記録されているが、再確認できていない。

Cordia dichotoma Forst. f. カキバチシャノキ（ムラサキ科）F19

奄美大島（東南部）、喜界島から知られているが、栽植されることがあり、その野生化の可能性もある。

Crossostephium chinense (L.) Makino モクビャクコウ（キク科）F24

喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島に分布する。奄美大島では龍郷町戸口、安木屋場、名瀬などから記録されている。トカラ列島宝島が北限分布地点である。

Croton cascarilloides Raeusch. グミモドキ（トウダイグサ科）F6

喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島に分布するが、大島からは記録がない。

Cynanchum auriculatum var. *amamianum* (Hatusima) Yamazaki アマミイケマ（ガガイモ科）F18

奄美大島、徳之島、沖永良部島から知られるが、集団数も個体数も少ない。徳之島と沖永良部島の集団については分類の再検討が必要である。

Cynanchum matsumurae Yamazaki ヒメイヨカズラ（ガガイモ科）F18

沖永良部島から知られるが、多くはない。

Cynanchum paniculatum (Bunge) Kitagawa スズサイコ（ガガイモ科）F18

隔離的な分布で、徳之島で1度採集されたことがあるが、その後の記録はない。

Cynoglossum lanceolatum var. *formosanum* (Nakai) Hara シマスナビキソウ（ムラサキ科）F19

奄美大島で2ヶ所が記録されているが、現状は不明。絶滅した可能性もある。

Damnacanthus biflorus (Rehd.) Masamune リュウキュウアリドオシ（アカネ科）

奄美大島と徳之島に分布する。F26

Damnacanthus indicus var. *pavispinus* Koidz. オオシマアリドオシ（アカネ科）F26

奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布する。林床性でやや普通である。

Dendranthema crassum (Kitam.) Kitam. オオシマノジギク（キク科）F24

奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島に分布する。与論島の集団は人為的な移植による。

Deutzia naseana Nakai オオシマウツギ（ユキノシタ科）F53

奄美大島、喜界島、徳之島に分布する。大島では稀な種ではない。

Dicliptera chinensis (L.) Nees ヤンバルハグロソウ（キツネノマゴ科）F22

奄美大島と徳之島に知られる。集団数も個体数も少ない。

Diplomorpha phymatoglossa (Koidz.) Nakai オオシマガンビ（ジンチョウゲ科）F7

奄美固有、奄美大島西南部地域と徳之島井之川岳や丹発山から知られる。

Dodonea viscosa (L.) Jacquin ハウチワノキ（ムクロジ科）F16

奄美大島（空港近くと請島）、徳之島北部から知られるが、個体数は多くない。

Ehretia dicksonii Hance マルバチシャノキ（ムラサキ科）F19

喜界島と与論島から知られている。

Elatostema oshimensis (Hatusima) Yamazaki アマミサンショウソウ（イラクサ科）F6

住用川の林縁湿岩に特産する。まとまった集団を形成するが、分布域は限定されている。

Entada phaseoloides (Linn.) Merr. モダマ（マメ科）F11

住用村東仲間の三太郎峠登り口に大きな集団がある。近年生育地は拡大している。

- Euodia ailanthifolia* Pierre ホソバハマセンダン (ミカン科) F53
奄美大島から数ヶ所の産地が知られているが、いずれも単木的に生育する。
- Euonymus fortunei* var. *australiukiensis* (Hatusima) Hatusima リュウキュウツルマサキ (ニシキギ科) F14
徳之島 (天城岳, 三方通山, 井之川岳) に分布する。湯湾岳にも数本だけ本種ではないかと思われる個体が知られる。
- Eupatorium luchuense* Nakai シマフジバカマ (キク科) F24
沖永良部島と与論島から知られているが、大島や徳之島にも分布すると思われる。
- Euphorbia liukiensis* Hayata リュウキュウタイゲキ (トウダイグサ科) F6
沖永良部島の海岸草原に生育し、集団数も個体数も少ない。
- Euphorbia sieboldiana* var. *amamiana* Hatusima アマミナツトウダイ (トウダイグサ科) F6
奄美大島北西部に3集団が知られ、個体数も多くはない。染色体数は4倍体である。
- Eurya emarginata* var. *minutissima* (Hatusima) Hatusima マメヒサカキ (ツバキ科) F7
奄美大島と徳之島の林縁や林内に散在的に分布する。個体数は多くない。
- Eurya osimensis* Masamune アマミヒサカキ (ツバキ科) F7
奄美固有、奄美大島 (中・南部) と徳之島 (天城岳, 井之川岳) に分布する。
- Farfugium japonicum* var. *luchuense* (Masamune) Kitamura リュウキュウツワブキ (キク科) F24
住用川沿いにごく少数の集団が生育するが、個体数は少ない。
- Ficus bengutensis* Merrill アカメイヌビワ (クワ科) F5
奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布し、やや湿潤な川沿いの場所に見られるが、多いものではない。
- Ficus septica* Burm. f. オオバイヌビワ (クワ科) F5
奄美大島、喜界島、沖永良部島から記録され、海岸近くに生育するが、多いものではない。徳之島からも報告されている。
- Fraxinus floribunda* Wall. シマタゴ (モクセイ科) F21
奄美大島、徳之島、沖永良部島に知られる。分布は散在的で、本来の野生かどうかは検討する必要がある。
- Galium gracilens* var. *lutchuense* (Nakai) Yamazaki リュウキュウヨツバムグラ (アカネ科) F26
南西諸島固有変種であるが群島の各島に分布する。路傍の雑草的な種である。
- Gardneria liukiensis* Hatusima リュウキュウホウライカズラ (キョウチクトウ科) F18
喜界島と沖永良部島から知られる。
- Gentiana scabra* var. *amamiana* アマミリンドウ (リンドウ科) F17
奄美大島、喜界島、徳之島に知られるが、数ヶ所あった大島の産地は1ヶ所を除き再認できない状態である。未記載分類群。
- Glycine clandestina* Wendl. ボウコツルマメ (マメ科) F11
沖永良部島 (田皆崎) に分布 (北限) する。ヤギの放牧で絶滅する可能性がある。
- Hedyotis strigulosa* var. *parvifolia* (Hook. et Arn.) Yamazaki (シマ) ソナレムグラ (アカネ科) F26
群島内の各島に分布している。

Hedyotis tenelliflora Bl. ケニオイグサ（アカネ科）F26

奄美大島，徳之島，沖永良部島，与論島に分布する。喜界島にも分布すると考えられる。

Helwingia japonica var. *liukiensis* Hara et Kurosawa リュウキュウハナイカダ
（ミズキ科）F14

南西諸島固有，大島と徳之島に分布し，産地は比較的多いが，個体数は多くない。

Heterotropa celsa (Hatusima) F. Maek. ミヤビカンアオイ（ウマノスズクサ科）F1
湯湾岳から金作原西部に分布し，集団数は多くない。湯湾岳集団は乱採されて緊急の保護
が必要とされている。

Heterotropa fudsinoi (H. Ito) F. Maek. フジノカンアオイ（ウマノスズクサ科）F2
大きな葉を有し，奄美大島西部から中部にかけて点状的に分布し，東南部にも分布する
という。本茶峠のものはオオフジノカンアオイとして区別される。薬用として大量に採取
されて消滅した集団もある。

Heterotropa gusuk F. Maek., nom. nud. グスクカンアオイ（ウマノスズクサ科）F1
住用村三太郎峠の周辺の山塊や金作原南部に分布するが，実体ははっきりしない。集団数
も個体数も少なく，三太郎峠の集団はほぼ消滅した。

Heterotropa hatsushimae F. Maek. ハツシマカンアオイ（ウマノスズクサ科）F1
徳之島天城岳に特産する。分布地では個体数は少なくはないが，採取を禁止しないと絶滅
のおそれがある。

Heterotropa hatsushimae var. *leucosepalum* タニムラアオイ（ウマノスズクサ科）F1
天城岳につながる三方通山に特産する。現状は不明。

Heterotropa lutchuensis (T. Ito) Honda オオバカンアオイ（ウマノスズクサ科）F2
奄美大島中部から東部に分布する，徳之島三方通山にも知られ，大島産のものとは形態的
には区別できない。薬用として大量に採取されて消滅した集団もある。

Heterotropa pellucida (Hatsusima et Yamahata) トリガミネカンアオイ
（ウマノスズクサ科）F1

住用村東部の鳥ヶ峰から記載された種で，実体が定かではない。

Heterotropa simile F. Maek. トクノシマカンアオイ（ウマノスズクサ科）F1
徳之島井之川岳から知られ，集団数も個体数も少ない。徳之島南部（三京や犬田布岳周辺）
にもよく似たカンアオイが見られるが，これがトクノシマカンアオイであるかどうかは再
検討を必要とする。

Heterotropa trinacriformis F. Maek. カケロマカンアオイ（ウマノスズクサ科）F1
加計呂麻島と住用村東部の山地に分布する。ミヤビカンアオイ，グスクカンアオイ，トリ
ガミネカンアオイ，カケロマカンアオイなどの奄美大島の小形なカンアオイ類については，
それぞれが独立した種かどうかは分類学的な再検討が必要である。

Ilex dimorphophylla Koidz. アマミヒイラギモチ（モチノキ科）F8

奄美固有，湯湾岳山域に稚樹を含めて数十本ほどが知られている。絶滅寸前であるが，挿
し木で容易に繁殖できるので苗木は販売もされている。

Ilex macrocarpa Oliver ヒロハタマミズキ（モチノキ科）F53

分布は大島北岸地域の中・西部にほぼ限定され，集団数も個体数も少ない。

Ilex maximowicziana var. *kanehirae* (Yamamoto) Yamazaki ムッチャガラ（モチノキ科）F8
奄美大島，徳之島，沖永良部島から記録されている。

- Ilex warburgi* Loesn. オオシイバモチ (モチノキ科) F8
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布する。大島(北限)では必ずしも稀な種ではない。
- Ipomoea gracilis* R. Br. ソコベニヒルガオ (ヒルガオ科) F19
群島の各島に分布するが, 集団数は多くはない。
- Itea oldhamii* Schneid. ヒイラギズイナ (ユキノシタ科) F9
奄美大島と徳之島に散在的に分布し, 個体数は多くはない。
- Ixeris debilis* var. *liuchuensis* Kitamura アツバジシバリ (キク科) F25
奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島に分布し, 海岸にやや普通である。
- Jasminium sinense* Hemsl. オキナワソケイ (モクセイ科) F21
喜界島, 徳之島, 与論島に知られるが, 与論の記録は1920年に採集されただけで, その後は採集されていない。
- Kalanchoe integra* (Medik) O. Kuntze リュウキュウベンケイ (ベンケイソウ科) F9
与論島で1920年に一度採集されたが, その後再発見されない。絶滅したと考えられる。奄美群島では沖縄から移植されたという栽培系統が見られる。
- Kandelia candel* (Linn.) Druce メヒルギ (ヒルギ科) F13
奄美大島の数ヶ所から知られているが, 龍郷町浦と住用川河口の集団は海側にサイズを拡大しつつある。
- Lagenophora lanata* A. Cunn. コケセンボンギク (キク科) F25
稀で, 湯湾岳に記録される。かろうじて生存 (15株, 2004年) している。
- Lagenophora mikadoi* Koidzumi コケタンポポ (キク科) F25
奄美大島 (住用川, 川内川) に分布するが, 集団数も個体数も少ない。
- Lagerstroemia subcostata* Koehne シマサルスベリ (ミソハギ科) F13
路傍や川沿いの崩壊地に生育し, 少ない樹木ではない。沖永良部島や与論島には分布が知られていない。喜界島の集団は樹高1メートルほどで開花を始める。
- Lamium chinense* var. *tuberiferum* (Makino) Murata ヒメキシワタ (シソ科) F20
奄美大島の数地点から知られている。湯湾岳には数集団が生存するが, 他の現状は不明。
- Lasianthus cyanocarpus* Jack. タイワンルリミノキ (アカネ科) F26
奄美大島 (竜郷, 加計呂麻島, 請島) に知られるが, 個体数はごく少ない。
- Lasianthus fordii* Hance タシロルリミノキ (アカネ科) F27
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布し, 稀なものではない。
- Lasianthus fordii* var. *pubescens* (Matsumura) Yamazaki シンテンルリミノキ (アカネ科) F27
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布し, やや稀な種である。
- Lasianthus wallichii* Wight マルバルリミノキ (アカネ科) F27
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布し, やや普通である。
- Lespedeza liukiensis* Hatusima リュウキュウハギ (マメ科) F11
喜界島, 加計呂麻島, 徳之島, 沖永良部島から記録されるが, 栽培品の可能性が高い。固有種とされているが, 分類学的な再検討が必要である。
- Leucas mollissima* var. *chinensis* Benth. ヤンバルツルハッカ (シソ科) F20
群島の各島に分布する。
- Ligustrum japonicum* var. *pubescens* Koidz. ケネズミモチ (モクセイ科) F21
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布する。

- Ligustrum liukuense* Koidz. オキナワイボタ (モクセイ科) F21
奄美大島と徳之島に分布する。
- Lobelia loochoensis* Koidz. マルバハタケムシロ (キキョウ科) F23
奄美大島に4集団が知られているが、枝手久集団は現状が確認できない。沖縄や久米島集団は絶滅した。
- Lonicera japonica* var. *miyagusiana* Makino ヒメスイカズラ (スイカズラ科) F29
徳之島(鹿浦)に1集団(散在的に数個体)が生育する。
- Lysimachia liukuensis* Hatusima ヒメミヤマコナスビ (サクラソウ科) F8
住用川の溪流沿いに生育し、集団数も個体数も少ないし、開花はするが結実は知られていない。
- Margaritaria indica* (Dalz.) Airy Shaw アカハダコバンノキ (トウダイグサ科) F7
徳之島南部に2集団が知られている。
- Maytenus diversifolia* (Masam.) Ding Hou ハリツルマサキ (ニシキギ科) F14
喜界島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部島、与論島に分布し、海岸の隆起石灰岩上によく見られる。観賞用(盆栽)に採掘されるので注意が必要である。
- Melastoma candidum* D. Don ノボタン (ノボタン科) F13
林道脇や陽地に見られるが、それほど多いものではない。
- Meliosma oldamii* var. *rhoifolia* Hatusima ヤンバルアワブキ (アワブキ科) F5
与論島以外の島に分布する。分布は散在的で個体数が多い樹種ではない。
- Meliosma squamulata* Hance ナンバンアワブキ (アワブキ科) F5
奄美大島と徳之島に分布し、前種と同様個体数は多くはない。
- Mercurialis leiocarpa* Sieb. et Zucc. ヤマアイ (トウダイグサ科) F7
奄美大島(湯湾岳)、徳之島(天城岳、井之川岳、三京)に分布し、集団数、個体数共に少ない。しかし井之川岳には生育範囲は狭いがまとまった集団が見られる。
- Morinda umbellata* L. ハナガサノキ (アカネ科) F27
奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布する。
- Mucuna macrocarpa* Wall. ウジルカンダ (マメ科) F11
奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布するが、集団数も個体数も少ない。
- Nertera yamashitae* Yamazaki アマミアワゴケ (アカネ科) F27
奄美固有、川内川と住用川や金作原に数集団が知られるのみ。結実は知られていない。
- Nothapodytes amamiana* Nagamasu et M. Kato ワダツミノキ (クロタキカズラ科) F15, 53
田畑の発見以来クサミズキとされてきたが、2004年に奄美固有の新種として記載された。大和村名音近くに約5本、志度勘に数本、今里にも数本が確認されている(2004)が、今里以外では稚樹は見あたらない。いずれの産地も住宅地や耕作地の近傍である。
- Ophiorrhiza japonica* var. *amamiana* Hatusima アマミイナモリ (アカネ科) F27
奄美大島と徳之島に分布する。分布地点は多くはない。
- Ophiorrhiza japonica* var. *cantoniensis* (Hance) Hatusima オオイナモリ (アカネ科) F28
奄美大島、徳之島に知られるが、生育地点はごく少ない。
- Ophiorrhiza pumila* Champ. チャボイナモリ (アカネ科) F27
奄美大島と徳之島に分布する。集団数は多くない。

- Ormocarpum cochinchinense* (Lour.) Merr. ハマセンナ (マメ科) F11
群島内各地の瀬海地域に生育する。
- Osmanthus insularis* Koidz. ナタオレノキ (モクセイ科) F21
奄美大島小湊に5本知られている。
- Osmanthus marginatus* (Champ. ex Benth.) Hemsl. リュウキュウモクセイ (モクセイ科) F21
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に知られるが, 個体数は少ない。
- Oxalis amamiana* Hatusima アマミカタバミ (カタバミ科) F17
住用川沿いに少数集団が知られているのみ。
- Parsonia laevigata* (Moon) Alston ホウライカガミ (キョウチクトウ科) F18
喜界島, 徳之島, 与論島から知られる。大島からは記録がない。
- Parthenocissus heterophylla* (Bl.) Merrill アマミナツツタ (ブドウ科) F15
奄美大島湯湾岳から住用村にかけて数カ所に見られる (北限)。徳之島にも分布する (丹発山, ハゲ岳)。
- Pemphis acidula* G. Forst. ミズガンビ (ミソハギ科) F13
喜界島, 徳之島, 与論島に分布し, 海岸近くに生育する。多分沖永良部島にも分布する。
- Photinia serrulata* Lindl. オオバカナメモチ (バラ科) F10
奄美大島 (住用川), 徳之島, 沖永良部島 (大山) に分布し, 個体数は少ない。園芸的採取が懸念される。
- Photinia wrightiana* Maxim. シマカナメモチ (バラ科) F10
徳之島と沖永良部島 (大山) に分布する。個体数は少ない。
- Pisonia aculeata* L. トゲカズラ (オシロイバナ科) F5
与論島 (北限) で1960年代に1度採集されている。トヒラ神社近くに3株あるという。。
- Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A. DC. キキョウ (キキョウ科) F23
請島と加計呂麻島から知られているが, 個体数は少なく, これら南限集団の絶滅は非常に危惧される。
- Polygala chinensis* L. シンチクヒメハギ (ヒメハギ科) F16
奄美大島 (東北部) と徳之島 (三京) から知られるが, 現状は不明。
- Pongamia pinnata* (Linn.) Merr. クロヨナ (マメ科) F11
群島内各島の海岸低木林に生育するが, 個体数は多くない。
- Psychotria manillensis* Bartl. ナガミボチョウジ (アカネ科) F28
奄美大島 (北部), 喜界島, 沖永良部島, 与論島から知られるが, 徳之島からの確実な記録はない。
- Psychotria rubra* (Lour.) Poiret ボチョウジ (アカネ科) F28
奄美大島, 徳之島, 沖永良部島から知られ, 稀な種ではない。
- Pueraria montana* (Lour.) Merr. タイワンクズ (マメ科) F11
喜界島 (北限), 沖永良部島, 与論島に分布する。クズと同様, 時には大きな集団を形成することがある。
- Pycnospora lutescens* (Poir.) Schindl. キンチャクマメ (マメ科) F12
請島と与論島から記録されているが, いずれも1920年代に採集されたもので, その後は記録されていない。絶滅している可能性が高い。
- Quercus miyagii* Koidz. オキナワウラジロガシ (ブナ科) F5

- 南西諸島固有，大島，徳之島，沖永良部島に分布するが，徳之島を除いて大きな集団はない。
Randia canthioides Champ. シマミサオノキ（アカネ科）F28
奄美大島西南部に分布する。
- Rhamnella inaequilatera* Ohwi ヤエヤマネコノチチ（クロウメモドキ科）F15
奄美大島，喜界島，徳之島，沖永良部島に分布する。
- Rhamnus liukuensis* Koidz. リュウキュウクロウメモドキ（クロウメモドキ科）F15
奄美大島，喜界島，徳之島，沖永良部島から知られる。大島での分布は島の西南部に限られる。
- Raphiolepis indica* var. *liukuensis* (Koidz.) Kitam. ホソバシャリンバイ（バラ科）F10
奄美大島（湯湾岳）と徳之島に稀産する。
- Rhododendron amamiense* Ohwi アマミセイシカ（ツツジ科）F9
住用川沿いに分布し，湯湾岳近くにも生育することが知られていたが，多くの集団は採取のため消滅した。
- Rhododendron scabrum* G. Don ケラマツツジ（ツツジ科）F9
奄美大島と沖永良部島に散在的に分布していたが，採取のため多くの集団は消滅した。
- Rhododendron scabrum* var. *angustifolium* ホソバケラマツツジ（ツツジ科）F9
住用川と役勝川の川沿いに見られ，個体数は少なくなったが生存はしている。溪流型の未記載変種である
- Rhynchosia minima* (L.) DC. ヒメノアズキ（マメ科）F12
沖永良部島と与論島から知られる。
- Rhynchospermum verticillatum* Reinw. ex Blume シュウブンソウ（キク科）F25
奄美大島と徳之島に分布するが，集団数も個体数も少ない。
- Rhynchotechum discolor* (Maxim.) B. L. Burtt ヤマビワソウ（イワタバコ科）F22
奄美大島，徳之島，沖永良部島に分布する。湿った林縁や谷間にやや普通。
- Rhynchotechum discolor* var. *austrokiushiense* (Ohwi) Ohwi タマザキヤマビワソウ（イワタバコ科）F22
奄美大島，徳之島，喜界島，沖永良部島に分布するがヤマビワソウよりも集団数や個体数は少ない。
- Rubus ×tawdaus* Koidz. マヤイチゴ（バラ科）F10
徳之島（犬田布）で記録されたが，再認できない。恐らく絶滅。
- Rubus amamianus* Hatusima et Ohwi アマミフユイチゴ（バラ科）F10
奄美大島（湯湾岳）と徳之島から知られる。湯湾岳頂上付近には多い。
- Rubus amamianus* var. *minor* Hatusima コバノアマミフユイチゴ（バラ科）F10
住用川に記録されるが，約10株が生存しているのみ（2004）。
- Sageretia theezans* (Linn.) Brongn. クロイゲ（クロウメモドキ科）F15
奄美大島，沖永良部島，与論島に分布する。大島では島の東北部（笠利）に分布が限定されている。
- Salvia pygmaea* Matsum. ヒメタムラソウ（シソ科）F20
奄美大島（住用川と役勝川）と徳之島（天城岳と井之川岳）に分布するが，徳之島系統は生育環境が異なり，形態的にはアマミタムラソウとの中間型になる。
- Salvia pygmaea* var. *simplior* Hatusima ex Yamazaki アマミタムラソウ（シソ科）F20

- 奄美大島に2ヶ所の産地が知られているが、その一つ湯湾岳では再確認ができない。
Scaevola sericea Vahl クサトベラ (クサトベラ科) F23
群島の各島の海岸には普通。
- Scutellaria kikaiisularis* Hatusima ヒメタツナミソウ (シソ科) F21
喜界島に固有。アカボシタツナミソウに近く、独立種の取扱いは再検討する必要がある。
- Shortia rotundifolia* f. *amamiana* (Ohwi) Yamazaki アマミイワウチワ (イワウメ科) F8
奄美大島から数集団が記録されているが、いくつかの集団は林道工事で失われ、絶滅が危惧される。
- Skimmia japonica* var. *lutchuensis* (Nakai) Yamazaki リュウキュウミヤマシキミ (ミカン科) F16
固有変種。群島内では湯湾岳、天城岳、井之川岳の3地域に分布するのみ。
- Solidago virgaurea* var. *insularis* Kitamura シマコガネギク (キク科) F25
奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島に分布する。一応の集団数は存在するが、多いものではない。
- Sophora tomentosa* L. イソフジ (マメ科) F12
喜界島、沖永良部島、与論島に分布する。加計呂麻島からも報告されている。個体数は多くない。
- Strobilanthes tashiroi* Hayata オキナワスズムシソウ (キツネノマゴ科) F22
喜界島と沖永良部島に知られ集団数も個体数も少ない。徳之島南部のギナ山からも報告されている。しかし産地によっては大きな集団が見られる。
- Swertia japonica* (Schultes) Makino センブリ (リンドウ科) F17
奄美大島宮古崎にのみ知られる。集団数も個体数も限られ、いつ絶滅してもおかしくないような状態である。またこの集団は九州南部の集団とは形態的に異なり、奄美固有の種または変種アマミセンブリと呼ぶべきものである。
- Swertia tashiroi* (Maxim.) Makino ヘツカリンドウ (リンドウ科) F17
奄美大島の中央山地と徳之島の山地域に知られ、林床的な環境を生育地とする。
- Swertia tashiroi* "Island type" オニヘツカリンドウ (リンドウ科) F17
海岸草原を主な生育地としている、葉が大きくて厚いもので、トカラ列島から沖縄にかけて分布する。群島内では大島、徳之島、沖永良部島から知られている。
- Symplocos confusa* Brand ミヤマシロバイ (ハイノキ科) F13
奄美大島に4ヶ所 (北限) と徳之島 (1ヶ所) が知られているが、個体数は少ない。
- Symplocos microcalyx* Hayata アマシバ (ハイノキ科) F14
奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布する。集団数は少なくない。
- Symplocos urceolaris* Hance アオバナハイノキ (ハイノキ科) F14
沖永良部島大山地域に知られる (北限)。
- Thermopsis chinensis* Benth. ex S. Moor クソエンドウ (マメ科) F12
喜界島、徳之島、沖永良部島に分布し、集団数も個体数も少ない。
- Thysanosperrum difusum* Champ. シマヒョウタンボク (アカネ科) F28
奄美大島 (北部) と徳之島に分布する。
- Toddalia asiatica* Lam. サルカケミカン (ミカン科) F16
喜界島、沖永良部島、与論島に知られる。多いものではない。奄美大島笠利からも報告さ

れている。

Tricalysia dubia (Lindl.) Ohwi シロミミズ (アカネ科) F28

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布する。個体数は多くない。

Tutcheria virgata (Koidz.) Nakai ヒサカキサザンカ (ツバキ科) F7

沖永良部島大山に分布する (北限)。個体数は少ない。

Tylophora japonica Miq. トキワカモメズル (ガガイモ科) F18

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島から知られるが, 集団数も個体数も少ない。

Utricularia australis R. Br. イヌタヌキモ (タヌキモ科) F22

与論島と沖永良部島から知られる。

Utricularia bifida L. ミミカキグサ (タヌキモ科) F22

奄美大島 (龍郷町市理原) に知られるが, ごく少ない。

Utricularia exoleta R. Brown ミカワタヌキモ (タヌキモ科) F22

徳之島から知られている。奄美大島 (福元) からも報告されている。タヌキモ類には他にタヌキモ (奄美大島, 徳之島) とノタヌキモ (沖永良部島) が報告されている。しかし奄美群島地域のタヌキモ類は再調査をする必要がある。

Vaccinium emarginatum Hayata (= *V. amamianum* Hatusima) ヤドリコケモモ (ツツジ科) F9

役勝川上流地域に稀産したが, 現在は1集団約10本あまりが見られるのみで, 着生する老木が倒伏すると生育地は失われる危険が高い。

Viburnum suspensum Lindl. ゴモジュ (スイカズラ科) F29

奄美大島, 喜界島, 徳之島に分布する。稀な種ではない。

Viburnum tashiroi Nakai オオシマガマズミ (スイカズラ科) F29

奄美大島, 徳之島に分布する。稀な種ではない。

Vigna reflexo-pilosa Hayata オオヤブツルアズキ (マメ科) F12

群島内各島に分布するが, 多い種ではない。大島では西南地域に分布が限られている。

Vitex trifolia L. ミツバハマゴウ (クマツヅラ科) F19

群島各島に分布する。稀なものではない。

Wedelia biflora var. *ryukyuensis* H. Koyama オオキダチハマグルマ (キク科) F25

奄美大島, 沖永良部島, 与論島から知られるが, 喜界島や徳之島にも分布すると思われる。群島内では普通種である。

Wendlandia formosana Cowan アカミズキ (アカネ科) F28

奄美大島と徳之島に分布する。大島では稀な種ではない。

Wisteria floribunda (Willd.) DC. フジ (マメ科) F12

名瀬市朝戸峠に1本生育するが, 本来の野生なのか, 人為的な分布なのかははっきりしない。成育状況からは本来の野生ではないかと思われる。徳之島からはヤマフジが知られている。

Zanthoxylum amamiense Ohwi アマミザンショウ (ミカン科) F17

奄美大島, 喜界島, 徳之島 (稀), 沖永良部島に分布し, 大島では点位的だが, 稀ではない。

Zanthoxylum scandens Blume ツルザンショウ (ミカン科) F17

喜界島と喜界島に知られる。与論島からも報告されている。

Zanthoxylum schinifolium var. *okinawense* Hatusima シマイヌザンショウ (ミカン科) F17

奄美大島と徳之島 (北部) に知られる。多いものではない。

単子葉植物

- Acorus calamus* L. ショウブ (サトイモ科) F32
奄美大島と喜界島。集団数も個体数も少ない。
- Allium pseudojaponicum* Makino タマムラサキ (ユリ科) F41
奄美大島北部海岸に2ヶ所の産地がある。アヤマル岬集団は除草圧で集団サイズの縮小が起こっている。
- Amischotolype hispida* (Less. et A. Rich.) Hong ヤンバルミョウガ (ツククサ科) F33
奄美大島、徳之島、沖永良部島で記録されているが、実際の分布はもう少し広いと考えられる。
- Amitostigma lepidum* (Reichb. f.) Schl. オキナワチドリ (ラン科) F44
奄美大島、喜界島、沖永良部島から知られているが、多少雑草的な種で分布はもっと広いと考えられる。
- Amorphophalus hirtus* var. *kiusianus* (Makino) M. Hotta ヤマコンニャク (サトイモ科) F32
沖永良部島で2度 (同一場所) 採集されただけである。奄美大島にも分布するとされる。
- Aphyllorchis montana* Reichb. f. タネガシマムヨウラン (ラン科) F44
奄美大島役勝川で記録されたが、奄美大島の産地不明標本が2点あり実際の分布は他にもあると考えられる。また徳之島三京にもある (2004)。
- Arenga tremula* var. *engleri* (Becc.) Hatusima クロツグ (ヤシ科) F32
群島の各島に分布するが、個体数はそれほど多くはない。伊仙町運動公園近くには森林内に良好な集団が存在する。
- Arisaema heterocephalum* Koidz. アマミテンナンショウ (サトイモ科) F32
奄美大島湯湾岳周辺から金作原と徳之島山地に分布する。多いものではないし、湯湾岳の集団は急速に減少している。雌個体も少ない。
- Arisaema heterocephalum* var. *majus* Serizawa オオアマミテンナンショウ (サトイモ科) F32
徳之島に数カ所生育する。個体数は多くない。
- Arisaema kawashimae* Serizawa トクノシマテンナンショウ (サトイモ科) F32
徳之島井之川岳。タイプ産地では消滅したといわれたが、かろうじて生存している。
- Arisaema ringens* (Thunb.) Schott ムサシアブミ (サトイモ科) F32
喜界島、徳之島、沖永良部島に分布する。標本はないが与論島と大島にも分布している。
- Aristida takeoi* Ohwi オオマツバシバ (イネ科) F37
奄美大島北部に知られる。
- Asparagus cochinchinensis* Merrill クサスギカズラ (ユリ科) F41
奄美大島、沖永良部島、与論島から知られている。徳之島にも分布すると思われる。
- Belamcanda chinensis* (Linn.) DC. ヒオウギ (アヤメ科) F43
徳之島と沖永良部島 (知名) から記録されるが、本来の野生か、栽培か、野生化した系統かははっきりしない。
- Blyxa aubertii* L. C. Rich. マルミスブタ (トチカガミ科) F30
奄美大島 (市)、徳之島、沖永良部島、与論島から知られるが、多いものではない。現状は不明で、水田が埋め立てられ、いくつかの産地は失われている可能性が高い。
- Blyxa echinosperma* (C. B. Clarke) Hook. スブタ (トチカガミ科) F30

与論島から報告されているが、再検討が必要で現状は不明、水田が埋め立てられて産地は失われている可能性が高い。

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ヤナギスブタ (トチカガミ科) F30

奄美大島 (山間) と与論島から知られる。現状は不明で、水田が埋め立てられいくつかの産地は失われている可能性が高い。

Brachiaria paspaloides C. E. Hubb. ニクキビモドキ (イネ科) F37

喜界島と沖永良部島に知られる。奄美大島からも報告されている。

Bulbophyllum affine Lidl. クスクスラン (ラン科) F45

奄美大島役勝川上流 (2地点) と湯湾岳に知られるが、乱採で各集団は壊滅的な状況にある。金川岳, 鳥ヶ峰, 川内川などからも報告されている。

Bulbophyllum drymoglossum Maxim. マメツタラン (ラン科) F45

奄美大島 (2地点) と徳之島 (三京) に記録される。集団数は少ない。

Bulbophyllum macraei (Lindl.) Reichb. f. シコウラン (ラン科) F45

奄美大島 (湯湾岳) と徳之島 (天城岳, 井之川岳) に知られているが、個体数は少ない。

Burmannia itoana Makino ルリシャクジョウ (シャクジョウソウ科) F44

奄美大島湯湾周辺に知られる。現状は不明。金作原にも分布するという。

Calanthe aristulifera var. *amamiana* Hatusima アマミエビネ (ラン科) F45

奄美大島に固有, 以前は多くの集団が存在したが, 徹底的に採取され, 現在生存している集団は少ない。

Calanthe discolor Lindl. var. *kanashiroi* Fukuyama カツウダケエビネ (ラン科) F45

徳之島井之川岳から記録されている。再検討が必要である。

Calanthe discolor var. *divericatipetala* Ida ハノジエビネ (ラン科) F45

徳之島井之川岳から記録されている。再検討が必要である。

Calanthe furcata Benth. ツルラン (ラン科) F45

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に知られている。稀な種ではないが採取圧が強く, 激滅している。

Calanthe gracilis var. *venusta* (Schltr.) F. Maek. トクサラン (ラン科) F46

奄美大島と徳之島から知られている。やや稀な種である。

Calanthe lyroglossa Reichb. f. レンギョウエビネ (ラン科) F46

奄美大島では数カ所の産地が記録されているが, 現状は不明である。

Calanthe masuca Lindl. オナガエビネ (ラン科) F46

徳之島 (天城岳, 井之川岳) と沖永良部島に知られているが, 現状は不明で, 産地は失われている可能性もある。

Calanthe tokunoshimensis Hatusima et Ida トクノシマエビネ (ラン科) F46

徳之島固有で天城岳, 井之川岳, 犬田布岳に知られている。現状は不明だが, 採取圧で激滅している。

Carex alliiformis C. B. Clarke リュウキュウスゲ (カヤツリグサ科) F34

喜界島, 沖永良部島, 与論島に分布するが, 奄美大島と徳之島からは記録がない。徳之島ギナ山には分布するという。

Carex breviscapa C. B. Clarke オキナワスゲ (カヤツリグサ科) F34

徳之島 (三京) と沖永良部島に分布する。

- Carex dolichostachya* Hayata ナガボスゲ (カヤツリグサ科) F34
 沖永良部島から知られている。
- Carex kimurae* Ohwi et T. Koyama トクノシマスゲ (カヤツリグサ科) F34
 徳之島 (天城岳, 井之川岳) に特産する。天城岳では稀な種ではない。
- Carex nemostachys* Steud. アキカサスゲ (カヤツリグサ科) F34
 奄美大島と徳之島に分布する。溪流型の種である。
- Carex oahuensis* var. *robusta* Fr. et Sav. ヒゲスゲ (カヤツリグサ科) F34
 喜界島と徳之島から知られる。海岸岩場の種である。
- Carex pumila* Thunb. コウボウシバ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島, 喜界島, 与論島に知られる。多い種ではない。
- Carex sakonis* T. Koyama サコスゲ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島, 西側海岸地域に見られ, 集団数はそれほど多くはない。
- Carex scabrifolia* Steud. シオクグ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島, 集団数は少ない。知られている分布地点は2ヶ所。
- Carex sociata* Boott タシロスゲ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島, 喜界島, 沖永良部島に分布する。大島では集団数も個体数も一応はある。
- Carex tenuior* T. Koyama et Chuang コバケイスゲ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島に分布するが, 多い種ではない。
- Carex warburgiana* Kukenth. バケイスゲ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島 (根瀬部) に分布する。個体数は多くない。
- Cheirostylis liukiensis* Masam. タネガシマカイロラン (ラン科) F46
 奄美大島 (瀬戸内) と沖永良部島に知られているだけであるが, 現状は不明。絶滅した可能性も高い。
- Croomia japonica* Miq. ヒメナベワリ (ビャクブ科) F43
 奄美大島と徳之島, 湿った林床に点在的に見られる。
- Curculigo orchoides* Gaertn. キンバイザサ (キンバイザサ科) F43
 奄美大島 (4ヶ所), 徳之島 (1ヶ所) の分布が知られている。集団数も個体数も少ない種である。
- Cymbidium kanran* Makino カンラン (ラン科) F46
 奄美大島湯湾岳で記録されているが, 再発見できない。他にも分布地点はあるといわれる。
- Cymbidium lancifolium* Hook. ナギラン (ラン科) F46
 奄美大島 (湯湾岳, 本茶峠), 徳之島 (天城岳) から知られているが, 現状は不明。
- Cymbidium nipponicum* (Franch. et Savat.) Makino マヤラン (ラン科) F47
 奄美大島 (金作原) で一度採集された。現状は不明。
- Cymodocea serrulata* (R. Br.) Aschers. et Magnus リュウキュウアマモ (アマモ科) F31
 喜界島から知られている。
- Cyperus odoratus* Linn. キンガヤツリ (カヤツリグサ科) F35
 奄美大島 (北部), 喜界島, 徳之島, 沖永良部島に知られるが, 現状は不明。
- Dendrobium tosaense* Makino キバナノセッコク (ラン科) F47
 奄美大島 (住用村) で2度採集された。現状は不明。
- Dioscorea asclepiadea* Prain et Burk. ツクシタチドコロ (ヤマノイモ科) F44

- 奄美大島（名音と加計呂麻島）から知られているが、個体数は少ない。ツクシタチドコロとされる奄美集団は、葉形が九州集団とは異なり、別分類群とすべきものである。
- Dioscorea pseudo-japonica* Hayata キイルンヤマノイモ（ヤマノイモ科）F44
奄美大島，喜界島，徳之島，沖永良部島，与論島に分布する。
- Dioscorea quinqueloba* Thunb. カエデドコロ（ヤマノイモ科）F44
喜界島に隔離的に分布する。分類学的な評価は再検討される必要がある。
- Dioscorea tabatae* Hatusima ユワンオニドコロ（ヤマノイモ科）F44
奄美大島湯湾岳に少数個体が知られるが、強度の除草で危機的状況にある。未記載固有種。
- Disporum sessile* var. *micrantha* Hatusima コバナホウチャクソウ（ユリ科）F41
奄美大島と徳之島（天城岳，井之川岳）に分布する。大島では稀な種ではない。
- Echinochloa colona* Link ワセビエ（イネ科）F37
奄美大島。沖永良部島，与論島の標本があるが、広く分布していると思われる。
- Ecoilopus cotulifer* var. *densiflorus* Ohwi ダンチアプラススキ（イネ科）F37
奄美大島に知られる。
- Epipactis thunbergii* A. Gray カキラン（ラン科）F47
奄美大島（役勝川）で1度採集されているが、現状は不明。大島湯湾岳と名瀬市根瀬部にも記録されている。
- Eria corneri* Reichb. f. オオオサラン（ラン科）F47
奄美大島（住用川と志戸勘）と徳之島（井之川岳）から記録されているが、現状は不明である。
- Eria reptans* (Franch. et Savat.) Makino オサラン（ラン科）F47
奄美大島（役勝川）で1度採集されているが、現状は不明。金作原，川内川，住用川からも報告されている。
- Eriocaulon amanoanum* T. Koyama アマノホシクサ（ホシクサ科）F33
奄美大島（小湊），徳之島。現状不明で産地は失われた可能性が高い。
- Eriocaulon buergerianum* Koern. オオホシクサ（ホシクサ科）F33
奄美大島龍郷町（市理原），徳之島（三京）と与論島。徳之島と与論島の産地は現状不明で生育地点は失われた可能性が高い。
- Eriocaulon miquelianum* var. *lutchuensis* (Koidz.) T. Koyama オキナワホシクサ（ホシクサ科）F33
奄美大島に数カ所知られている。いくつかの産地は失われたが、確実に生存している。
- Eriocaulon nigrum* var. *suishaense* (Hayata) Hatusima et T. Koyama スイシャホシクサ（ホシクサ科）F33
徳之島（与名間）で記録されたが、現状は不明。産地は失われた可能性が高い。
- Fimbristylis miliacea* var. *koidzumiana* T. Koyama タイワンヒデリコ（カヤツリグサ科）F36
徳之島で採集されたが、現状は不明。
- Flagellaria indica* L. トウツルモドキ（トウツルモドキ科）F34
徳之島と与論島。徳之島伊仙町ギナ山には大きな集団が見られる。
- Fuirena ciliaris* (Linn.) Roxb. クロタマガヤツリ（カヤツリグサ科）F36
徳之島と与論島から知られているが、現状は不明。
- Fuirena umbellata* Rottb. オオクロタマガヤツリ（カヤツリグサ科）F36

- 奄美大島(笠利)と徳之島から知られているが、現状は不明。
Gahnia tristis Nees クロガヤ(カヤツリグサ科) F36
 奄美大島(中・北部と加計呂麻島)、徳之島、沖永良部島から知られているが、集団数は多くない。
- Galeola altissima* (Blume) Reichb. f. ツルツチアケビ(タカツラン)(ラン科) F47
 奄美大島(金作原)と徳之島(三京)から知られているが、現状は不明。
- Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama ハルザキヤツシロラン(ラン科) F47
 奄美大島(1ヶ所)、喜界島(2ヶ所)から知られているが、現状は不明。
- Glyceria acutiflora* Torr. ムツオレグサ(イネ科) F37
 奄美大島(住用)に知られるが、現状は不明。
- Goodyera foliosa* var. *commelinoides* (Fukuy.) F. Maek. ツユクサシユスラン(ラン科) F48
 徳之島(天城岳、井之川岳)に分布する。集団数も個体数も少ない。
- Goodyera hachijoensis* var. *matsumurana* Ohwi カゴメラン(ラン科) F48
 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島に分布し、集団数・個体数共に少なくはない。
- Goodyera procera* (Ker-Gawl.) Hook. キンギンソウ(ラン科) F48
 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島に分布し、路傍集団は強い草刈りの影響を受けている。
- Goodyera viridiflora* var. *ogatai* Liu et Su シマシユスラン(ラン科) F48
 奄美大島市で一度採集されているが、現状は不明。
- Habenaria flagellifera* Makino ムカゴトンボ(ラン科) F48
 奄美大島(湯湾岳)と徳之島(井之川岳)で採集されているが、現状は不明。
- Habenaria polytricha* Rolfe リュウキュウサギソウ(ラン科) F48
 奄美大島(2地点)、沖永良部島(1地点)から記録されるが、現状は不明。
- Hackelochloa granularis* O. K. ヤエガヤ(イネ科) F37
 奄美大島、徳之島、与論島に分布が知られている。
- Heloniopsis kawanoi* (Koidz.) Honda コショウジョウバカマ(ユリ科) F41
 湯湾岳で一度採集されたが、激滅。徳之島井之川岳にも記録されている。
- Heloniopsis leucantha* Koidz. オオシロショウジョウバカマ(ユリ科) F41
 徳之島南西部(三京)に1集団、10株足らずが生育したが、2004年に確認できたのは2株。
- Herminium lanceum* var. *longicrure* (Wright) Hara ムカゴソウ(ラン科) F48
 奄美大島(2地点)、沖永良部島(1地点)から採集されているが、現状は不明。
- Hetaeria agyokuana* (Fukuyama) Nakajima カゲロウラン(ラン科) F49
 奄美大島住用川で1度採集されているが、現状は不明。金作原からも報告されている。
- Hetaeria cristata* Blume ヤクシマアカシユスラン(ラン科) F49
 奄美大島(湯湾岳、住用川、役勝川上流、金作原)に分布する。
- Hypoxis aurea* Lour. コキンバイザサ(キンバイザサ科) F43
 奄美大島(アヤマル岬)。今井権現や油井岳からも報告されている。喜界島と沖永良島にも知られるが、正確な産地は判らない。
- Isachne kunthiana* (Wight et Arn.) Miq. アツバハイチゴザサ(イネ科) F37
 奄美大島北部と沖永良部島に知られる。チゴザサ類は九州南部から南西諸島にいくつかの分類群が分化しており、再検討が必要である。

- Isachne nipponensis* var. *minor* Nemoto ヒメハイチゴザサ (イネ科) F38
奄美大島湯湾岳に分布する。
- Ischaemum aureum* (Hook. et Arn.) Hack. ハナカモノハシ (イネ科) F38
与論島から知られている。現状は不明。
- Ischaemum rugosum* var. *segetum* (Trin.) Hack. タイワンアイアシ (イネ科) F38
奄美大島東部に数カ所の産地が知られている。現状は不明。
- Lecanorchis nigricans* Honda クロムヨウラン (ラン科) F49
奄美大島三太郎峠で採集されている。金作原からも報告されている。
- Lecanorchis trachycaula* Ohwi アワムヨウラン (ラン科) F49
奄美大島湯湾岳山域に分布する。稀である。金作原からも報告されている。
- Leersia hexandra* Sw. タイワンアシカキ (イネ科) F38
喜界島から知られている。現状は不明。
- Leptochloa panicea* (Retz.) Ohwi イトアゼガヤ (イネ科) F38
喜界島, 沖永良部島, 与論島に分布する。現状は不明。
- Lepturus repens* (Forst. f.) R. Br. ハイシバ (イネ科) F38
奄美大島 (東南部), 徳之島, 沖永良部島, 与論島に知られる。
- Lilium alexandrae* Hort. ウケユリ (ユリ科) F41
請島, 加計呂麻島と湯湾岳周辺に数集団存在したが, 採取されて残るのはごく僅かな集団と少数個体になっている。
- Lilium leichtlinii* f. *pseudotigrinum* Hara et Kitamura コオニユリ (ユリ科) F41
奄美大島に少数集団 (知られるのは3集団) が分布していたが, 現状は不明。
- Lilium longiflorum* Thunb. テッポウユリ (ユリ科) F42
群島内の各島の海岸草原や時には路傍にやや普通に見られる。
- Liriope minor* (Maxim.) Makino ヒメヤブラン (ユリ科) F42
喜界島と徳之島で採集されている。多い種ではないように見られるが詳細は不明。
- Liriope platyphylla* Wang et Tang ヤブラン (ユリ科) F42
群島の各島に知られる。海岸草原にも生育し, 沖縄から報告されたオニヤブランとされるものかどうか検討が必要である。
- Liparis elliptica* Wight コゴメキノエラン (ラン科) F49
奄美大島湯湾岳に50個体足らずが生存する。
- Liparis formosana* Reichb. f. ユウコ克蘭 (ラン科) F49
喜界島, 徳之島, 沖永良部島に知られるが, それほど多い種ではない。
- Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl. コ克蘭 (ラン科) 49
奄美大島 (湯湾岳) と徳之島 (井之川岳) に知られるが, 実際の分布はもっと多い。
- Liparis odorata* (Willd.) Lindl. ササバラン (ラン科) F52
奄美大島 (朝戸) と徳之島 (三京) で採集された。
- Liparis plicata* Franch. et Savat. チケイラン (ラン科) F52
奄美大島と徳之島に分布する。
- Liparis uchiyamae* Schtr. キノエササラン (ラン科) F52
奄美大島固有で湯湾岳から記録されるが, 現状は不明。絶滅した可能性が高い。
- Lipocarpa chinensis* Kern オオヒンジガヤツリ (カヤツリグサ科) F36

加計呂麻島と徳之島に知られるが、現状は不明。

Listera japonica Blume ヒメフタバラン (ラン科) F52

奄美大島と徳之島 (三京) に分布する。個体数はごく少ない。

Luisia teres (Thunb.) Blume ボウラン (ラン科) F52

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に分布する。

Lycoris traubii Hayward ショウキズイセン (ヒガンバナ科) F43

奄美大島と喜界島に知られる。大島では西海岸から瀬戸内につけて点々と分布する。住用村市にも分布する。本来の野生か野生化したものかの区別は困難である。徳之島からも報告されている。

Microstegium somai Ohwi メンテンササガヤ (イネ科) F38

奄美大島 (南部), 徳之島, 沖永良部島に分布するが、集団数は多くはない。

Microtis unifolia (Forst.) Reichb. fil. ニラバラン (ラン科) F52

喜界島から記録されるが、草原性でやや雑草的なランで、実際の分布は他にもあると思われる。

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu フウラン (ラン科) F52

奄美大島 (2ヶ所), 徳之島 (2ヶ所) から知られているが、採集圧が強い。徳之島ダム現場には集団を見かけるといふ。実際は両島に点在的に広く分布しているが稀である。

Oberonia japonica (Maxim.) Makino ヨウラクラン (ラン科) F50

徳之島 (井之川岳, 三京) から知られているが、現状は不明。

Ophiopogon japonicus (Linn. f.) Ker-Gawl. ジャノヒゲ (ユリ科) F42

奄美大島と喜界島で採集されている。分布については再調査が必要である。

Oplismenus compositus var. *patens* Ohwi オオバチジミザサ (イネ科) F39

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島から知られている。

Ottelia japonica Miq. ミズオオバコ (トチカガミ科) F30

奄美大島 (市) と与論島から知られるが、笠利, 龍郷, 名瀬からも報告されている。

Pandanus odoratissimus L. f. アダン (タコノキ科) F31

群島の各島の海岸に多いが集団は減少しつつある。北限はトカラ列島口之島。

Pennisetum sordidum Koidz. シマチカラシバ (イネ科) F39

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島や与論島から知られる。海岸の岩場に生育する。

Pinellia ternata (Thunb.) Breitenb. カラスビシャク (サトイモ科) F32

耕地雑草的な種であるが、沖永良部島で1度採集されている。比較的稀な植物である。

Pinellia tripartita (Blume) Schott オオハンゲ (サトイモ科) F33

奄美大島では2ヶ所, 喜界島, 沖永良部島ではそれぞれ1ヶ所から知られている。

Platanthera amamiana Ohwi アマミトンボ (ラン科) F50

奄美大島名瀬周辺から知られているが、現状は不明である。集団数も個体数も少ないと思われる。住用村からも報告がある。

Pollia miranda (Lev.) Hara コヤブミョウガ (ツユクサ科) F33

奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島。与論島にも分布していると考えられる。

Polygonatum falcatum A. Gray ナルコユリ (ユリ科) F42

奄美大島 (湯湾岳) と徳之島 (井之川岳) で、それぞれ1度だけ採集されたが、その後は再発見できない。分類学的にも再検討が必要である。

Potamogeton crispus Linn. エビモ (ヒルムシロ科) F30

喜界島と与論島から知られるが、現状は不明。笠利町佐仁川からも記録されている。

Potamogeton distinctus A. Benn. ヒルムシロ (ヒルムシロ科) F30

奄美大島 (龍郷町, 瀬戸内), 徳之島, 沖永良部島, 与論島から知られる。現状は不明である。いくつかの集団は残っていると考えられる。

Potamogeton malaianus Miq. ササバモ (ヒルムシロ科) F30

沖永良部島から知られる。現状は不明。

Potamogeton octandrus Poir. ホソバミズヒキモ (ヒルムシロ科) F31

奄美大島湯湾から知られているが、現状は不明。

Potamogeton octandrus var. *mizuhikimo* Hara ミズヒキモ (ヒルムシロ科) F30

喜界島から知られているが、現状は不明。

Potamogeton oxyphyllus Miq. ヤナギモ (ヒルムシロ科) F30

奄美大島 (住用) に知られるが、現状は不明。名瀬市西田からも記録されている。

Protolirion sakuraii (Makino) Dandy サクライソウ (ユリ科) F42

奄美大島湯湾岳で採集されたことがある。現状は不明。金作原にも分布する。

Rohdea japonica var. *latifolia* Hatusima サツマオモト (ユリ科) F42

奄美大島湯湾岳。絶滅したとされたが、2株だけ生存しているという。

Saccolabium japonicum Makino カシノキラン (ラン科) F50

奄美大島, 徳之島に分布し、個体数は少ない。

Scirpus triqueter Linn. サンカクイ (カヤツリグサ科) F36

奄美大島 (住用) と沖永良部島に知られるが、現状は不明。

Scleria biflora Roxb. ホソバシンジュガヤ (カヤツリグサ科) F36

奄美大島 (笠利) に分布したが、産地は失われた。

Sedirea japonica Linden et Reichb. f. ナゴラン (ラン科) F50

奄美大島 (住用川), 徳之島 (三京) から知られ、点的に分布していたが、採集圧が強く、多くの集団が失われた。生存が判明している徳之島ダムの現場 (三京) では、保全が問題になるだろう。

Smilax biflora var. *amamiana* アマミヒメカカラ (ユリ科) F43

未記載変種で奄美大島湯湾岳頂上付近に多い。屋久島のヒメカカラと比較して葉は大きく幅も広い。また生育地は林床である点も異なっている。未記載変種。

Smilax china var. *kuru* Sakaguchi ex Yamamoto オキナワサルトリイバラ (ユリ科) F43

沖永良部島に分布する。

Smilax nervo-marginata Hayata ササバサンキライ (ユリ科) F43

奄美大島と徳之島に分布し、点的である。

Spinifex littoreus (Burm. f.) Merr. ツキイゲ (イネ科) F39

奄美大島, 喜界島, 徳之島, 与論島から知られている。砂浜海岸に見られ、沖永良部島にも分布すると思われる。

Spiranthes sinensis (Pers.) Ames ナンゴクネジバナ (ラン科) F50

喜界島 (1ヶ所), 沖永良部島 (1ヶ所) が知られているが、草原性の種であるから分布地点はもう少しあるだろう。

Sporobolus fertilis var. *pallidiorus* (T. Koyama) Hatusima リュウキュウネズミノオ

(イネ科) F39

奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島に知られている。

Sporobolus virginicus (Linn.) Kunth ソナレシバ (イネ科) F39

群島の各島に知られる。

Taeniophyllum glandulosum Bl. クモラン (ラン科) F50

奄美大島湯湾岳。現状は不明。

Tainia laxiflora Makino ヒメトケンラン (ラン科) F50

奄美大島 (請島) と徳之島から知られるが, 集団数も個体数も少ないと思われる。

Thuarea involuta Roem. et Schult. クロイワザサ (イネ科) F39

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島に知られるが, 海岸生の種で, 喜界島にも分布すると考えられる。

Thyphonium divaricatu Decne. リュウキュウハンゲ (サトイモ科) F33

奄美大島 (龍郷), 沖永良部島と与論島から知られている。

Tropidia nipponica Masam. ヤクシマネッタイラン (ラン科) F51

奄美大島 (役勝川) から知られるが, 集団数も個体数も少ないと思われる。徳之島の天城岳や井之川岳からも記録がある。徳之島 (犬田布) の種はヤクシマネッタイランとされていたが, アコウネッタイランであった。

Vexillabium yakushimense (Yamamoto) F. Maek. ヤクシマヒメアリドオシラン (ラン科) F51

徳之島 (天城岳) で記録されたが, 現状は不明。住用村三太郎峠や湯湾岳からも記録されている。

Zeuxine strateumatica (L.) Schltr. キヌラン (ラン科) F51

奄美大島, 徳之島, 沖永良部島に知られる。集団数も個体数も少ないと思われる。

Zostera japonica Aschers. et Graebn. コアマモ (アマモ科) F31

奄美大島 (湯湾) から知られている。

Zoysia macrostachya Franch. et. Savat. オニシバ (イネ科) F40

奄美大島, 沖永良部島, 与論島から知られているが, 集団数は多くはない

Zoysia matrella (L.) Merr. コウシュンシバ (イネ科) F40

奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島に知られる。稀ではない。

Zoysia pacifica (Goudswaerd) M. Hotta et Kuroki コウライシバ (イネ科) F40

群島内の各島に分布する。海岸岩場に多い。

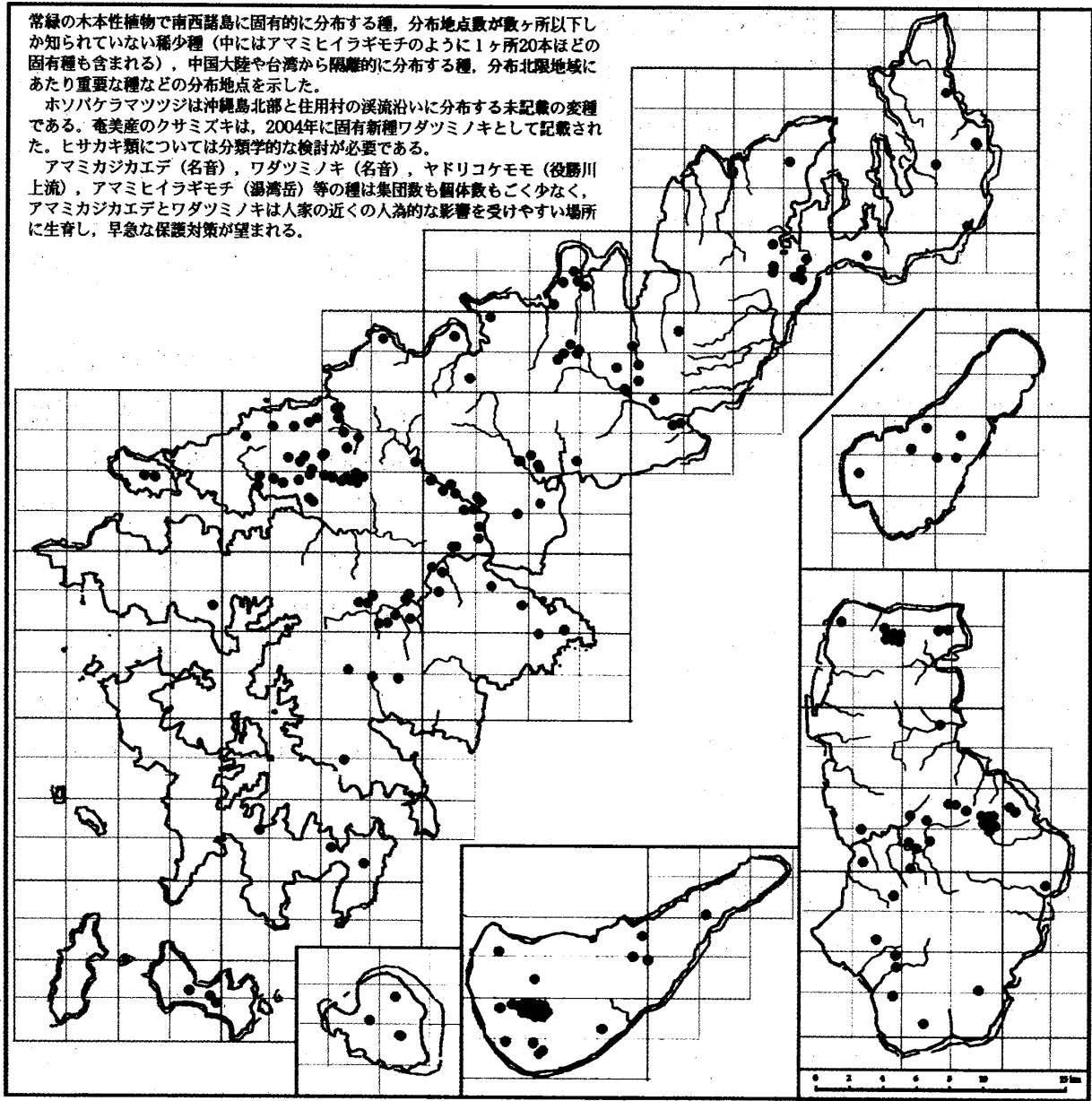
Zoysia sinica Hance コオニシバ (イネ科) F40

奄美大島, 喜界島, 徳之島に知られる。砂浜海岸に分布し, 多い種ではない。

分布類型から見た地域特性

資料に附してある基本分布図は一部を除いて, 分類体系順に作成されているが, それでは奄美群島の多様な生態系を構成している種の特徴のある分布構造, ひいては保護すべき空間 (地域) がはっきりと浮かび上がってこないことが多い。そこで, 空間の中でのそれぞれの種が位置している場 (分布地点) を, 生態系の中でそれぞれの種が占めている位置の視点から類型化して, 分布

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域について



- Acer oblongum* var. *itoanum* Hayata クスノハカエデ
Camellia lutchuensis T. Ito ヒメサザンカ
Cinnamomum daphnoides Sieb. et Zucc. マルバニッケイ
Cinnamomum doederleinii Engl. シバニッケイ
Cinnamomum doederleinii var. *pseudodaphnoides* Hatusima
 ケシバニッケイ
Cinnamomum sieboldii Nees ニッケイ
Citrus depressa Hayata シーカシャー
Eurya emarginata var. *minutissima* (Hatusima) Hatusima
 マメヒサカキ
Eurya osimensis Masamune アマミヒサカキ
Fraxinus floribunda Wall. シマタゴ
Ilex dimorphophylla Koidz. アマミヒイラギモチ
Ilex maximowicziana var. *kanehirae* (Yamamoto) Yamazaki
 ムツチャガラ
Ilex warburgi Loesn. オオシイバモチ
Meliosma oldamii var. *rhotifolia* Hatusima ヤンバルアワブキ
Meliosma squamulata Hance ナンバンアワブキ
Morinda umbellata L. ハナガサノキ
Nothapodytes foetida (Wight) Sleumer クサミズキ (ワダツミノキ)

- Osmanthus insularis* Koidz. ナタオレノキ
Osmanthus marginatus (Champ. ex Benth.) Hemsl. リュウキュウモクセイ
Photinia serrulata Lindl. オオバカナメモチ
Photinia wrightiana Maxim. シマカナメモチ
Quercus miyagii Koidz. オキナワウラジロガシ
Randia canthioides Champ. シマミサオノキ
Rhamnella inaequilatera Ohwi ヤエヤマネコノチ
Rhamnus ilukiensis Koidz. リュウキュウクロウメドキ
Rhaphiolepis indica var. *ilukiensis* (Koidz.) Kitam. ホソバシャリンバイ
Rhododendron amamiense Ohwi アマミセイシカ
Rhododendron scabrum G. Don ケラマツツジ
Rhododendron scabrum var. *angustifolium* ホソバケラマツツジ
Symplocos confusa Brand ミヤマシロバイ
Symplocos urceolaris Hance アオバナハイノキ
Tricabysis dubia (Lindl.) Ohwi シロミミズ
Turcheria virgata (Koidz.) Nakai ヒサカキサザンカ
Vaccinium emarginatum Hayata ヤドリコケモモ
Viburnum suspensum Lindl. ゴモジュ
Wendlandia formosana Cowan アカミズキ

図1 南南西諸島に固有な稀少な木本性常緑植物の分布

地点を重ね合わせ、重要地域の指標とすることにした。

もちろん植物標本は奄美群島のそれぞれの島ごとに、また島の中の地域ごとに異なった採集密度で集積されてきた。また標本記録は、それぞれの種の全ての分布地点を示すものでもない。ここでは、不完全なデータであることは理解しながら、奄美群島全域の特徴的な分布型について鳥瞰的に見ることにする。それによって、稀少種や分布上重要な種がどこに生存しているかが把握されてくるからであるし、その結果として保護すべき地域や、保護上大切な地点が浮かび上がってくるのが期待されるからである。

多くの標本が集積されている地域として奄美大島の住用川沿いや湯湾岳があげられよう。この地域は面白い植物が多産するので1900年代のはじめから有名で、多くの採集家が訪れ、採集された標本点数も多い。徳之島の天城岳、井之川岳、三京や沖永良部島の大山や越山、田皆崎なども多くの標本が採集されている。しかしこのような地域は、裏を返せば多くの稀少植物が集中している地域でもあるから、もし採集を均等に行ったとしても分布地点が集中する地域となるだろう。

地域特性を把握するために作成された分布図は、色々な生態的な種の特長、例えば落葉樹であるとか、常緑で林床に生育する木本生の植物であるとか、海岸を生活領域にする植物であるとかといった特徴で類型化できる種を集めて分布地点を重ね合わせて示した。また奄美群島に多くの固有種を分化させている特徴的な植物群であるカンアオイ類や稀少な種を多く含むラン科植物などいくつかの分類群ごとの分布図も作成してみた。

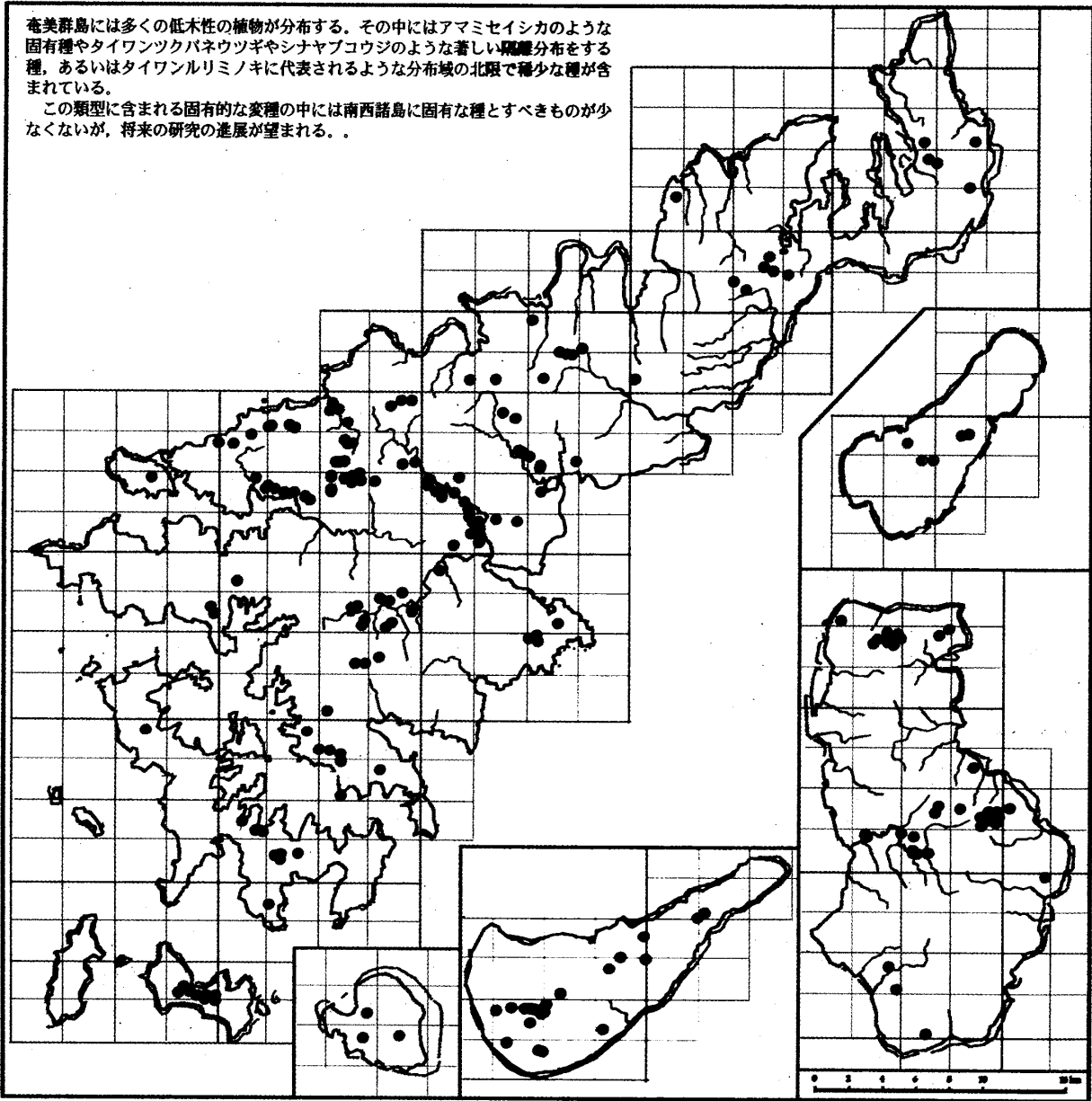
南西諸島に固有か稀少な木本性常緑種の分布

南西諸島の自然植生を特徴付けるのはオキナワジイ／タブ／イスノキなどの常緑広葉樹が優占する森林植生である。この植生域に見られる常緑の木本植物は多いが、その中で分布地点数が少ない種（稀少種）や南西諸島地域に固有な種や変種の分布地点をまとめて重ね合わせた（図1）。

とりあげた種類はクスノハカエデ以下36種類である。固有種ということで頻海性のマルバニッケイや着生生活をするヤドリコケモモも入れてある。前者は海岸の常緑風衝低木林を形成する特徴的な樹種であり、後者は老熟したオキナワジイに着生する種である。

この分布類型が集中する地域は奄美大島では竜郷町大勝周辺、名瀬市朝戸から小湊、小宿、金作原、住用村の川内川、住用川、役勝川、湯湾岳から名音地域にまたがる西南部地域があげられる。特異な分布地点はいくつもあるが、奄美群島では比較的稀なナタオレノキとリュウキュウモクセイが隣接して道傍に生育する小湊の産地は、近くにリュウキュウスズカケ（ほぼ絶滅状態）の生育地点がある分布の特異地点である。

喜界島は徹底的に森林破壊が進行したためかこの類型の分布集中地域ははっきりしない。しかし東部地域の急傾斜地にある森林の調査が進むと、新たな発見があるかもしれない。



- | | |
|--|---|
| <i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i> (Hayata) Masam.
台湾ツクバネウツギ | <i>Melastoma candidum</i> D. Don ノボタン |
| <i>Antidesma pentandrum</i> var. <i>barbatum</i> (Presl.) Merrile
コウトウヤマヒハツ | <i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>liukuensis</i> (Koidz.) Kitam. ホソバシャリンバイ |
| <i>Ardisia chinensis</i> Benth. シナヤブコウジ | <i>Psychotria manillensis</i> Bartl. ナガミボチョウジ |
| <i>Aucuba japonica</i> Thunb. <i>ovoidea</i> Koidzumi ナンゴクアオキ | <i>Psychotria rubra</i> (Lour.) Poirlet ボチョウジ |
| <i>Blastus cochinchinensis</i> Lour. ミヤマハシカンボク | <i>Rhamnella inaequilatera</i> Ohwi ヤエヤマネコノチチ |
| <i>Damnacanthus biflorus</i> (Rehd.) Masam. リュウキュウアリドオン | <i>Rhamnus liukuensis</i> Koidz. リュウキュウクロメモドキ |
| <i>Croton cascarilloides</i> Raeusch. グミモドキ | <i>Rhododendron amamiense</i> Ohwi アマミセイシカ |
| <i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>pavispinus</i> Koidz. オオシマアリドオン | <i>Rhododendron scabrum</i> G. Don ケラマツツジ |
| <i>Diplomorpha phymatoglossa</i> (Koidz.) Nakai オオシマガンビ | <i>Rhododendron scabrum</i> var. <i>angustifolium</i> ホソバケラマツツジ |
| <i>Itea oldhamii</i> Schneid. ヒイラギズイナ | <i>Skimmia japonica</i> var. <i>hutchuensis</i> (Nakai) Yamazaki リュウキュウミヤマシキミ |
| <i>Lasianthus cyanocarpus</i> Jack. 台湾ルリミノキ | <i>Symplocos microcalyx</i> Hayata アマシバ |
| <i>Lasianthus fordii</i> Hance タシロルリミノキ | <i>Symplocos urceolaris</i> Hance アオバナハイノキ |
| <i>Lasianthus fordii</i> var. <i>pubescens</i> (Matsumura) Yamazaki
シンテンルリミノキ | |
| <i>Lasianthus wallichii</i> Wight マルバルリミノキ | |

図2 林床や林縁に生育する低木性の木本植物の分布

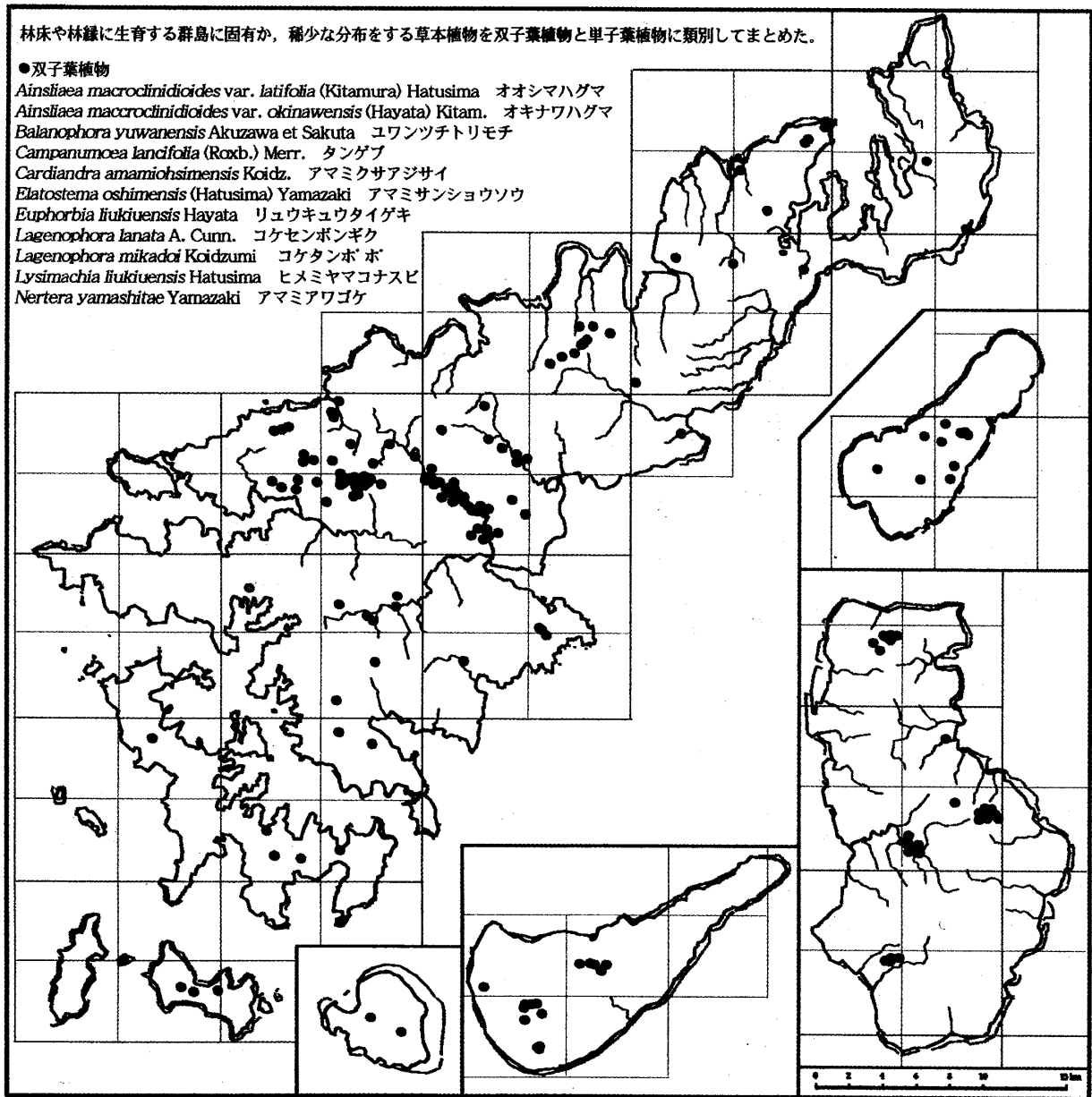


図3 林床性の稀少・固有草本植物の分布

徳之島では北部の天城岳と中部にある井之川岳に多くの稀少種や固有種が集中しているが、三京から犬田布岳にかけての地域も注目される。

沖永良部島では稀少固有な木本性植物の分布は西部の基盤岩になっている堆積岩が地表に出ている大山地域が突出している。他の地域は農耕地として開発され、木本生の植物の存在は優占していない。

与論島では島の北西部から西部にかけての急斜面と朝戸付近の急斜面に森林が残されているが、見るべきものはあまりない。クスノハカエデは前者の地域に見られ、場所によっては良好な林を形成し、稚樹も見られる。

林縁や林床に生育する低木性の木本植物

ここではタイワンツクバネウツギなど26種の分布地点が示されているが(図2)、その多くは低木で常緑の種である。またこの生態的位置を占める種は前類型と重なる種が部分的であるが含まれる。分布が集中する地域は「稀少か固有の常緑木本植物」とほぼ同じパターンを示している。

それとともに、奄美大島では大和村の名音から今里にかけて、住用村の東部(市から金川岳)、加計呂麻島、請島などに集中的な分布地域が認められる。

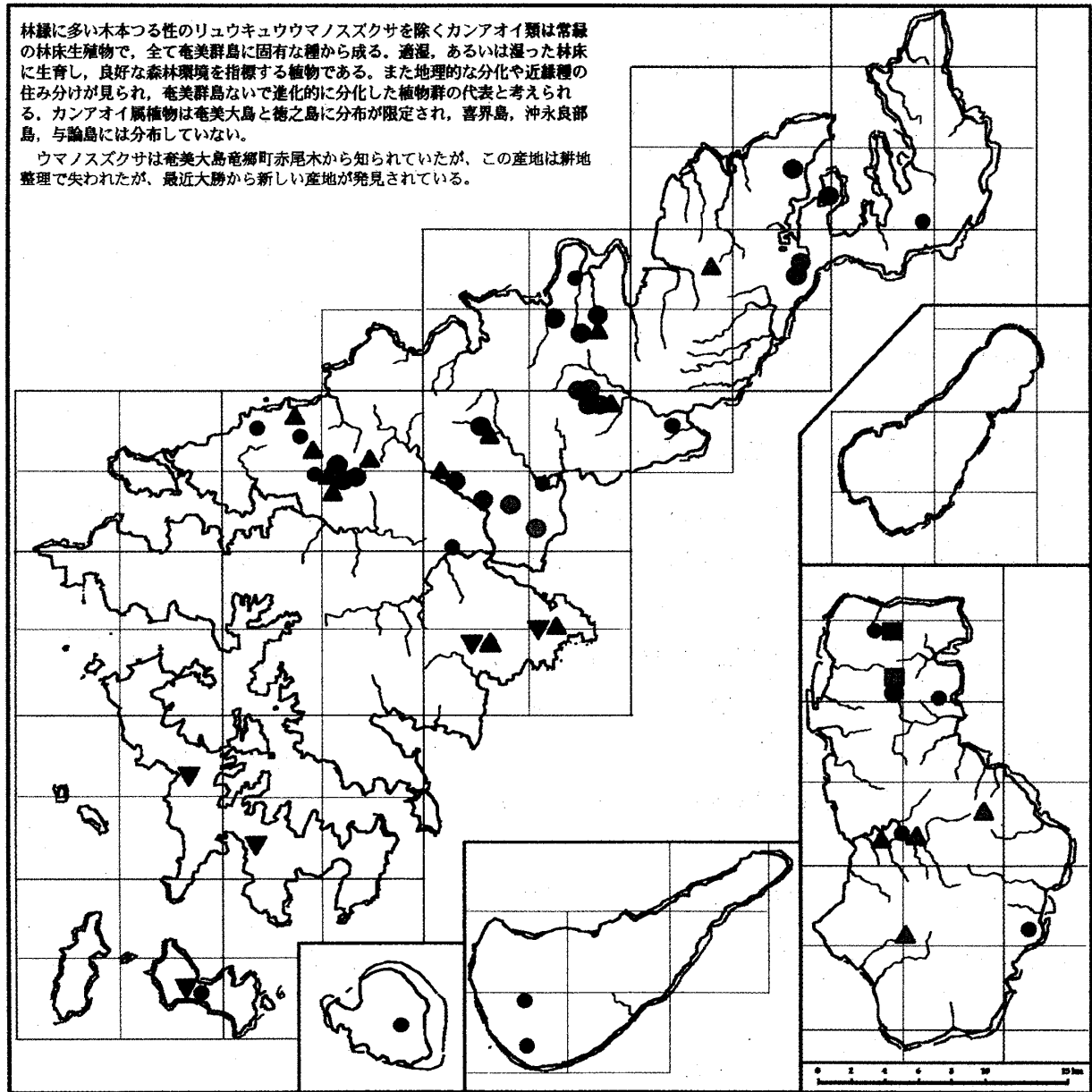
喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島でこの類型に属する固有・稀少植物の分布が集中する地域は「稀少か固有の常緑木本植物」とほぼ同じパターンを示している。

林床に生活領域を有する固有・稀少な草本性の植物

奄美群島にはアマミクサアジサイやウケユリに代表される多くの固有な草本植物が知られている。またオオシロショウジョウバカマのような隔離分布をしていて、生育地は1ヶ所10個体足らずという例に代表される稀少種も多い。

固有あるは稀少な草本性の植物として、双子葉植物21種類(カンアオイ類は除く)、単子葉植物22種類(ラン科植物は除く)の分布地点を重ねたのが図3である。双子葉植物は赤の丸点で、単子葉植物は緑の丸点で区別して示してある。

奄美大島では分布地点の著しい集中地域が住用川と川内川に認められるが、これは奄美大島に特徴的なアマミサンショウソウ、コケタンボポ、ヒメミヤマコナスビ、アマミアワゴケ、アマミカタバミ、コビトホラシノブなどの溪流型植物の分布地点がこの地域に集中していることに起因する。これらの植物は群島の他地域には見られない。また集団数も個体数も少なく、絶滅する可能性が高い種である。ヒメミヤマコナスビやアマミアワゴケはよく開花はするが、結実を見ない。集団は栄養的な繁殖で維持されていると推定され、集団の遺伝的多様性を喪失していて、絶滅の危険性が高い種と推定される。またこの地域にはアマミクサアジサイ、ヒメタムラソウ、アマミ



- *Aristolochia liukiuensis* Hatusima リュウキュウウマノスズクサ (記録はないが喜界島にも分布する可能性は高い)
- *Heterotropa lutchuensis* (T. Ito) Honda オオバカンアオイ (奄美大島中央～東部に分布するとともに徳之島三方通り山にも知られる)
- ▲ *Heterotropa fudsinoi* (H. Ito) F. Maek. フジノカンアオイ (奄美大島西部山地に多い。本茶峠の集団はオオフジノカンアオイとして区別される)
- *Heterotropa ceasa* (Hatusima) F. Maek. ミヤビカンアオイ (湯湾岳から金作原にかけて分布し、湯湾岳の個体数は急減している)
- ▲ *Heterotropa pellucida* (Hatusima et Yamahata) トリガミネカンアオイ (奄美大島東南部に固有)
- *Heterotropa hatsushimae* F. Maek. ハツシマカンアオイ (徳之島天城岳にのみ知られる。個体数は多くない)
- *Heterotropa hatsushimae* var. *leucosepalum* タニムラカンアオイ (徳之島三方通り山に固有)
- ▲ *Heterotropa simile* F. Maek., nom. nud. トクノシマカンアオイ (徳之島井之川岳、三京、犬田布だけから知られる。再検討が必要である)
- *Heterotropa gusuk* F. Maek. グスクカンアオイ (カケロマカンアオイと共に奄美大島西南部に知られる)
- ▼ *Heterotropa trinacriiformis* F. Maek. nom. nud. = *Asarum trinacriiformis* Hatusima et Maehata カケロマカンアオイ (加計呂麻島での分布地点は正確ではない。Asarum trinacriiformis Hatusima et Maehataのタイプ標本は島ヶ峰で採集されて、大阪で栽培されていた個体が指定されている) トリガミネカンアオイ、グスクカンアオイ、カケロマカンアオイの奄美大島東南部に分布する3種は近縁な種で、別種とすべきものかどうかは、湯湾岳周辺に分布するミヤビカンアオイを含めた分類学的な再検討が必要である。

図4 ウマノスズクサ科植物の分布

イワウチワ、アマミデンダなどの他地域にも知られるが、稀少で固有な植物も分布する。

湯湾岳も著しい集中地域となっている。この地域は前地域と異なりアマミテンナンショウ、コショウジョウバカマ、ウケユリ（請島などにもある）、ナルコユリ、サツマオモト、アマミヒメカカラ（木本的であるが、草本群に入れた。新称）などの単子葉植物が目立つし、中には一度採集されたが、再発見できないナルコユリ、園芸目的の採取で個体数が著しく減少したウケユリ、一度は絶滅とされたが2株だけは生き残っているといわれるサツマオモトなどの植物が含まれている。

その他にも金作原や大和村の名音から今里にかけての地域も注目される。特に名音周辺にはツクシタチドコロ（奄美固有の分類群としてアマミタチドコロと呼ぶべき植物）やオオイナモリが分布していることが注目される。

喜界島では固有種とされるヒメタツナミソウが注目されるが、九州南部から南西諸島域のタツナミソウ類については分類学的な再検討が必要である。

徳之島では木本性の植物群でも浮かび上がっていた天城岳、井之川岳、三京の他に犬田布岳周辺も集中が認められる地域である。オオシロショウジョウバカマの他に、オオアマミテンナンショウ、アマミイナモリ、チャボイナモリが知られ、また台湾アマクサシダの群島内では唯一の生育地点になっている。ニッケイのまとまった自然集団も存在する。

沖永良部島では大山地域の他に越山も分布集中地域になっている。

ウマノスズクサ科植物の分布

ウマノスズクサ科植物の分布を図4に示した。奄美群島では唯一の龍郷町赤尾木に知られていたウマノスズクサの分布地点は耕地整備で破壊されて、絶滅したとされていたが、最近になって龍郷町大勝で3個体からなる小さな集団が再発見された。リュウキュウウマノスズクサは喜界島を除く各島に分布していて、集団数は比較的多いが、集団を構成する個体数は多くはない。

この科の林床性の常緑型草本であるカンアオイ類は奄美大島と徳之島で分布域が狭い多くの固有種や固有変種を分化させている。日本列島のどの地域を取っても奄美大島や徳之島に見られるような多くのカンアオイの種が集中的に分布している場所はない。

群島内のカンアオイ類の分布の特徴は、奄美大島と徳之島で著しい種分化が見られるが、他方島の最高地点が100から200メートル程度の標高しか持たない「ハブのいない島」である喜界島、沖永良部島、与論島には分布していないことである。

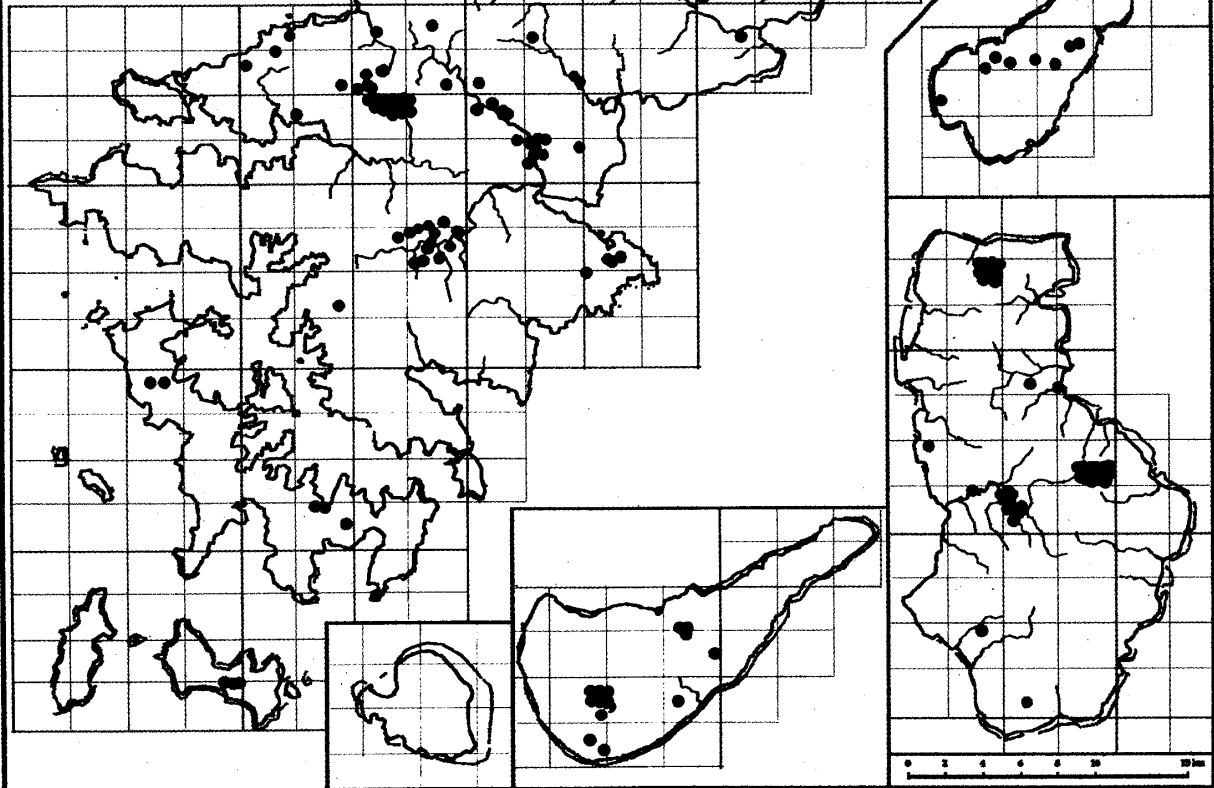
これら多くの種が奄美群島で進化し、分化してきたと推定されるカンアオイ類は、奄美群島の生物進化史を代表するかけがえのない植物であるから、その分布地点は「自然遺産」として全て厳重に保護する必要があるだろう。

奄美大島と徳之島には、日本産カンアオイ類の中では最大級の大きさになるオオバカンアオイ

個体数も集団数も少ないラン類について着生ランと地生ランに類別してまとめてある。

● 着生ラン

- Bulbophyllum affine* Lidl. クスクスラン
- Bulbophyllum drymoglossum* Maxdm. マメツタラン
- Bulbophyllum macraei* (Lindl.) Reichb. f. シコウラン
- Dendrobium tosaense* Makino キバナノセッコク
- Eria corneri* Reichb. f. オオオサラン
- Eria reptans* (Franch. et Savat.) Makino オサラン
- Liparis elliptica* Wight コゴメキノエラン
- Luisia teres* (Thunb.) Blume ボウラン
- Neofinetia falcata* (Thunb.) Hu フウラン
- Oberonia japonica* (Maxdm.) Makino ヨウラクラン
- Saccolabium japonicum* Makino カシノキラン
- Sedirea japonica* Linden et Reichb. f. ナゴラン
- Taeniophyllum glandulosum* Bl. クモラン



● 地生ラン

- Amitostigma lepidum* (Reichb. f.) Schltr. オキナワチドリ
- Aphyllorchis montana* Reichb. f. タネガシマムヨウラン
- Calanthe aristulifera* var. *amamihana* Hatusima アمامイエビネ
- Calanthe discolor* var. *divericatipetala* Ida ハノジエビネ
- Calanthe discolor* Lindl. var. *kanashiroi* Fukuyama
カツウダケエビネ
- Calanthe furcata* Benth. ツルラン
- Calanthe gracilis* var. *venusta* (Schltr.) F. Maek. トクサラン
- Calanthe lyroglossa* Reichb. f. レンギョウエビネ
- Calanthe masuca* Lindl. オナガエビネ
- Calanthe tokunoshimensis* Hatusima et Ida トクノシマエビネ
- Chelestylys itukuensis* Masam. タネガシマカイロラン
- Cymbidium kanran* Makino カンラン
- Cymbidium lancifolium* Hook. ナギラン
- Goodyera foliosa* var. *commelinoides* (Fukuy.) F. Maek.
ツユクサシュスラン
- Goodyera hachijoensis* var. *matsumurana* Ohwi カゴメラン
- Goodyera procera* (Ker-Gawl.) Hook. キンギンソウ
- Goodyera viridiflora* var. *ogatai* Liu et Su シマシュスラン
- Habenaria flagellifera* Makino ムカゴトンボ
- Habenaria polytricha* Rolfe リュウキュウサギソウ

- Hermidium lanceum* var. *longicrura* (Wright) Hara ムカゴソウ
- Hetaeria agyokuana* (Fukuyama) Nakajima カゲロウラン
- Hetaeria cristata* Blume ヤクシマアカシユスラン
- Lecanorchis nigricans* Honda クロムヨウラン
- Lecanorchis trachycaula* Ohwi アワムヨウラン
- Liparis formosana* Reichb. f. ヨウコクラン
- Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl. コクラン
- Cymbidium nipponicum* (Franch. et Savat.) Makino マヤラン
- Epipactis thunbergii* A. Gray カキラン
- Galeola altissima* (Blume) Reichb. f. ツルツチアケビ
- Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama ハルザキヤツシロラン
- Liparis odorata* (Willd.) Lindl. ササバラン
- Liparis uchiyamae* Schtr. キノエサラン
- Listera japonica* Blume ヒメフタバラン
- Microtis unifolia* (Forst.) Reichb. fil ニラバラン
- Platanthera amamihana* Ohwi アマミトンボ
- Spiranthes sinensis* (Pers.) Ames ナンゴクネジバナ
- Talinia laxiflora* Makino ヒメトケンラン
- Tropidia nipponica* Masam. ヤクシマネッタイル
- Vexillabium yakushimense* (Yamamoto) F. Maek. ヤクシマヒメアリドオシラン
- Zeuxine strateumatica* (L.) Schltr. キヌラン

図5 ラン科植物の分布

とフジノカンアオイが分布しているが、オオバカンアオイは龍郷町から住用川流域の大島中央部を中心に、フジノカンアオイは大島西部から本茶峠や長雲峠にかけてみられ、両種は地理的には分布地域をほぼ共有している。しかし両種は秋から冬咲きのオオバカンアオイと春咲きのフジノカンアオイというように開花期が異なっている。生育地もオオバカンアオイはやや乾燥した尾根に多く（海岸近くに生育するような例もある）、フジノカンアオイは湿潤な谷筋に多いという特徴が見られ、生態的にも隔離されていると考えられる。また徳之島には三方通山にオオバカンアオイが分布しているのも説明が困難な分布型である。

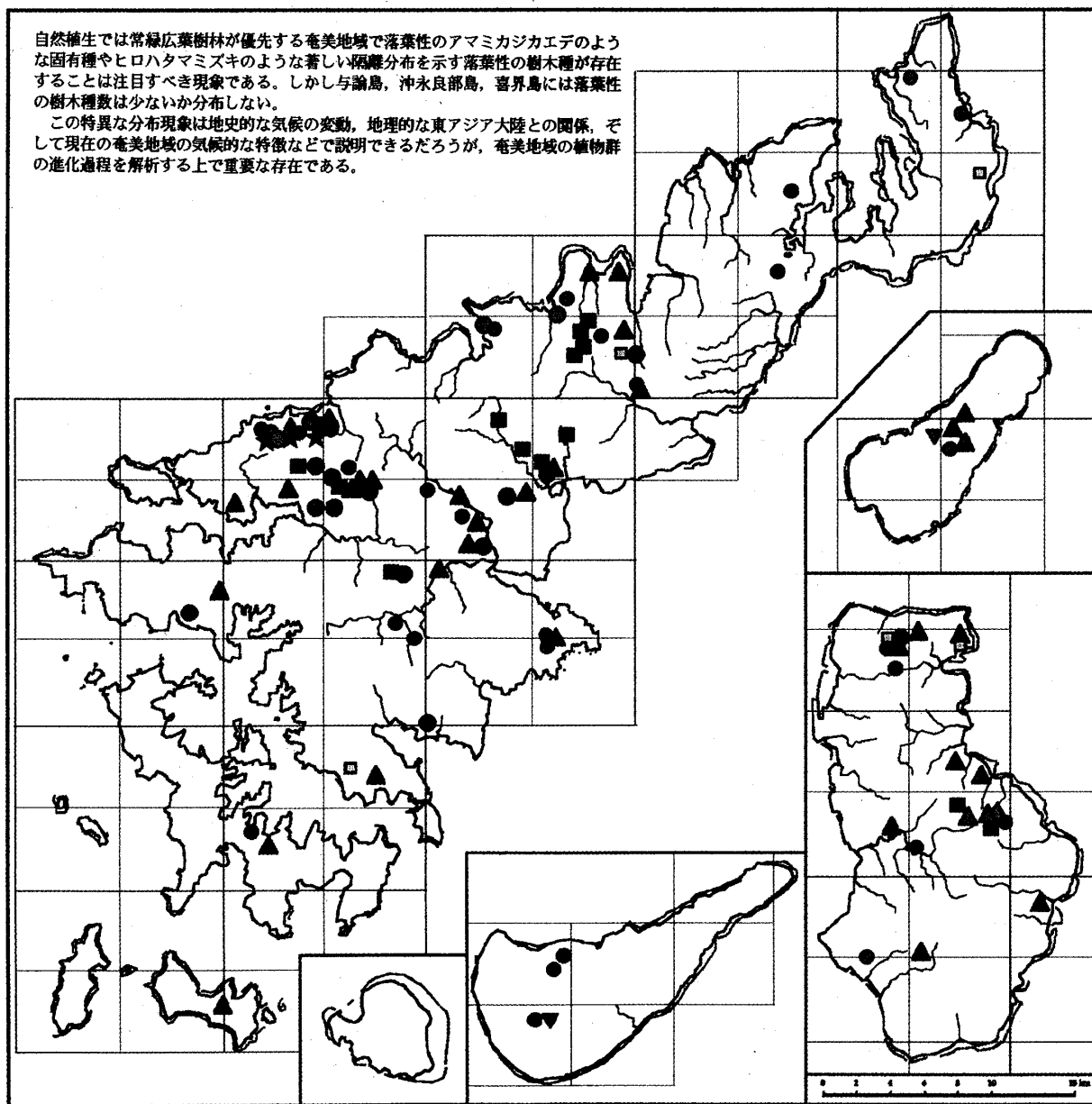
小形のカンアオイ類は地理的な分化が著しい。徳之島では、島の北部にある天城岳にはハツシマカンアオイが、それにつながる三方通山にはハツシマカンアオイの白花品と考えられるタニムラアオイが、そして南部には井之川岳を中心にしてトクノシマカンアオイが分布している。これら三者が重なって分布する地域は知られていない。奄美大島での小形のカンアオイ類の分布は、ミヤビカンアオイが湯湾岳から金作原に、グスクカンアオイが住用村の金作原から東の山地に、そしてカケロマカンアオイとトリガミネカンアオイが加計呂麻島から住用村東南部の山地に分布している。カケロマカンアオイとトリガミネカンアオイは花の形態からは別種と考えられるが、鳥ヶ峰からは両種が報告されている。現地での分布状況は未調査ではっきりしていないので両種が同所的に生育しているのか、それとも異所的に生育しているのかは今のところ明らかではない。この例をのぞいては、小形のカンアオイの種が同所的に分布するような例は知られていない。

ラン科植物の分布

ラン科植物の種は、一部を除いては集団数も個体数もごく少ないことが多い。また腐生生活をすする種では地上に花茎や花あるいは果実を出している期間はごく短期間であることが多い。それで採集される標本の点数は多くなならないし、分布の再確認が困難なことが多い。

分布図（図5）には稀少な種や採取で絶滅が問題になっている54種の分布地点をまとめた。奄美群島地域からはおよそ75種類のラン科植物が報告されている。そのなかでネジバナのような普通種や、この地域から分布が報告はされているが標本での確認ができなかった種を除いたもので分布図は作成されている。この54種類は、生活形から着生ラン（赤点、14種）と地生ラン（緑点、40種類）に二分してそれぞれの分布地点を示してある。面白いことに低平な島である喜界島、与論島からは現在のところ着生ランは採集されていない。また沖永良部島のボウランは戦前、1921年に1度採集されているだけである。

奄美大島の湯湾岳にはクスクスランやシコウラン、それに国指定の保護植物になっているコゴメキノエランがある。クスクスランやシコウランの現状は確認できないが、コゴメキノエランは手が届く位置に2から3集団が生育する。住用川と役勝川沿いには比較的多くの着生ランが知ら



- *Acer amamianum* Yamazaki アマミカジカエデ (固有, 大和村名音近くに1集団10本ほど, 雌株は2本で絶滅が危惧される)
- *Acer insulare* Makino シマウリカエデ (固有, 大島では林道沿いや川沿いの崩壊跡地にやや普通, 徳之島では天城岳に知られる)
- ▲ *Callicarpa oshimensis* Hayata オオシマムラサキ (固有, 明るい林内や林縁に散在的に分布する)
- ▲ *Deutzia naseana* Nakai オオシマウツギ (固有, 谷川沿いなどに散在的に見られる。徳之島の集団はオオバナオオシマウツギとして区別される)
- *Euodia ailanthifolia* Pierre ホソバハマセンダン (隔離, 林道沿いの二次林に点的に見られる)
- *Helwingia japonica* var. *liukuensis* Hara et Kurosawa リュウキュウハナイカダ (固有, やや湿った林縁に見られるが, 多いものではない)
- *Ilex macrocarpa* Oliver ヒロハタマミズキ (隔離, 大島西南部の瀬海地に点的に知られるが, 個体数は少ない)
- ▲ *Lagerstroemia subcostata* Koehne シマサルスベリ (固有, 川岸の明るい場所を好む, 個体数は多くはない)
- *Viburnum tashiroi* Nakai オオシマガマズミ (固有, 林縁や明るい林内に生育する。点的に知られる)
- *Zanthoxylum amamiense* Ohwi アマミザンショウ (固有, 林縁や明るい林内に生育するが個体数の多いものではない)
- ▼ *Zanthoxylum scandens* Blume ツルザンショウ (隔離)
- *Zanthoxylum schinifolium* var. *okinawense* (Nakai) Hatusima シマイヌザンショウ (固有, 明るい二次林や林道沿いに分布)
- ★ *Nothapodytes amamlana* Nagamasu et M. Kato ワダツミノキ (2004年に奄美固有の新種として記載)

図6 落葉性の木本植物の分布

れている。溪谷の湿潤な環境が着生ランの生育を助けているのだろう。また役勝川上流域は着生のヤドリコケモモの生育地域である。この地域で伐採が進行している時期に初島・迫先生らの採集活動が行われたことも着生ランの標本が多く採集された原因かも知れないし、ヤドリコケモモの最初の発見も伐採された樹からであった。

徳之島では井之川岳と三京に着生ランが多い。三京には徳之島ダムが計画され、建設が始まっているが、ダム予定地域はフウランやナゴランの分布地点でもある。現在でも生育株が確認されているので現地での保護対策が望まれる。

地生ランでは、奄美地域は日本では最も豊かなエビネ類の種類数を誇っている。温帯系のアマミエビネ、ハノジエビネ、カツウダケエビネ、トクノシマエビネ（アマミエビネを除くと徳之島に分布する）と熱帯系のタマザキエビネ、ツルラン、トクサラン、レンギョウエビネ、オナガエビネ、ダルマエビネ（分布が標本で確認できない）である。これらの中には分類学的に再検討を必要とするものもあるが、多くはエビネ愛好家の採取対象とされ、商品的にも取り引きされている。特に徳之島の集団数も個体数も少ない温帯系起源のエビネ類や奄美大島の美しいキリシマエビネ系のアマミエビネは壊滅的な状況にある。

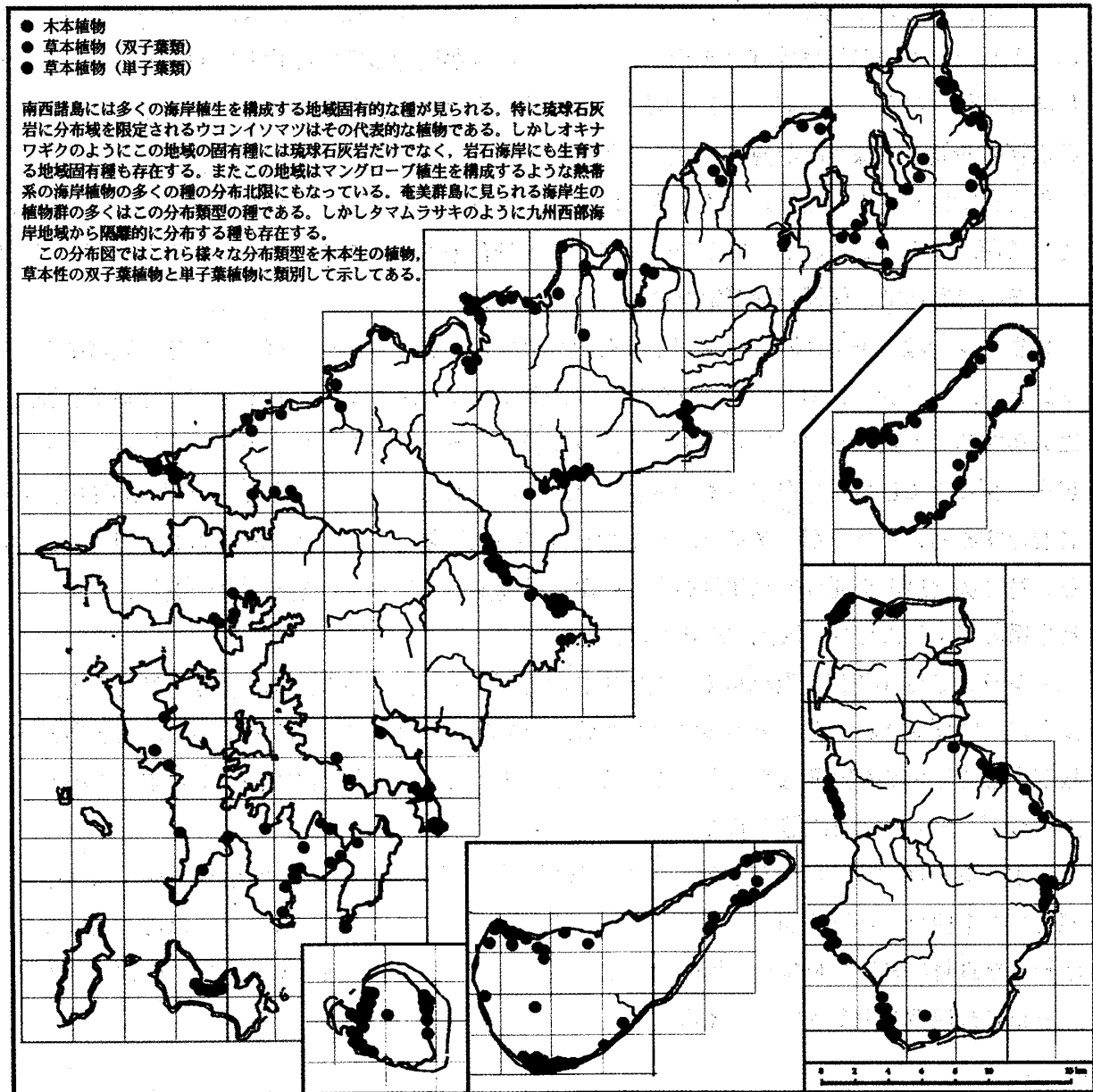
カンランは1960年代に湯湾岳で一度採集されたが、その後分布を確認できない種である。同じように一度採集されたが、その後は分布が確認できない種はカキランを始め多い。もともと個体数が少なくて再認が困難なこともあるだろうし、すでに奄美群島では絶滅してしまった種もあるだろうが、その判別は困難である。

着生ランと地生ランの分布型の違いはあるが、ラン科植物全体の分布型は、「稀少固有な木本植物や草本植物」とほぼ同じパターンを示している。それはここに取り上げたほとんどの種類が成熟した森林の林床や林縁を生活の場に行っているから、森林を構成する木本性の植物の分布型とは分布の共通性が出てきたと考えられる。

落葉性木本植物の分布

自然植生がシイ／タブ／イスノキなどからなる常緑広葉樹林であるのが当たり前のような湿潤で温暖な奄美群島に落葉性の木本植物、それも固有的な種が多く見られるのは奄美の植物相の成立史の解明にとって重要な問題である。

図6に固有あるいは隔離的に分布する12種の落葉性木本植物の分布を示した。まず各島ごとに分布する種を見ると、奄美大島にはツルザンショウを除く11種が、喜界島にはシマサルスベリ、オオシマウツギ、アマミザンショウ、ツルザンショウの4種が、徳之島にはシマウリカエデ、オオシマムラサキ、オオシマウツギ、リュウキュウハナイカダ、シマサルスベリ、オオシマガマズミ、アマミザンショウ、シマイヌザンショウの8種が、沖永良部島にはアマミザンショウとツル



木本植物

- Berchemia lineata* DC. ヒメクマヤナギ
- Bruguiera gymnorrhiza* (L.) Lam. オヒルギ
- Cerbera manghas* L. ミヅクラギ
- Cinnamomum daphnoides* Sieb. et Zucc. マルバニツケイ
- Cotubria asiatica* (L.) Brongn. ヤヤマハマナツメ
- Entada phaseoloides* (Linn.) Merr. モダマ
- Fraxinus floribunda* Wall. シマタゴ
- Kandelia candel* (Linn.) Druce メヒルギ
- Lonicera japonica* var. *miyagusiana* Makino ヒメスイカズラ
- Maytenus diversifolia* (Masam.) Ding Hou ハリツルマサキ
- Pongamia pinnata* (Linn.) Merr. クロヨナ
- Scaevola sericea* Vahl クサトベラ
- Vitex trifolia* L. ミツバハマゴウ

草本植物 (双子葉類)

- Aster asa-gravi* Makino イソノギク
- Aster miyagii* Koidz. オキナワギク
- Cirsium brevicaulis* A. Gray シマアザミ
- Crossostephium chinense* (L.) Makino モクビャクコウ
- Hedyotis strigulosa* var. *parvifolia* (Hook. et Arn.) Yamazaki ソナレムグラ
- Ipomoea gracilis* R. Br. ソコベニヒルガオ

baeris debilis var. *liuchuenensis* Kitamura アツバジシバリ

Lobelia koochensis Koidz. マルバハタケムシロ

Wedelia biflora var. *ryukyuenensis* H. Koyama オオキダチハマグルマ

草本植物 (単子葉類)

- Allium pseudojaponicum* Makino タムラサキ
- Asparagus cochinchinensis* Merrill クサスギカズラ
- Carex pumila* Thunb. コウボウシバ
- Carex sakonis* T. Koyama サコスゲ
- Carex scabrifolia* Steud. シオクグ
- Carex oahuensis* var. *robusta* Fr. et Sav. ヒゲスグ
- Lilium longiflorum* Thunb. テッポウユリ
- Lycoris traubii* Hayward ショウキズイセン
- Lepturus repens* (Forst. f.) R. Br. ハイシバ
- Pennisetum sordidum* Koidz. シマチカラシバ
- Spinifex littoreus* (Burm. f.) Merr. ツキイゲ
- Sporobolus virginicus* (Linn.) Kunth ソナレシバ
- Thuarea involuta* Roem. et Schult. クロイワザサ
- Zoysia macrostachya* Franch. et. Savat. オニシバ
- Zoysia matrella* (L.) Merr. コウシュンシバ
- Zoysia pacifica* (Goudswaerd) M. Hotta et Kuroki コウライシバ
- Zoysia sinica* Hance コオニシバ

図7 海岸地域に生活領域を有する植物の分布

ザンショウの2種が知られている。低平な島には落葉木本植物の種数は少ないし、与論島からは知られていない。

多くの落葉木本種を有する奄美大島と徳之島を比較すると、徳之島に分布を欠くアマミカジカエデ、ホソバハマセンダン、ヒロハタマミズキはいずれも高木性の種であることが特徴的である。両島に共通する高木種はシマウリカエデ（徳之島では1ヶ所知られるのみ）とシマサルスベリの2種である。後者は喜界島にも分布するが、この島の集団は大島ほどの大きなサイズの個体がなく、樹高が低い個体でもよく開花結実している。

大陸から隔離的に分布するツルザンショウは喜界島と沖永良部島に分布するが、大島と徳之島からは知られていない。宝島を北限とするこの種は比較的最近になって群島域に侵入してきた種であるかも知れない。

奄美大島に知られるアマミカジカエデとヒロハタマミズキは、大島西南部に分布する種である。名音から今里にかけての地域はこの特徴的な樹種の他に、ワダツミノキやアマミタチドコロなどの稀産種が分布する地域となっている。保護上注目すべき地域である。またこの地域を除くと落葉性の木本植物の分布パターンは「稀少・固有な常緑性の木本植物」の分布パターンとほぼ一致するような分布を示している。

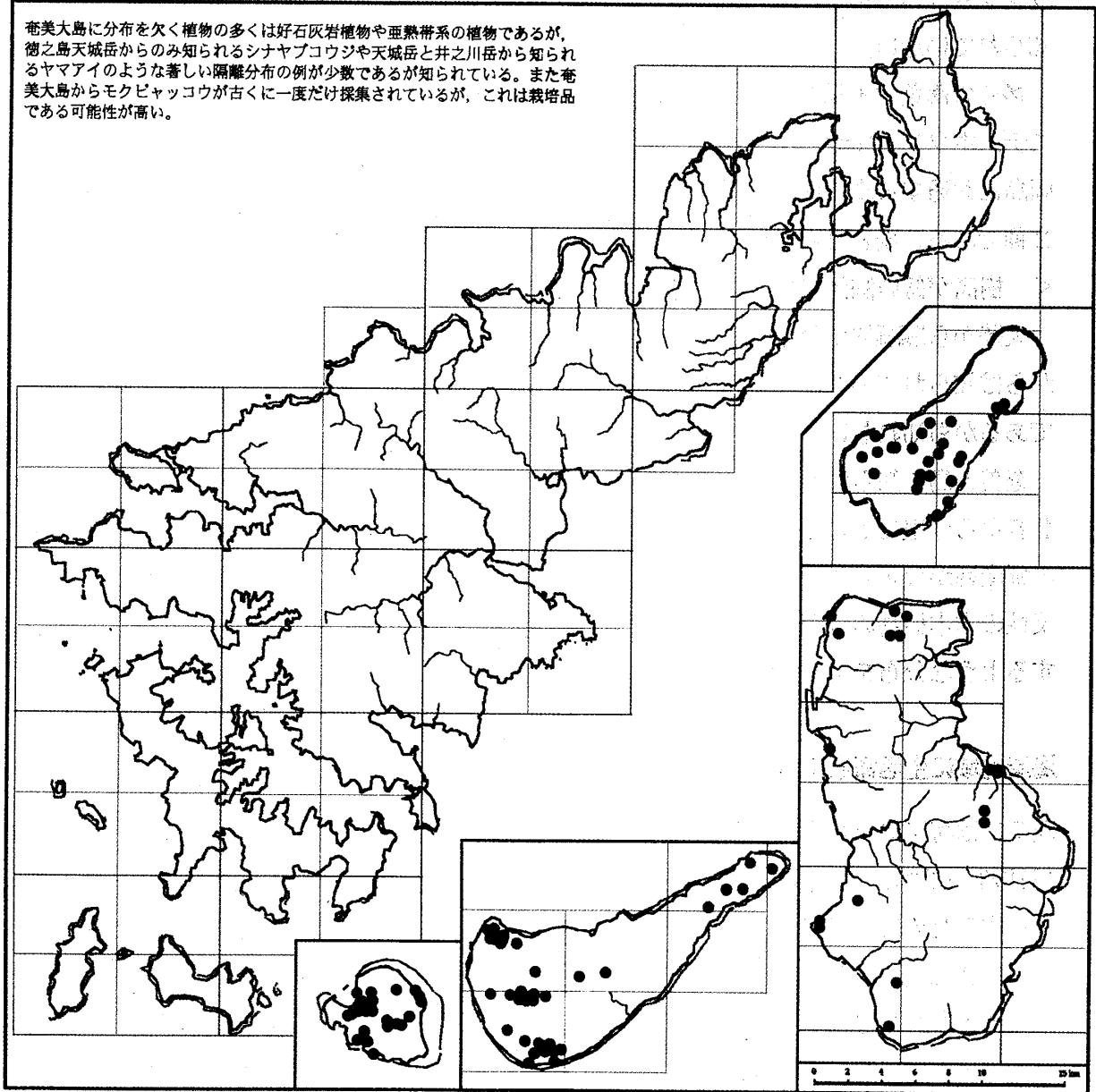
海岸地域に生活領域を有する植物

図7には海岸に分布する種を木本（13種類）・草本（双子葉植物，9種類）・草本（単子葉植物，17種類）にグループ分けをして、分布地点を示した。海岸を生活領域とする植物の多くは海流散布をするために、アダン、クサトベラ、モンパノキなど多くの種は地球規模での広い分布をしている。特に南西諸島は熱帯系の種類の北限分布地域となり、オヒルギ（奄美大島が北限）、モダマ（屋久島が北限）ツキイゲ（種子島が北限）など多くの南方系の海岸植物が知られる。

それと共に南西諸島の海岸、特に隆起石灰岩や堆積岩でできている海岸には特徴的な固有や準固有植物群が知られている。マルバニッケイ、ヒメスイカズラ、イソノギク、オキナワギク、アツバジシバリ、マルバハタケムシロ、サコスゲ、テッポウユリ、ショウキズイセン、シマチカラシバ、クロイワザサ、コウシュンシバ、コウライシバなどである。これらの中には台湾や太平洋諸島にまで分布する種もあるが、南西諸島の岩石海岸をよく特徴づけている。この中には集団数も個体数も少なく絶滅が危惧されている種も見られる。ヒメスイカズラ（徳之島鹿浦）、イソノギク（アヤマル岬では絶滅）、オキナワギク（徳之島と奄美大島に数カ所の産地が知られている）、マルバハタケムシロ（宮古崎、ホノホシ、市崎など、少ない）、ショウキズイセン（市崎など3ヶ所ほど）などはその代表者である。

奄美大島では海岸沿いの道路建設、コンクリートで固められた護岸によって海岸植物の生育地

奄美大島に分布を欠く植物の多くは好石灰岩植物や亜熱帯系の植物であるが、徳之島天城岳からのみ知られるシナヤブコウジや天城岳と井之川岳から知られるヤマアイのような著しい隔離分布の例が少数であるが知られている。また奄美大島からモクビャクコウが古くに一度だけ採集されているが、これは栽培品である可能性が高い。



- Acer oblongum* var. *itoanum* Hayata クスノハカエデ
- Anisomeles indica* (L.) O. Kuntze ブゾロイバナ
- Ardisia chinensis* Benth. シナヤブコウジ
- Camellia lutchuensis* T. Ito ヒメサザンカ
- Citrus depressa* Hayata シーカシャー
- Colubria asiatica* (L.) Brongn. ヤエヤマハマナツメ
- Crossostephium chinense* (L.) Makino モクビャクコウ
- Croton cascarioides* Raeusch. グミモドキ
- Cynanchum matsumurae* Yamazaki ヒメイヨカズラ
- Ehretia dicksonii* Hance マルバテシャノキ
- Euphorbia lukuensis* Hayata リュウキュウタイゲキ
- Gardneria lukuensis* Hatusima リュウキュウホウライカズラ
- Hedyotis strigulosa* var. *parvifolia* (Hook. et Arn.) Yamazaki (シマ) ソナレムグラ
- Jasminum sinense* Hemsl. オキナワソケイ
- Mercurialis leiocarpa* Sieb. et Zucc. ヤマアイ
- Parsonia laevigata* (Moon) Alston ホウライカガミ
- Pemphis acidula* G. Forst. ミズガンビ
- Pisonia aculeata* L. トゲカズラ
- Pueraria montana* (Lour.) Merr. タイワンクス

- Rhynchosia minima* (L.) DC. ヒメノアズキ
- Scutellaria kikaisularis* Hatusima ヒメタツナミソウ
- Sophora tomentosa* L. イソフジ
- Strobilanthes tashiroi* Hayata オキナワスズムシソウ
- Symplocos urceolaris* Hance アオバナハイノキ
- Thermopsis chinensis* Benth. ex S. Moor クソエンドウ
- Toddalia asiatica* Lam. サルカケミカン
- Tutcheria virgata* (Koidz.) Nakai ヒサカキサザンカ
- Zanthoxylum scandens* Blume ツルザンショウ

図8 奄美大島に分布を欠く植物

の多くが破壊されたがまだ良好な状態で残されている部分もある。稀少種や固有種の分布する地域の海岸は注意して保護される必要がある。

奄美大島には数カ所のマングローブ林が残っている。特に住用村にある市（埋め立てでほぼ消滅に近い）、住用川・役勝川河口（規模も生物多様性も大きい）、それに摺勝（埋め立てで集団は縮小）の3集団はヒルギ科のオヒルギとメヒルギの2種を有するマングローブ林で、日本列島の中では複数のヒルギ科植物を有するマングローブ林としては北限になる大切な植生である（最北限は笠利町手花部でオヒルギ数本、メヒルギ20本ほどの集団が記録されている）。また龍郷町浦にあるメヒルギからなるマングローブ林は最近になって良好な生育を示すようになり、生育域も拡大している。

住用のマングローブ林は流出する土砂で堆積が進行し、エコツアーによる観光開発も進み、陸地に近い部分は変質しつつあるが、海に面した地域に新しいマングローブ植生が進出しつつある。今後の生育を期待したい。また一部が採石残土の土捨て場にされ、稀少なサガリバナ群落が破壊されたことがあるが、そのようなことが繰り返されないように注意を払う必要もある。

奄美大島に分布しない植物

この分布類型は、群島内ではもっとも植物相が豊かな奄美大島には分布しなくて、他の島々、植物相がそれなりに豊かな徳之島、島の大部分が石灰岩で構成される低平な島で植物相のやや貧弱な喜界島、沖永良部島、与論島に分布する植物を拾い上げた。もっとも植物相が豊かな島には分布していないという分布類型で見ると、奄美群島の5つの主要な島の特徴や違いが浮かび上がってくる。

徳之島は、ニッケイ、シナヤブコウジ、ヤマアイ、ハツシマカンアオイ、トクノシマカンアオイ、オオアマミテンナンショウ、トクノシマエビネなどの固有あるいは特産の種を有している。ヒメザザンカは沖永良部島にも分布するが大島には見られない。これらの種は内陸山地性の種であるし、徳之島に発達する隆起石灰岩上だけに生育する種ではない。徳之島は地形的には奄美大島に似ているが、それなりに隔離され、独自の植物群を分化するだけの生態的・地理的な空間の多様さがあつたと評価できよう。

奄美大島や徳之島と比較すると植物相が単純な喜界島、沖永良部島、与論島にも奄美大島には分布しない種が案外と多数分布している。それらは石灰岩地帯に生育地を有する好石灰岩植物であつたり、南方系の分布北限種が多い。より温暖な与論島や沖永良部島まで、南から分布してきた植物である。固有種はこれらの島には多くはなく、沖永良部島のヒメイヨカズラ、オキナワスズムシソウ（喜界島や大島にも分布する）、喜界島のヒメタツナミソウなどの固有的な種は見られるが、限定されたものである。

奄美大島に分布を欠く植物で低平な島に産する種の多くは村落内や、ちょっとした湧水地、あるいは海岸草原に多い植物で、人為的な影響を受けやすい場を生育地としている。注意しなければならない点である。特に沖永良部島の大山と田皆崎は多くの貴重種が見られる地域である。大山の自然林を保護することと、田皆崎の草原植生を保全することは重要な課題であろう。

水生植物と湿地の植物

奄美群島にはまとまった湿地や自然の大きな池沼は存在しない。そのため水生植物や湿地生の植物は生育地も種数も少ない。その中から20種類の分布地点を示したのが図9である。ガマ類やヒエ類のような普通種はこの分布図に入れていないのでこれら普通種を含めるとすこし異なっ分布パターンになるだろう。

水生・湿地生植物が集中分布する地点は奄美大島では龍郷市理原の元ゴルフ場予定地にある小さな池の周辺で、オオホシクサやミミカキグサの他に、イヌクログアイやミズユキノシタ、コモウセンゴケが見られ、近くにはクロガヤやミヤマクロバイが見られる特別な地点である。残念なことに町によって池のそばを通る道路が建設され、市理原では最大だったミヤマシロバイが伐採されてしまった。また小湊周辺、住用、市等の海岸近くの水田に伴う湿地にもホシクサ類やカヤツリグサ科の湿地生の種、それにスブタ類が見られる。

喜界島では小さな湧水とそれに伴った池があり、それと水田が生育地となっているが、生育地点は多くない。奄美群島で知られている唯一のミズヒキモの分布地点が島の東南部にある。

徳之島では母間と三京に分布の集中が見られる。マルミスブタやミズオオバコが知られている。

沖永良部島では島の北部の和泊近くにあった小さな池に分布の集中が見られる。エビモ、ヒルムシロ、ササバモなどのヒルムシロ科植物を産していた。残念なことに現状は不明である。

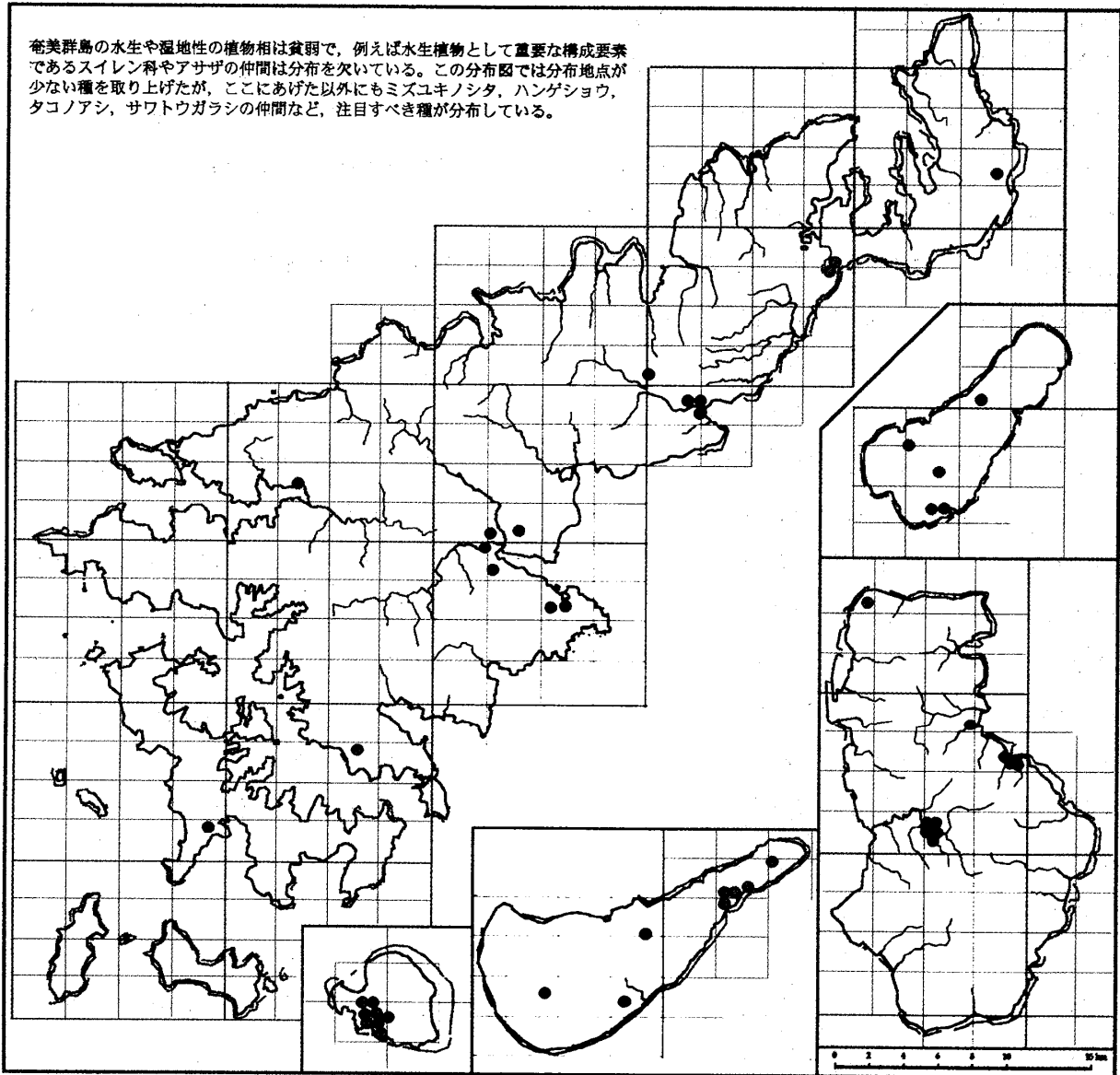
与論島では島の西南部、立長に小さな湧水地と水田があった。そこが、水生・湿地生植物の生育地になっていたが、1990年代には壊滅的な状態になっていた。現状は不明である。

奄美群島では水生植物や湿地性の植物の生育場所は限られているし、不安定で人為の影響を受けやすい地域に存在している。また人為的に作られた池や水田が生育地になっていることが多いが、そこに生育する植物の多くは奄美群島では希少種である。このような環境を保護することも、奄美の自然を保全する上で重要だろう。

固有・稀少な植物が集中する保全上留意すべき地域

固有・稀少な植物が集中する地域は「固有か稀少な木本生常緑植物の分布」(図1)、「林床や林縁に生育する低木性の木本植物の分布」(図2)、「林床性の稀少・固有草本植物の分布」(図3)

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域について



Blyxa aubertii L. C. Rich. マルミスブタ

Blyxa echinosperma (C. B. Clarke) Hook. スブタ

Blyxa japonica (Miq.) Maxlm. ヤナギスブタ

Eriocaulon amanoanum T. Koyama アマノホシクサ

Eriocaulon buergerianum Koern. オオホシクサ

Eriocaulon miqelianum var. *jutchuensis* (Koidz.) T. Koyama オキナワホシクサ

Eriocaulon nigrum var. *sulshaense* (Hayata) Hatusima et T. Koyama スイシャホシクサ

Fimbristylis miliacea var. *koidzumiana* T. Koyama タイワンヒデリコ

Fulrena ciliaris (Linn.) Roxb. クロタマガヤツリ

Fulrena umbellata Rottb. オオクロタマガヤツリ

Glyceria acutiflora Torr. ムツオレグサ

Leersia hexandra Sw. タイワンアシカキ

Ottelia japonica Miq. ミズオオバコ

Potamogeton crispus Linn. エビモ

Potamogeton distinctus A. Benn. ヒルムシロ

Potamogeton malianus Miq. ササバモ

Scirpus triquetus Linn. サンカクイ

Utricularia australis R. Br. イヌタヌキモ

Utricularia exoleta R. Brown ミカワタヌキモ

Utricularia bifida L. ミミカキグサ

図9 水生や湿地生の植物

に示されている。奄美群島の中心的な常緑樹林とそこを生育の場とする低木や草本植物の分布はほぼ共通したパターンである。最も多くの稀少・固有植物が集中するのは天然記念物にも指定されている湯湾岳と、多くの溪流型固有植物を有する住用川溪谷である。この地域は特別保全の地域に指定されるのはほぼ確実であるから、この地域に分布している植物を除いた種類群で稀少・固有植物がどこに分布しているかを見たのが図10である。この図からは湯湾・住用川地域以外の

奄美群島で保護上留意すべきいくつかの地域が浮かび上がってくる。

奄美大島では見るべき森林植生ではほとんど残っていない笠利地域東部海岸に奄美群島で残されているただ2ヶ所のタムムラサキ（アマミラッキョウ）の産地があるし、ハウチワノキ、産地が消滅したイソノギクやリンドウ、あるいはウマノスズクサなどの生育地でもあった。西側の笠利湾の沿岸も内湾性のメヒルギやオヒルギ産地がある。

龍郷町市理原はオキナワウラジログシ林が残り、ミヤマシロバイやタイワンルリミノキなどの分布北限地になっている重要な地域であるし、小さな池と湿地も奄美では見かけられないような環境を形成している（カエル類やイボイモリの繁殖地でもある）。

名瀬市東部の小湊周辺は大川河口部にあたり水田に随伴するホシクサ類の他にアツバニガナのような海岸植物、それに路傍の岩場にリュウキュウモクセイやナタオレノキ、さらにリュウキュウスズカケが知られている。危惧種の集中するホットスポットである。

川内川には、住用川と共通するアマミアワゴケのような溪流型植物をいくつか産しているが、河口部の破壊はされたが残されているマングローブ林の保全は課題となる。東仲間から西仲間には三太郎峠は東仲間側に大きなモダマ群落があり、旧街道は三太郎トンネルの完成で車がほとんど通らなくなり、注意すべき地域になりつつある（同じことは和瀬峠にも言える）。

住用・役勝川河口に広がるマングローブ林は広さと多様さで注目すべきものである。エコツアーや埋め立てなどの問題があるが、保全については厳重な注意を払う必要がある。

市から金川岳にかけての地域の海岸にはオキナワギク、マルバハタケムシロ、ショウキズイセンが知られるし、金川岳からはアマミアオネカズラ、フユノハナワラビを始め、オオシマムラサキ、フジノカンアオイ、カケロマカンアオイなどの稀少・固有植物が知られている。

役勝川上流部はヤドリコケモモの分布地域であり、着生ランの種類も豊富であり林床にはモリヘゴ（クロヘゴ）の多い地域である。

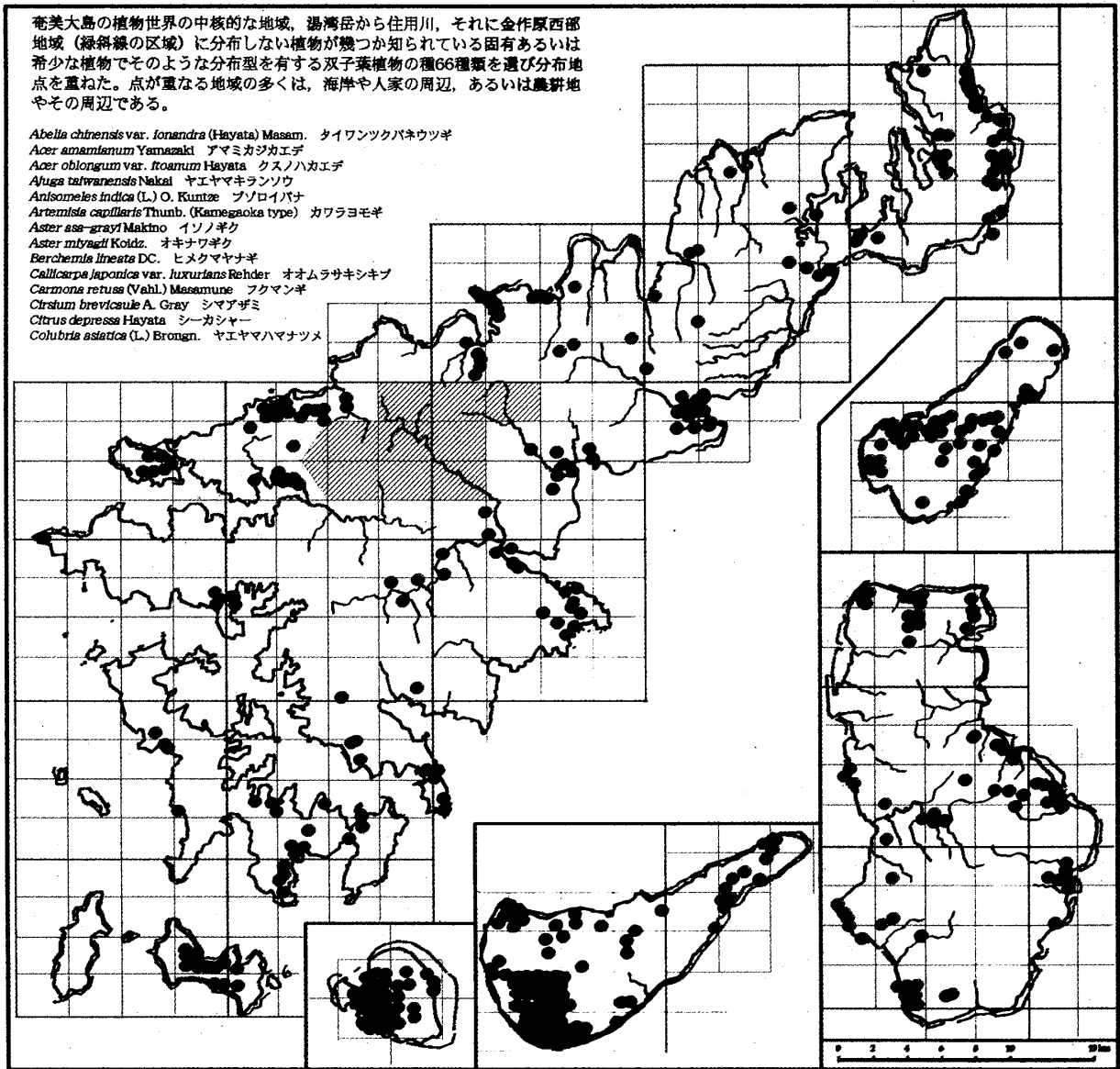
名瀬市西部の根瀬部から宮古崎は冬の北西季節風を受けて特徴的な地域となっている。根瀬部のシナヤマツツジは名瀬市の天然記念物となっているが、移植された個体にはケラマツツジとの雑種個体が混じり、問題となる。奄美大島でただ1ヶ所のバケイスゲの産地でもある。宮古崎にはセンブリ、マルバハタケムシロ、マルバニッケイなど風衝岩石海岸に特徴的な植物が見られる。

奄美大島西南部の名音から今里にかけての地域も特別な地域で、アマミカジカエデ、ワダツミノキをはじめこの地域に特産する稀少・固有植物が知られている。これらは村落の近くや路傍のなんでもない場所に見られることが多く、保護については十分にな注意が必要である。

焼内湾では湯湾から芦検、久慈湾の久慈から管鈍地域、大島東南端のホノホシ海岸、特にホノホシ海岸はオキナワギクやマルバハタケムシロが生育する重要地点であるが、公園開発で踏みつけによって破壊された集団もある。

枝手久島、加計呂麻島、請島、与路島にもそれぞれに稀少な植物は知られているが、最近の状

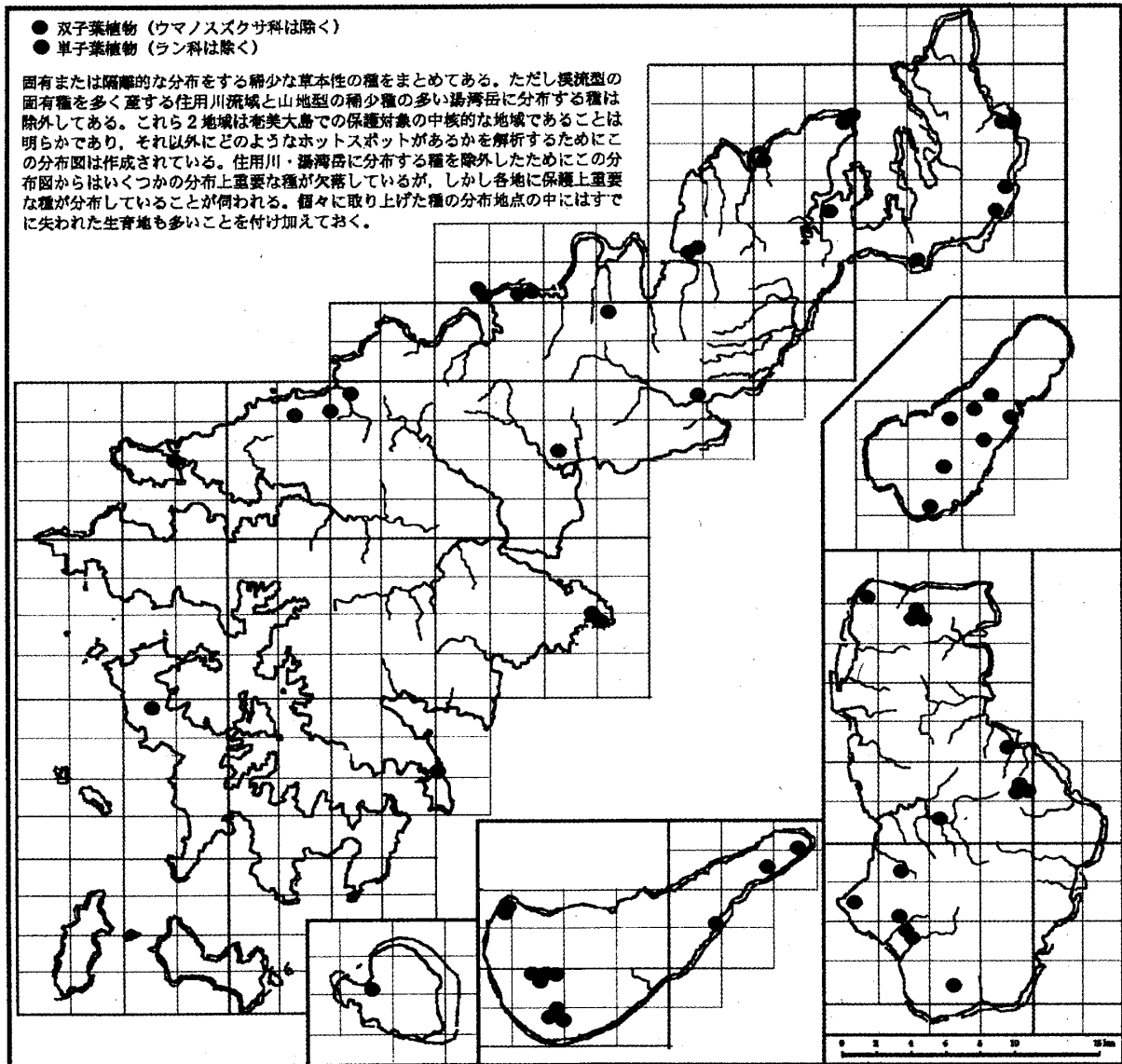
堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域について



- Coptosapeita diffusum* (Champ.) van Steenis ヒョウタンカズラ
Cordia dichotoma Forst. f. カキバチシャノキ
Crossostephium chinense (L.) Makino モクビヤクコウ
Cynanchum matsumurae Yamazaki ヒメイヨカズラ
Cynanchum paniculatum (Bunge) Kitagawa スズサイコ
Cynoglossum lanceolatum var. *formosum* (Nakai) Hara シマスナビキソウ
Dendranthema crassum (Kitam.) Kitam. オオシマノジギク
Doliptera chinensis (L.) Nees ヤンバルハグロソウ
Ehretia dicksonii Hance マルバチシャノキ
Euonymus fortunei var. *australukuensis* (Hatsumura) Hatsumura リュウキュウツルマサキ
Eupatorium lutchuense Nakai シマフジバカマ
Fraxinus floribunda Wall. シマタゴ
Gallium gracile var. *lutchuense* (Nakai) Yamazaki リュウキュウヨツバムグラ
Hedyotis strigulosa var. *parvifolia* (Hook. et Arn.) Yamazaki ソナレムグラ
Hedyotis tenelliflora Bl. ケニオイグサ
Ilex debilis var. *lutchuensis* Kitamura アツバジシバリ
Jasminum sinense Hemsl. オキナワソケイ
Lasianthus cyanocarpus Jack. タイワンリミノキ
Lasianthus wallichii Wight マルバルリミノキ
Leucas mollissima var. *chinensis* Benth. ヤンバルツルハッカ
Ligustrum japonicum var. *pubescens* Koidz. ケネズミモチ
Loebelia loochuensis Koidz. マルバハタケムシロ
Lonicera japonica var. *miyaguskiana* Makino ヒメスイカズラ
Ligustrum japonicum var. *pubescens* Koidz. ケネズミモチ
Ophiorrhiza japonica var. *cantonensis* (Hance) Hatsumura, c. nov. オオイナモリ
Osmanthus insularis Koidz. ナオレノキ
Osmanthus marginatus (Champ. ex Benth.) Hemsl. リュウキュウモクセイ

- Parsonsia laevigata* (Moon) Alston ホウライカガミ
Pistacodon grandiflorum (Jacq.) A. DC. キキョウ
Polygala chinensis L. シンチクヒメハギ
Psychotria manillensis Bartl. ナガミボチヨウジ
Rhamnus inaequilatera Ohwi ヤエヤマキノコチヂ
Rhamnus thukuensis Koidz. リュウキュウクロウメモドキ
Sageretia theezans (Linn.) Brongn. クロイグ
Scaevola sericea Vahl クサトベラ
Scutellaria kikkaisularis Hatsumura ヒメタツナミソウ
Solidago virgaurea var. *insularis* Kitamura シマコガネギク
Sporobolites tashiroi Hayata オキナワスズムシソウ
Sweetia japonica (Schultes) Makino センブリ
Symplocos urceolaris Hance アオバナハイノキ
Thymospermum diffusum Champ. シマヒョウタンボク
Toddalia asiatica Lam. サルカケミカン
Trichostema dubia (Lindl.) Ohwi シロミズ
Typhopora japonica Miq. トキワカモメズル
Utricularia australis R. Br. イヌタヌキモ
Utricularia bifida L. ミミカキグサ
Utricularia exoleta R. Brown ミカワタヌキモ
Vitex trifolia L. ミツバハマゴウ
Wedelia biflora var. *ryukyuenis* H. Koyama オオキダチハマグルマ
Zanthoxylum amamiense Ohwi アマミザンショウ
Zanthoxylum scandens Blume ツルザンショウ
Zanthoxylum schinifolium var. *okinauwense* (Nakai) Hatsumura シマイヌザンショウ

図10 湯湾岳・住用川・金作原西部地域には分布しない植物の分布



双子葉植物

- Aruca taiwanensis* Nakai ヤエヤマキランソウ
- Cynandrum matsuraoi* Yamasaki ヒメイヨカズラ
- Cynandrum paniculatum* (Bunge) Kitagawa スズサイコ
- Cynoglossum lanceolatum* var. *formosanum* (Nakai) Hara シマズナビキソウ
- Euphorbia itukuensis* Hayata リュウキュウタイゲキ
- Euphorbia sieboldiana* var. *amamiensis* Hatsumi アマミナツトウダイ
- Gardneria itukuensis* Hatsumi リュウキュウホウライカズラ
- Lobelia loochoensis* Koidz. マルバハタケムシロ
- Ophiorhiza japonica* var. *cantonensis* (Hance) Hatsumi, c. nov. オオイナモリ
- Scutellaria kikakuiensis* Hatsumi ヒメタツナミソウ
- Swerdia japonica* (Schultes) Makino センブリ

単子葉植物

- Allium pseudotaeniacum* Makino タムムラサキ
- Amischotolype himalaica* (Less. et A. Rich.) Hong ヤンバルミョウガ
- Amorphophallus hirtus* var. *kitanusus* (Makino) M. Hotta ヤマコンニャク

- Ariseema kawahizuae* Serizawa トクノシマテンナンショウ
- Ariseema heterocephalum* var. *maius* Serizawa オオアマテンナンショウ
- Aristida takeoi* Ohwi オオマツバシバ
- Carex kinturaoi* Ohwi et T. Koyama トクノシマスゲ
- Carex warburgiana* Kükenth. パケイスゲ
- Dioscorea asclepiades* Frain et Burk. ツクシタチドコロ
- Dioscorea quinqueloba* Thunb. カエヂドコロ
- Leersia hexandra* Sw. タイワンアシガキ
- Pennisetum tripartitum* (Blume) Schott. オオハング
- Protobrian sakuraii* (Makino) Dandy サクライソウ
- Proscium amanoense* T. Koyama アマノホシクサ
- Eriocaulon nigrum* var. *suishanense* (Hayata) Hatsumi et T. Koyama スイシャホシクサ
- Flagellaria indica* L. トウツルモドキ
- Heterolopia leucantha* Koidz. オオシロシヨウジョウバカマ
- Lycoris traubii* Hayward ショウキズイセン
- Scleria biflora* Roxb. ホソバシシユガヤ

図11 湯湾岳・住用川・金作原西部地域には分布しない稀少草本植物の分布

況は不明である。

喜界島は島の大部分が石灰岩を基盤岩としている比較的低平な島である。そのため稀少・固有植物で湯湾岳や住用川地域と共通分布する種はごく少ない。喜界島の東側斜面から海岸、百の台とその西側斜面の森林地域があるが、低地の荒木（海岸植物）、湾周辺（海岸植物や村落内の茂み）などの、保全には脆弱な環境を生育地としている稀少・固有植物の多いことが注意される。

徳之島には天城岳（533m）と井之川岳（645m）があり地形的には奄美大島に類似するが、西部には隆起石灰岩地域が広がり、いくつもの山地性の固有種も有している。この2つの山地の他に三京、犬田布岳周辺が保全すべき重要な地域であるが、それだけでなく、この島の特徴は保全上重要な地域が石灰岩地帯の特徴を有する海岸地域にも見られる。手々、与名間、犬ノ門蓋、犬田布岬、鹿浦、亀徳付近、井之川、母間などである。

奄美群島南部の沖永良部島、与論島はどちらも島の大部分が隆起石灰岩に被われた低平な島である。この2島に分布する稀少・固有な植物のほとんどは湯湾・住用地域には分布していない。そのためこの2島に分布する稀少・固有な植物は多くなる。沖永良部島では北部の和泊、西部の田皆岬、大山、知名が多くの北限植物が分布する地域となる。与論島では茶花から立長、それに朝戸と東海岸地域に稀少・固有な植物が集中分布するが、その多くは海岸植物や北限植物である。与論島に固有種はない。

最後に、湯湾・住用川地域に分布を欠く草本性の種で、分布地点が2ヶ所か3ヶ所以下の30種類の「稀少で絶滅が危惧されている植物」の分布地点をまとめた（図11）。この中には、知られている分布地点では絶滅している可能性が高い名瀬市大熊のシマスナビキソウや徳之島のスズサイコ、あるいは喜界島の現状不明のカエデドコロなどの種がある。名音のツクシタチドコロ（アマミタチドコロ）は10個体あまりしか知られていない。いつ絶滅してもおかしくない状態にある。しかしトクノシマスゲのように天城岳と井之川岳にしか知られない種であっても現地調査ではいちおう集団数も個体数もあり、差し迫った絶滅は大規模な環境破壊がなければ考えられない種もある。

奄美群島にはまだかろうじて稀少・固有植物がほつんと生き残っているエアーポケットのような場所が多数存在している。その面積は時にはわずか1平方メートルにもならないが、その生育場所が失われると奄美群島からその種が永遠に失われる場合もある。代表的な例が宮古崎のセンブリである。リュウキュウチクの草原状の植生の中に点的に集団は存在していた（2003年には3ヶ所しか確認できなかった）。この宮古崎のセンブリは九州南部のセンブリとは明らかに形態的に異なり、アマミセンブリとすべき植物である。センブリは種子島にも屋久島にもトカラ列島にも分布が知られていない。アマミセンブリはまだ未記載である。稀少な植物だけでなく、奄美大島にはアマミイタドリと仮称されているイタドリが各所から知られる。奄美の植物世界はまだ豊かさと独自性をなんとか保持している。

謝 辞 私の1989年以來の15年間になる奄美群島の植物調査には多くの人々の援助と教示をいただいた。台湾ルリミノキやミヤマシロバイなどの貴重な北限種の発見をした龍郷町市理原の調査では「ゴルフ場建設反対」の地元の会員の皆さんがたに、また群島全域の調査では長く植物調査を続けてこられた田畑満大さんに多くの植物についてのガイドだけでなく交通の面倒までかけた。「奄美の自然を守る会」の元会長の大野隼夫さんや会員の皆さん方、素晴らしい植物写真を取り続けておられる山下弘さん、また奄美の植物を研究テーマとした鹿児島大学理学部の学生や院生の皆さん方、そして秋篠宮殿下も参加された連合大学院大学の奄美での研究会も思い出される。これら多くの方々での調査支援に心から感謝したい。最後に田畑満大さんにはこの原稿を注意深く読んでいただき、私のような年寄りにありがちな錯誤や分布地点の誤りの訂正と追加をしていただいた。記して深く感謝したい。

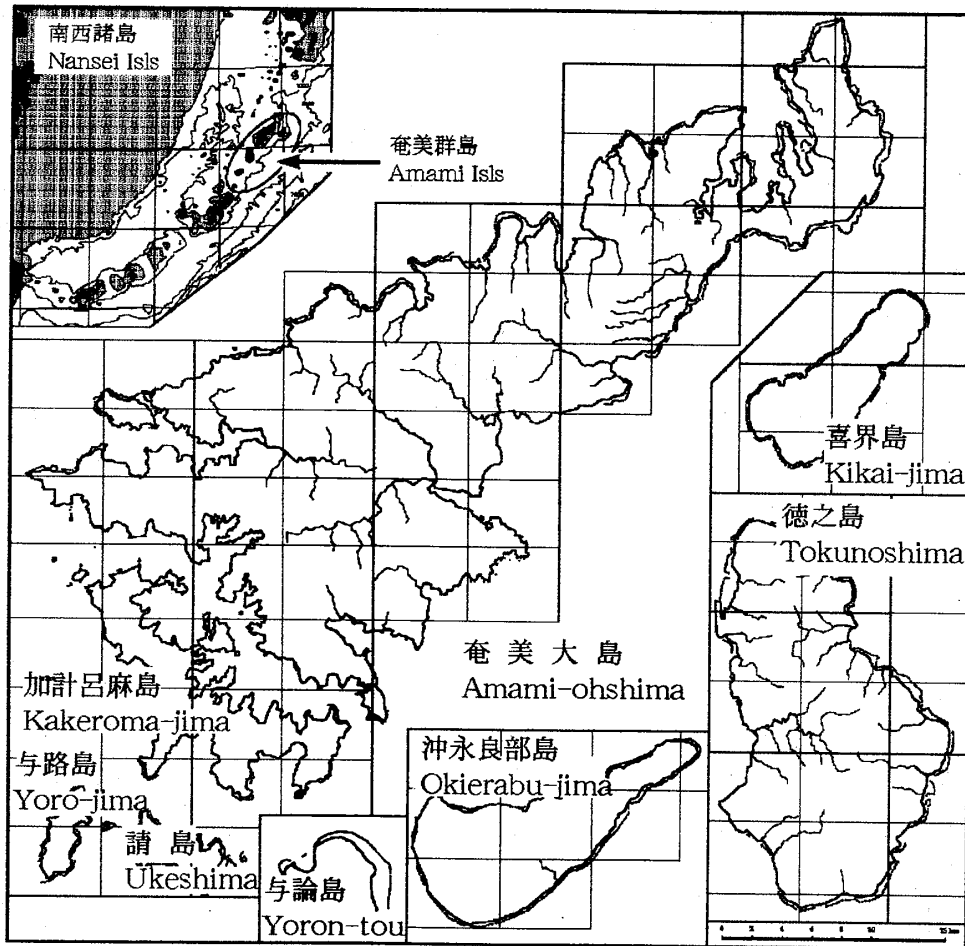
参 照 文 献

- 初島住彦 (1975) 「琉球植物誌」(追加訂正)。沖縄県生物教育研究会。
— (1986) 「改訂鹿児島県植物目録」, 290 pp. 鹿児島植物同好会。
堀田満 (2000) 奄美の絶滅危惧植物達 きよらじま no. 12, 4-10。
— (2001a) 奄美の稀少・固有植物と絶滅問題, 「離島の豊かな発展のための学際的研究—離島学の構築」自然班報告書 南西諸島における自然環境の保全と人間活動, 19-40。
— (2001b) 奄美の絶滅危惧植物マルバハタケムシロとオキナワギクの繁殖様式とその保護 (日高優子と共著), 前記 41-56。
— (2001c) 鹿児島県の植物レッドリスト作成のための基礎資料 奄美群島のレッドブック資料 2002. 前記 57-72。
— (2002) 奄美の植物世界と人々。秋道智弥編 「野生生物と地域社会 日本の自然とくらしはどうか変わったか」 昭和堂, pp. 156-182。
— (2003) 九州南部から南西諸島地域での植物の進化—隔離と分断の生物地理。分類3 (2) : 77-94。
鹿児島県 (2003) 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 (植物編), iv+657 pp. 鹿児島県環境生活部環境保護課。
環境庁 [編] (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物I (維管束植物), 660 pp., 16 pls. 自然環境研究センター, 東京。
沖縄県環境保護部自然保護課 (編) (1996) 沖縄県の絶滅の恐れのある野生生物, 479 pp. 沖縄県環境保護部自然保護課。
新原修一 (2000) 鹿児島県に固有の木本植物の収集と保存 (1)。鹿児島県林業試験場研究報告 no. 5, 19-31。
島袋敬一 (1997) 「琉球列島維管束植物集覧」(改訂版), 855 pp. 九州大学出版会。
種分科会編 (1988) 我が国における保護上重要な植物種の現状 (日本版レッドデータブック)。日本自然保護協会・世界自然保護基金, 東京。

＜資料＞ 基本分布図

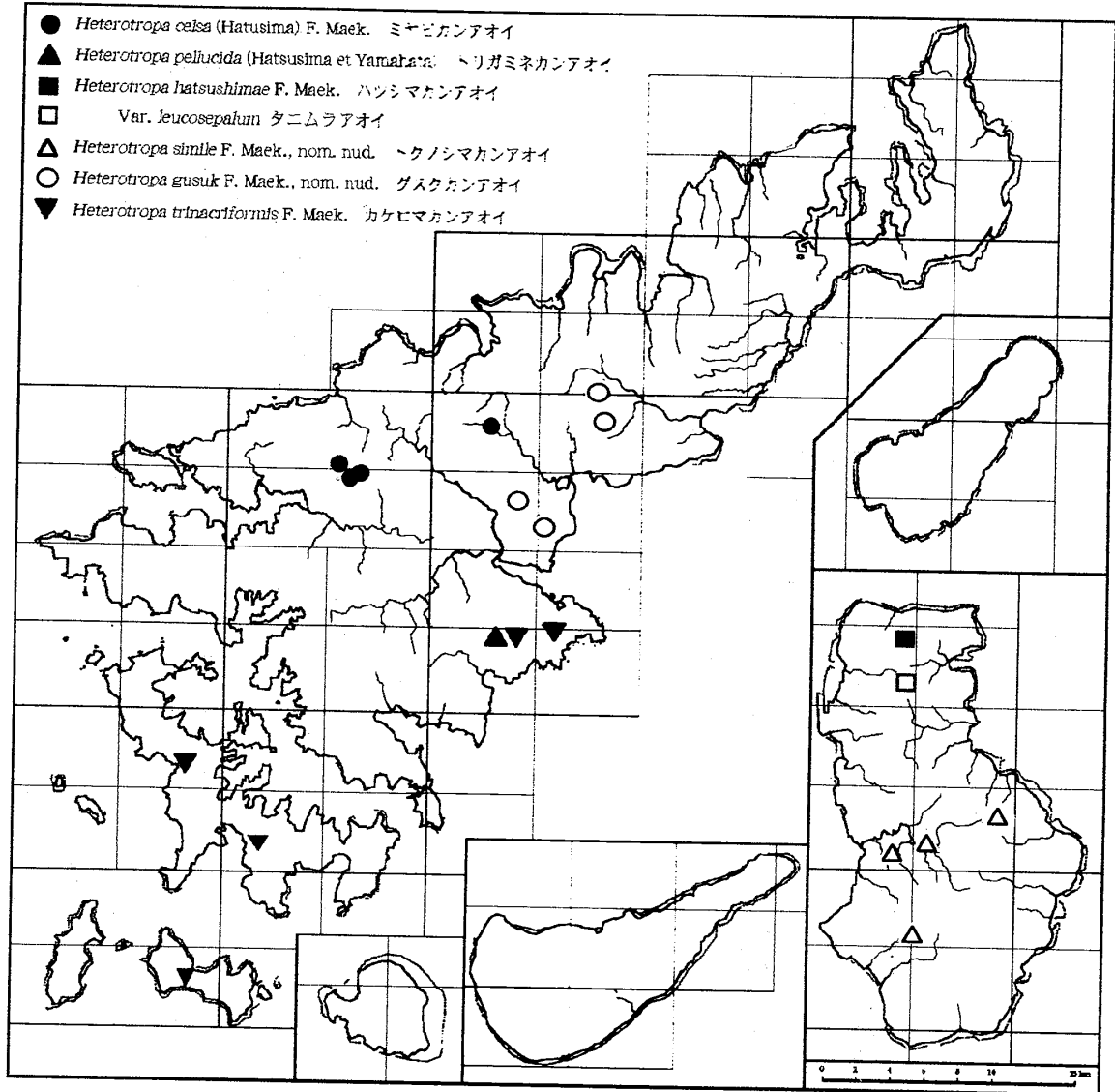
この資料編にまとめた基本分布図は以下の基準で作成されている。

- 1) 基本分布図に取り上げられた植物は、奄美群島に固有な種、分布域の北限や南限となっている種（全てではない）、絶滅危惧種（全てではない）、奄美群島域では稀少な種などである。
- 2) 分布地点は鹿児島大学総合研究博物館に所蔵される農学部で収集されてきた標本による。河越，内藤，初島，迫などによって1900年代のはじめから1980年代にかけて奄美群島の各島で採集された約1万点の標本である。それに加えて鹿児島大学理学部に所蔵される未整理の標本3000点や再検討にたえる西南日本植物情報研究所に所蔵される約30時間のビデオ映像情報によった。
- 3) この地域では初島の植物目録（1984）や島袋の集覧（1997）などの島単位の分布情報をまとめたすぐれたデータの集積があるが、これらは標本の引用がなく、島の中のくわしい分布地点が明示されていないので、分布地点の決定には利用できないが、分布域については有用な情報が得られる。
- 4) 標本の採集地点の記載は、正確な分布地点の決定には多くの場合は不十分な位置データしか与えてくれない。それでできる限りの現地調査の結果によって分布地点を決定した。また分布地点が十分な正確さで決定できない場合でも地図のメッシュ範囲以内におさまるようにプロットをした。
- 5) 標本のラベルからは分布地点が決定できない場合、例えば採集地点としては島の名前だけなどの場合は、分布地点不明として記録しておいた。そのため実際はある島に確実に分布していても、分布地点が表示されていないことも起きている。
- 6) 本文中の各種のノートは、主として奄美群島内での分布に言及してあるが、付属資料の分布ノートでは、他地域での分布と奄美群島との関係を主として述べることにしたが、多くはごく簡単な記載にとどまっている。



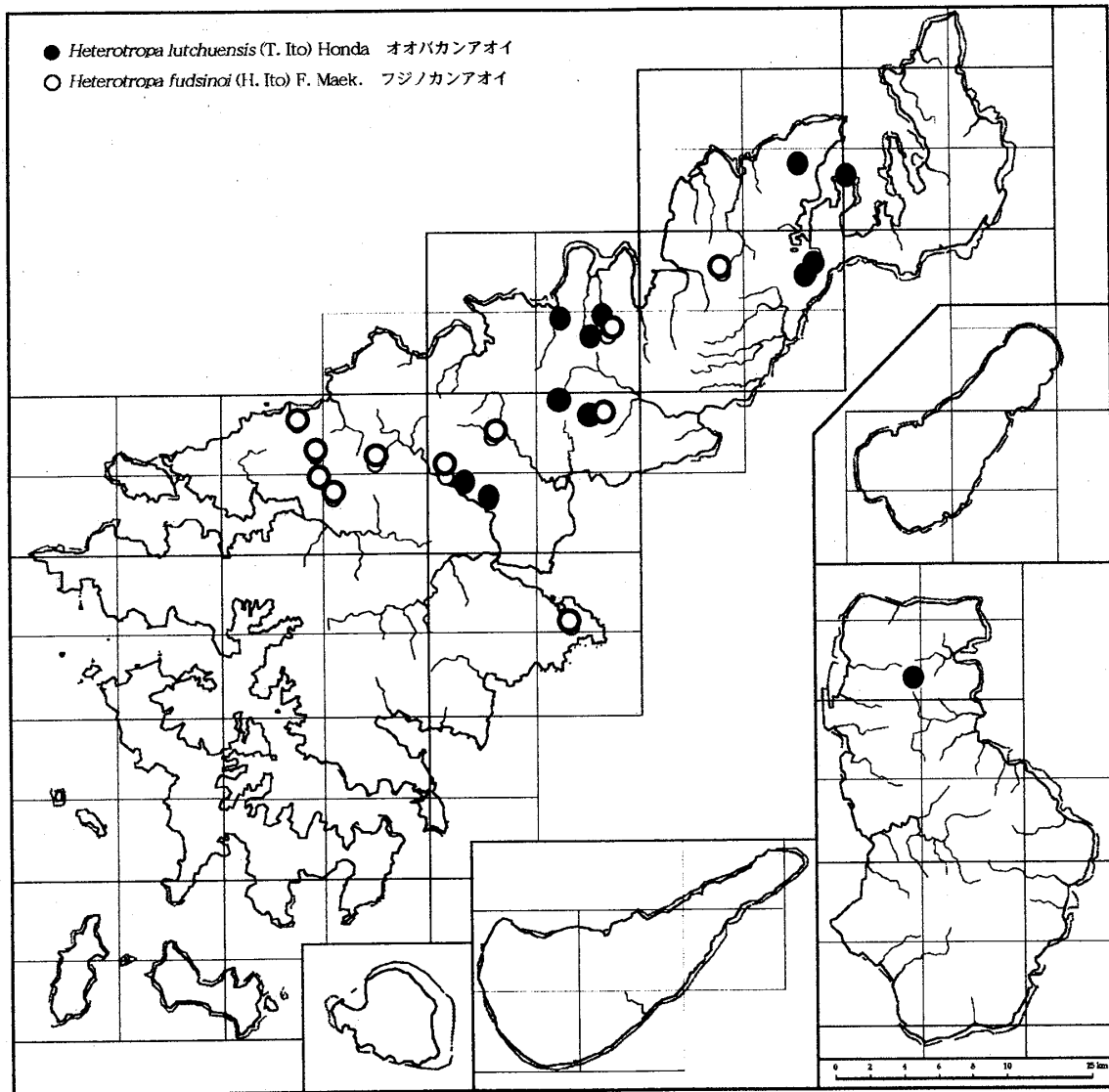
奄美群島と周辺地域

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



付図 1 カンアオイ類の分布—1

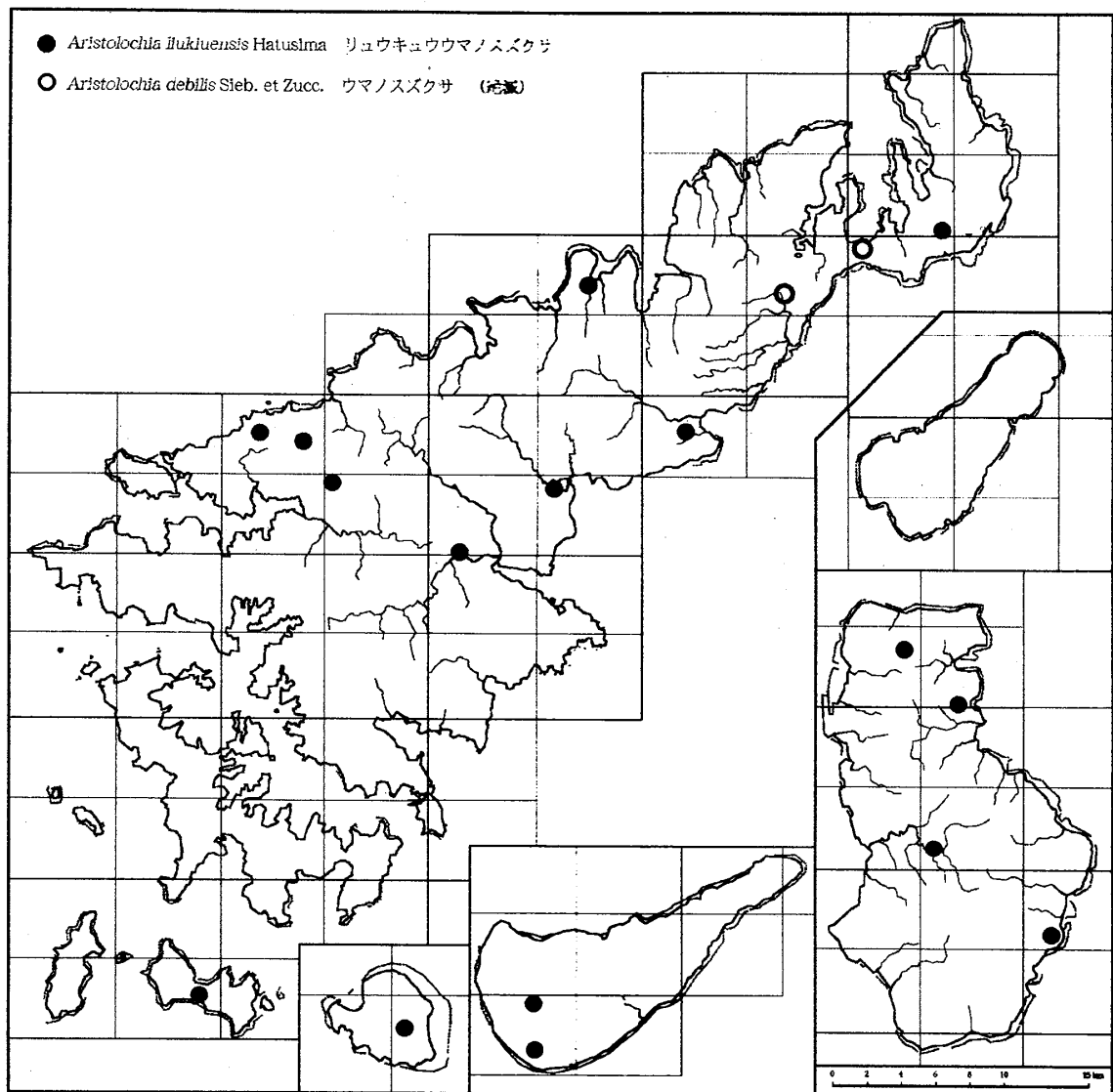
奄美群島に分布するカンアオイ類は、分類学的にはまだ問題が残されているし、系統的な関係もはっきりしていない。しかし全てが固有種で、奄美群島地域で分化してきた植物を代表する群と考えられる。この図には比較的小型な6種の分布を示しておく。大島東南部の鳥ヶ峰からカケロマカンアオイとトリガミネカンアオイの2種が報告されている以外は、全て異所的な分布を示している。また奄美大島西部地域には、今の所小形のカンアオイ類は知られていない。トクノシマカンアオイは基準標本産地の井之川岳以外の島の西南部に分布する2集団についてはさらに分類学的に検討する必要がある。今の所良好な標本がないので、一応トクノシマカンアオイと仮に同定してある。奄美大島のカンアオイ類は薬草利用のために根こそぎ採取され、多くの集団が絶滅の状態になっている。カンアオイ類は種子繁殖をする多年草であるが、発芽から成長開花するまでに長い年月を必要とする。葉は各頂芽あたり毎年1~2枚しか展開せず、その点からも採取のダメージは大きい。緊急の保護対策が必要な植物である。



付図 2 カンアオイ類の分布—2

オオバカンアオイとフジノカンアオイは、日本では最大級のサイズになる大形のカンアオイである。どちらも大島の中軸部山地の谷川沿いの湿った林床や尾根に見られる種であるが、東南部の金川岳周辺ではフジノカンアオイが尾根部にまで分布しているし、この集団ではやや小型になっている。金作原東部（名瀬）と本茶峠や住用川からは両種が知られているが、地理的にはおよそ大島南部と北部に住み分けている。両種の関係についてはさらに詳しい形態の変異や空間分布の調査が必要である。

また徳之島（三方通山）からはオオバカンアオイが知られている。栽植されている系統で、大島のオオバカンアオイと比較をしても形態的な相違は見られなかった。また本茶峠のオオフジノカンアオイと呼ばれるような集団や龍郷町（市理原）の花が小さくて開花期が遅い集団（オオバカンアオイの系統と思われる）が存在する。両種とも地域的な変異が存在していると推定されるが、詳細は今の所不明である。



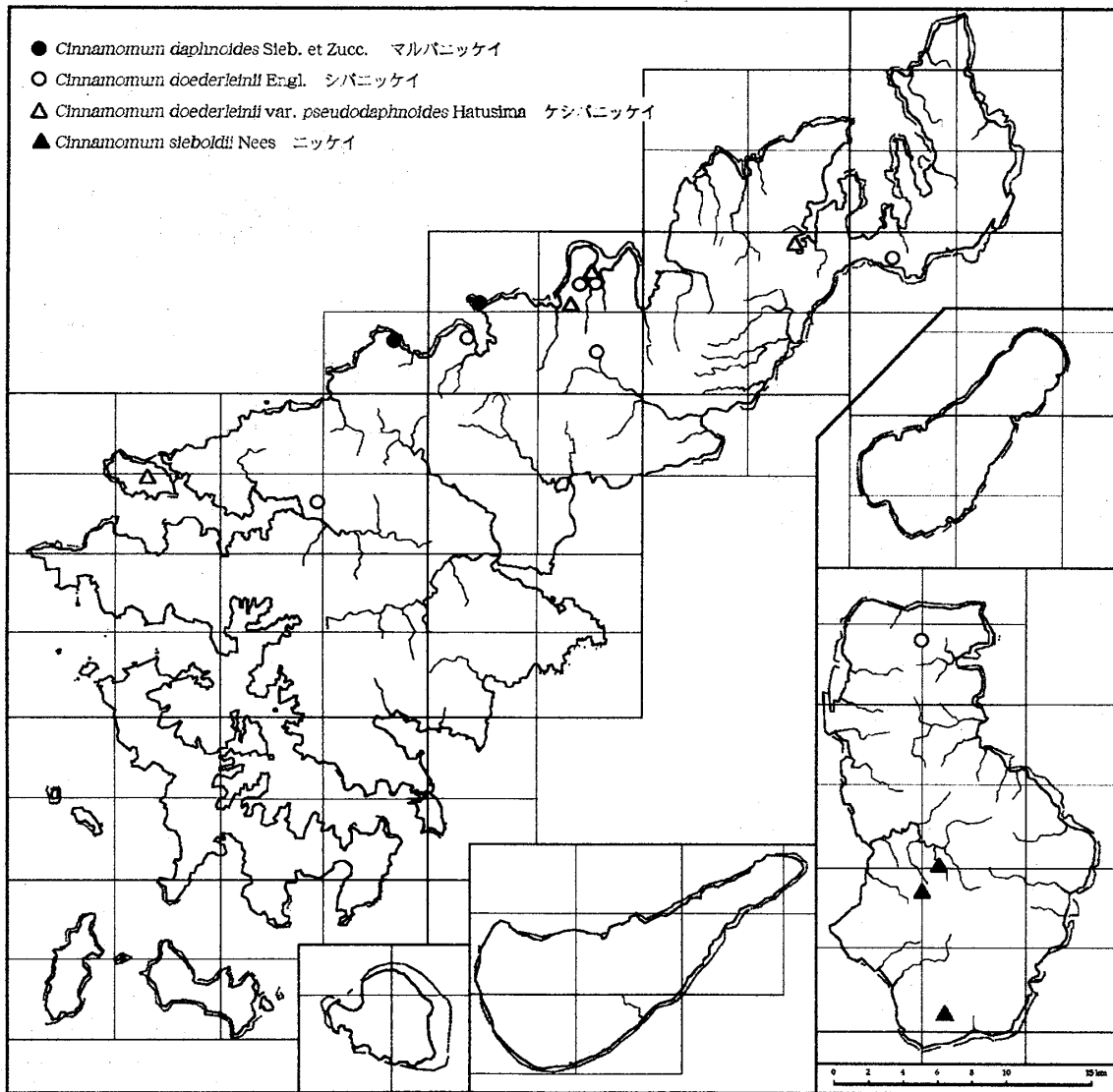
分布地点不明

Aristolochia ilukiuensis Hatusima リュウキュウウマノスズクサ Kasari: Higashijamagi-mura, Tokunoshima; Okierabu

付図 3 ウマノスズクサ類の分布

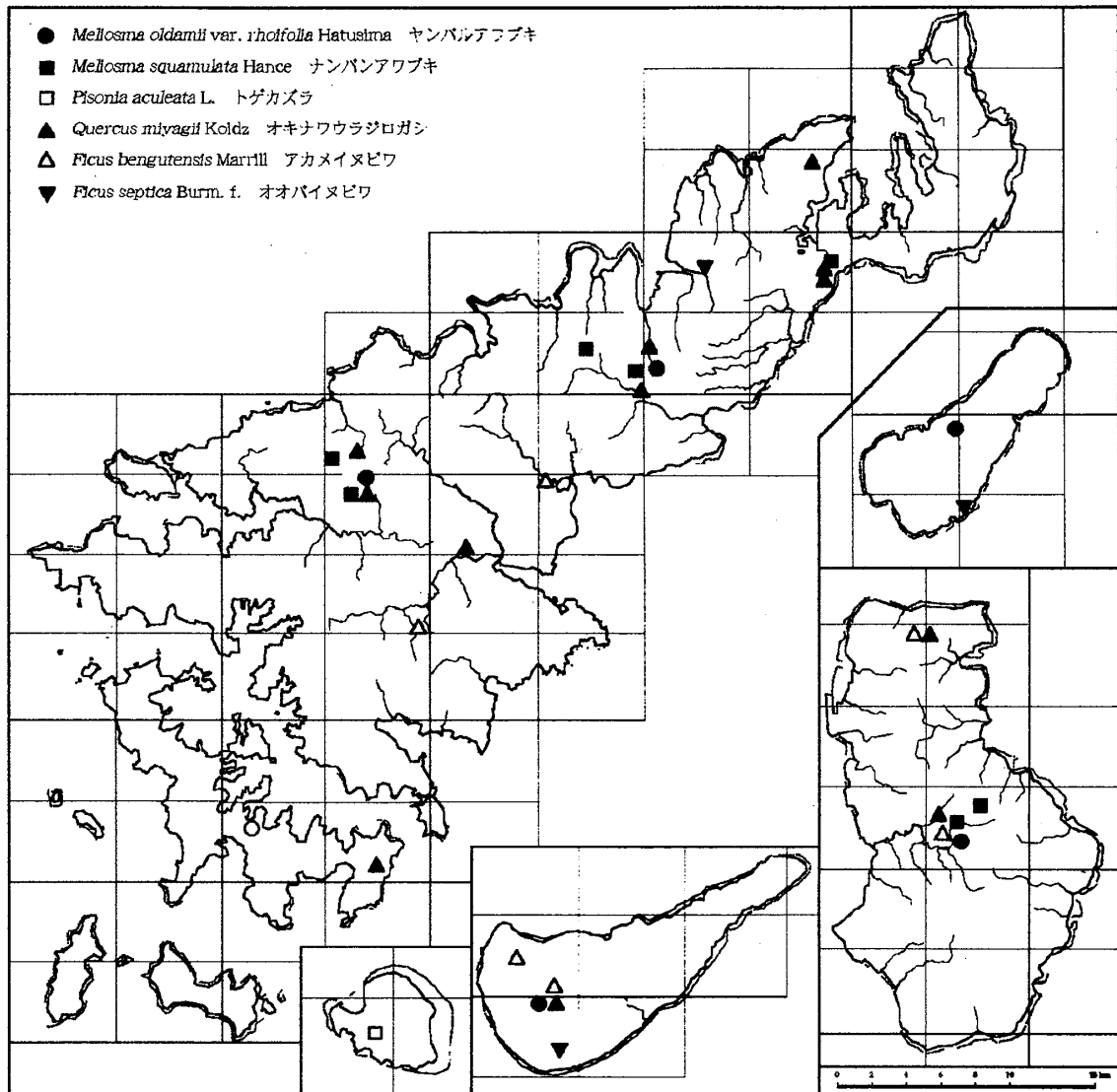
温帯系のウマノスズクサは九州本島でも比較的稀な植物であるが、奄美群島では龍郷町赤尾木に1ヶ所だけ分布していることが知られていた。残念なことのこの産地は耕地整理で失われた（田畑談）。2004年に龍郷町大勝で3株からなる小さな集団の存在が確認できた。

リュウキュウウマノスズクサは台湾から奄美群島域に分布する南西諸島準固有種であるが、群島では喜界島以外の各島に知られている。多分喜界島にも分布すると思われる。やや木質で常緑のつる植物で、差し迫った絶滅の危険はない。しかし個体数はそれほど多くはないから、薬用や山草用の採取があれば危険な状況になると思われる。



付図 4 クスノキ科植物の分布

クスノキ科の高木になる種、タブノキ、ヤブニッケイなどは群島各地に分布し、常緑広葉樹林を構成する主要な樹木群の一つになっているが、ここに取り上げたマルバニッケイ（九州南部から奄美大島・硫黄島）、シバニッケイ（奄美大島から先島諸島）、ケシバニッケイ（奄美大島と沖縄）は低木から小高木で、しばしば風衝低木林を構成する南西諸島に固有か準固有な群である。マルバニッケイは冬の季節風がもっとも強くあたる奄美大島の宮古崎とウツ崎に知られている。ニッケイは九州南部では栽植され、それからの野生化と推定される集団も見られるが、徳之島の集団は葉形や樹形に違いが見られる集団内の変異を有していて本来の野生集団と考えられる。もしニッケイの品種改良を試みるとすれば、その材料として集団内変異を蓄積している徳之島のニッケイ集団は重要な育種材料となるであろう。



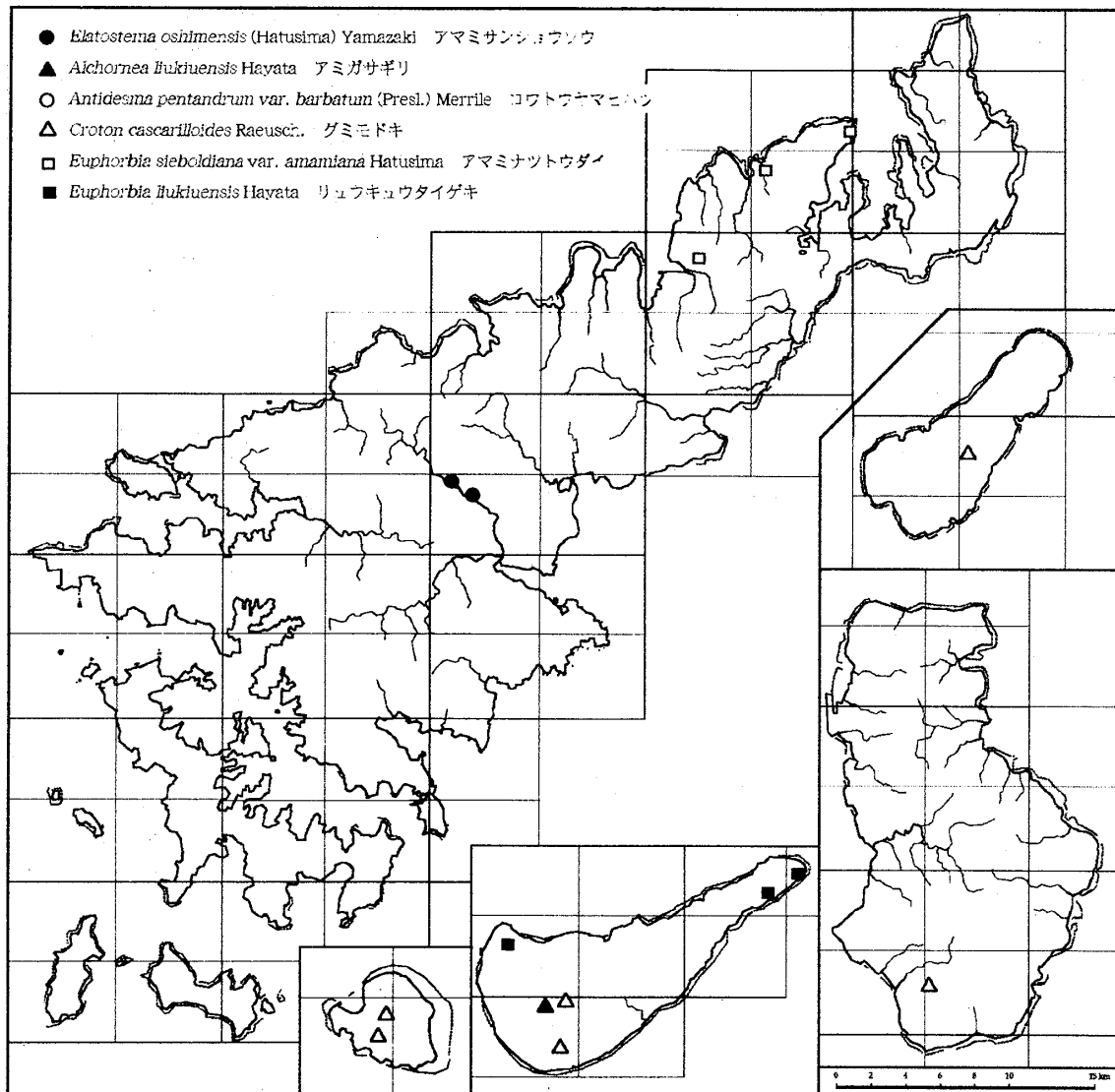
分布地点不明

Meliosma oldanii var. *rhoifolia* Hatusima ヤンバルアワブキ Tokunoshima (1957)

Meliosma squamulata Hance ナンバンアワブキ Tokunoshima (1968)

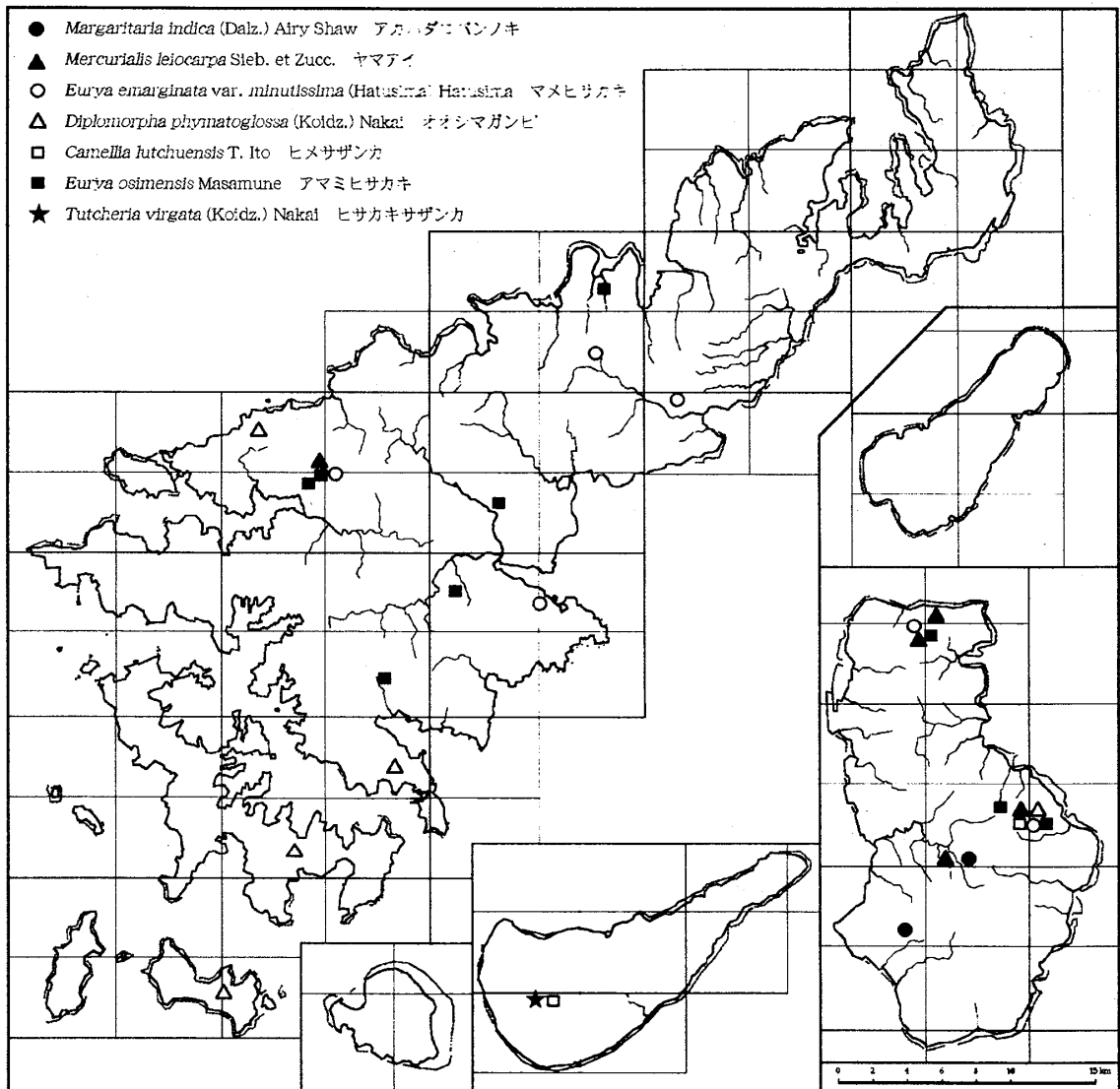
付図 5 ミソハギ科，アワブキ科，オシロイバナ科，ブナ科，クワ科植物の分布

アワブキ科（ヤンバルアワブキとナンバンアワブキ，どちらも中国大陸から台湾，南西諸島中部まで分布する北限種），オシロイバナ科（トゲカズラ，中・台から奄美群島まで，北限種，与論島で採集され，沖永良部島からも報告されている），ブナ科（オキナワウラジロガシ，南西諸島中南部固有，大島北部笠利半島には分布しない），クワ科（アカメイヌビワとオオバイヌビワ）イヌビワ類では比較的集団数が少ない両種を撰んで分布を示した。両種とも中国大陸から台湾，南西諸島中部まで分布する奄美群島を北限とする種である。ブナ科には他にもアマミアラカシやオキナワジイのような南西諸島固有変種が諸島中南部の森林の重要な構成要素として存在する。



付図 6 イラクサ科, トウダイグサ科植物の分布

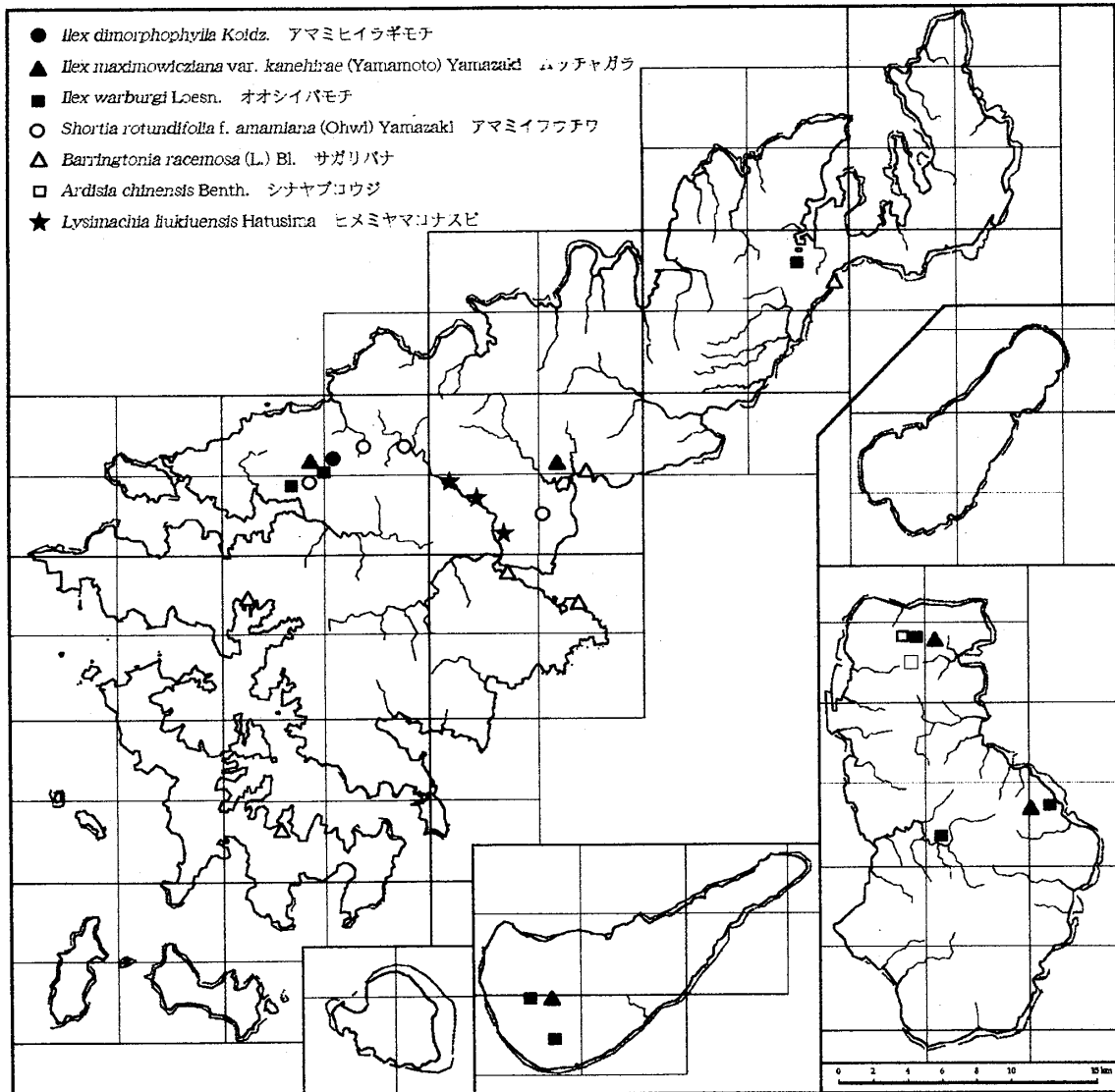
イラクサ科のアマミサンショウソウは住用川渓谷に固有な矮小化した溪流型の種である。トウダイグサ科のコウトウヤマヒハツとグミモドキは東南アジア熱帯域から分布を北上させ、奄美群島域が北限となっている種である。リュウキュウタイゲキは台湾から群島南部（トカラ列島宝島からも報告されている）に分布する準固有種、アミガサギリは沖縄と沖永良部島に知られる固有種（大島からも報告がある）、アマミナツトウダイは九州南部に知られるオオスミナツトウダイに近縁な奄美大島固有の変種である。この固有変種だけが北方系の植物で、ここで取り上げたトウダイグサ科の他の4種は全て南方系の植物で、群島域が分布の北限になっている。石灰岩地を生育場所とするグミモドキは喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島には分布するが、奄美大島には知られていない。



付図 7 トウダイグサ科, ジンチョウゲ科, ツバキ科植物の分布

トウダイグサ科のアカハダコバンノキは南方系の木本植物でトカラ列島悪石島が北限となっている。それに対してヤマアイは北方系の草本植物である。ジンチョウゲ科のオオシマガンビは奄美大島と徳之島に固有分布をしている。多い種ではない。ツバキ科のヒメサザンカとヒサカキサザンカは南西諸島中・南部に固有な常緑の小高木である。前種は徳之島（井之川岳）と沖永良部島（大山）に、後者は大山だけに知られる。ヒメサザンカの花は小さいが、清楚で芳香があり、園芸的な利用がされている。野生品を採取されないように保護する必要がある。

常緑で低木のヒサカキ類は南西諸島で微妙な分化を行っていて、さらに検討が必要と思われる。マメヒサカキは沖縄と奄美群島（大島と徳之島）に、アマミヒサカキは奄美群島（大島と徳之島）から先島群島にかけて固有分布をしている。



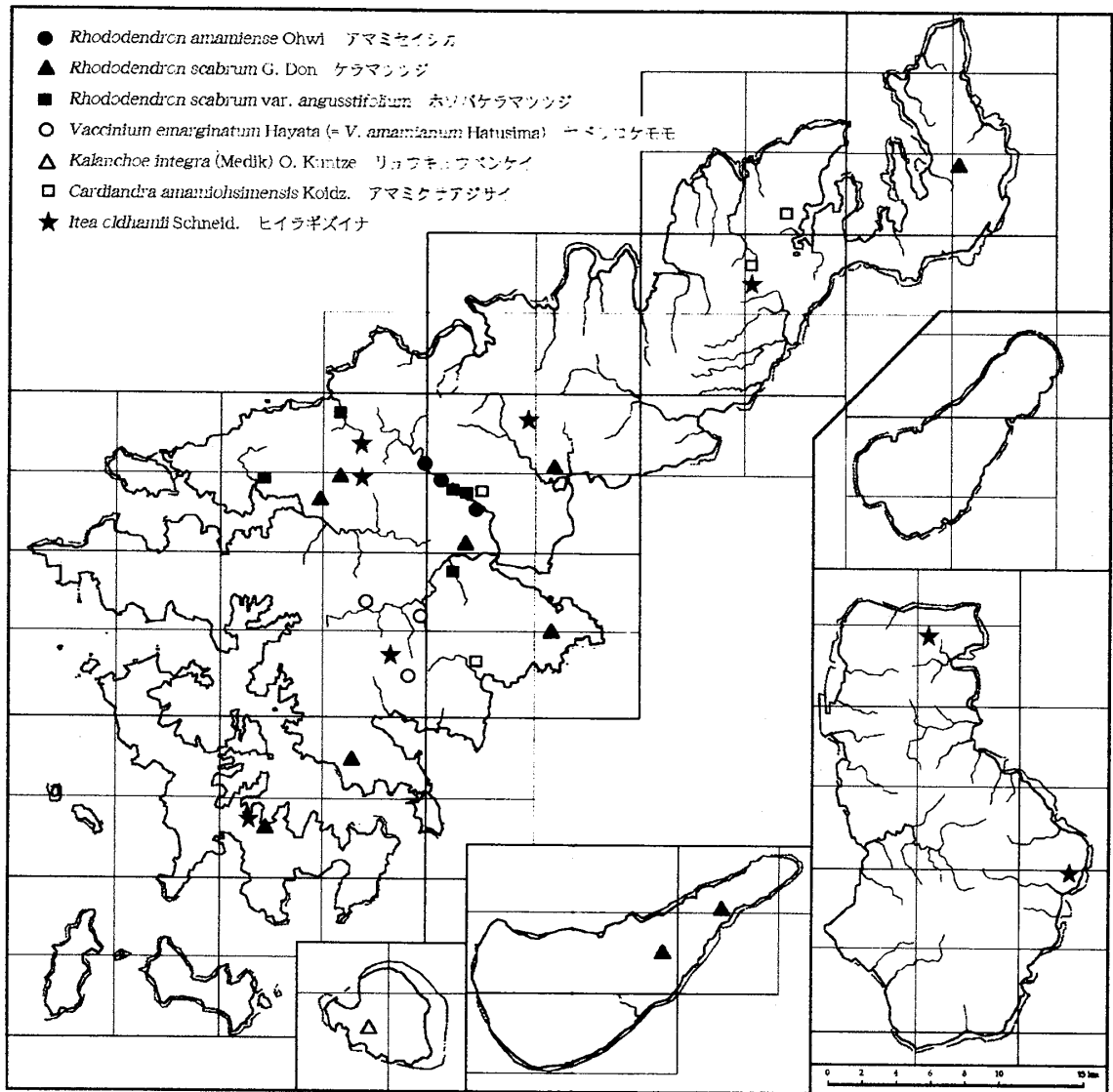
分布地点不明

Shortia rotundifolia f. *amamiensis* (Ohwi) Yamazaki アマミイワウチワ Amami-oshima, Aug. 25, 1955, Hatusima & Shimabukuro s.n.

Barringtonia racemosa (L.) Bl. サガリバナ Amami-oshima, Aug. 10, 1927, T. Naito s.n.; Amami-oshima, Aug. 16, 1927, Y. Hosoyamada s.n.; Tokunoshima, Aug. 15, 1927, Y. Hosoyamada s.n.

付図 8 モチノキ科, イワウメ科, サガリバナ科, サクラソウ科植物の分布

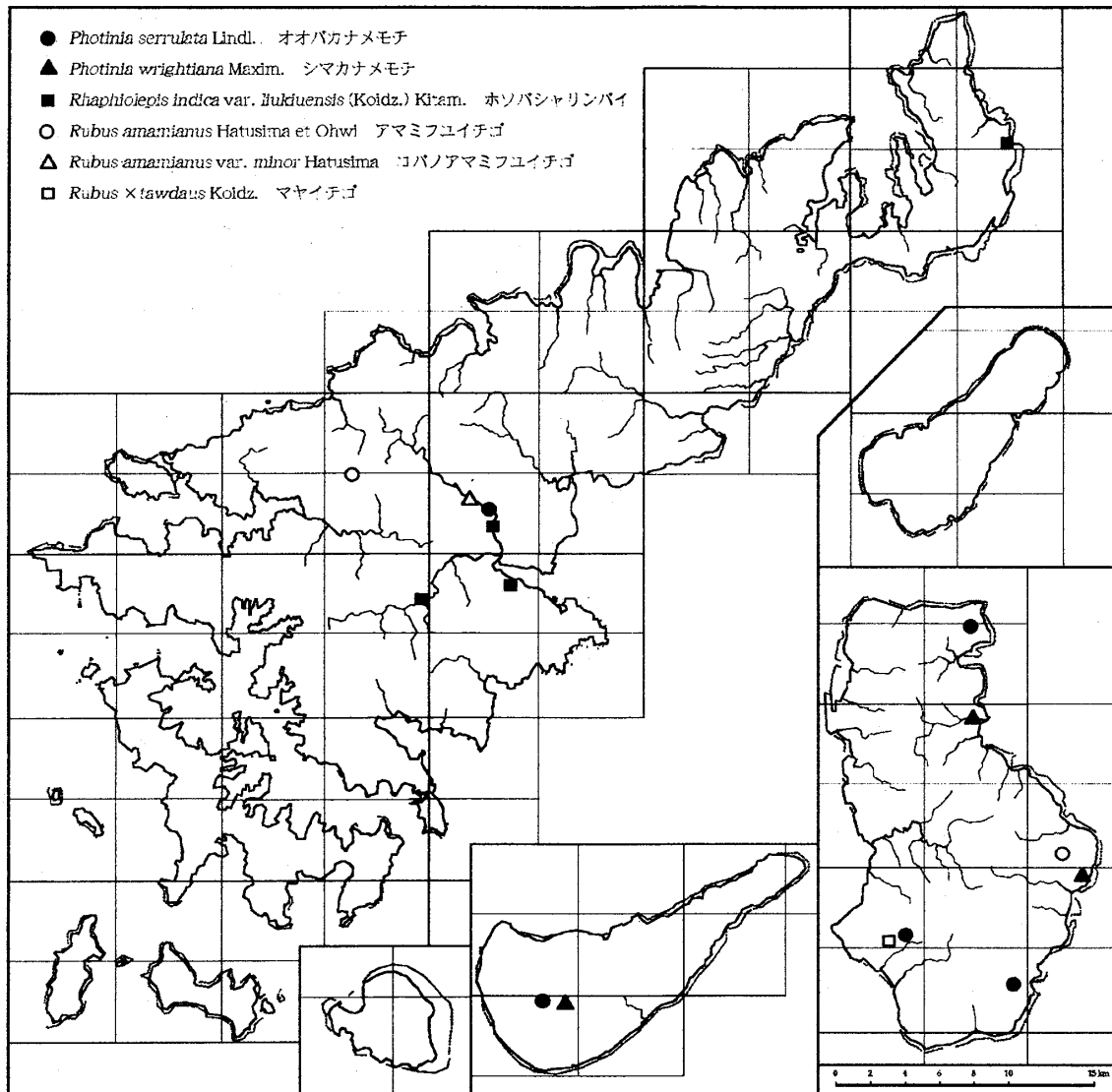
モチノキ科の固有種アマミヒイラギモチはもともと湯湾岳の頂上地域に分布が限られていて、多くの個体が庭に移動してしまった種である。現在は小さな稚樹まで含めても20本程度しか生存していない。ムッチャガラは台湾から奄美群島まで、オオシイバモチは中国南部から奄美群島に分布する種で、どちらも北限種である。アマミイワウチワは湯湾岳周辺に4ヶ所の産地が知られていたが、生存が確認できるのは1集団だけである。固有品種とされているが、変種か亜種として区別されるべき植物である。北限種のサガリバナも劇的に個体数を減少させた種で、現在少数個体が3ヶ所に残存しているだけである。ヤブコウジ科のシナヤブコウジは徳之島天城岳と三方通山に隔離分布をする。固有種のサクラソウ科のヒメミヤマコナスビは住用川溪谷に生育地が限定されている。



Kalanchoe integra (Medik) O. Kuntze リュウキュウベンケイは絶滅

付図 9 ツツジ科, ベンケイソウ科, ユキノシタ科植物の分布

奄美大島固有のアマミセイシカは、残される集団数も個体数も少ない。林道工事に際して発見された湯湾岳近くの集団は徹底的に採掘されたという。今は残されていない。ケラマツツジも、そのほとんどは庭に移動させられてしまった。ホソバケラマツツジは溪流型の未記載変種であるが、住用川と役勝川に見られる（沖縄の国頭にも分布する）。保護指定植物のヤドリコケモモは役勝川上流地域に知られていたが、現在確認できるのは1集団約10本だけである。奄美型の「リュウキュウアセビ」（分布図には出していない。屋久島産のアセビに近い）もほぼ絶滅状態である。リュウキュウベンケイは野生絶滅。奄美大島固有のアマミクサアジサイは湿った岩場に生育し、数カ所の集団が確認されている。龍郷町の集団は路傍の大きな集団であるが、草刈りの被害にあっている。ヒイラギズイナは常緑の低木で、台湾～南西諸島中部に分布し奄美大島は北限産地となる。集団数も個体数も多いものではない。

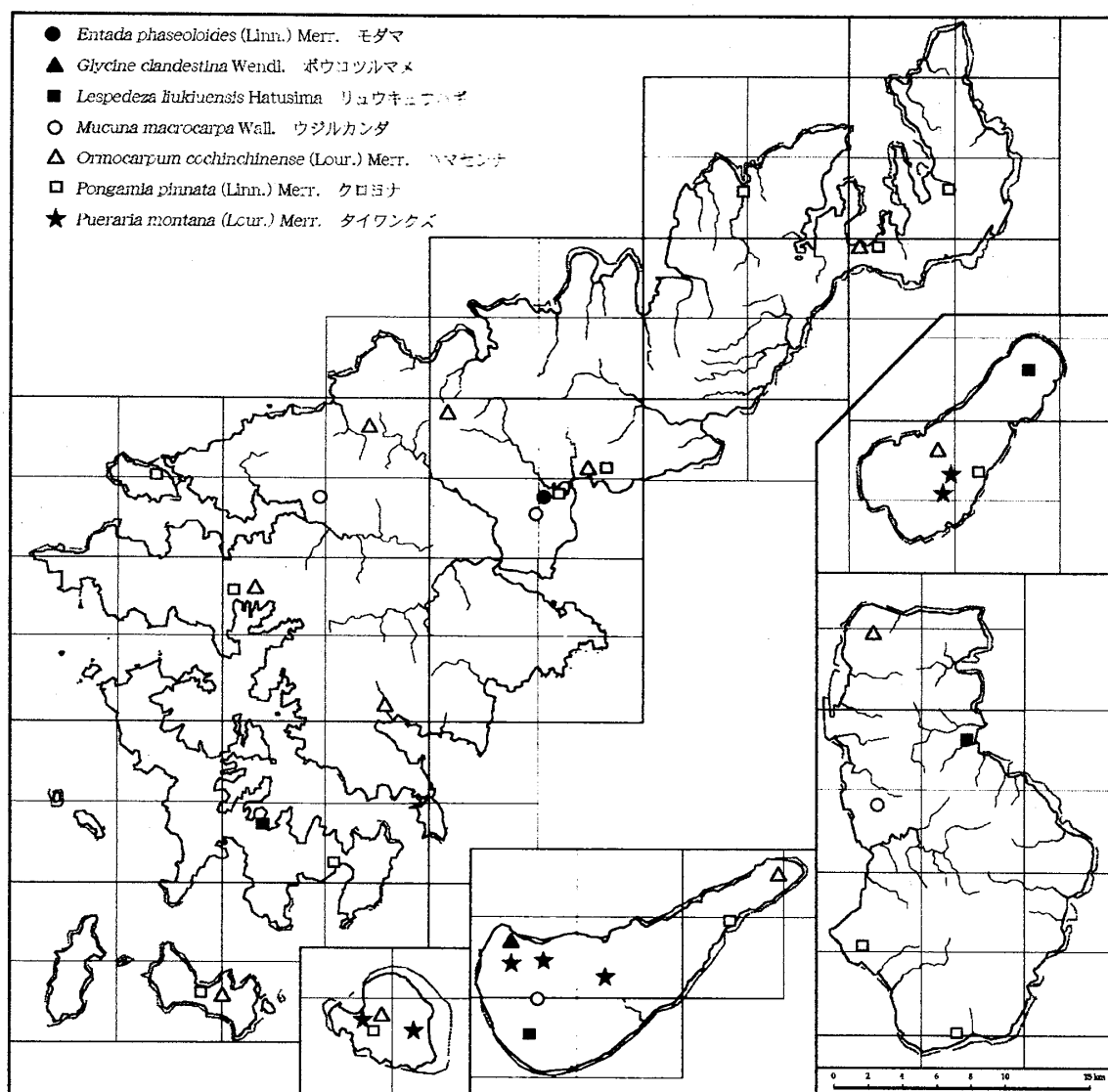


分布地点不明

Photinia serrulata Lindl. オオバカナメモチ Tokunoshima (1927, 1956); Kenhuu, Tokunoshima

付図10 バラ科植物の分布

オオバカナメモチは徳之島では散在的に見られるが、大島では住用川に、沖永良部島では大山に分布する。多分奄美群島に固有な種と思われるが、検討が必要である。庭木として栽植されるので、採掘されないように注意する必要がある。シマカナメモチは南西諸島中・南部に固有分布し、奄美群島では徳之島と沖永良部島に知られる。大島からも報告されるが、確認できない。ホソバシャリンバイは南西諸島中部に固有で、大島住用村地域に知られ、徳之島からも報告されている。アマミフユイチゴとその変種コバノアマミフユイチゴは湯湾岳と住用川から知られている。前者は湯湾岳頂上付近で旺盛に生育し大きな集団を形成しているが、住用川に知られる後者は少ない(10個体ほど)。マヤイチゴは徳之島で一度採集され、雑種と推定されるが、現在では生育を確認できない。

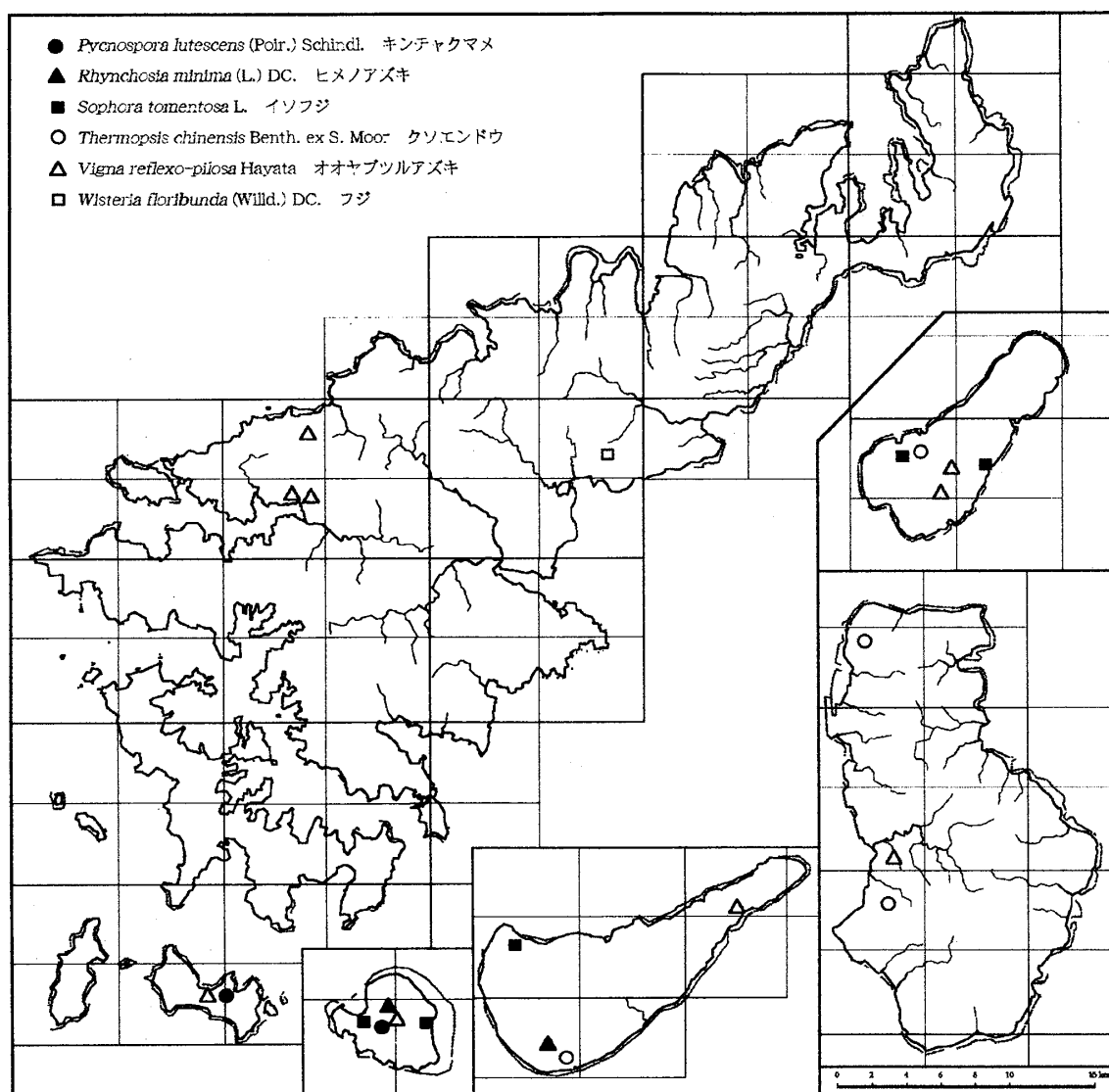


分布地点不明

Pongamia pinnata (Linn.) Merr. クロヨナ Ikema, Chiruzel-mura (1927)

付図 11 マメ科植物の分布

ここに示したマメ科の7種のうちリュウキュウハギは固有的な種とされるが、正体がはっきりしない。人為的に持ち込まれた栽培品の可能性も否定できない。その他の6種、モダマ（旧熱帯から屋久島）、ボウコツルマメ（オーストラリアから沖永良部島）、ウヅルカンダ（マレーシア熱帯から種子島と大分県）、ハマセンナ（マレーシア熱帯から奄美大島）、クロヨナ（オーストラリアから奄美大島、屋久島でも記録）、タイワンクス（インドから南西諸島中部）は全て南方系の種である。このうちボウコツルマメは沖永良部島田皆崎から知られているが、ヤギの放牧が行われ、この北限集団の現状は不明である。奄美大島と徳之島からはタイワンクスは記録されず、その群島内の分布は喜界島、沖永良部島、与論等の低平な島に限られている。木本性のつる植物であるモダマとウヅルカンダはどちらも分布地は少なく、保護が必要である。



分布地点不明

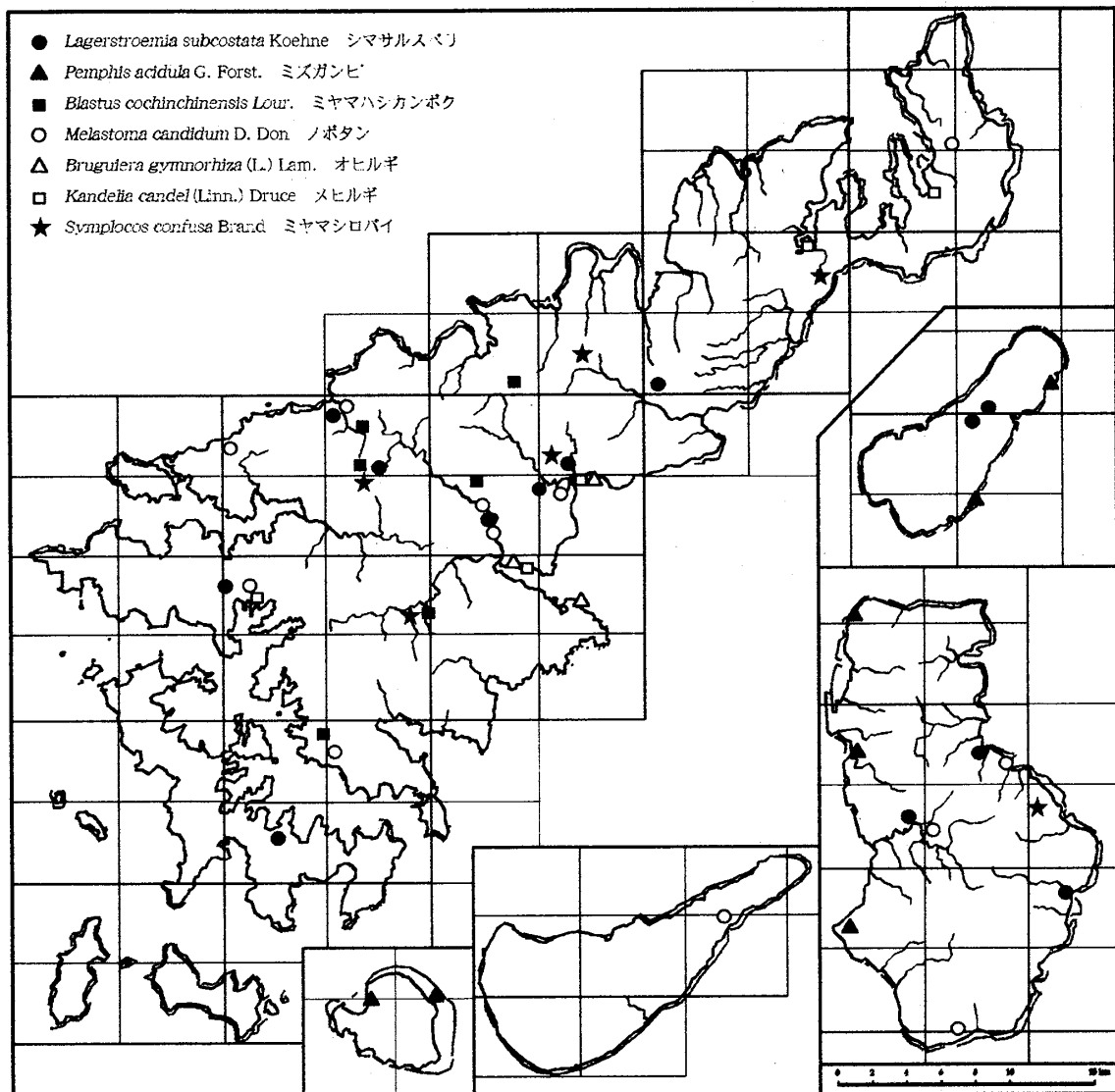
Sophora tomentosa L. イソフジ Surhama, Chinzei-mura (1927); Tokunoshima (1970)

Thermopsis chinensis Benth. ex S. Moor クソエンドウ Amami-oshima, April 10, 1927, T. Naito s.n. Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23676; Ujii-hama, Oklerabu, Dec. 12-13, Sako S930; Oklerabu, Jan. 1956, T. Tojyou s.n.; Oklerabu, March 16, 1958, Hatusima & Sako 21331, 21335

Wisteria brachybitrys Sieb. et Zucc. ヤマフジ Isen-machi, Tokunoshima (spontaneous) (1968)

付図 12 マメ科植物の分布—2

キンチャクマメ (オーストラリアから奄美群島), ヒメノアズキ (熱帯域から奄美群島), イソフジ (中国南部～奄美群島), クソエンドウ (中国南部～奄美群島), オオヤブツルアズキ (台湾～奄美群島) と南方系の種である。いずれも奄美群島地域が北限分布域となっている。フジは温帯系の種で、奄美大島朝戸峠に1ヶ所生育地が知られるが、本来の野生かどうかははっきりしないし、徳之島伊仙町からはヤマフジが採集されている。現状は不明である。キンチャクマメは1920年代に与論島と請島で採集されたが、その後は誰も採集していない。絶滅の可能性が高い。ヒメノアズキ (与論島と沖永良部島) とイソフジ (与論島, 沖永良部島, 喜界島) は、どちらも低平な島に分布が限られている。



分布地点不明

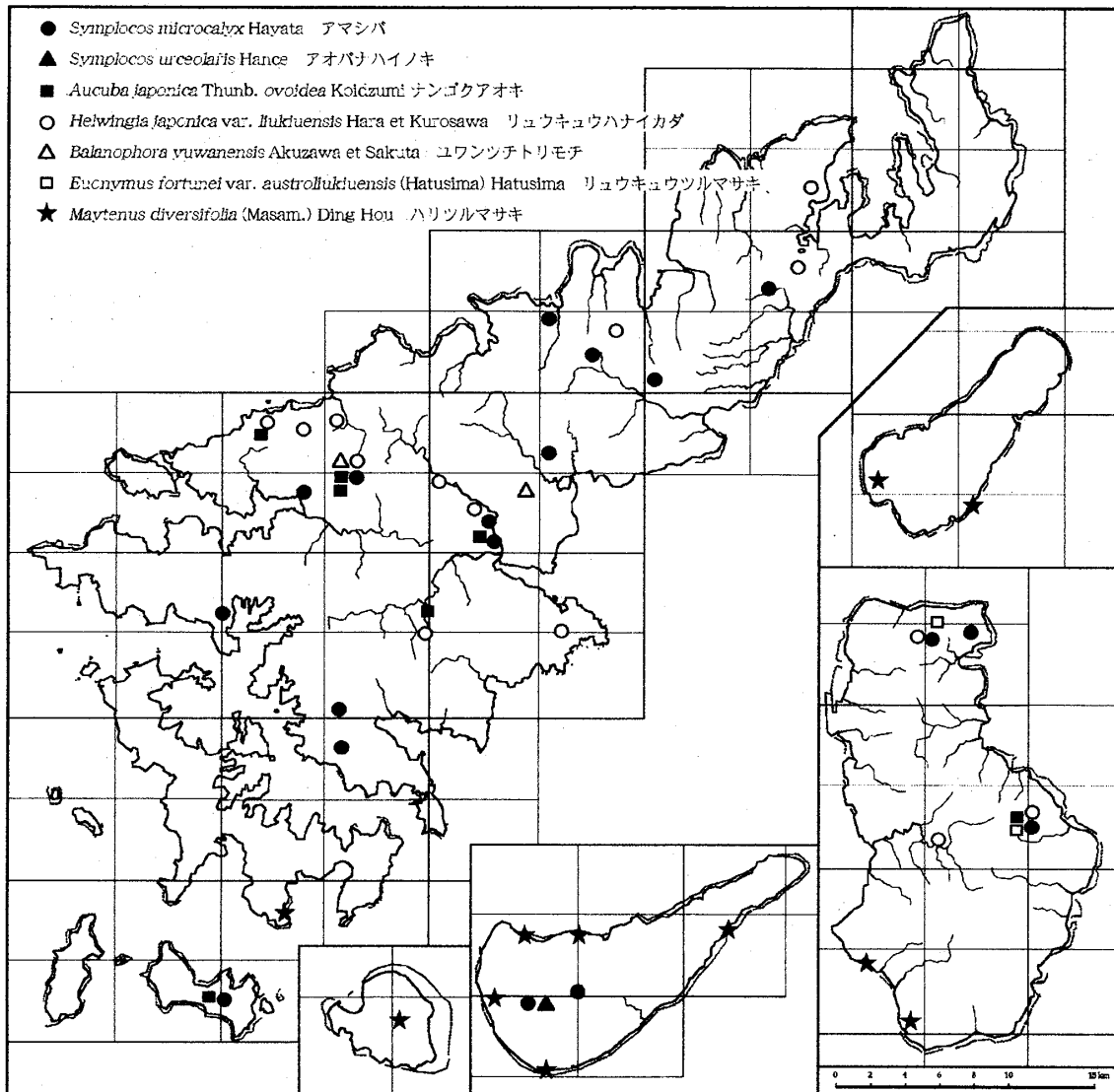
Blastus cochinchinensis Lour. ミヤマハシカンボク Arami-chirima, Aug. 9, 1927, T. Naito s.n.; Amami-onshima, July 29, 1927, Hosoyamada 21665; Shinokawa, Ohshima-gun, Aug. 20, 1910, Kawagoe 2077

Melastoma candidum D. Don ノボタン Kikai (1956)

Symplocos confusa Brand Onmichibu (1977); Syckatsu (1921)

付図 13 ミソハギ科, ノボタン科, ヒルギ科, ハイノキ科植物の分布

シマサルスベリは中国南部から台湾に分布し、奄美群島に隔離的に分布する落葉性の高木である。ミズガンピは太平洋諸島やマレーシアから南西諸島中部にまで海岸に広く見られる熱帯系の植物である。ノボタンは内陸性の種であるが、同じように広く分布する。ミヤマハシカンボクはインドから南西諸島北部にまで分布するが、群島内では奄美大島にのみ知られる。マングローブ林の主要な構成要素となるオヒルギとメヒルギは、前種は奄美大島を北限とし、後種は九州南部まで分布するが、東アジアのマングローブ林の北限地域を形成していて、保全には注意を払う必要がある。ミヤマシロバイは中国南部～台湾、そして奄美大島まで分布するが、個体数は少ない。龍郷町市理原のよく開花結実していた最大の個体は町の農道工事に際して不注意にも伐採されてしまった。



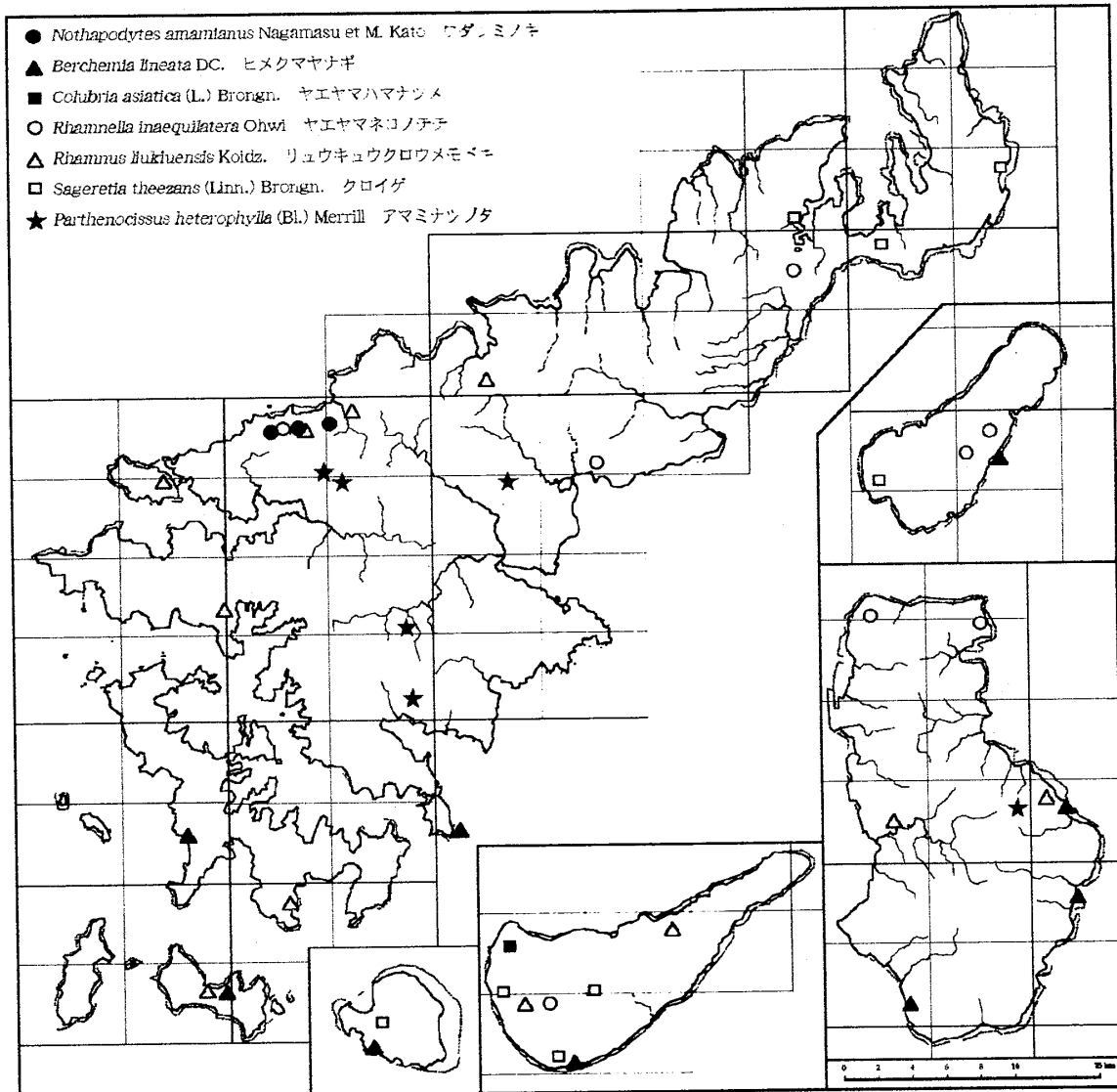
分布地点不明

Synplocos microcalyx Hayata アマシバ Hatusima, S. Miyou, 150 m (1971); Tokuzoshima (1927, 1957)

Synplocos urceolaris Hance アオバナハイノキ ?Amami-oshima, Aug. 30, XXXX, T. Naito s.n.; Tokuzoshima, May 24, 1954, T. Naito s.n.

付図 14 ハイノキ科, ミズキ科, ツチトリモチ科, ニシキギ科植物の分布

アマシバは台湾から南西諸島中部にかけて、アオバナハイノキは中国南部から奄美群島まで分布している。アオバナハイノキの確実な産地は沖永良部島大山である。内藤採集の奄美大島の2点の標本は、採集日に問題があり、確実ではない。ハイノキ科ではナカハラクロキも奄美群島が北限となる。リュウキュウハナイカダは分類学的な再検討が必要で、南西諸島中部の固有種と考えられる。寄生植物のユワンツチトリモチは奄美大島で2ヶ所の分布地点が知られているだけである。リュウキュウツルマサキは徳之島の天城岳と井之川岳に分布する。湯湾岳にも類似した個体が見られが、開花結実が知られていない。ハリツルマサキは与論島、沖永良部島、喜界島などには集団数も個体数も比較的多い種であるが、大島では加計呂麻島で記録されただけである。



分布地点不明

Rhamnella inaequilatera Ohwi. ヤエヤマネコノチチ. Kofu, Sanpoji-shi, Ogasawara (1927)

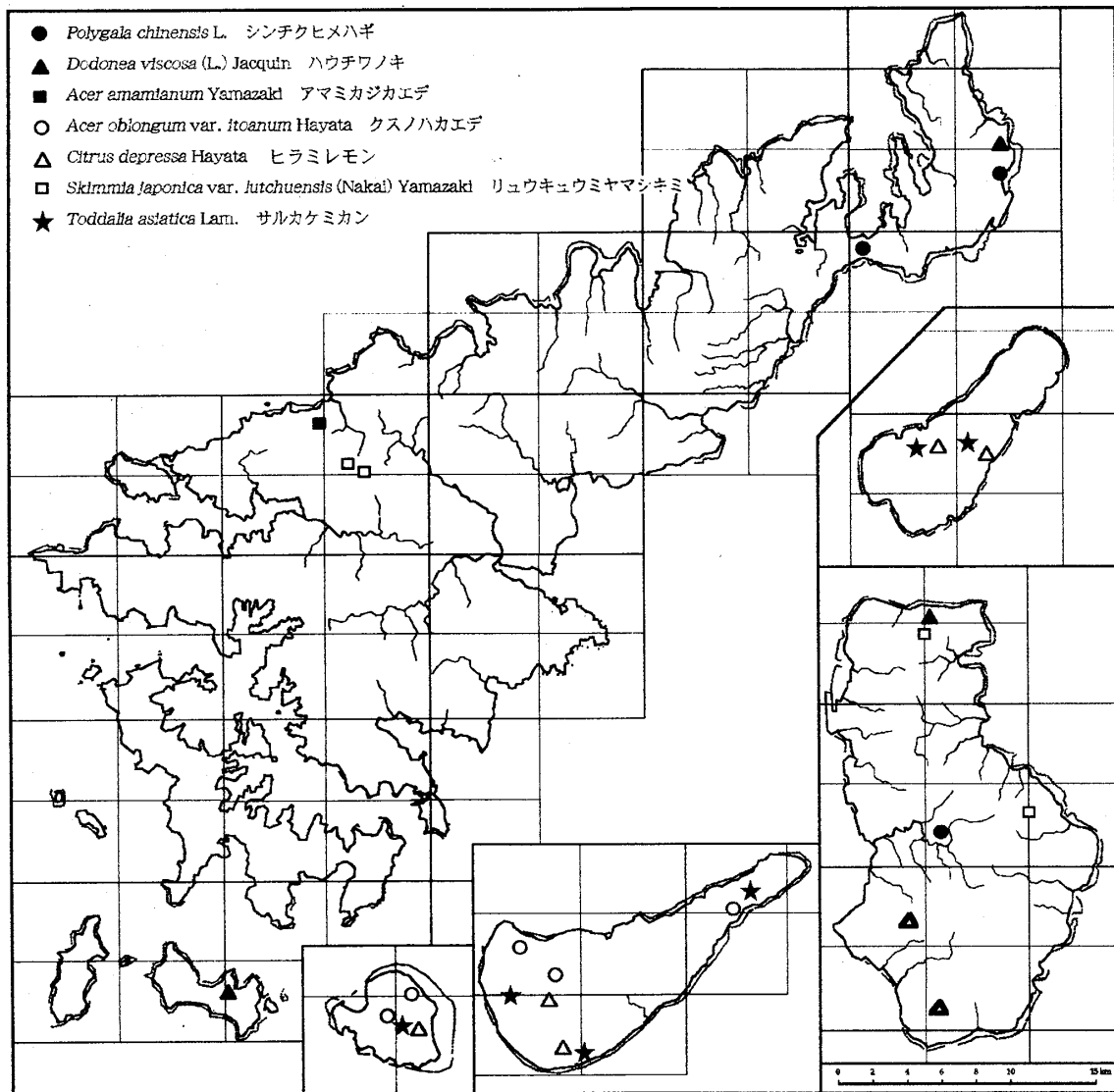
Rhamnus lukuensis Koidz. リュウキュウクロウメモドキ. Tokunoshima (1927, 1967); Amagi-mura (1927)

Sageretia theezans (Linn.) Brongn. クロイゲ. Kikai (1956); Kikai (1959); Tokunoshima (1927)

Parthenocissus heterophylla (Bl.) Merrill. アマミナツツタ. Tokunoshima (1963)

付図 15 クロタキカズラ科, クロウメモドキ科, ブドウ科植物の分布

2004年に新種として報告されたワダツミノキの分布地（名音）周辺は、アマミカジカエデやアマミタチドコロ、それにヒロハタマミズキ、ヤエヤマネコノチチ（南西諸島中・南部固有）やリュウキュウクロウメモドキ（中国大陸南部～トカラ列島）などが分布する特異な地域である。ヒメクマヤナギは奄美大島を、ヤエヤマハマナツメは沖永良部島を北限とする海岸性の種である。クロイゲは内陸山地生の低木であるが、中国大陸南部・台湾から奄美大島にまで分布する。アマミナツツタは中国大陸南部から奄美大島にかけて分布し、群島域が北限分布地となるが、知られている産地は奄美大島と徳之島に限られている。

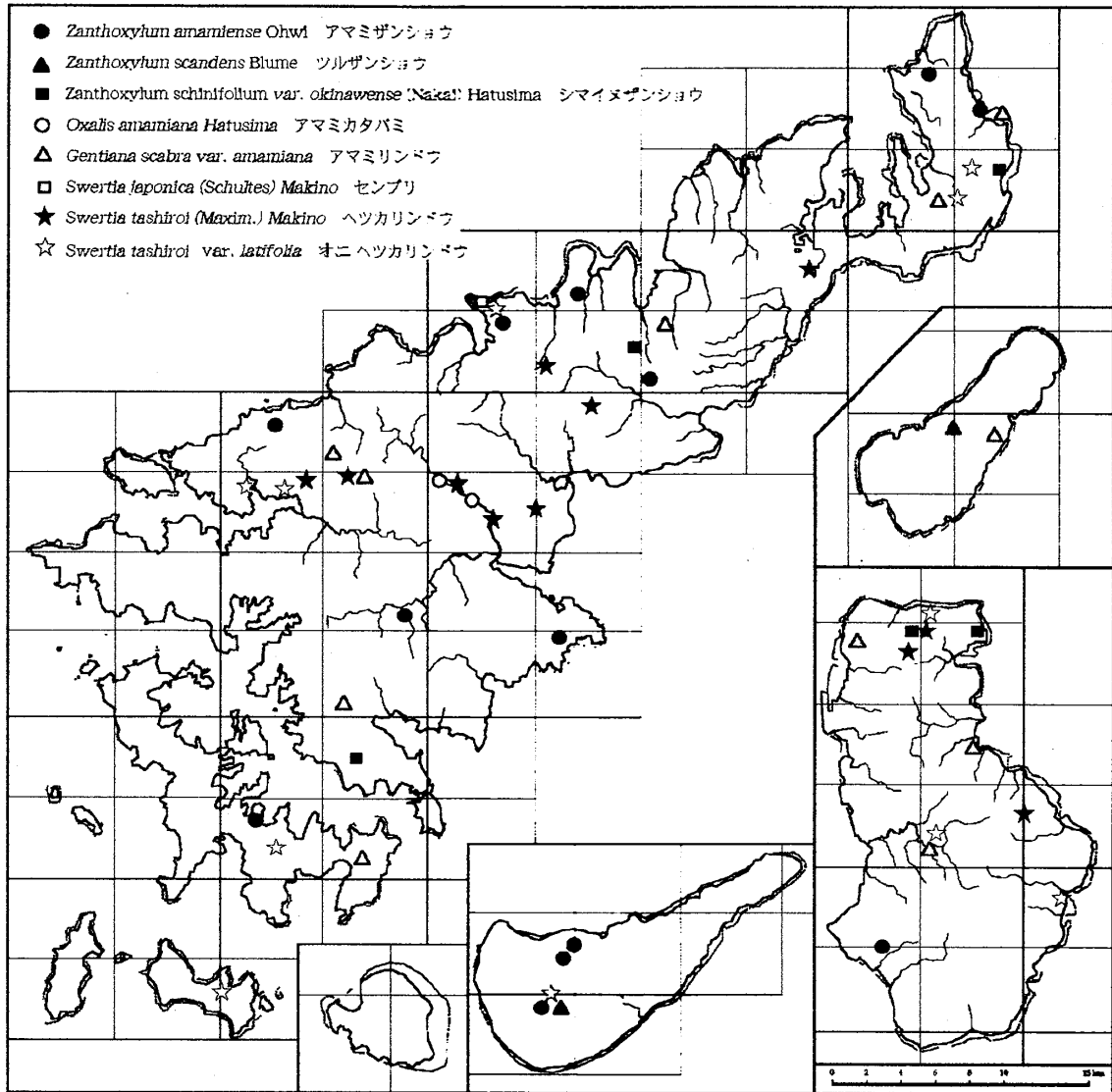


分布地点不明

Acer oblongum var. *itoanum* Hayata クスノハカエデ Kikak, Aug. 11, 1956. S. Ouchiyama 87

付図 16 ヒメハギ科, ムクロジ科, カエデ科, ミカン科植物の分布

シンチクヒメハギは奄美大島笠利と徳之島三京から知られているが、現状は不明である。熱帯系のハウチワノキは大島の笠利、請島、徳之島に知られ、北限はトカラ列島宝島である。落葉性のアマミカジカエデは大和村名音集落近くに1集団が知られ、厳重な保護対策が必要な種である。常緑性のクスノハカエデは与論島では稀でなく、沖永良部島にも分布するが、喜界島では50年ほど前に採集されたが、その後は記録されていない。シーカーシャは南西諸島に原生したと考えられるが、群島内で現在知られる生育地は集落の近くで、栽培から野生化した可能性もある。リュウキュウミヤマシキミは奄美大島と徳之島の内陸山地の林床に、サルカケミカン喜界島、沖永良部島与論島の低平な島の明るい林縁部に見られる。「落葉樹の分布」(付図52)で示しているホソバハマセンダン是中国南部と奄美大島の隔離分布種で、奄美大島から知られ、分布は点的である。



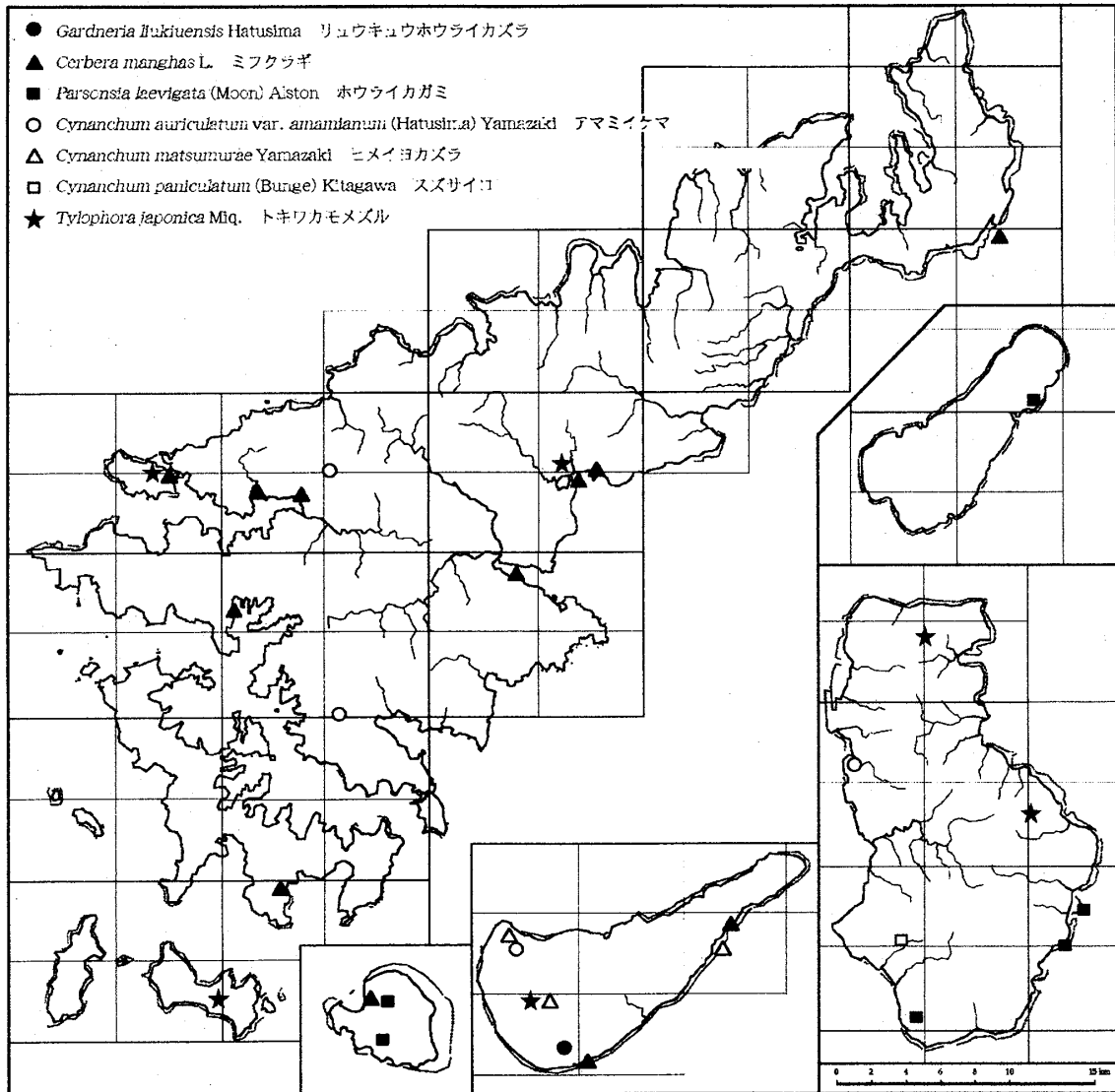
分布地点不明

Zanthoxylum amamiense Ohwi アマミザンショウ Kikai (1959); Ozierab. (1969)

Zanthoxylum schinifolium var. *okinawense* (Nakai) Hatusima シマイヌザンショウ Tokunoshima (1927)

付図 17 ミカン科、カタバミ科、リンドウ科植物の分布

アマミザンショウは名前のように奄美群島域に、シマイヌザンショウは沖縄と奄美群島に固有な種である。ツルザンショウは中国南部からトカラ列島宝島にまで分布し、群島は北限地域となる。アマミカタバミは住用川溪谷の矮小化した種で、オーストラリアとニュージーランドに分布する *Oxalis exilis* Cunning. と同種とされることもある。アマミリンドウと（アマミ）センブリは、どちらも温帯系の種で、奄美集団は特徴的な形態を有していて、固有集団である。リンドウは数カ所の産地が知られていたが、その多くは絶滅した。センブリは宮古崎のみに知られ、集団数も個体数もごく少ない。ヘツカリンドウは九州南部から南西諸島中部に分布しているが、群島域の海岸に見られる集団は葉が大きくて厚く、ここでは一応オニヘツカリンドウの仮の名を与えておく。



分布地点不明

Gardneria lukuensis Hatusima リュウキュウホウライカズ Kikai, Aug. 1976, K. Miyagi s.n.

Parsonsia laevigata (Moon) Alston ホウライカガミ Kikai, April, 1-3, 1959, Hatusima & Sako 2349S

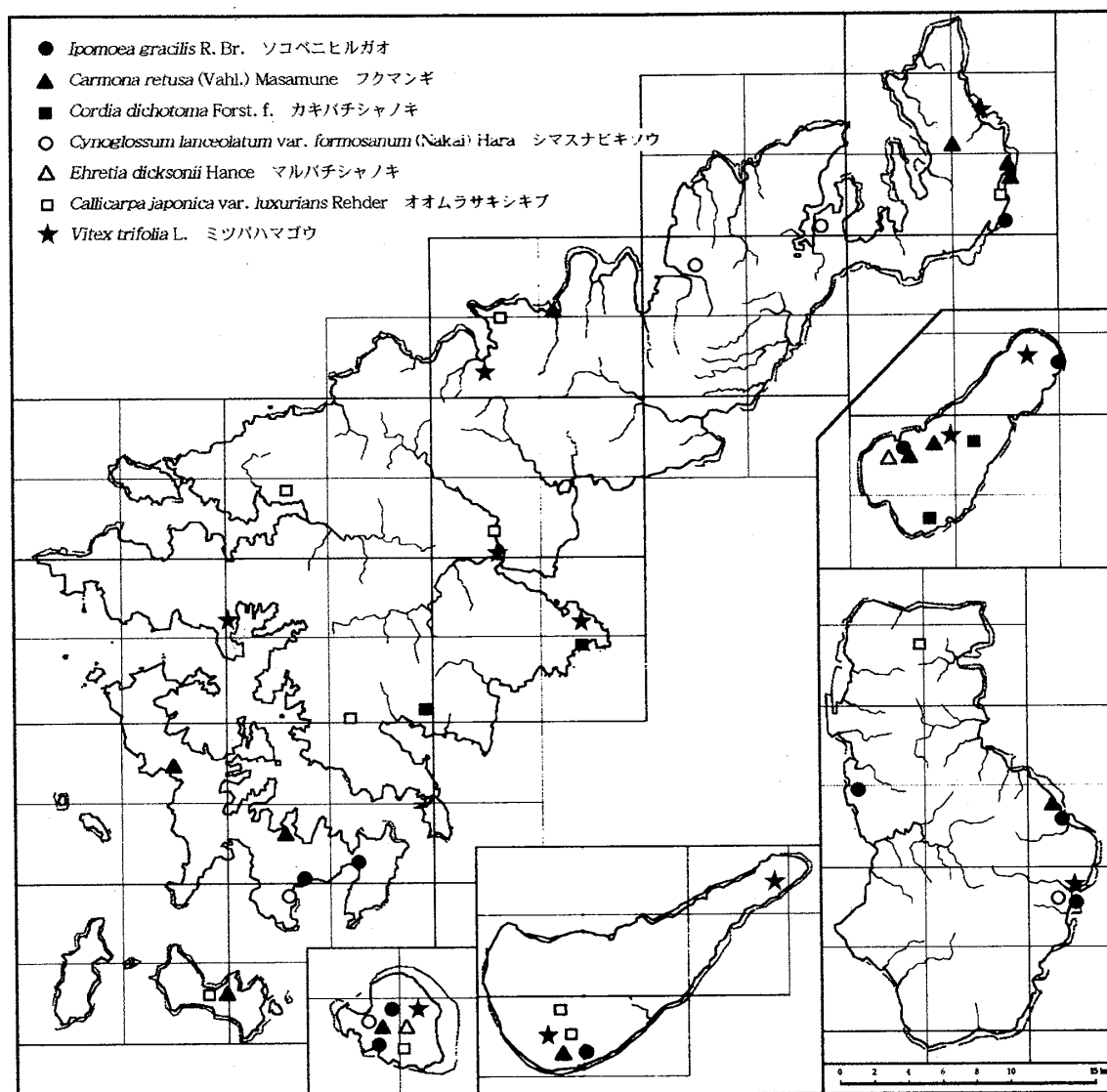
Cynanchum matsumurae Yamazaki ヒメイヨカズラ Okierabu, Jan. 1956, T. Tojyo s.n.; Okierabu, July 30, 1967, Hatusima 30962

Tylophora japonica Miq. トキワカモメズル Kakeroma, Nov. 11, 1980, T. Oji s.n.; Okierabu, Jan. 1956, T. Tojyo s.n.

付図 18 ホウライカズラ科, キョウチクトウ科, ガガイモ科植物の分布

ホウライカズラ科のリュウキュウホウライカズラは南西諸島中部に固有、キョウチクトウ科のミフクラギは海流散布をする木本性の海岸植物で東南アジアから奄美群島まで広く分布している。トウワタ科のホウライカガミは中国南部から奄美群島（北限）に分布し、アマミイケマ（奄美群島に固有）とヒメイヨカズラ（沖縄と奄美群島南部）は南西諸島中部に固有である。スズサイコ（東亜温帯）は徳之島で一度だけ採集されている（1955年）が、その後は誰も採集していない。久米島にも分布が知られている。トキワカモメズルは四国から南西諸島地に分布している。

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



分布地点不明

Carmona retusa (Vahl.) Masamune フクマンギ Sumiyō-mura, Aug. 10, 1927. T. Naito s.n.; Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23717; Okierabu, June 4, 1967, M. Furuse s.n.; Okierabu, 1969. K. Kasuga s.n.

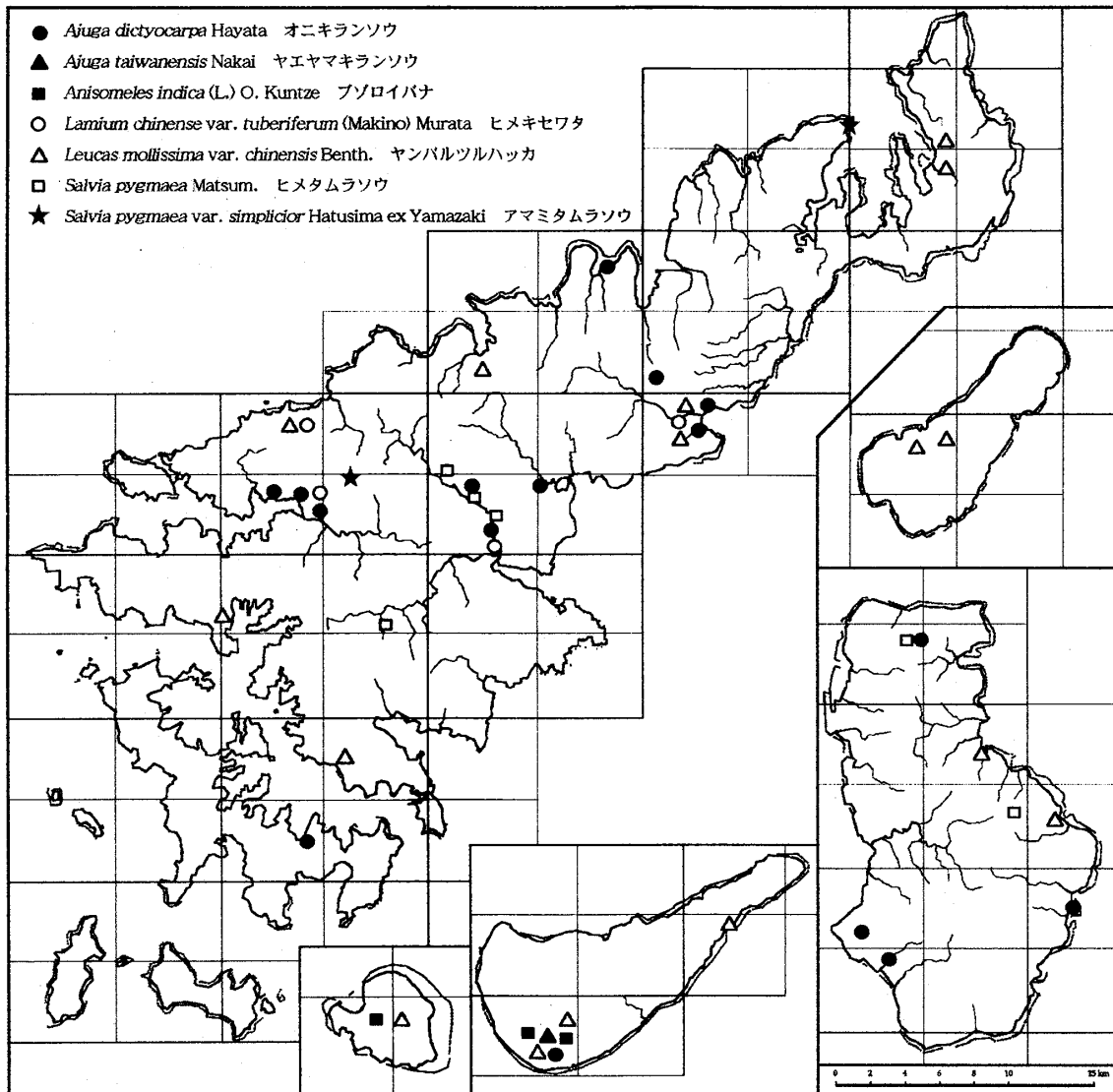
Cordia dichotoma Forst. f. カキバチシャノキ Kikai, Aug. 29, 1974. H. Simabukuro s.n.

Callicarpa japonica var. *luxurians* Rehder オオムラサキシキブ Amami-oshima (1956); Tokounoshima (1927)

Vitex trifolia L. ミツバハマゴウ Sumiyō (1927); Kikai (1959)

付図 19 ヒルガオ科、ムラサキ科、クマツヅラ科植物の分布

ソコベニヒルガオはマレーシア熱帯から九州南部に分布する熱帯系の種であるが、最近九州南部に分布域を拡大している。フクマンギやカキバチシャノキも東南アジア熱帯から奄美群島地域を北限とするムラサキ科の植物である。シマスナビキノウはアフリカやインドから九州南部に分布していたが、九州や奄美群島で戦後に採取された標本は1点だけで、稀な種である。マルバチシャノキは関東地方まで分布するが、自然分布は奄美群島までではないかと推定される。オオムラサキシキブは北方系の種で奄美群島では多くはない。ミツバハマゴウはトカラ列島を北限とする南方系の種である。



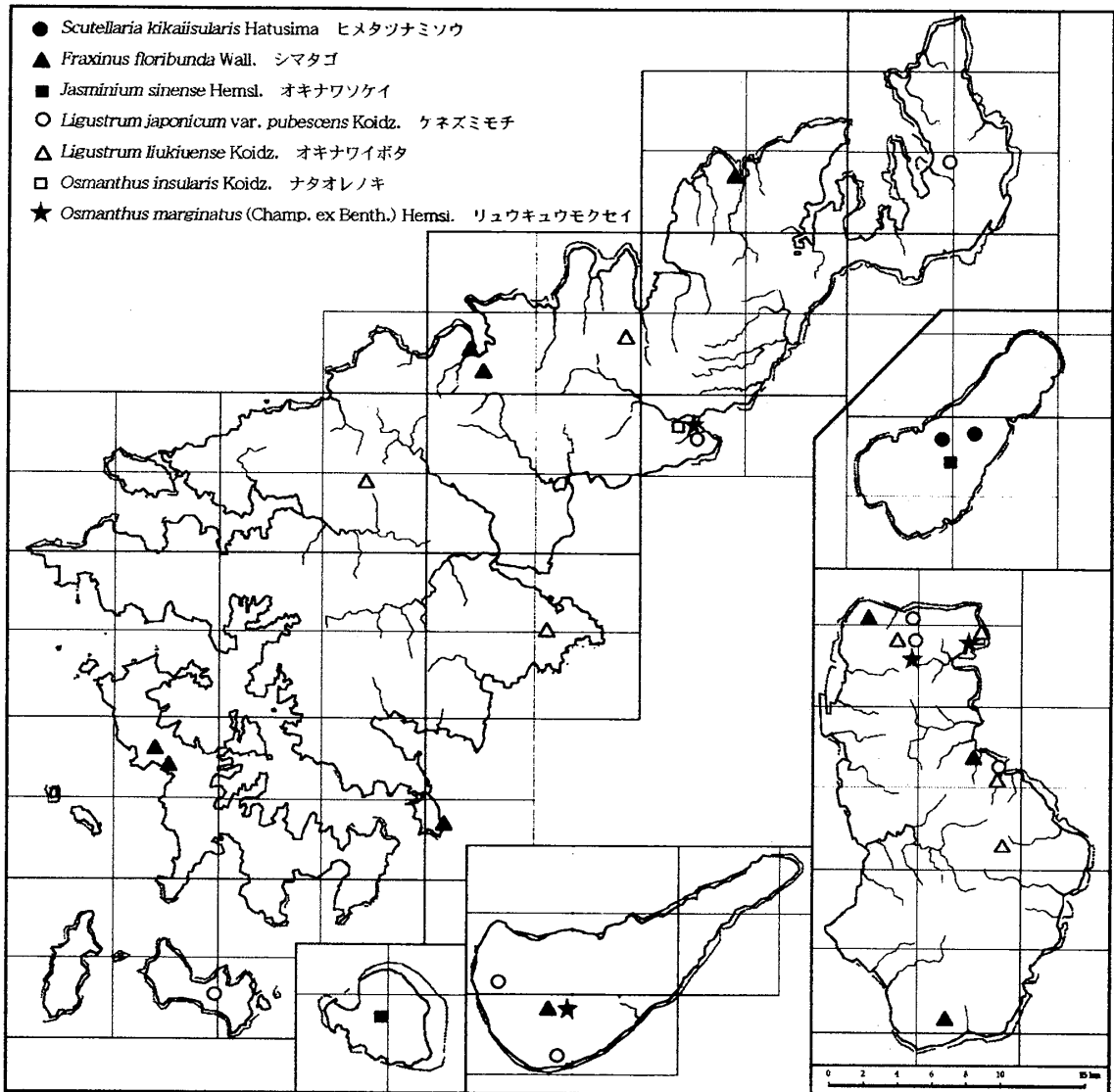
分布地点不明

Ajuga dictyocarpa Hayata オニキランソウ Amamioshima (1938); Amami-ohshima (1938); Kasari (1958); Kakeroma-jima (1979); Kikai (1959)
Anisomeles indica (L.) O. Kuntze ブゾロイバナ Tokunoshima, 1969, Tabata s.n.; Yoron-tou, Aug. 27, 1915, Kawagoe 20821; Yoron, Aug. 24, 1955, T. Naito s.n.; Yoron, Aug. 19, 1955, T. Naito s.n.
Leucas mollissima var. *chinensis* Benth. ヤンバルツルハッカ Akaki, Amagi, Tokunoshima (1927); Okierabu (1968); Okierabu (1968); Yoron (1967); Yoron (1961); Yoron (1956); Yoron (1955)

付図 20 シン科植物の分布

オニキランソウはインドから奄美群島にかけて分布し、奄美大島では稀な種ではない。ヤエヤマキランソウはフィリピンからトカラ列島にまで分布するが中之島と沖永良部島で一度だけ採集されただけである。現状は不明。ブゾロイバナはマレーシア熱帯から奄美大島まで、ヤンバルツルハッカは中国大陸南部からトカラ列島にかけて分布する、どちらも南方系の種である。それに対してヒメキセワタは九州南部や種子島と奄美大島に固有で、隔離的な分布をしている。ヒメタムラソウは南西諸島中・南部に固有とされている。その変種のアマミタムラソウは奄美大島に固有とされるが、南西諸島のヒメタムラソウ群の地理的分化については更に検討が必要である。

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



分布地点不明

Scutellaria kikaiisularis Hatusima ヒメタツナミソウ Kikai, April 1, 1977, K. Yoshinaga s.n. (2 sheets); Kikai (Cult. Kagoshima), May 6, 1971, Hatusima 32550

Fraxinus floribunda Wall. シマタゴ Naze (1958)

Jasminium sinense Hemsl. オキナワソケイ Tokunoshima, 1969, H. Ohno s.n.

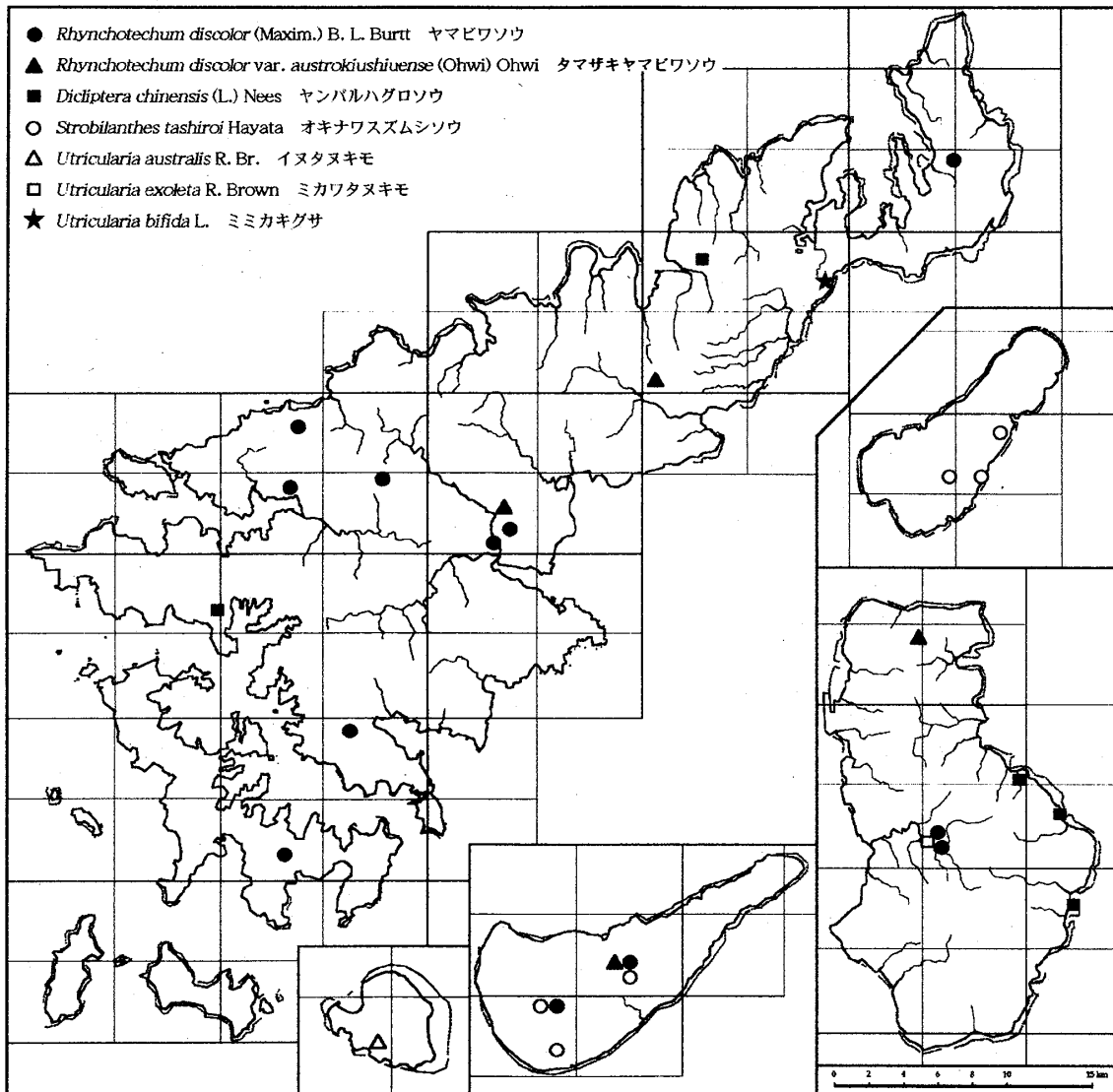
Ligustrum japonicum var. *pubescens* Koidz. ケネズミモチ Amami-ohshima, June 5, 1939, T. Naito s.n.; Tatsugou-mura, Ohshima, July 20, 1919, Kawagoe 5170

Ligustrum liukiense Koidz. オキナワイボタ Amami-ohshima, Aug. 5, 1919, K. Ohtsukasa 1979; Tokunoshima, Nov. 25, 1968, M. Tabata s.n.

Osmanthus marginatus (Champ. ex Benth.) Hemsl. リュウキュウモクセイ Amami-ohshima (1938); Amagi-mura, Tokunoshima (1927)

付図 21 シン科, モクセイ科植物の分布

ヒメタムラソウは喜界島の固有種とされる。シマタゴはヒマラヤから屋久島にまで分布しているが、しばしば栽植され、本来の野生かどうか問題がある。オキナワソケイは中国大陸南部から奄美群島域に分布する。ケネズミモチも中国大陸南部から奄美群島域に分布する。オキナワイボタは南西諸島中・南部に固有。ナタオレノキは台湾から本州関東地方にまで分布するが個体数は少ない。リュウキュウモクセイは中国大陸南部から奄美群島にかけて分布し、ナタオレノキと同様個体数は少ない。



分布地点不明

Rhynchoetechum discolor (Maxim.) B. L. Burt ヤマビワソウ Naze; Amami-ohshima

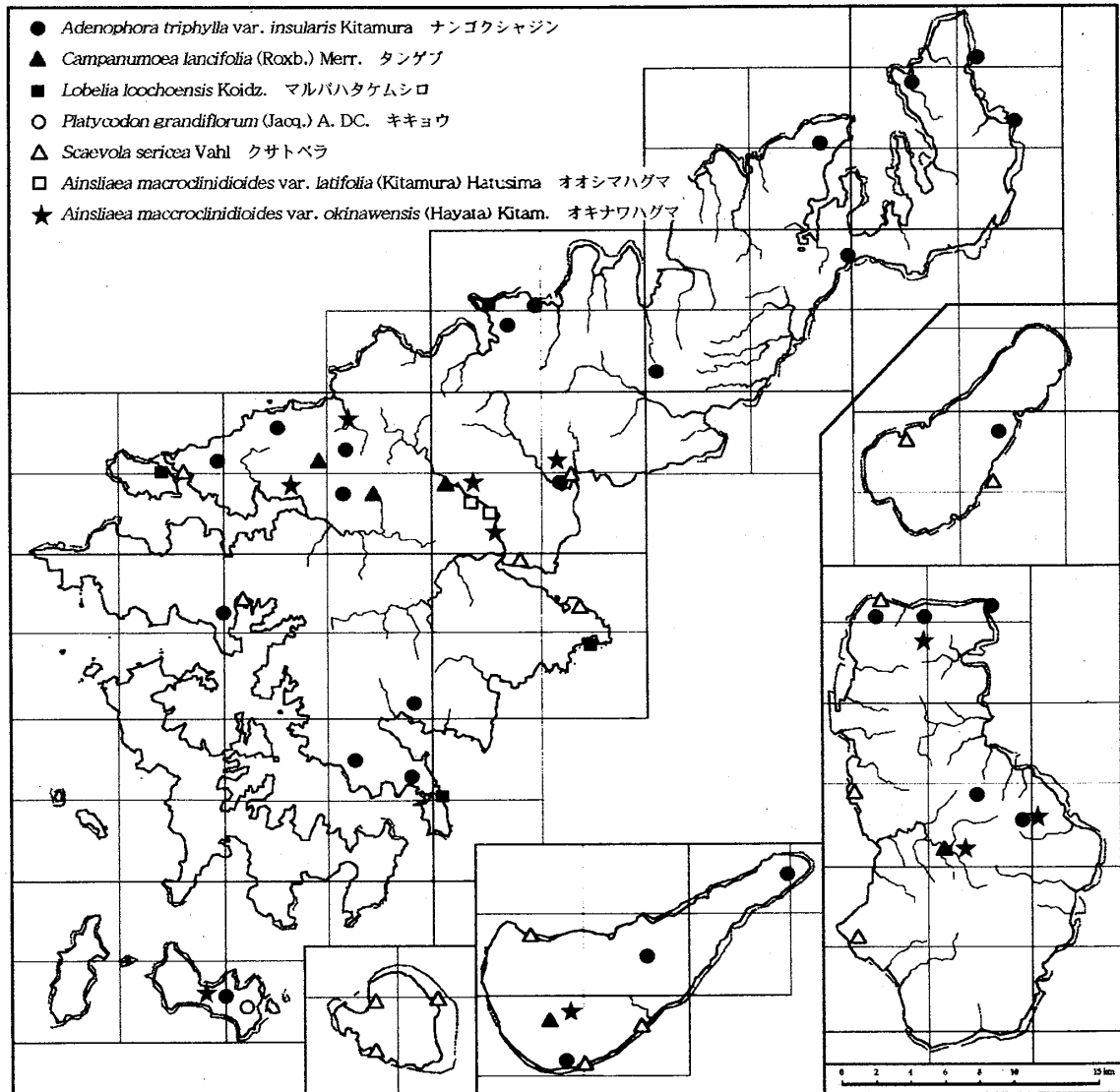
Rhynchoetechum discolor var. *austrokiushiuense* (Ohwi) Ohwi タマザキヤマビワソウ Naze; Kikai; Okierabu

Dicliptera chinensis (L.) Nees ヤンバルハグロソウ Chinzei-mura, Aug. 31, 1921, K. Uehara, 11882

付図 22 イワタバコ科, キツネノマゴ科, タヌキモ科植物の分布

ヤマビワソウはフィリピンから奄美群島（北限）まで、またタマザキヤマビワソウは南九州から南西諸島地域に固有的に分布する。ヤンバルハグロソウはインドシナから奄美群島（北限）に分布する。オキナワスズムシソウは沖縄と奄美群島に固有であるが、分布は石灰岩地に限られ、奄美大島と徳之島からは知られていない。イヌタヌキモとミカワタヌキモは水生の食虫植物であるが旧世界に広く分布している。両種とも奄美群島での産地は少ないが、奄美群島域のタヌキモ類の分類は再検討が必要である。ミミカキグサは湿地性の食虫植物でオーストラリアからインドや東アジアに広く分布するが奄美群島では奄美大島に1ヶ所の生育地（市理原）が知られているのみである。

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



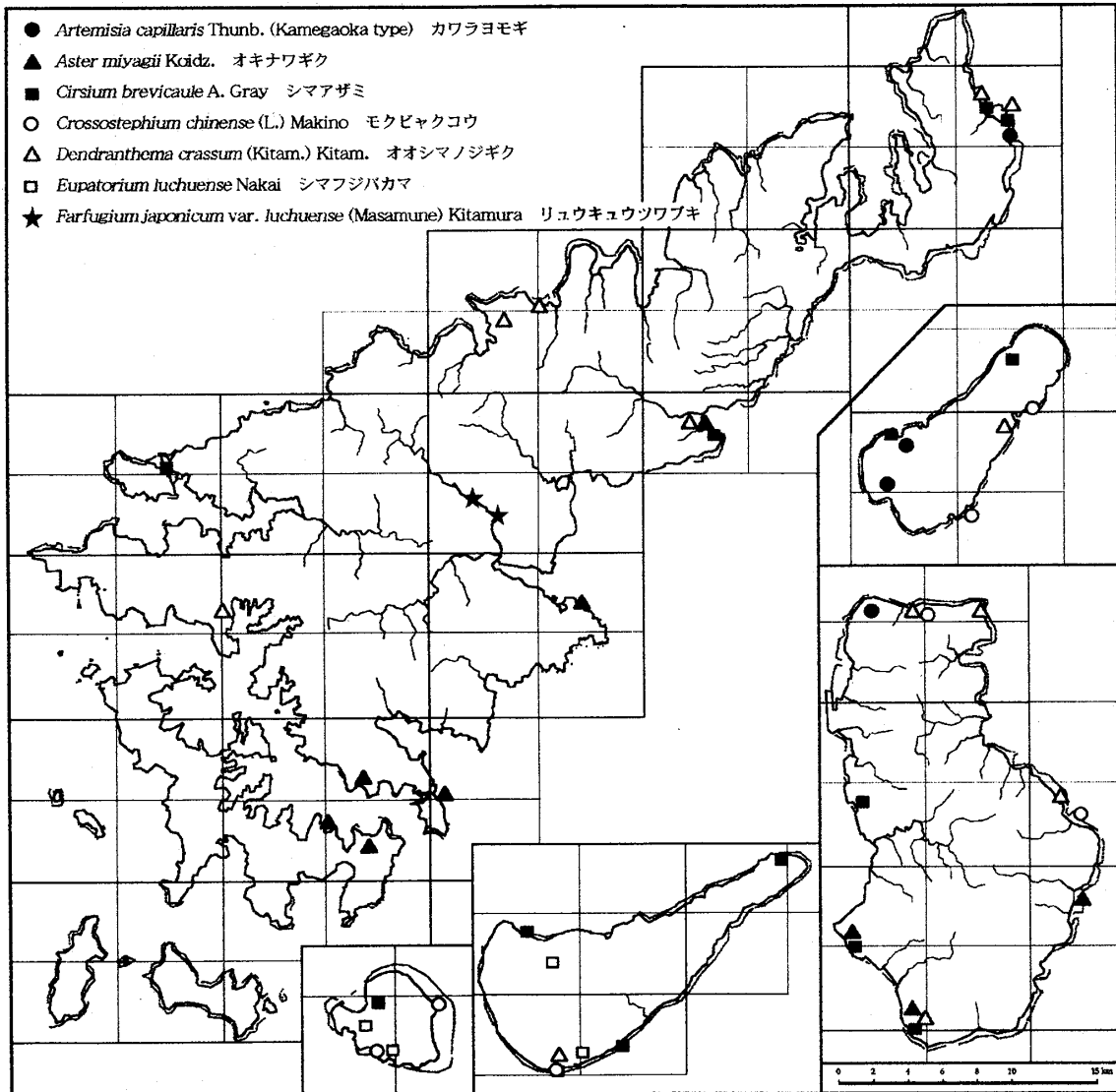
分布地点不明

Adenophora triphylla var. *insularis* Kitamura ナンゴクシャジン Amamioshima. Jun. 5, 1939, T. Naito s.n.; Nagara, 50 m. March 23, 1958, Hatusima & Sako 21826; Tokunoshima-cho, Dec. 11, 1985. Sako 8917; Higashiamagi, Aug. 14, 1927, Y. Hosoyamada s.n.

Ainsliaea macroclinidioides var. *okinawensis* (Hayata) Kitam. オキナワハグマ Kakeroma-jima

付図 23 キキョウ科, クサトベラ科, キク科植物の分布

ナンゴクシャジンはトカラ列島から沖縄にかけて固有的に分布し、奄美大島では稀な植物ではない。タンゲブはヒマラヤから奄美群島と種子島に分布している。マルバハタケムシロは沖縄群島と奄美大島に知られるが、沖縄では絶滅したとされている。キキョウは奄美群島ではただ1ヶ所（請島）にだけ知られているが、栽培系統が生存しているといわれる。クサトベラは旧世界熱帯海岸に普通な種であるが、北限は種子島で、奄美群島では普通種である。オオシマハグマは奄美大島住用川渓谷に固有であるが、オキナワハグマは中国大陸東部から南西諸島、トカラ列島、三島にかけて分布する。奄美群島では奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布する。オキナワハグマの仲間の分類については再検討が必要である。



分布地点不明

Artemisia capillaris Thunb. (Kamegaoka type) カワラヨモギ Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23705; Kikai, Aug. 4, 1967, Hatusima & Sako 31059

Aster miyagii Koidz. オキナワギク Sakibana, Kakeroma-jima, Nov. 11, 1980, T. Oiji s.n.

Cirsium brevicaule A. Gray シマアザミ Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23510; Kikai, April 1-3, Hatusima & Sako 23778; Tokunoshima, May 21, 1910, Miyamoto s.n.; Okierabu, Aug. 17, 1956, T. Naito s.n.; Okierabu, March 16, 1958, Hatusima & Sako 21393

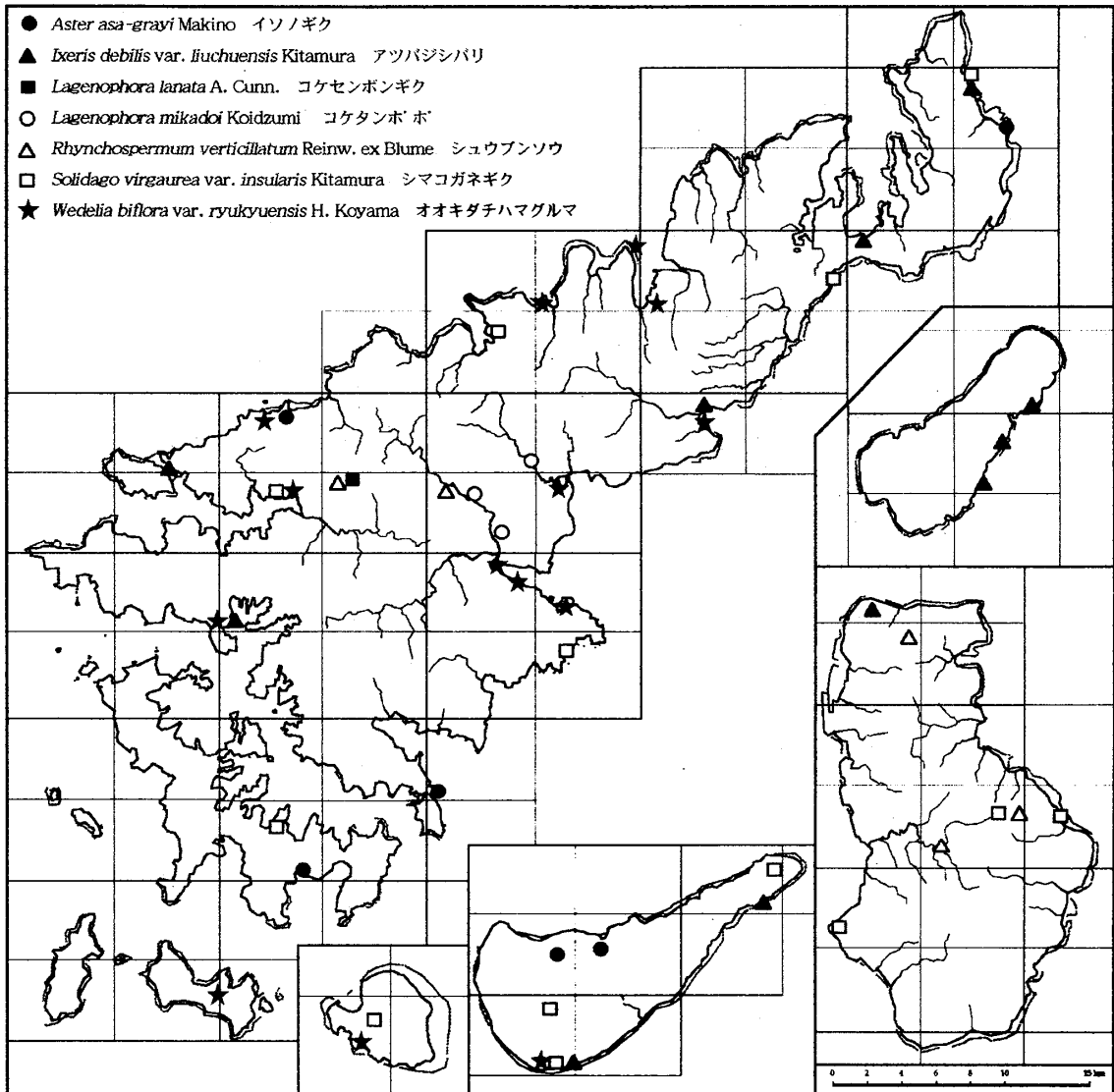
Crossostephium chinense (L.) Makino モクビャクコウ Amamioshima, Nov. middle, 44 (M), K. Teruya s.n.; Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23547; Tokunoshima, Aug. 15, 1927, Y. Hosoyamada s.n.; Okierabu, Jan. 1955, T. Toiyo s.n.; Okierabu, Dec. 8, 1966, M. Furuse 63

Dendranthema crassum (Kitam.) Kitam. オオシマノジギク Naze; Kikai; Okierabu

Eupatorium luchuense Nakai シマフジバカマ Chinzeimura, Amamioshima, Aug. 28, 1921, Kawagoe s.n.

付図 24 キク科植物の分布—2

カワラヨモギは本州からヒマラヤに広く分布するが、奄美群島域の集団は葉の裂片の幅が広い「亀ヶ丘型」である。オキナワギクは南西諸島中部に、シマアザミも南西諸島中・南部に固有分布する。モクビャクコウはフィリッピンや中国大陸から奄美群島（北限）に分布する。オオシマノジギクは奄美群島に固有、シマフジバカマは南西諸島域と台湾に分布する。リュウキュウツツブキは南西諸島中・南部に固有であるが、奄美群島では住用川溪谷に知られるのみである。



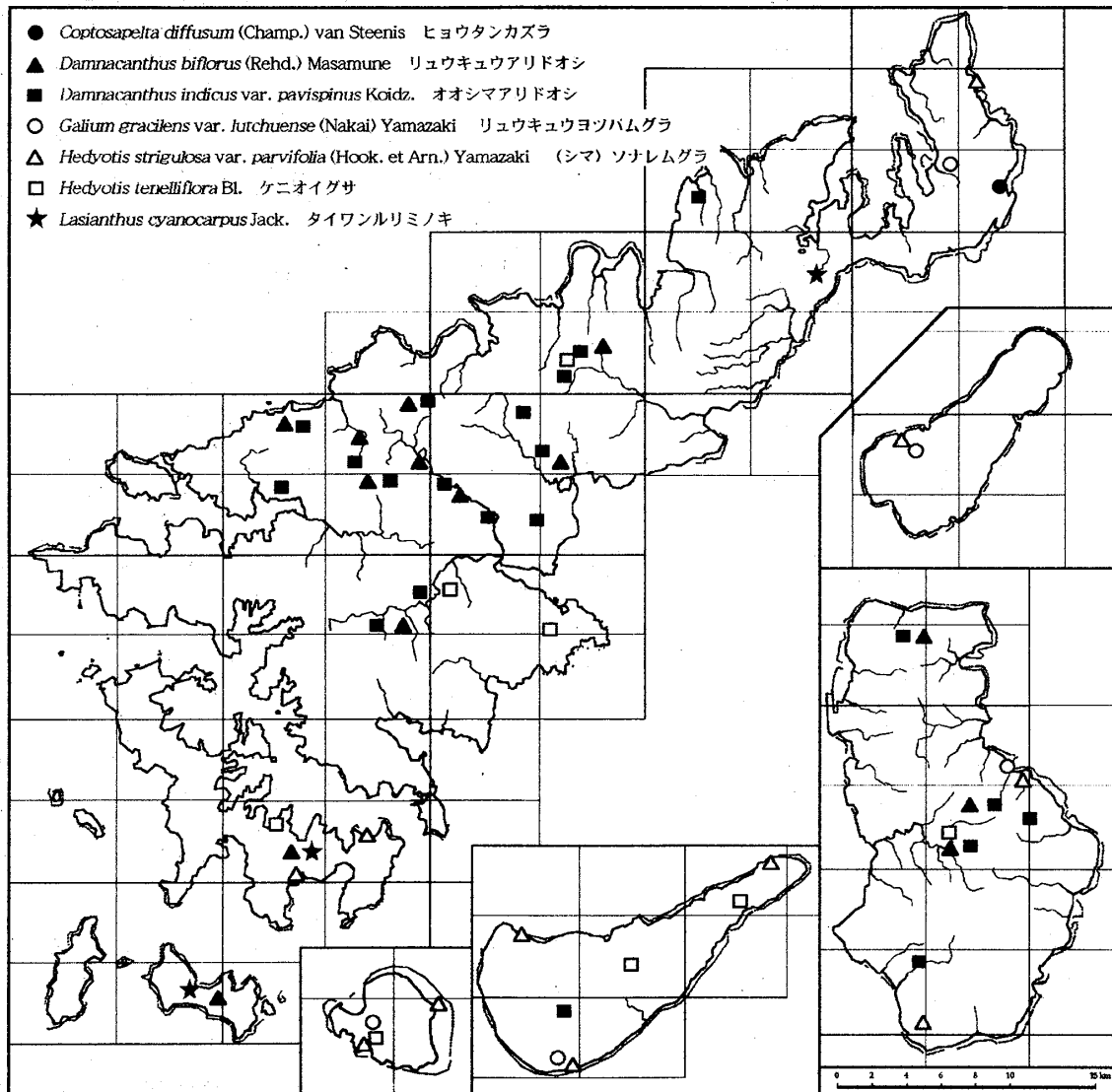
分布地点不明

Ixeris debilis var. *liuchuensis* Kitamura アツバジシバリ Okierabu, 1969, K. Kasuga s.n.; Okierabu, Jan. 1956, T. Toiyo s.n.

Solidago virgaurea var. *insularis* Kitamura シマコガネグク Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23477; Tokunoshima, Nov. 24, 1968, M. Tabata s.n.; Amami-oshima; Sumiyou-mura

付図 25 キク科植物の分布— 3

イソノギクは沖縄と奄美群島に準固有で中国大陸南部にも分布する。海岸の岩石地に見られ集団数は少ない。アツバジシバリも南西諸島中部に固有であるが砂浜海岸に見られる。コケセンボンギクは中国大陸から本州西部に点在的に知られ、コケタンポポは南西諸島中・南部に固有であるが、どちらも分布地点は限られている。シマコガネグクは奄美群島から先島群島に分布する固有変種である。暖温帯系のシュンブンスウは本州関東地方から中国大陸にかけて分布するが、奄美群島では生育地点は限られている。オオキダチハマグルマは台湾から南九州（佐多）の海岸に見られる、南西諸島準固有変種である。母種は熱帯海岸に広く分布する。



分布地点不明

Coptosapelta diffusum (Champ.) van Steenis ヒョウタンカズラ 徳之島からも記録されている。

Damnacanthus biflorus (Rehd.) Masamune リュウキュウアリドオシ Sumiyou-mura (1956)

Damnacanthus indicus var. *pavispinus* Koidz. オオシマアリドオシ Sumiyou (1957); Amamioshima

Galium gracilens var. *lutchuense* (Nakai) Yamazaki リュウキュウヨツバムグラ Okierabu (1969)

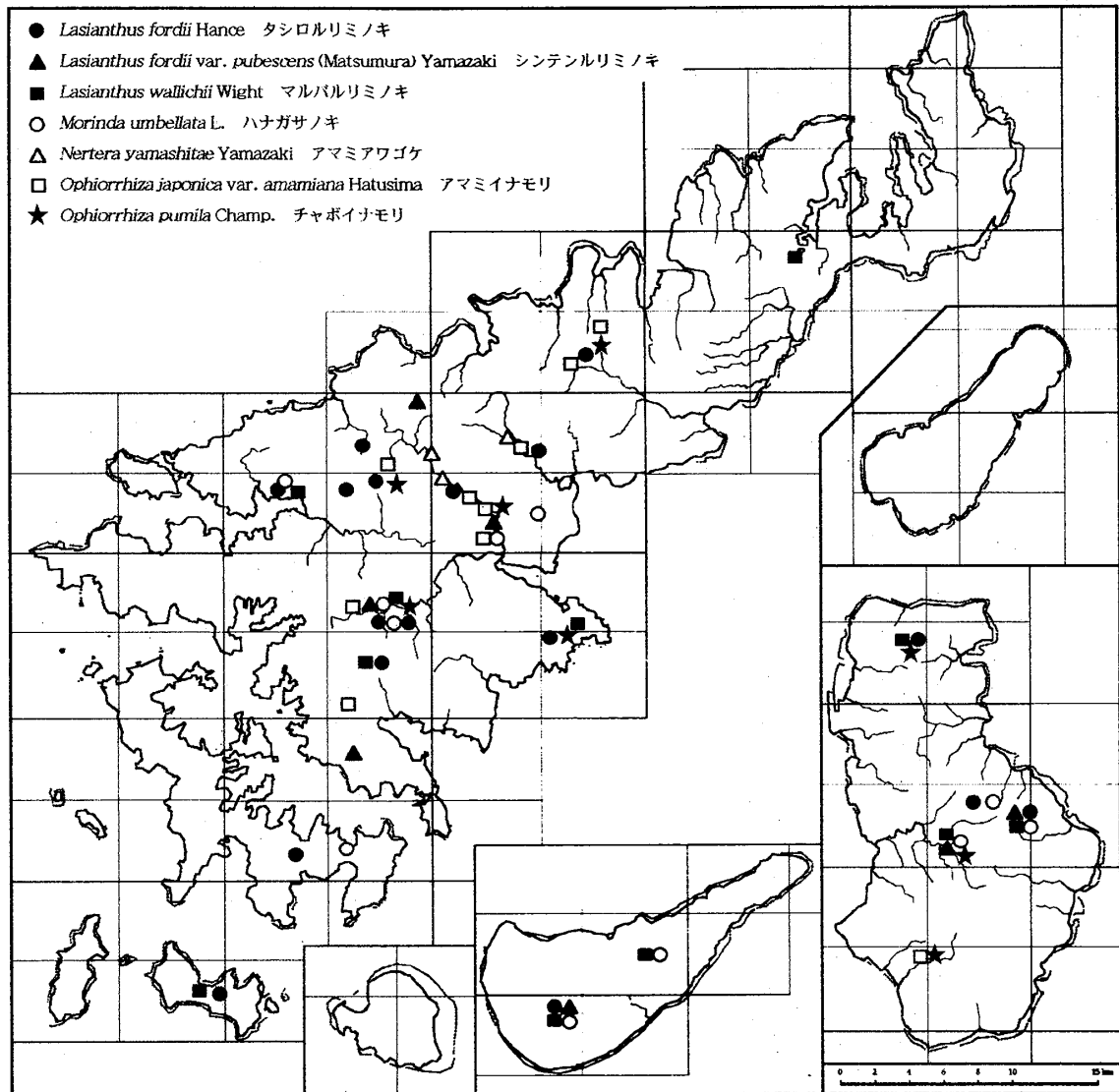
Hedyotis strigulosa var. *parvifolia* (Hook. et Arn.) Yamazaki (シマ) ソナレムグラ Kikai (1959); Amaagi-mura, Tokunoshima (1927)

Hedyotis tenelliflora Bl. ケニオイグサ Higashiamagi, Tokunoshima (1927)

付図 26 アカネ科植物の分布—1

ヒョウタンカズラは中国大陸南部から奄美群島（北限）にかけて分布しているが、多い植物ではない。リュウキュウアリドオシは南西諸島中部に、オオシマアリドオシは奄美群島に固有である。リュウキュウヨツバムグラはトカラ列島から中国大陸南部に、(シマ) ソナレムグラは本州関東地方からインドや太平洋諸島にまで広く分布しているが、南西諸島集団は地理的な分化を示し、検討が望まれる。ケニオイグサも東南アジア熱帯から屋久島にかけて広く分布する。タイワンルリミノキは中国大陸南部から奄美群島にかけて分布するが、群島内では稀で、龍郷町市里原が北限地点である。

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



分布地点不明

Lasianthus fordii Hance タシロルリミノキ Shinokawa (1910); Mandou Nat. Forest, Amami-ohshima (1961)

Lasianthus fordii var. *pubescens* (Matsumura) Yamazaki シンテンルリミノキ Misato, Sumiyou (1961)

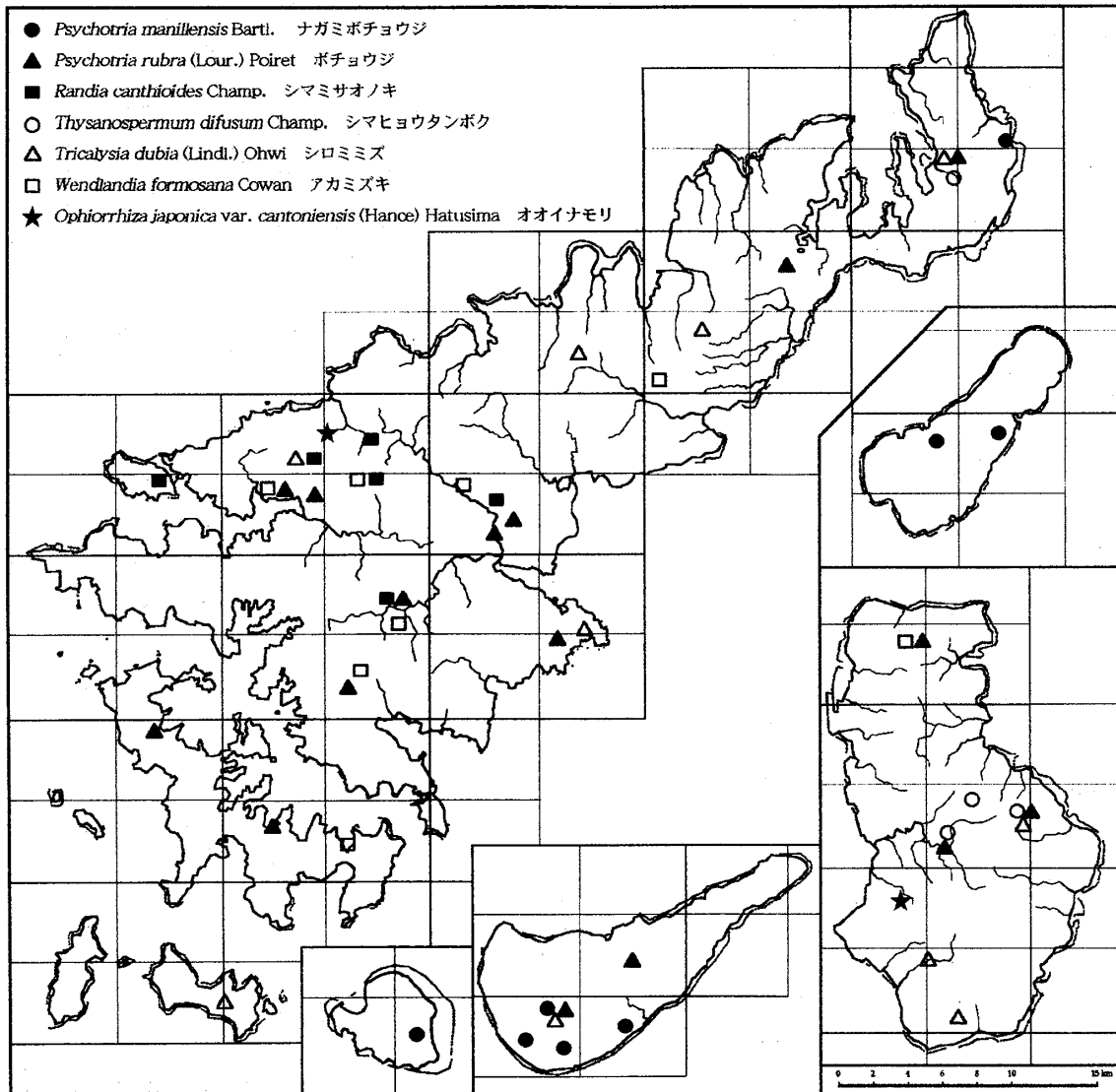
Lasianthus wallichii Wight マルバルリミノキ Shonokawa, Ohshima-gun (1910)

Morinda umbellata L. ハナガサノキ Tokunoshima (1968)

Ophiorrhiza japonica var. *amamiana* Hatusima アマミイナモリ Amami-ohshima (1958)

付図 27 アカネ科植物の分布—2

タシロルリミノキはマレーシア熱帯から種子島にかけて分布し、シンテンルリミノキは中国大陸南部から奄美群島（北限）に分布する、マルバルリミノキも同様な分布類型であるが、北限は屋久島である。ハナガサノキは中国大陸南部から種子島に分布する。溪流沿いに見られる奄美大島固有種のアミアワゴケは住用川と川内川に数カ所分布するが、いずれの集団も果実が観察できない。アマミイナモリは南西諸島中部に固有だが、チャボイナモリは中国大陸南部から屋久島に分布する。どちらも小さな種類であるが、山地に分布し、集団数も個体数も多いものではない。



分布地点不明

Psychotria rubra (Lour.) Poiret ボチョウジ Amami-ohshima (1938); Nabehi, Kasari (1956); Nabehi, Kasari (1956)

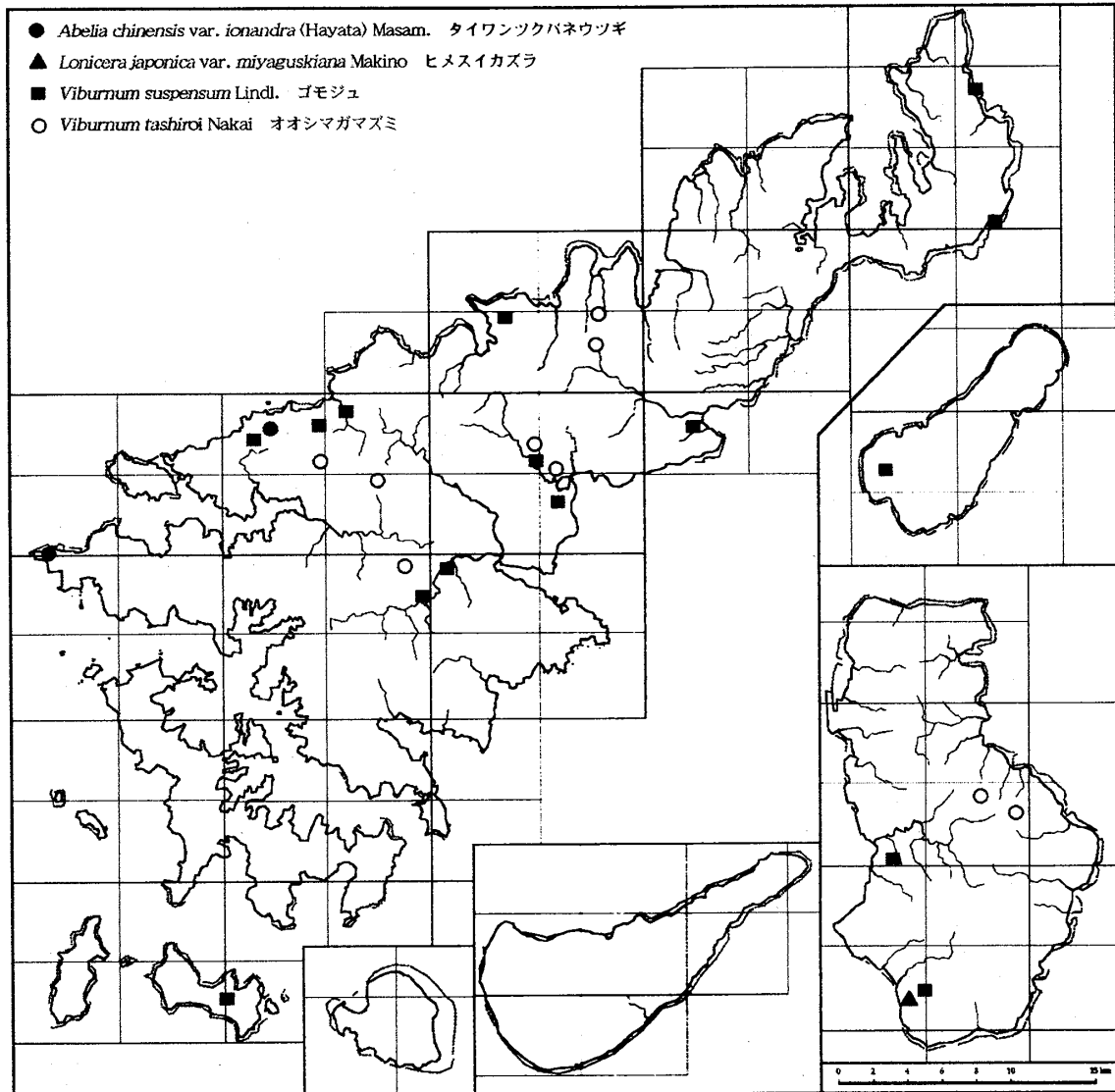
Thysanospermum difusum Champ. シマヒョウタンボク Tokunoshima (1927, 1968); OHigashiamagi (1927); kierabu (1969)

Tricalysia dubia (Lindl.) Ohwi シロミミズ Tokunoshima (1927)

Wendlandia formosana Cowan アカミズキ Amami-ohshima (1927, 1967); Shinokawa, Ohshima (1910); Tokunoshima (1968)

付図 28 アカネ科植物の分布— 3

ナガミボチョウジは中国大陸南部からトカラ列島にかけて、ボチョウジは中国大陸南部から種子島にまで分布する。シマミサオノキも中国大陸南部から奄美群島にまで分布している。シマヒョウタンボクは中国大陸南部から奄美群島（北限）にかけて分布する。シロミミズは中国大陸南部から種子島にかけて分布するが、多い種ではない。アカミズキは中国大陸南部から奄美群島（北限）にかけて分布し、奄美大島ではやや普通種である。オオイナモリは中国大陸と南西諸島中部に隔離分布をし、集団数も個体数も少ない。奄美大島と徳之島にそれぞれ1ヶ所の生育地が知られているだけである。



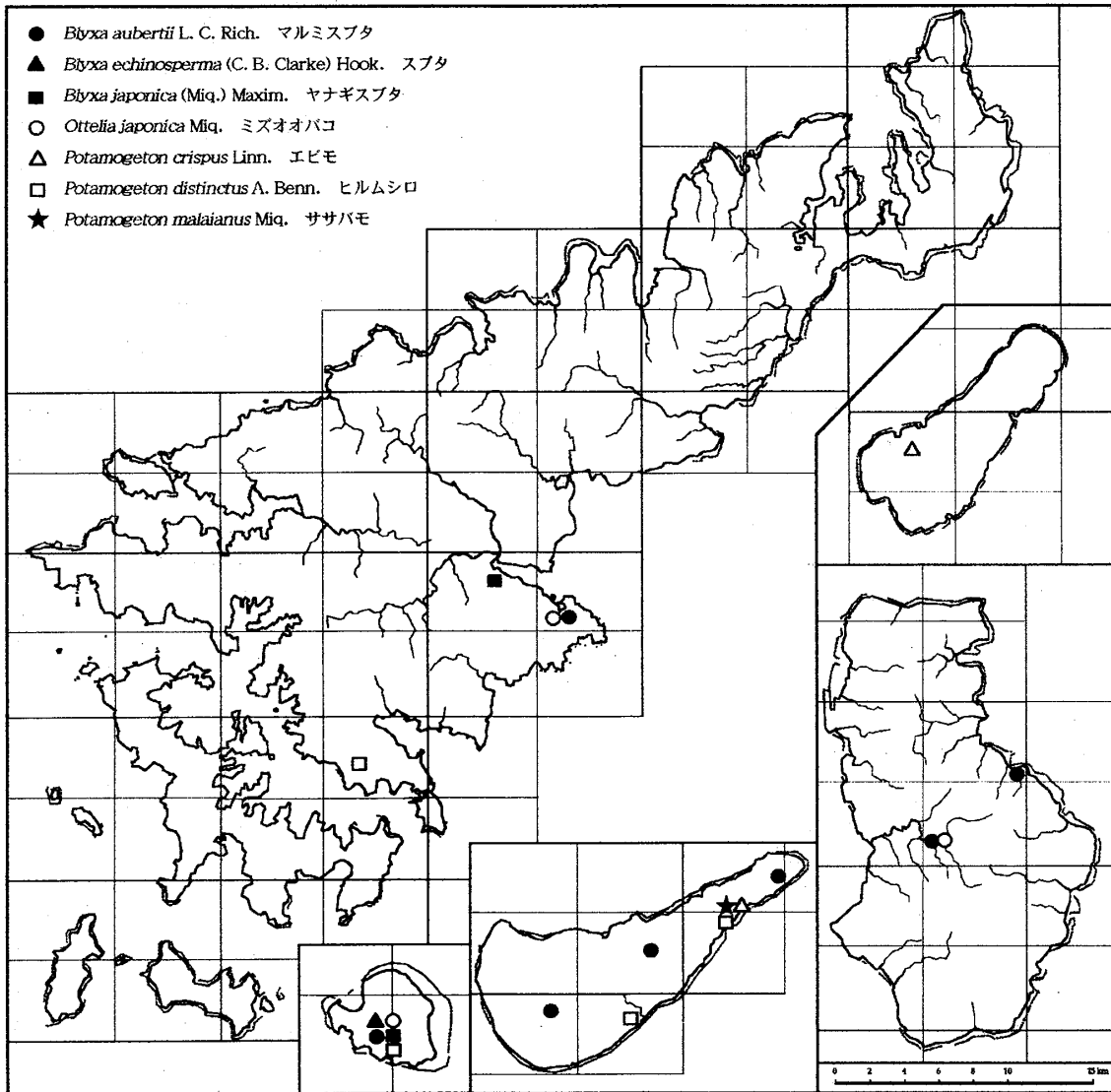
分布地点不明

Viburnum suspensum Lindl. ゴモジュ Amamioshima, Jan. 4, 1938, T. Naito s.n.; Amamioshima, April 15, 1956, H. Ohno s.n.; Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23685

Viburnum tashiroi Nakai オオシマガマズミ Tokunoshima, Nov. 24, 1968, M. Tabata s.n.

付図 29 スイカズラ科植物の分布

台湾から南西諸島中・南部に知られるタイワンツクバネウツギは以前には奄美大島西南部に2ヶ所の産地が知られていたが、その一つ今里集団は乱採のため絶滅し、曾津高崎集団も著しく個体数を減少させ、絶滅寸前である。ヒメスイカズラは南西諸島中・南部に固有で、奄美群島では徳之島鹿浦に生育しているが、分布地点が限定され、個体数も少ない。ゴモジュも南西諸島中・南部に固有で、奄美群島では奄美大島、喜界島、徳之島に分布する。オオシマガマズミは奄美群島の固有種で、奄美大島と徳之島に知られる。分布は散在的である。



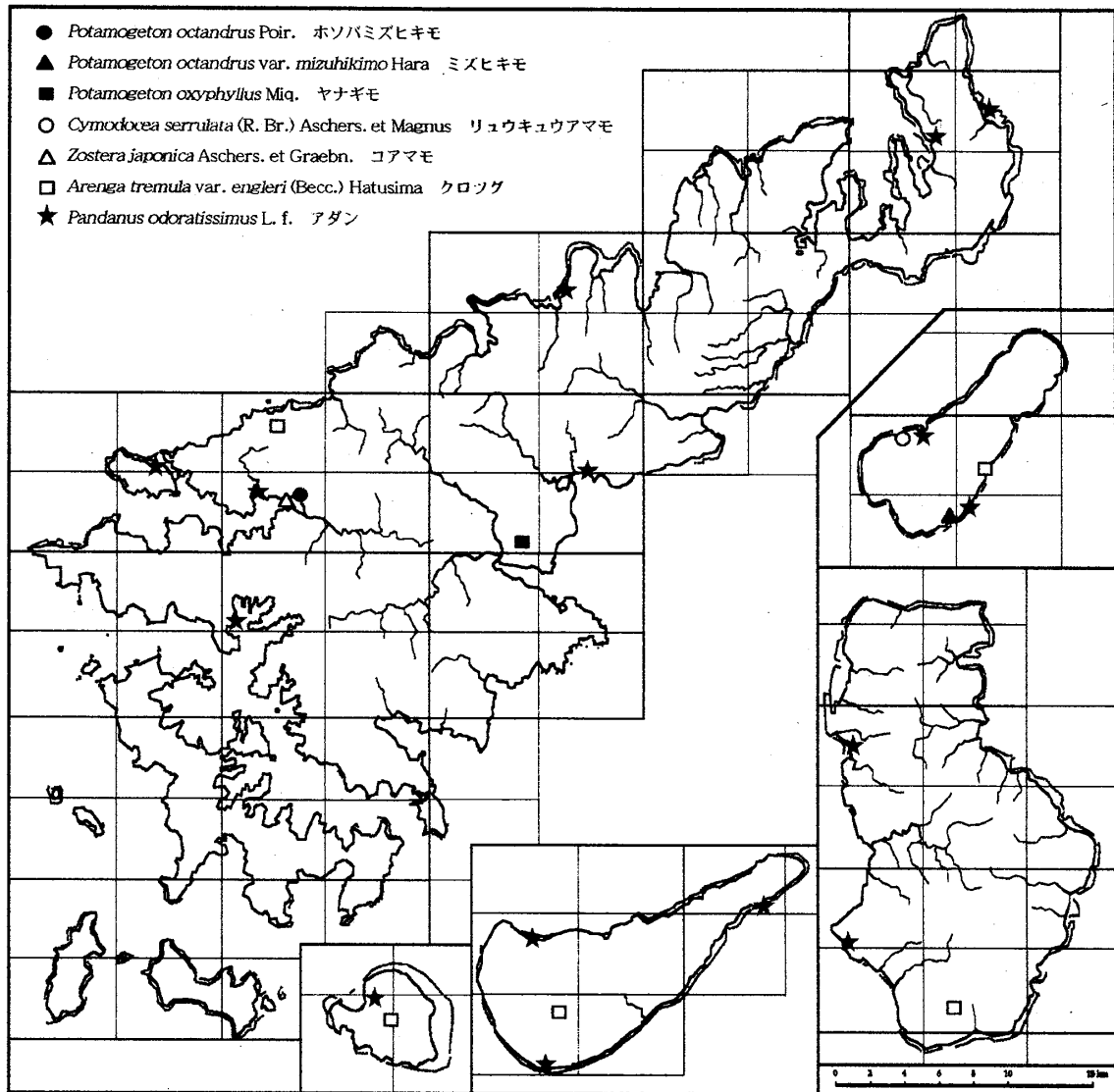
分布地点不明

Potamogeton crispus Linn. エビモ Okierabu (1977, 1987)

Potamogeton malaiianus Miq. ササバモ Okierabu (1956, 1987)

付図 30 トチカガミ科, ヒルムシロ科植物の分布

ここに分布地点を示した植物は全て水生植物である。奄美大島と徳之島の川は急流河川で、ほとんど池が無く、河口域に見られる水田地帯にマルミスブタ、スブタ、ヤナギスブタ、ミズオオバコなどが分布する。いずれも旧世界の熱帯から温帯域に広く分布する種ではあるが奄美群島では個体数も集団数も少なく、生育地は不安定な環境である。エビモ、ヒルムシロ、ササバモが分布していた沖永良部島北部の池は、現状が不明であるし、多くの水生植物が集中していた与論島西南部の湿地は破壊されて残されていない。奄美群島の水生植物についてはさらに調査研究を進める必要がある。

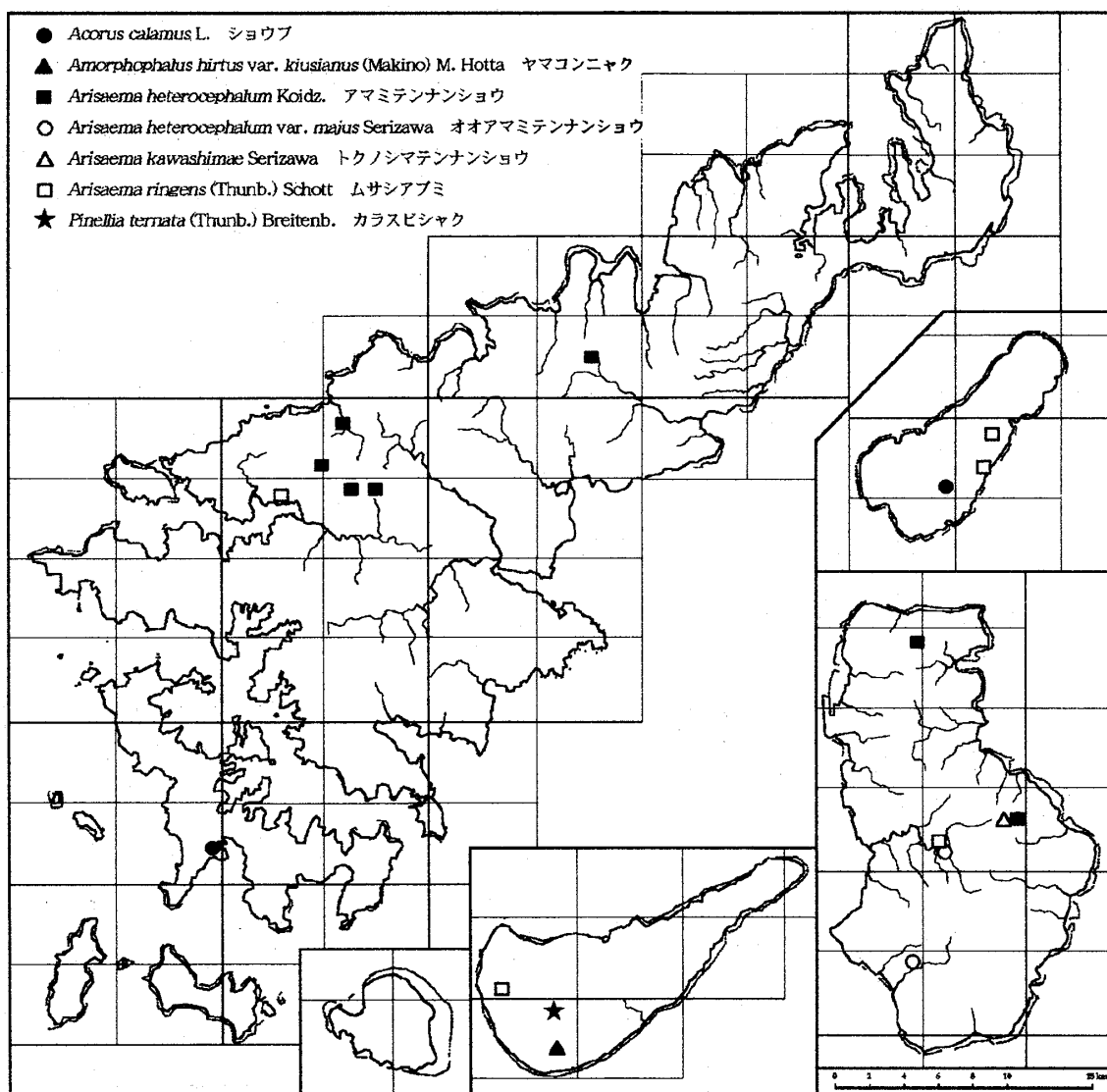


分布地点不明

Ruppia maritima Linn. カワツルモ Uken-son (1986)

付図 31 ヒルムシロ科, アマモ科, ヤシ科, タコノキ科植物の分布

ホソバミズヒキモ, ミズヒキモ, ヤナギモは中国大陸から日本列島にかけて分布している。カワツルモは北海道から南西諸島に分布するとされている。いずれも奄美群島では稀産種である。奄美群島での海産被子植物相の調査も不十分で、リュウキュウアマモとコアマモが知られているが、どちらも1地点である。実際はもう少し普通な分布をしていると考えられる。リュウキュウアマモは中国から南西諸島域に分布するが、今の所奄美群島が北限である。クロツグは台湾からトカラ列島南部にかけて分布する準固有種である。アダンは太平洋諸島からマレーシア熱帯, 南西諸島にかけての海岸にごく普通な種であるが、トカラ列島口之島が北限分布地である。分布地点を標本で確認された産地に限ったので、少ないように見られるが、奄美群島では普通種である。しかし海岸の道路工事や護岸工事で多くの集団が失われてきたのは残念なことである。



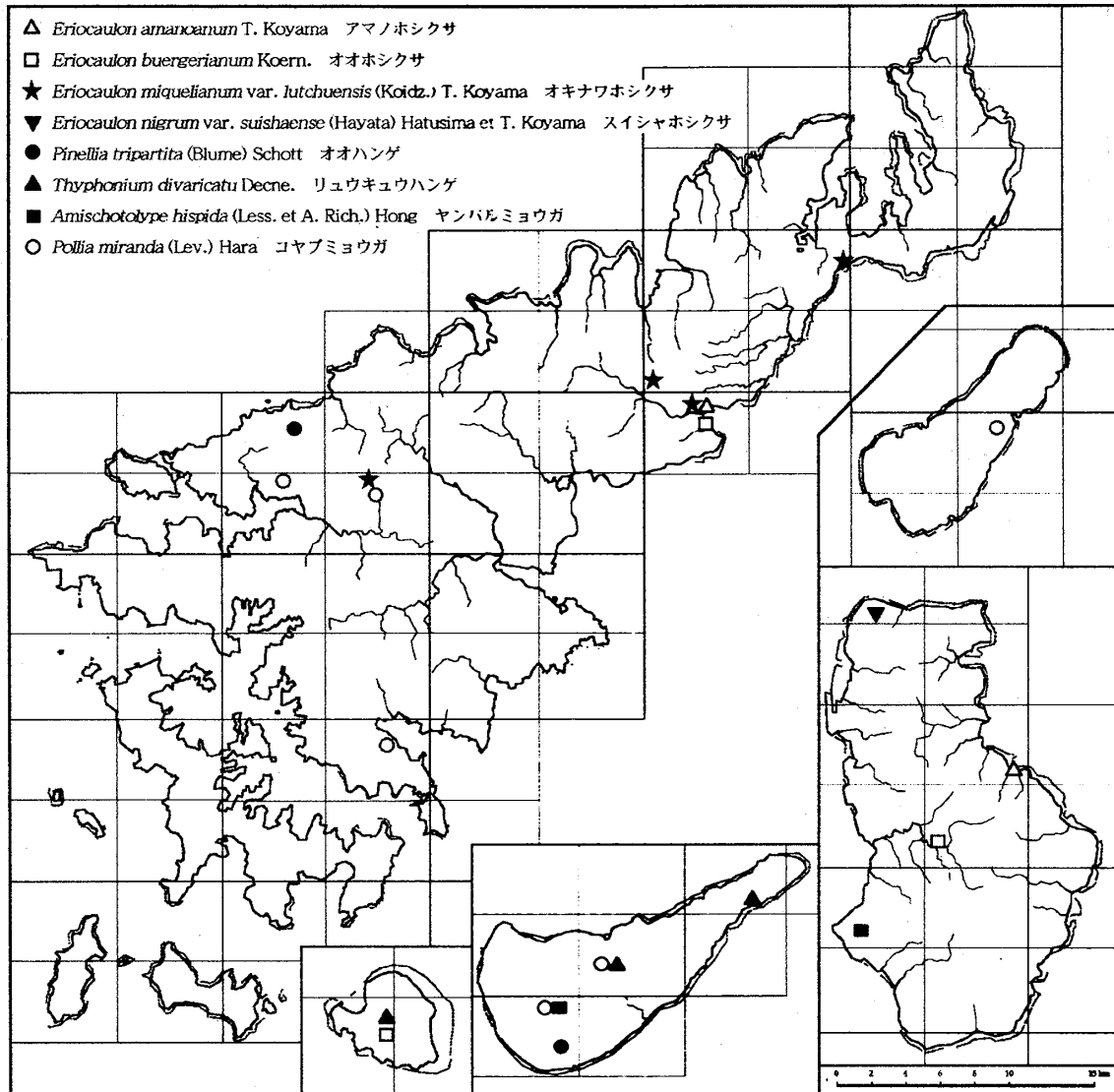
分布地点不明

Amorphophalus hirtus var. *kiusianus* (Makino) M. Hotta ヤマコンニャク Okierabu, 1969, K. Kasuga s.n.

付図 32 サトイモ科植物の分布

ショウブは北半球温帯域に広く分布しているが、奄美群島に見られるのは東南アジア熱帯に見られる葉の幅が狭く、植物体は小型な系統である。種としては台湾から四国に分布するヤマコンニャクは奄美群島ではごく少ないし、それが九州南部の系統なのか、台湾系の系統なのか、それとも固有な物なのかは残された問題である。アマミテンナンショウは奄美大島と徳之島に、オオアマミテンナンショウは徳之島に固有で、近縁種が中国大陸南部に知られ、著しい隔離分布を示す。トクノシマテンナンショウは徳之島の固有種で産地は局限されている。ムサシアブミは台湾から本州西南部にまで広く分布し、南西諸島でも稀ではない。この仏炎ほうが特異な形になる種は、南西諸島で進化し、その後分布域を拡げたと推定される。カラスビシャクは、以前は見かけたといわれるが、標本で分布が確認できたのは沖永良部島に1ヶ所だけである。現状は不明な種の一つである。

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



分布地点不明

Pinellia tripartita (Blume) Schott オオハンゲ Kikai

Thyphonium divaricatu Decne. リュウキュウハンゲ Tatugo, May 5, 1955. H. Ohno 22

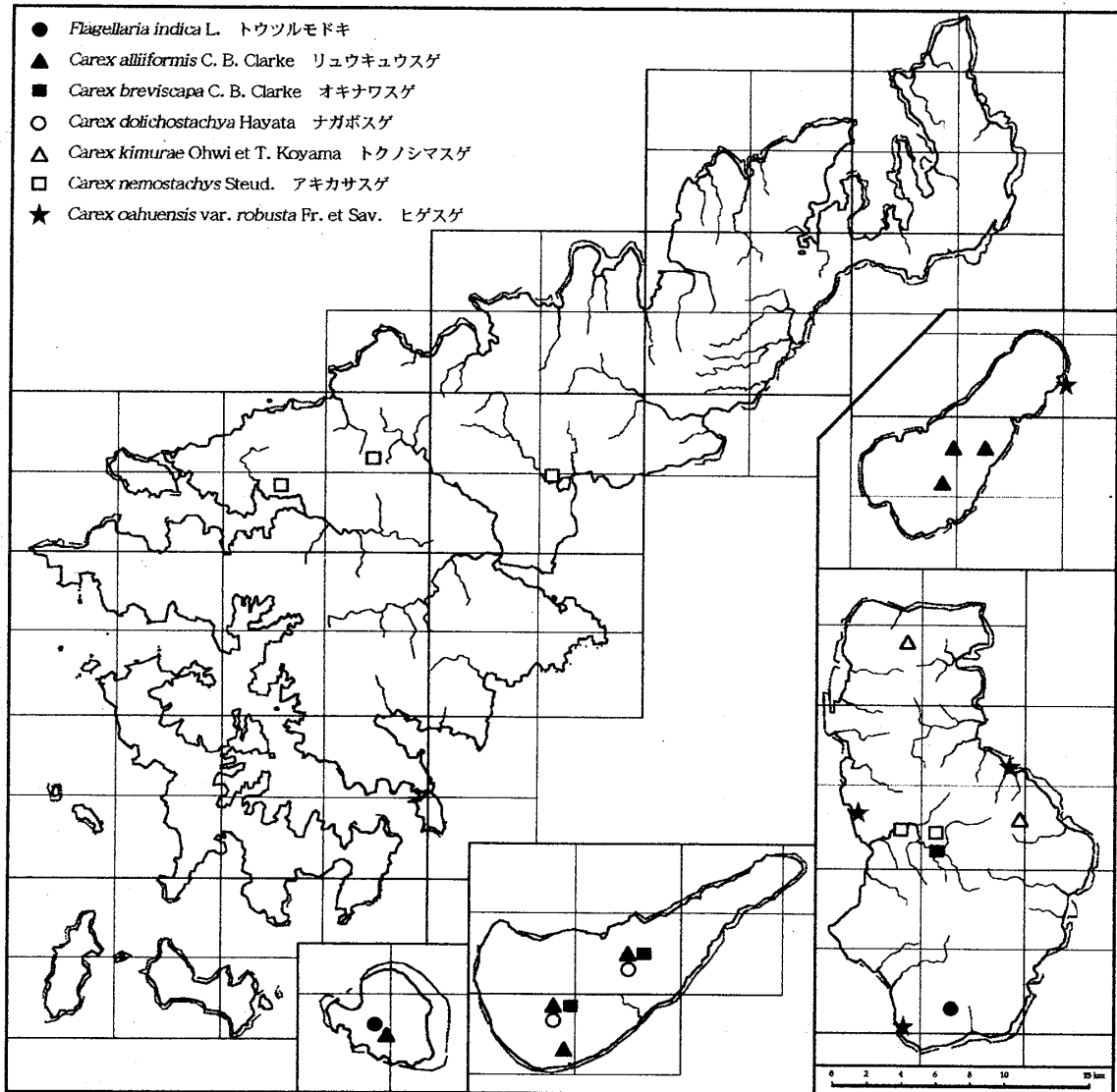
Amischotolype hispida (Less. et A. Rich.) Hong ヤンバルミョウガ Amamioshima, Jan. 4, 1938. T. Naito s.n.; Okierabu, 1968. K. Kasuga s.n.

Pollia miranda (Lev.) Hara コヤブミョウガ Amamioshima, Aug. 10, 1927. T. Naito s.n.; Tokunoshima, 1970. M. Tabata s.n.; Okierabu, Dec. 1969. K. Kasuga s.n.

Eriocaulon amanoanum T. Kovama アマノホシクサ Tokunoshima, Nov. 1970. M. Tabata s.n.

付図 33 ホシクサ科，サトイモ科，ツユクサ科植物の分布

アマノホシクサは九州南部と南西諸島中部に、オオホシクサは中国大陸から近畿地方にまで分布するが南西諸島では中部地域にだけ、スイシャホシクサは台湾から徳之島（1ヶ所だけ、現状不明）にそれぞれ分布している。オオハンゲは本州中部から沖縄まで分布するが、奄美群島では稀である。リュウキュウハンゲはインドや東南アジア熱帯から九州南部にまで分布し、やはり多いものではない。ヤンバルミョウガは中国南部から徳之島（北限）にかけて分布し、コヤブミョウガはマレーシア熱帯から九州南部にかけて分布している。前種の分布地点は少ない。



分布地点不明

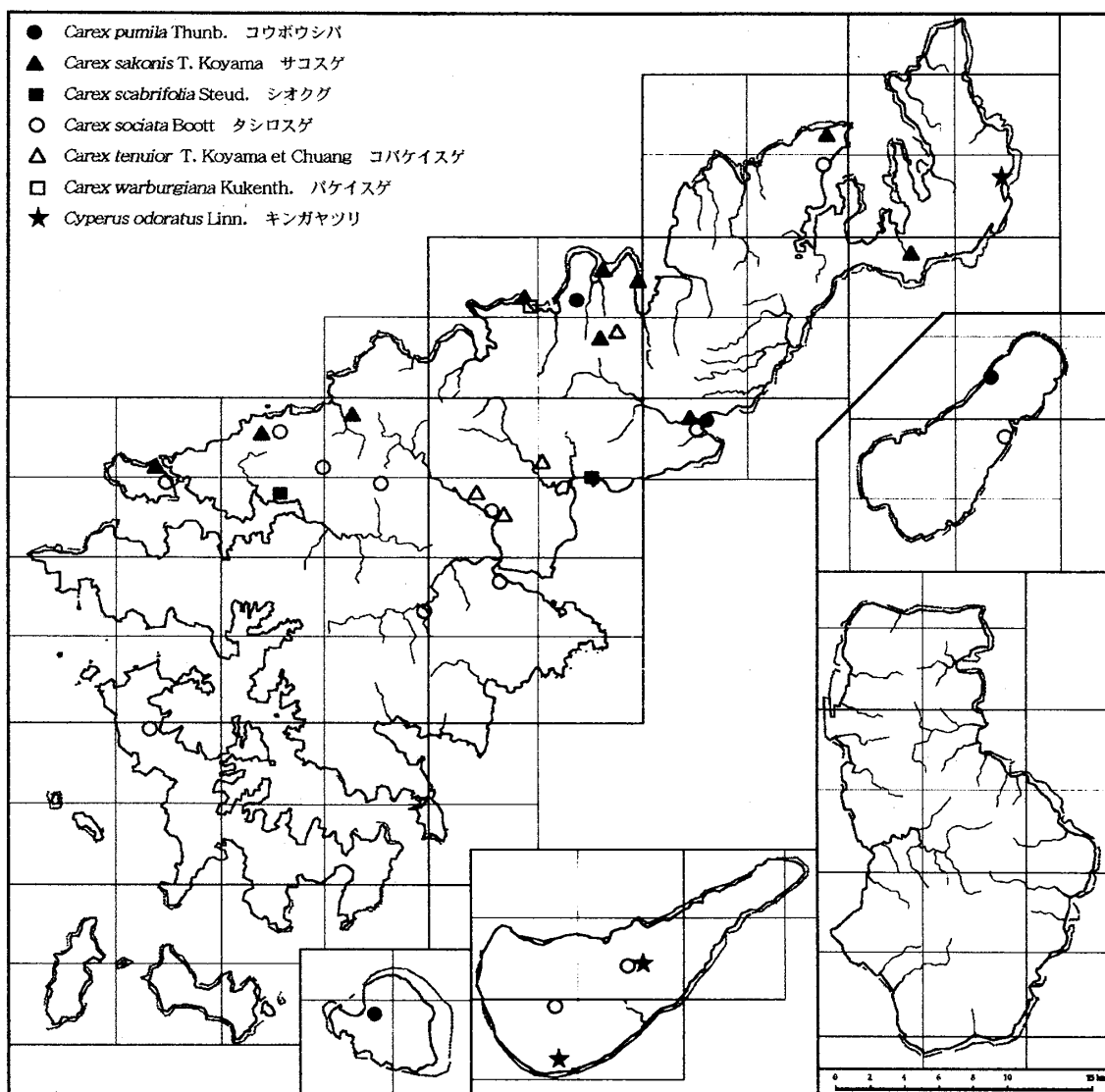
Flagellaria indica L. トウツルモドキ Tokunoshima, Aug. 16, 1927, Y. Hosoyamada s.n.; Amagimura, Tokunoshima, Aug. 16, 1927, Hosoyamada s.n.

Carex alliiformis C. B. Clarke リュウキュウスゲ Amamiyoshima, Aug. 6, 1921, K. Uehara s.n.; Amamiyoshima, Aug. 14, 1915, Kawagoe s.n.; Amata, Okierabu, March 16, 1958, Sako Hatusima 21379

Carex oahuensis var. *robusta* Fr. et Sav. ヒゲスゲ Kikai

付図 34 トウツルモドキ科, カヤツリグサ科植物の分布

トウツルモドキは東南アジア熱帯からトカラ列島宝島まで広く分布するが、奄美群島では与論島と徳之島に見られる。スゲ類は亜寒帯から温帯地域で多くの種が知られるが、南西諸島には南西諸島には南方系のスゲが幾つも見られる。リュウキュウスゲはインドから奄美大島にかけてと南九州に、オキナワスゲはオーストラリアから徳之島に、ナガボスゲは台湾から沖永良部島に分布する。トクノシマスゲは徳之島の天城岳と井之川岳に見られる固有種である。アキカサスゲは本州近畿地方から南西諸島、台湾、インドに広く分布するが、溪流沿いを生育場所とする特異なスゲである。ヒゲスゲも関東地方から南西諸島や台湾に広く分布するが海岸岩場を生育場所とする変わったスゲである。



分布地点不明

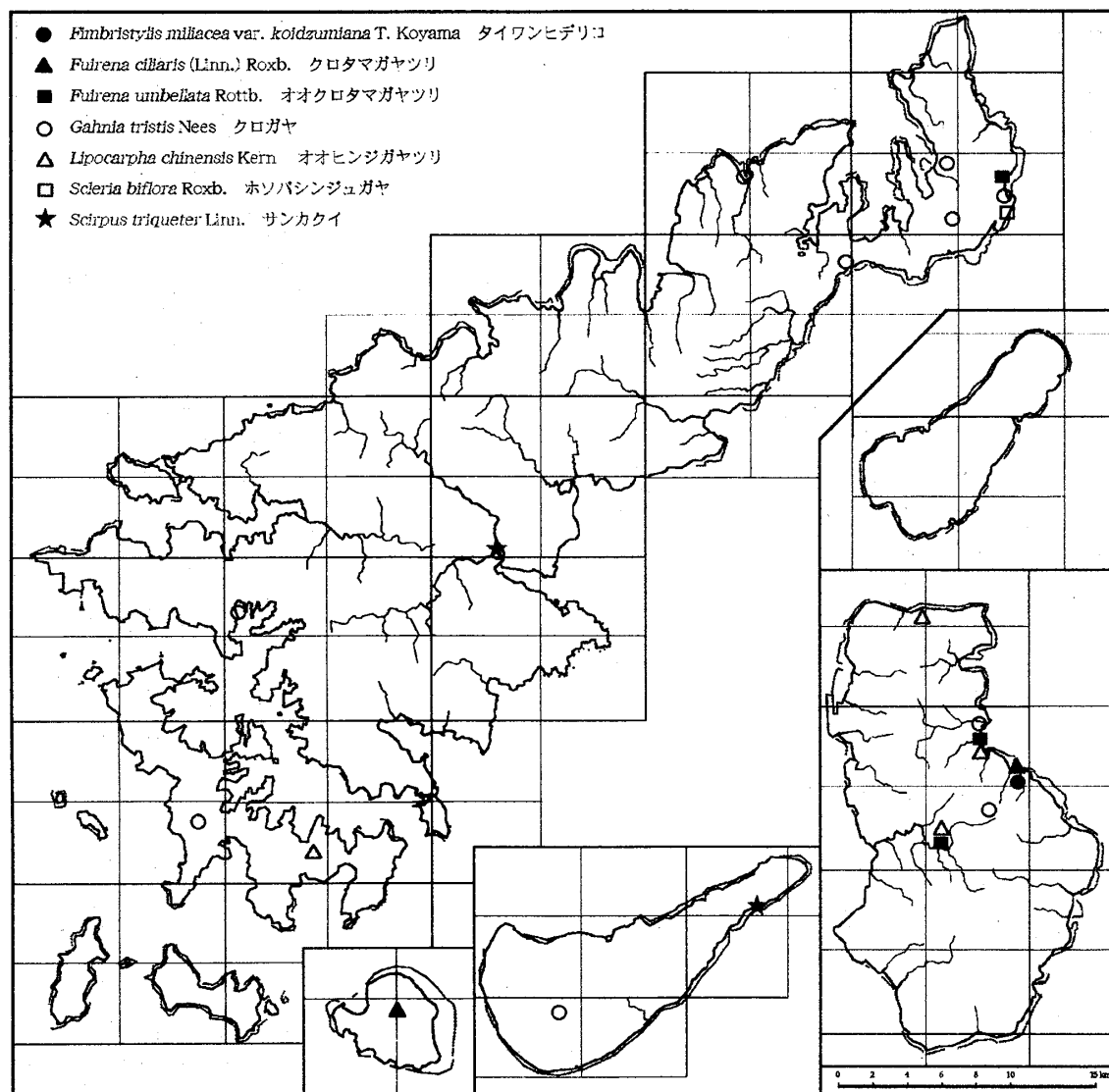
Carex sakonis T. Koyama サコスゲ Amami-ohshima, 1955. H. Ohno 23

Carex sociata Boott タシロスゲ Tatsugo; Naze; Kasari; Okierabu

Cyperus odoratus Linn. キンガヤツリ Kikai, April 1-3, Hatusima & Sako 23601; Tokunoshima, Aug. 3, 1967, Hatusima & Sako 3104; Okierabu, 1969. K. Kasuga s.n.

付図 35 カヤツリグサ科植物の分布—2

コウボウシバは東北アジアからニュージーランドや南米チリと広く分布しているが、奄美群島では稀な種である。サコスゲは南西諸島中部に固有、シオクグは台湾から北海道に広く分布するが奄美群島では稀である。タシロスゲは四国から台湾にかけて分布し奄美大島、喜界島、沖永良部島に散在的に分布している。コバケイスゲは奄美大島に固有、バケイスゲは四国から台湾にかけて分布するが、奄美群島では奄美大島に1ヶ所から知られているのみである。キンガヤツリは広く熱帯地域に分布するカヤツリグサであるが、南西諸島では奄美群島が北限となっている（房総半島に飛び石的に分布）。



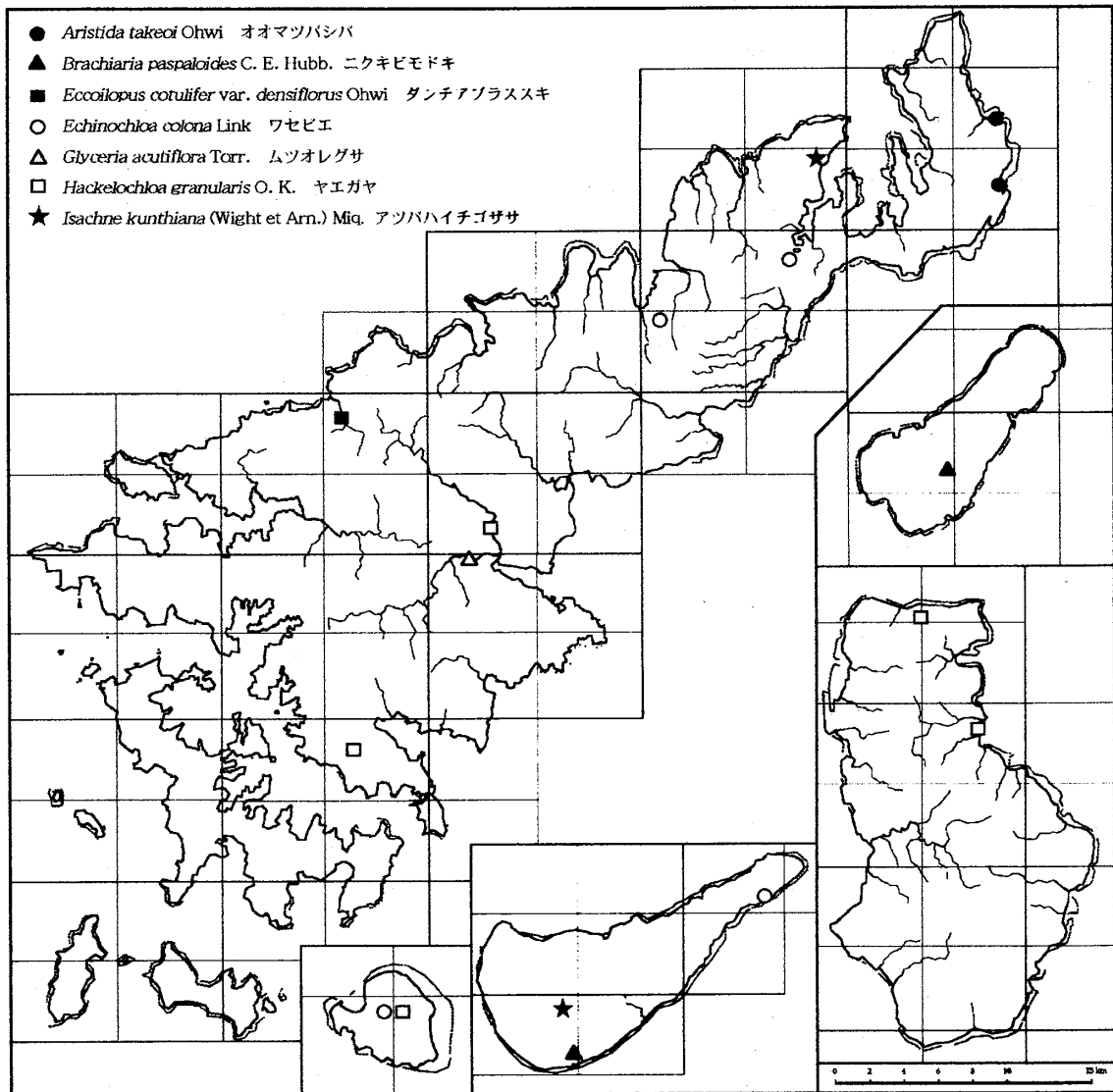
分布地点不明

Fulrena umbellata Rottb. オオクロタマガヤツリ Amami-ohshima, Aug. 7, 1921, K. Uehara s.n.; Tokunoshima, Nov. 24, 1963, M. Tabata s.n.

付図 36 カヤツリグサ植物の分布—3

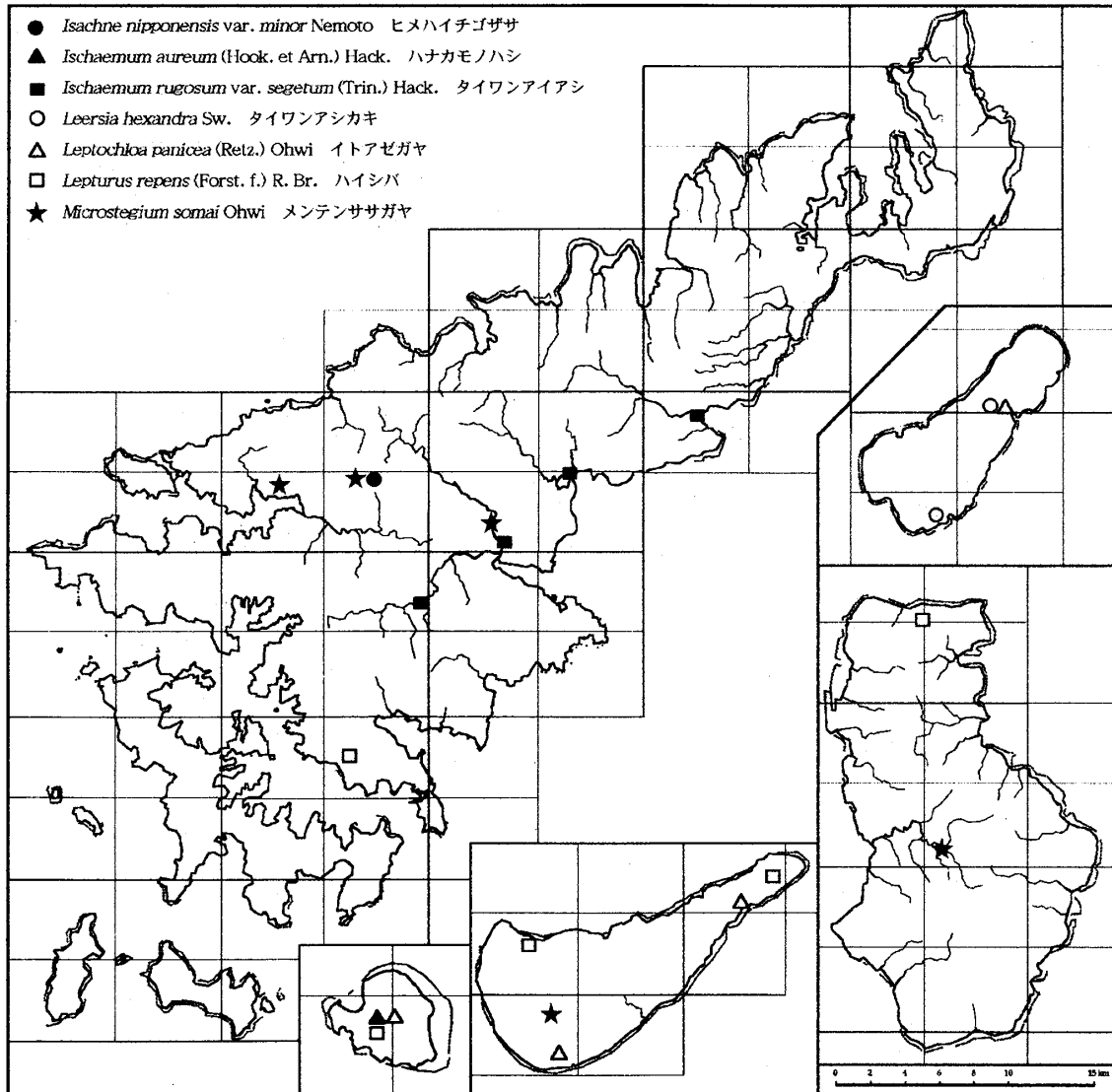
タイワンヒデリコはミクロネシアからインドにかけて広く分布するがトカラ列島が北限となる。クロタマガヤツリは旧熱帯に広く分布するがトカラ列島宝島が北限であり、オオクロタマガヤツリも旧熱帯に広く分布するが本州関東地方が北限である。クロガヤはマレーシア熱帯から南西諸島域まで北上するが、奄美大島が北限分布地となる。オオヒンジガヤツリは旧熱帯に広く分布するが奄美大島が北限となる。ホソバシンジュガヤはマレーシア熱帯から南西諸島域に分布するが、北限産地（群島内の唯一の生育地点）の奄美大島笠利の生育地は失われた。サンカクイは北半球温帯からマレーシア熱帯にまでに広く分布するが、奄美群島での生育地はごく僅かであるし、現状は不明である。

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域（資料）



付図 37 イネ科植物の分布—1

オオマツバシバは南西諸島中部に固有で、奄美大島の古い標本や徳之島の記録はあるが、最近では採集されていない。ニクキビモドキはマレーシア熱帯から南西諸島にまで分布していて喜界島や沖永良部島に分布する。奄美大島と与論島から記録されるが、標本はない。ダンチアブラススキは南西諸島中・南部に固有で奄美大島に見られる。ワセビエは熱帯域に広く分布し、トカラ列島宝島が北限とされている。ムツオレグサは温帯系の種であるが、屋久島から飛び離れて奄美大島で一度採集されている。ヤエガヤは中国大陸南部や台湾からトカラ列島まで分布し、奄美群島は各島に見られる。アツパハイチゴザサ中国大陸南部や台湾から奄美群島域にまで分布しているが、産地は少ない。

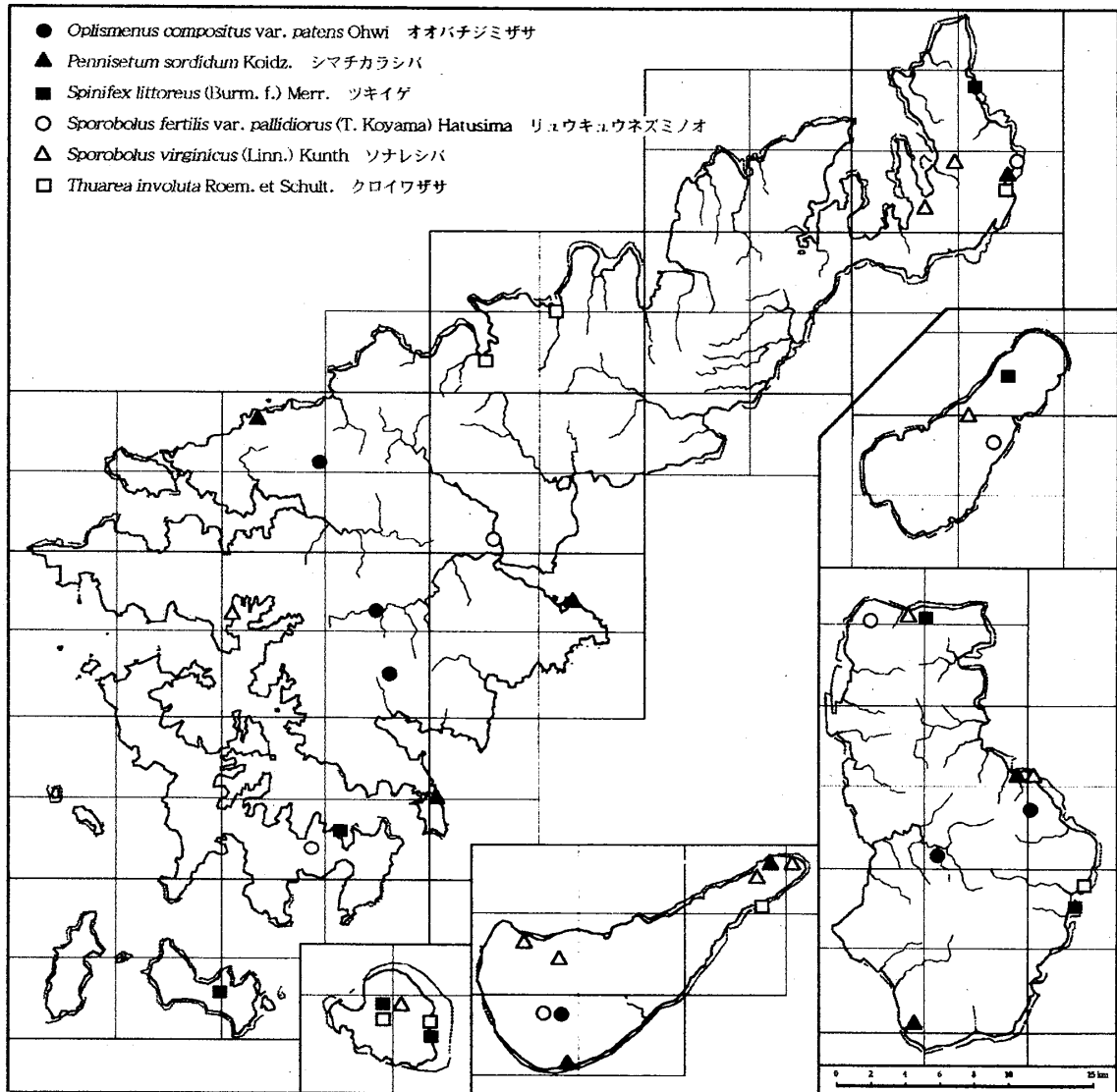


分布地点不明

Isachne nipponensis var. *minor* Nemoto ヒメハイチゴザサ Kikai, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 23630; Okierabu, 1969, K. Kasuga s.n.
Leptochloa panicea (Retz.) Ohwi イトアゼガヤ Amami-ohshima, S. Kawagoe s.n.; Chinzei-mura, Sept. 1, 1921, K. Uehara 19446; Nase, July 26, 1955, H. Ohno 71; Amami-ohshima, Oct. 10, 1956, Hatusima 2398
Lepturus repens (Forst. f.) R. Br. ハイシバ Okierabu, July 30, 1967, Hatusima 30986 Okierabu, Jan. 1956, T. Tojyou s.n.; Okierabu, March 16, 1958, Hatusima & Sako 21315; Okierabu, March 19, 1958, Hatusima & Sako 2168

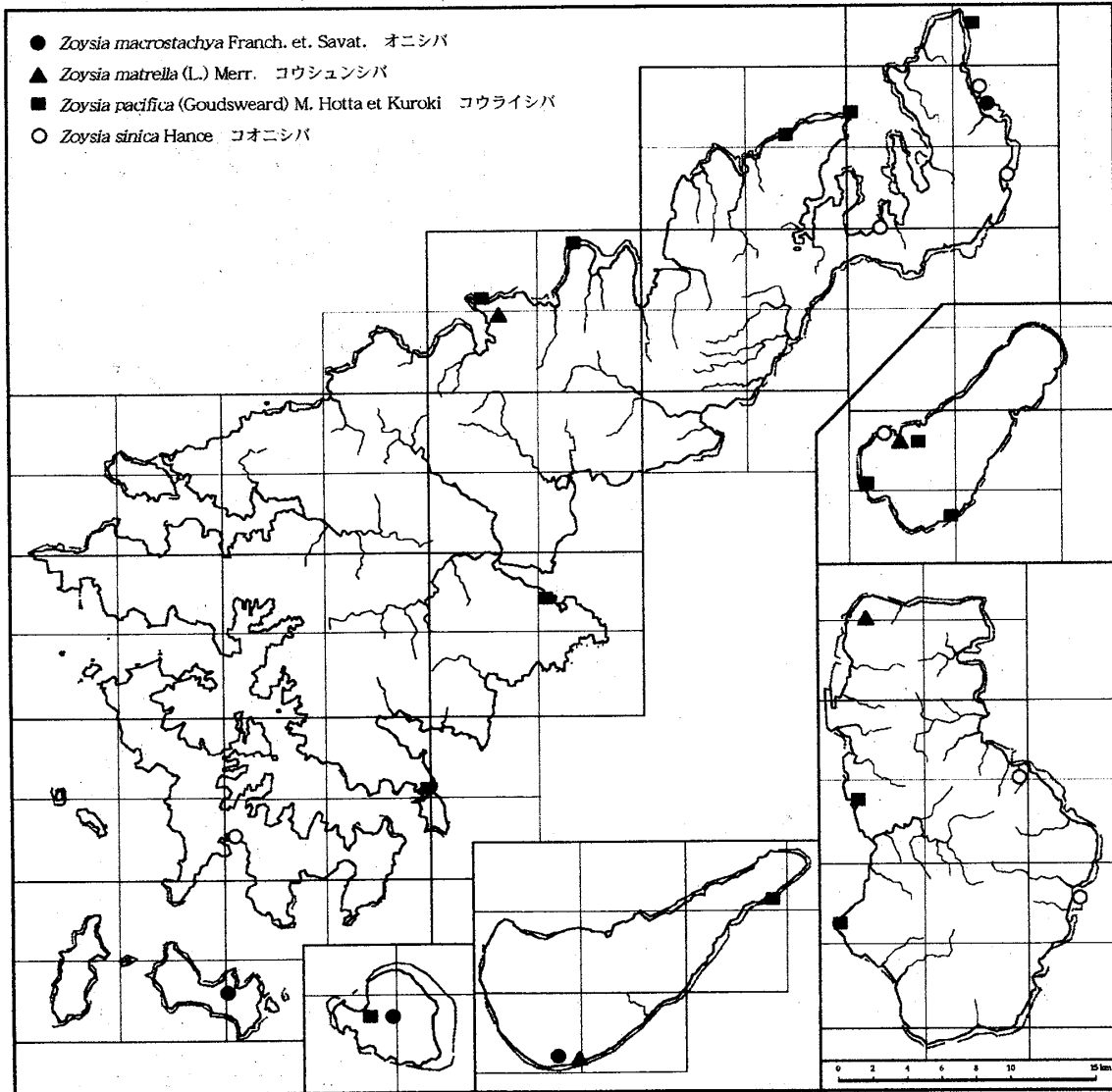
付図 38 イネ科植物の分布—2

ヒメハイチゴザサは屋久島高地と奄美大島湯湾岳に知られ、高隈山からも報告されている。ハナカモノハシは南西諸島固有で、北限はトカラ列島宝島である。タイワンアイアシはフィリピンから奄美地域にかけて分布する。タイワンアシカキは熱帯地域に広く分布し、奄美群島が北限となる。イトアゼガヤは中国大陸南部や台湾からトカラ列島宝島にかけて分布し、種子島や長崎からも知られる。ハイシバも中国大陸南部や台湾から九州南部にかけて分布している。メンテンササガヤも中国大陸南部や台湾からトカラ列島にかけて分布する。



付図 39 イネ科植物の分布—3

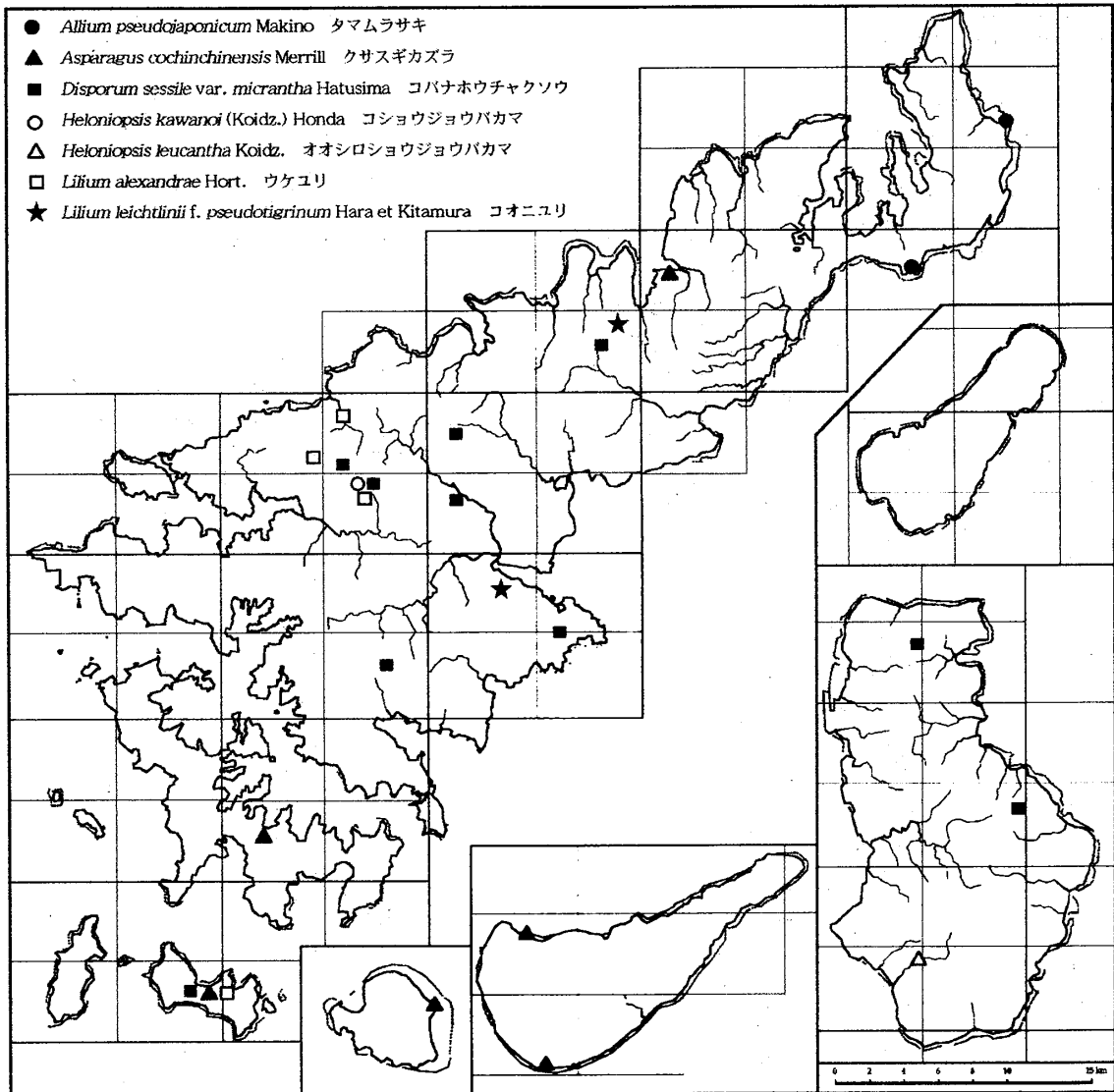
ここにあげた種の多くは海岸を生活領域とする南方系の植物である。オオバチジミザサは九州南部から南西諸島域に固有である。シマチカラシバも南西諸島中部から九州南部に分布する固有的な種で、小笠原諸島にも知られている。ツキイゲは中国大陸南部や台湾から種子島にかけて分布する。リュウキュウネズミノオは南西諸島東部固有変種で、トカラ列島宝島が北限である。ソナレシバは中国大陸南部から九州南部にかけて分布する。クロイワザサも中国大陸南部から奄美群島域に分布し、宝島からも記録されている。



付図 40 イネ科植物の分布—4

九州南部から南西諸島にかけては日本列島で最も多くのシバ属植物を有している。オニシバは九州南部から南西諸島中部にかけて分布している。コウシュンシバは四国や九州南部からマレーシア熱帯にまで分布している。コウライシバは九州南部から南西諸島，更に中国大陸南部から大平洋諸島に分布する。コオニシバは中国大陸南部から九州にかけて分布する。

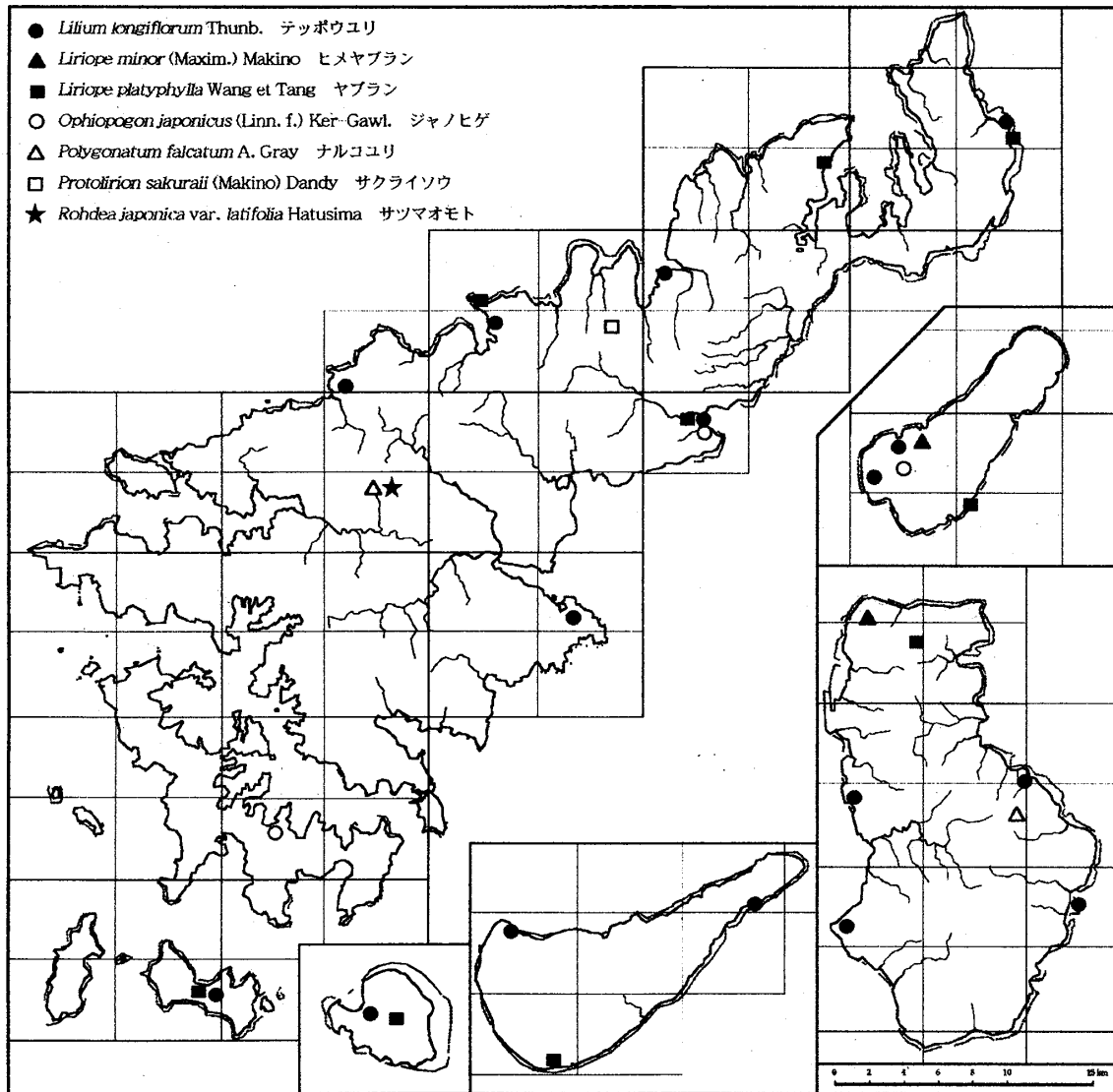
奄美群島からはシバ属植物としてはほかにナガミノオニシバが知られてる。シバは最近大量に九州から緑化用に導入され，本来の野生なのかどうかについては問題が残る。



付図 41 ユリ科植物の分布

タムムラサキはアマミラッキョウとして固有種にされたこともある。九州と奄美大島北部（2カ所）に分布する。クサスギカズラは東南アジアから本州南部にかけ広く分布する。コバナホウチャクソウはトカラ列島と奄美群島の大島と徳之島に固有な変種である。コショウジョウバカマは南西諸島中・南部に固有であるが、奄美大島で1度採集されただけである。湯湾岳に少数個体が生存する。オオシロシヨウジョウバカマも南西諸島中・南部に固有であるが、奄美群島では徳之島に10個体にもならない1集団が知られているだけである。2004年には2個体が確認されただけにまで減少した。

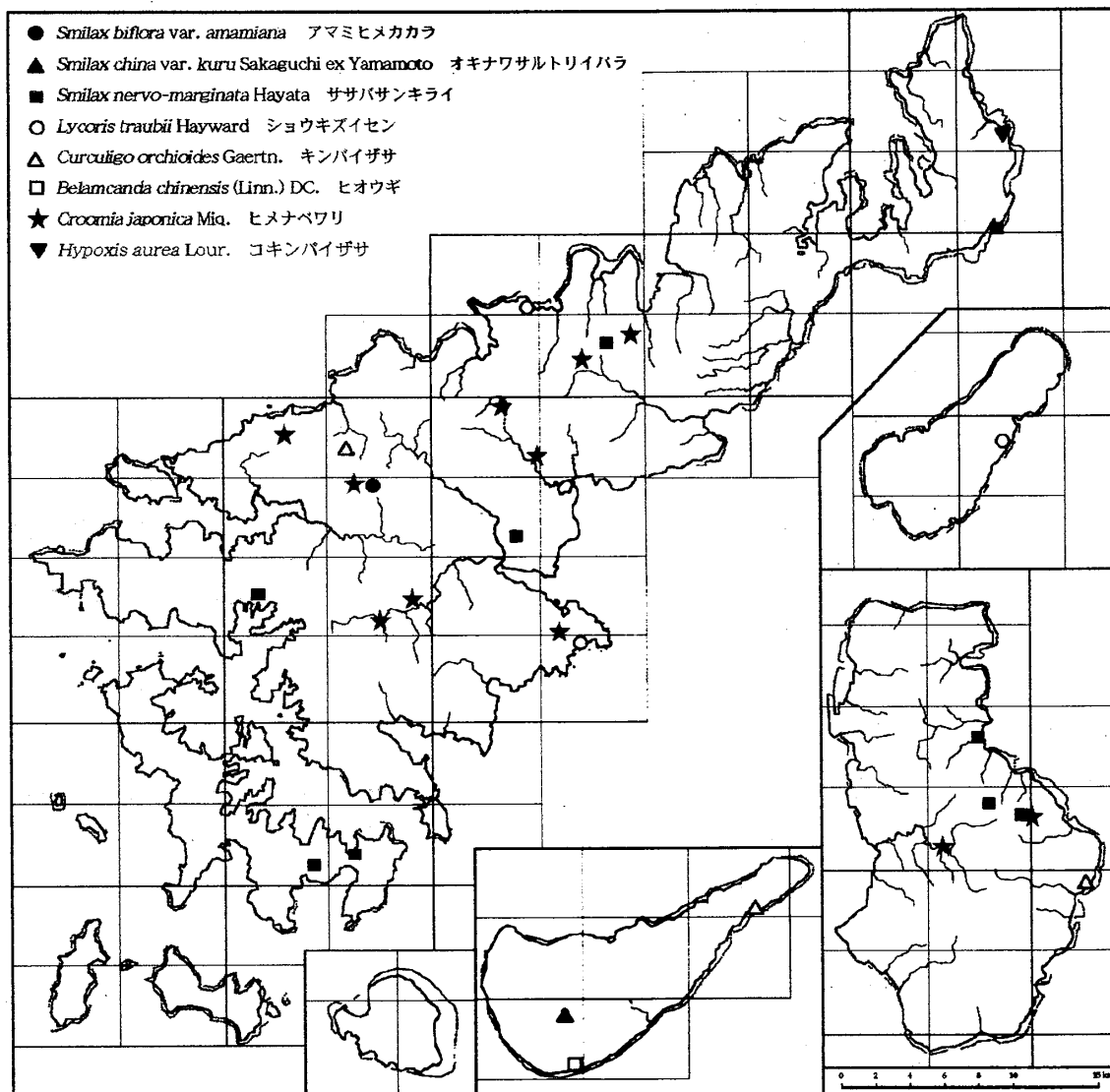
ウケユリは請島のほかに加計路麻島や奄美大島の南部に数カ所の分布地点が知られていたが、その多くは乱採ため失われた。コオニユリは九州南部では普通な種であるが、奄美群島では大島にわずかな産地が知られているだけである。



付図 42 ユリ科植物の分布—2

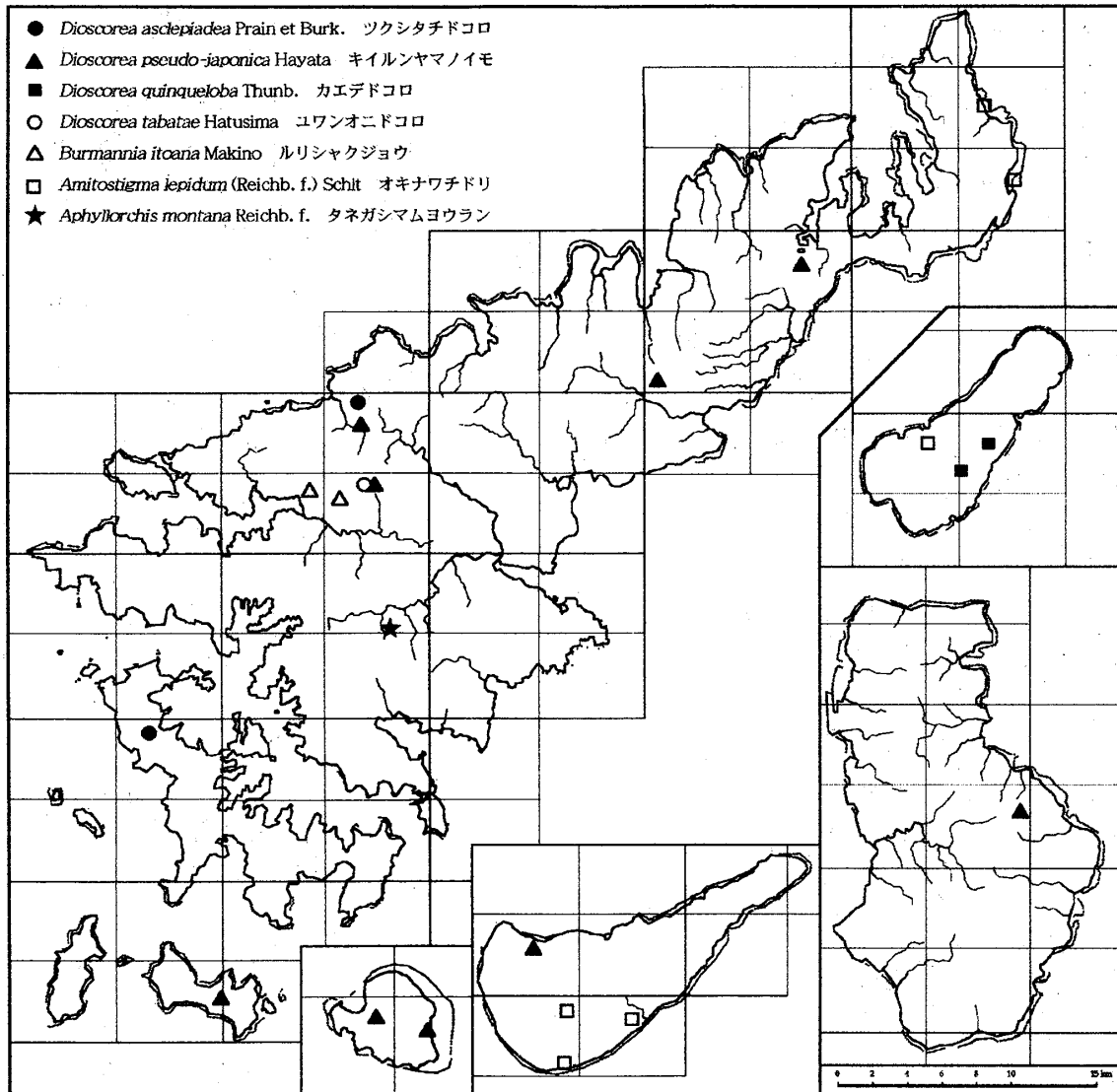
テッポウユリは奄美群島では海岸草原に普通なユリであるが、代表的な南西諸島の固有種である。園芸的にも価値が高い。

ヒメヤブランは南九州から沖縄にかけて分布するが、奄美群島での分布地点はごく少ない。ヤブランは中国大陸から本州にかけて広く分布する種であるが、奄美群島では海岸に主な生育地があり、花が大きく特徴的な地域集団になっている。ジャノヒゲは中国大陸や台湾と日本列島に分布するが、奄美群島の2カ所の分布地点が自然分布なのか、人為的な分布なのかは検討が必要である。本州から南九州にかけて分布するナルコユリは徳之島井之川岳と大島の湯湾岳でそれぞれ1度採集され、その後は見つからない種である。中国大陸から本州に点在的に稀産するサクライソウは奄美大島の金作原から知られている。奄美大島湯湾岳の固有変種サツマオモトは徹底的に採取され、現在生存が確認されているのは2個体だけである。



付図 43 ユリ科, ヒガンバナ科, アヤアメ科, ビャクブ科植物の分布

ここでいうアマミヒメカカラは屋久島高地のヒメカカラに近縁であるが、生育地や葉の形態に違いがあり、奄美固有の変種として扱っておく。オキナワサルトリイバラは中国大陸南部から南西諸島沖永良部島かけて分布するとされるが、奄美大島にも分布しており、サルトリイバラとの関係は検討を必要とする。ササバサンキライは中国大陸南部から奄美群島に分布する。ショウキズイセンは南西諸島中・南部に固有であるが、奄美大島以外に徳之島からも記録されている。キンバイザサはオーストラリアから本州紀伊半島まで広く分布する。ヒオウギもインドから本州にかけて広く分布するが本来の野生か、それとも栽培からの逃げだしか判断が困難なことも多い。ヒメナベワリは本州から屋久島、そして奄美群島には隔離的に分布する。



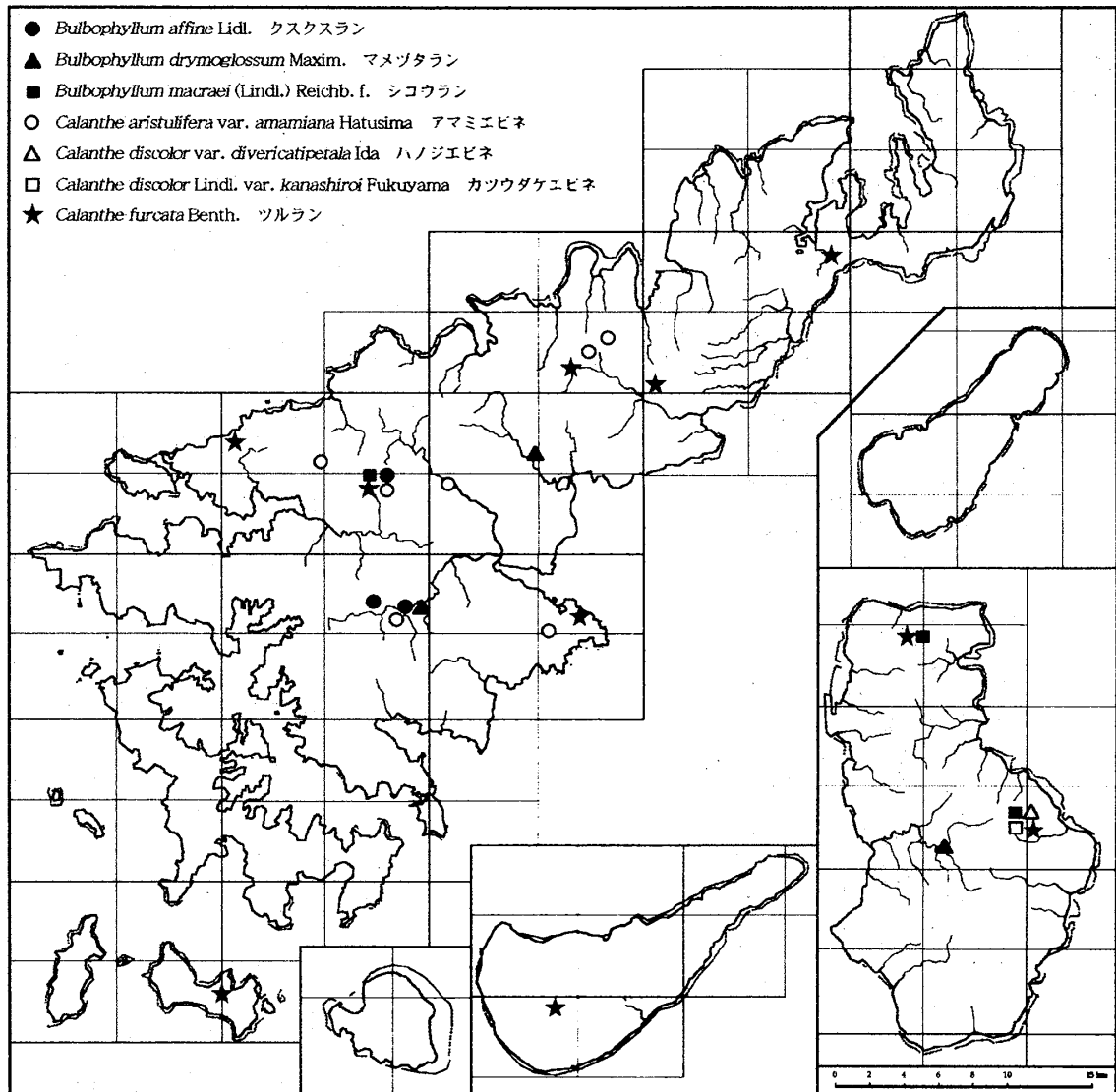
分布地点不明

Dioscorea pseudo-japonica Hayata キイルンヤマノイモ Kakeroma-jima, April 30, 1980, T. Oiji s.n.; Kikai, 50 m, April 1-3, 1959, Hatusima & Sako 2373)

Aphyllorchis montana Reichb. f. タネガシマムヨウラン Amami-ohshima, 1970, M. Tabata s.n.; Kakaeroma-jima, Ohshima, Nov. 10, 1979, T. Oiji s.n.

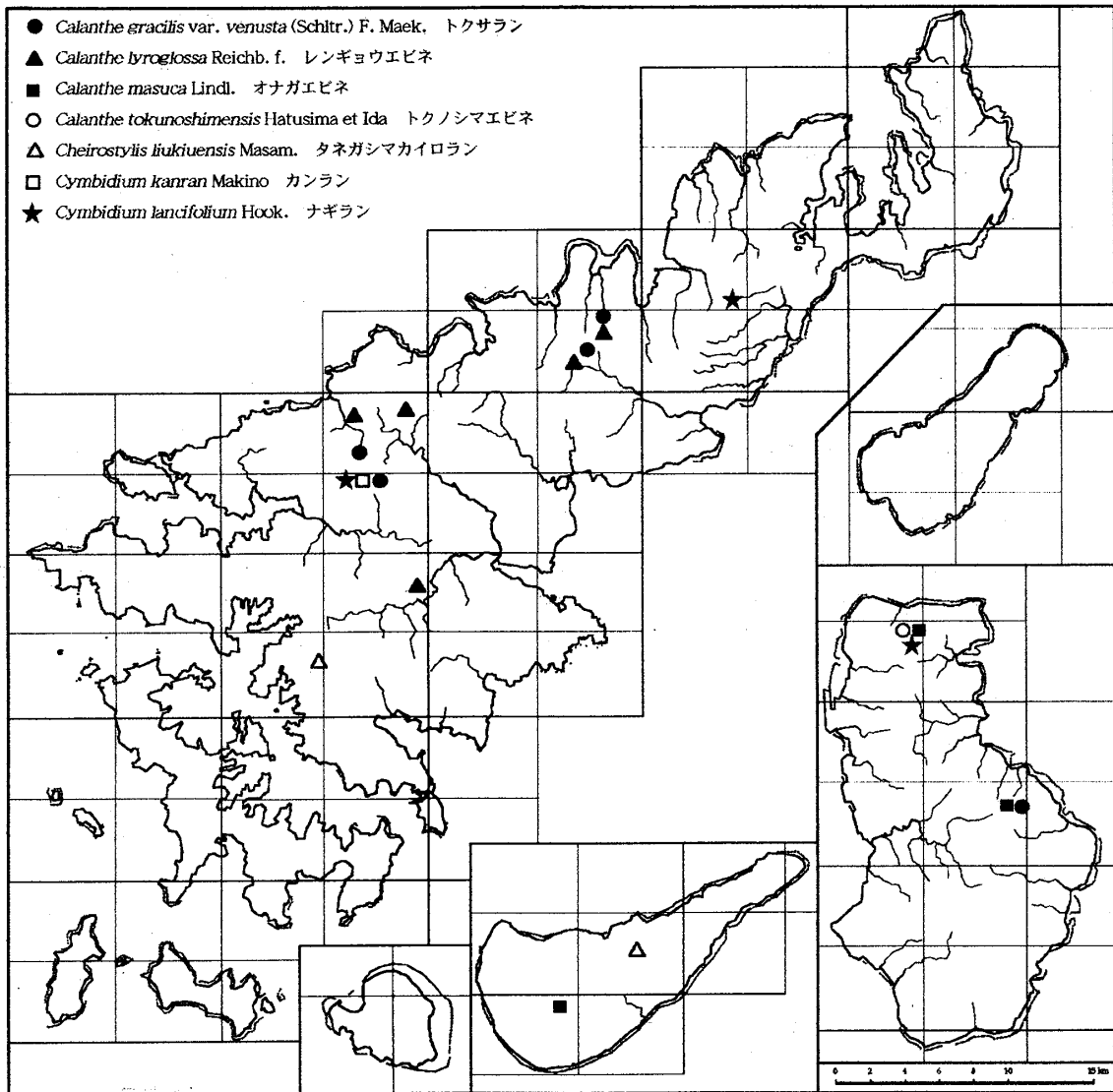
付図 44 ヤマノイモ科, シャクジョウソウ科, ラン科植物の分布

ここでいうツクシタチドコロは、小泉がアマミタチドコロ *Dioscorea zentaroana* としたもので、九州南部に分布するツクシタチドコロとは葉の形態が異なる。キイルンヤマノイモは中国大陸南部からトカラ列島にかけて分布し、カエデドコロは本州から九州南部にかけて分布し、奄美群島の喜界島に隔離分布する。未記載種のユワンオニドコロは奄美大島湯湾岳に固有であるが徳之島井之川岳の「ヤマノイモ」が同じ種かどうかについては検討が必要である。腐生植物であるルリシャクジョウは中国大陸南部から九州南部にかけて分布するが稀である。オキナワチドリは九州南部から南西諸島に固有な可憐な地生ランである。腐生ランのタネガシマムヨウランはインドやフィリッピンから九州南部にかけて分布する。



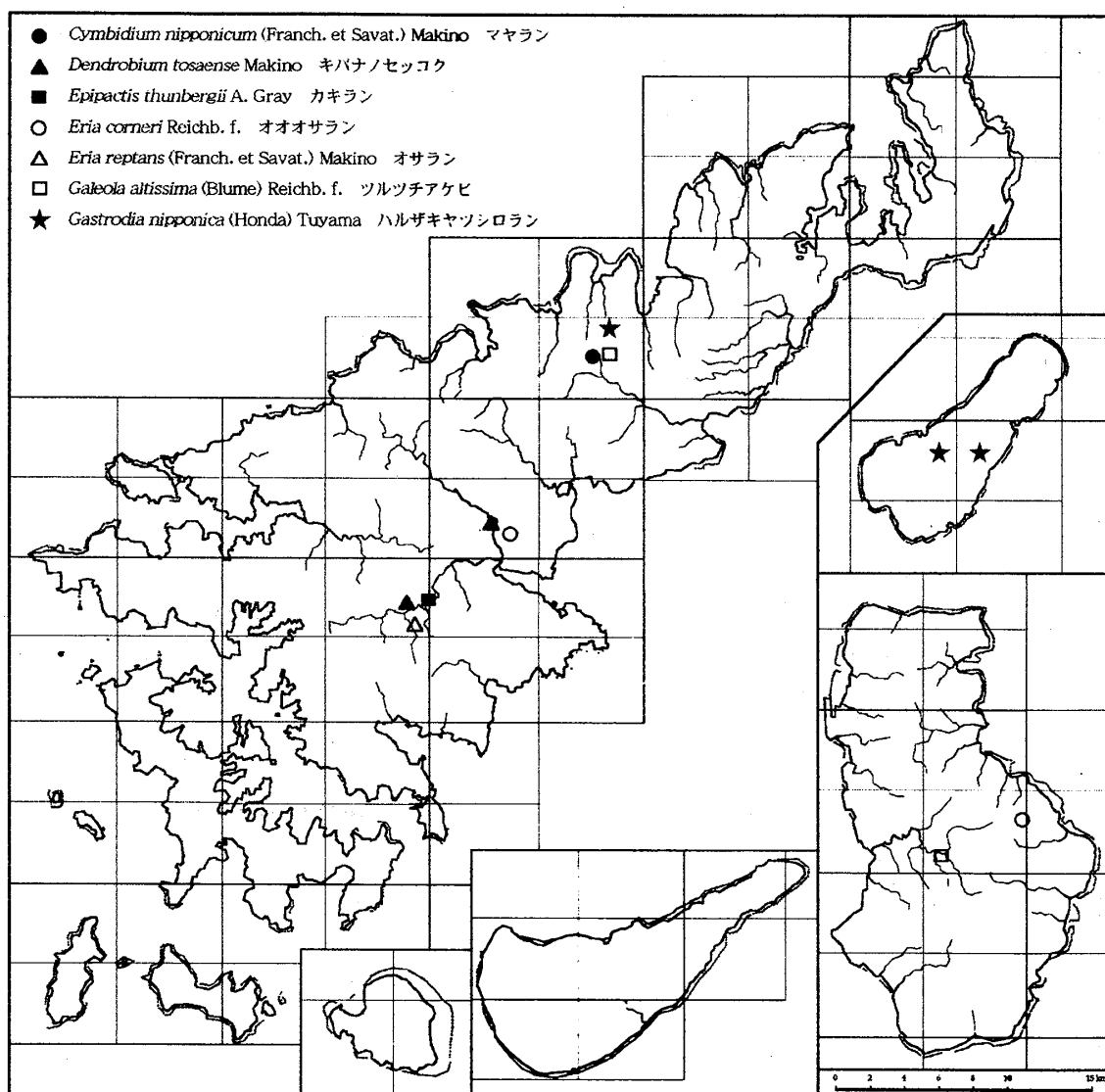
付図 45 ラン科植物の分布—2

着生のクスクスランとシコウランは、どちらもインドから奄美群島にかけて分布するが、個体数も集団数も少ない。採取の対象となり、集団数も個体数も減少している。マメヅタランは中国大陸や南朝鮮から本州関東地方にまで分布する。キリシマエビネの変種アマミエビネは奄美大島固有で、エビネ愛好家の採取で個体数は激減している。エビネの変種とされるハノジエビネとカツウダケエビネは、前者は徳之島に、後者は徳之島と沖縄島に固有分布する。分類学的な検討が必要である。ツルランはオーストラリアやインドから九州南部にかけて広く分布し、やや普通な地生ランであるが、乱採で減少しつつある。奄美群島のエビネ類はヒトが容易に立ち入ることが出来る場所では、採取圧によって壊滅的に個体数を減少させている。



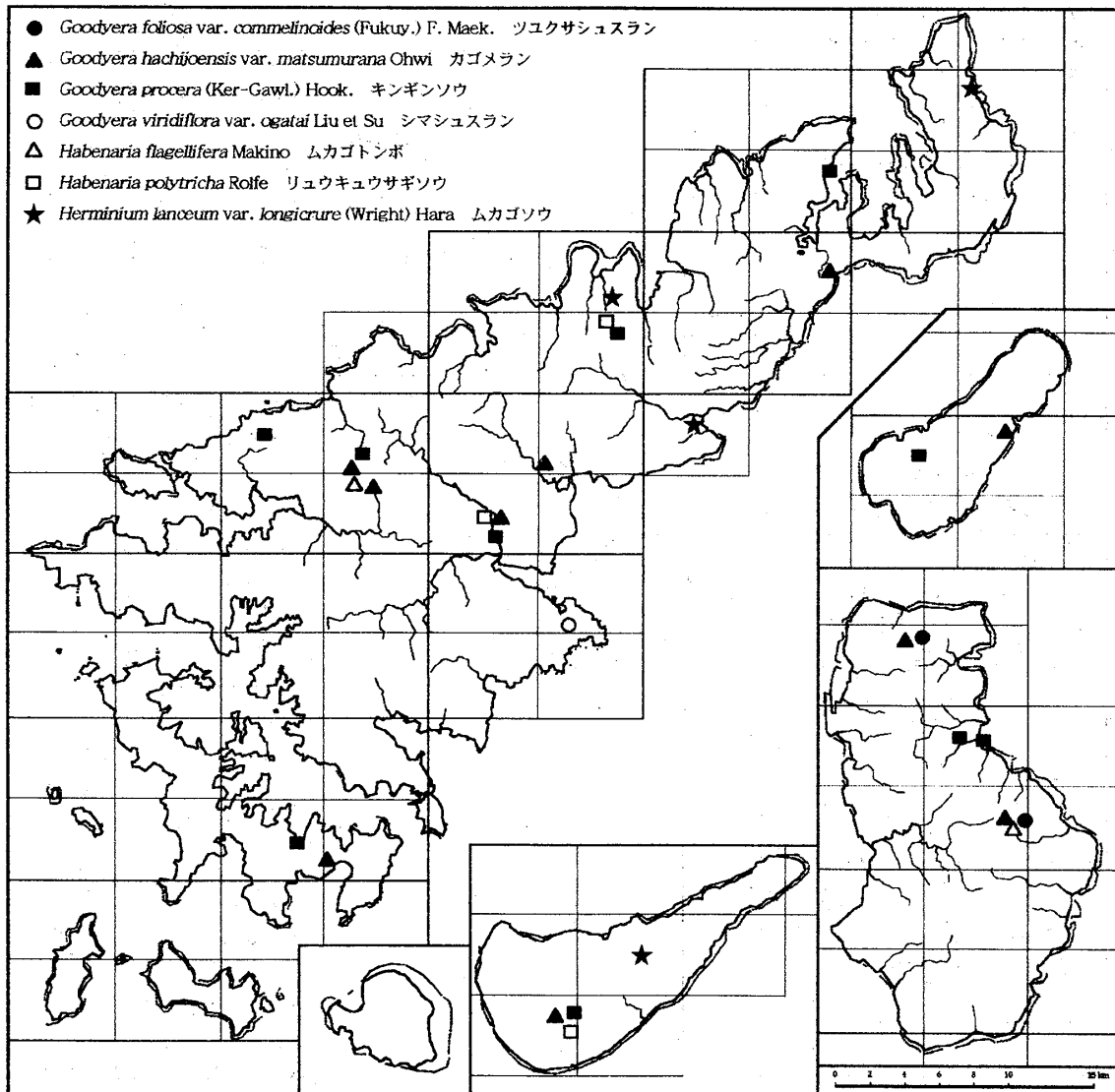
付図 46 ラン科植物の分布—3

トクサランはインドやマレーシア熱帯から九州南部に、レンギョウエビネはヒマラヤから種子島にかけて分布する熱帯系のエビネである。同じようにオナガエビネはヒマラヤから南九州にかけて分布する。花が可憐なため採取圧も強い。トクノシマエビネは徳之島に固有で、エビネに近縁と考えられる。タネガシマカイロラン台湾から南九州に分布する。カンランは本州東海地方から台湾にかけて分布するが、奄美群島ではごく稀である。ナギランはインドやマレーシア熱帯から本州関東地方にまで広く分布するが、奄美群島では稀なランである。



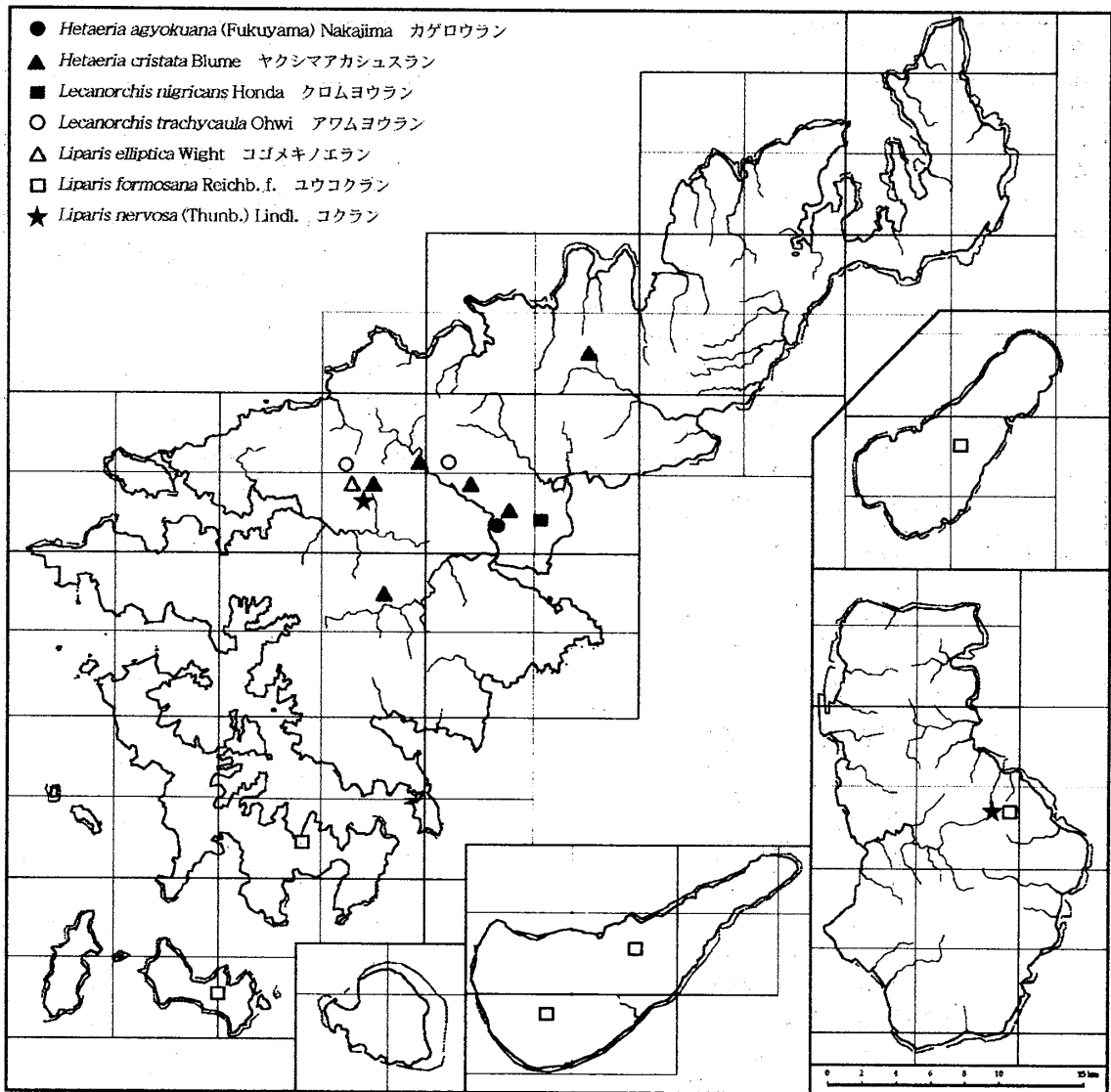
付図 47 ラン科植物の分布—4

マヤランは腐生ランで、本州から九州南部と、隔離的に奄美大島に分布する。キバナノセッコク台湾から本州伊豆地方にかけて分布するが、奄美群島では稀である。カキランは北海道や中国東北地方にかけて分布し、南西諸島中部が南限であるが、奄美大島ではごく稀な地生ランである。オオオサランはインドから種子島にかけて、オサランは台湾から本州伊豆地方にかけて分布している。腐生ランのツルツチアケビ（タカツルラン）はマレーシア熱帯から種子島にまで分布している。やはり腐生のランのハルザキヤツシロランはジャワや南西諸島から本州伊豆地方に分布している。



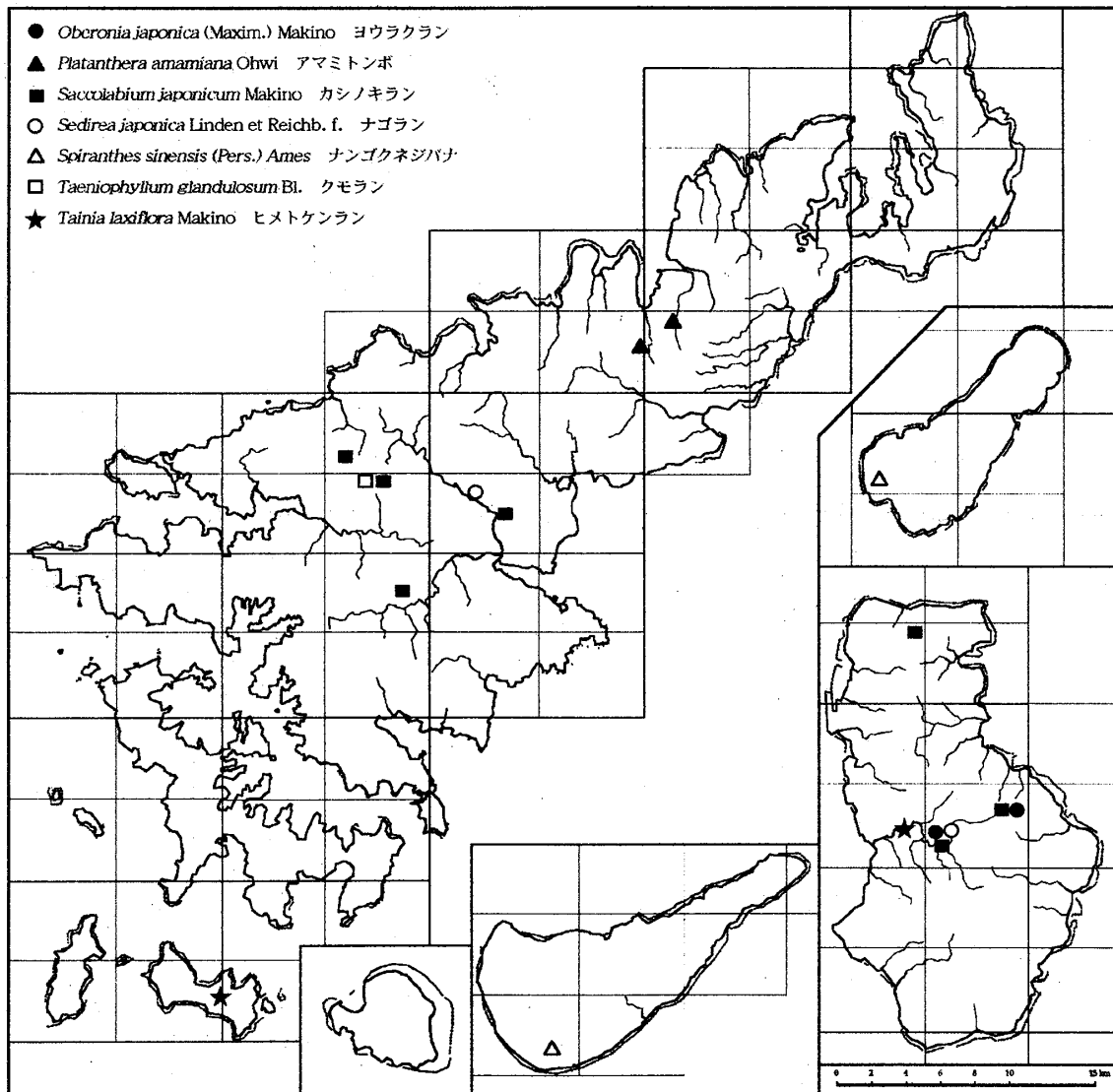
付図 48 ラン科植物の分布—5

ツユクサシユスランとカゴメランは中国大陸から本州にかけて広く分布する。キンギンソウは中大陸南部から種子島まで分布する。シマシユスランは中大陸南部から九州南部にまで分布している。シユスラン類は九州から南西諸島域で複雑な分化を行い、その進化過程については、多くの検討が必要である。ムカゴトンボは本州から奄美群島域に分布する温帯系のランである。リュウキュウサギソウは中国大陸南部から南西諸島域（北限はトカラ列島宝島）に、ムカゴソウは台湾から本州に広く分布する。奄美大島では比較的低位にも見られる。



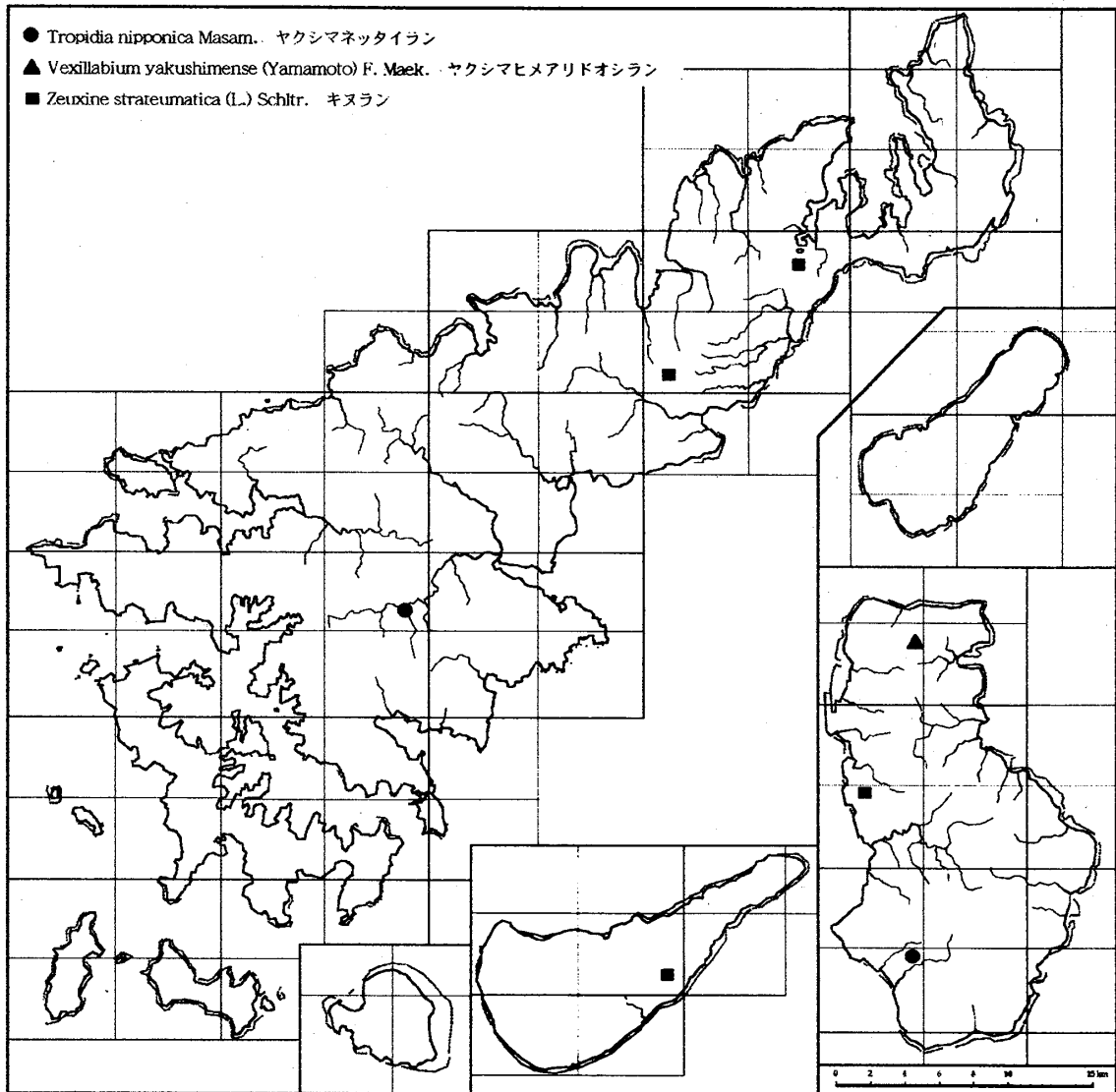
付図 49 ラン科植物の分布—6

カゲロウランは台湾から四国にかけて分布する。ヤクシマアカシユスランは本州伊豆からジャワにかけて広く分布する。クロムヨウランは本州伊豆地方から南西諸島に、アワムヨウラン紀伊半島から九州南部に分布し、奄美大島に隔離的に分布する。コゴメキノエランは台湾や先島諸島と奄美大島に分布する。保護指定植物である。ユウコ克蘭は中国大陸から九州南部にかけて、コ克蘭は中国大陸から本州にまで分布している。



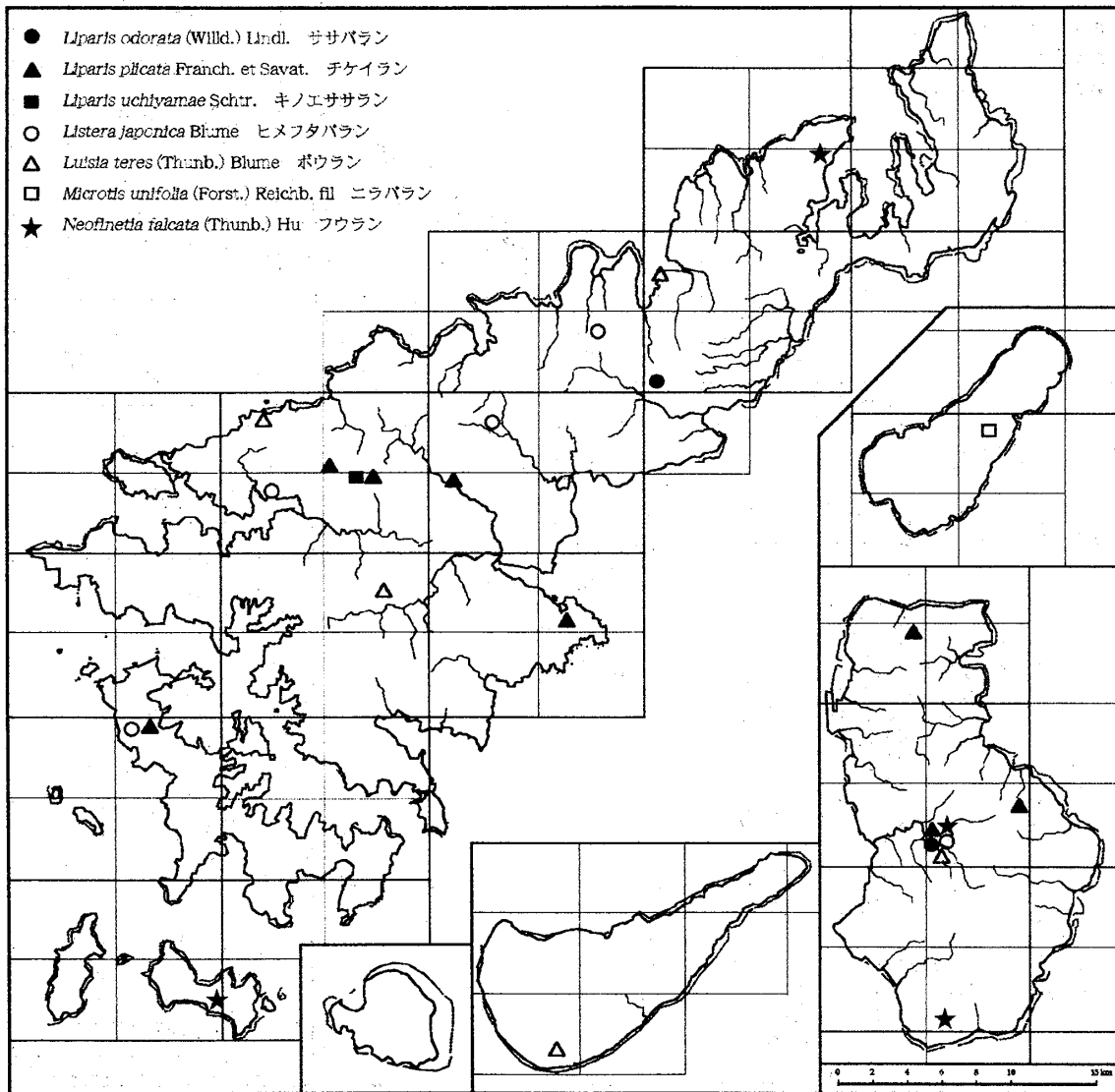
付図 50 ラン科植物の分布—7

ヨウラクランは東北地方南部から西南諸島にかけて分布する着生ランである。アマミトンボはトカラ列島から奄美群島に固有である。カシノキランは本州から南西諸島域に分布している。ナゴランは本州の温暖な地域から沖縄島にかけて分布する着生ランである。ナンゴクネジバナは三島から中国大陸南部やマレーシア熱帯・大太平洋諸島に分布している。クモランはオーストラリア・マレーシア熱帯から本州関東地方にまで分布する。ヒメトケンランは本州伊豆地方から南西諸島中部にかけて分布する。



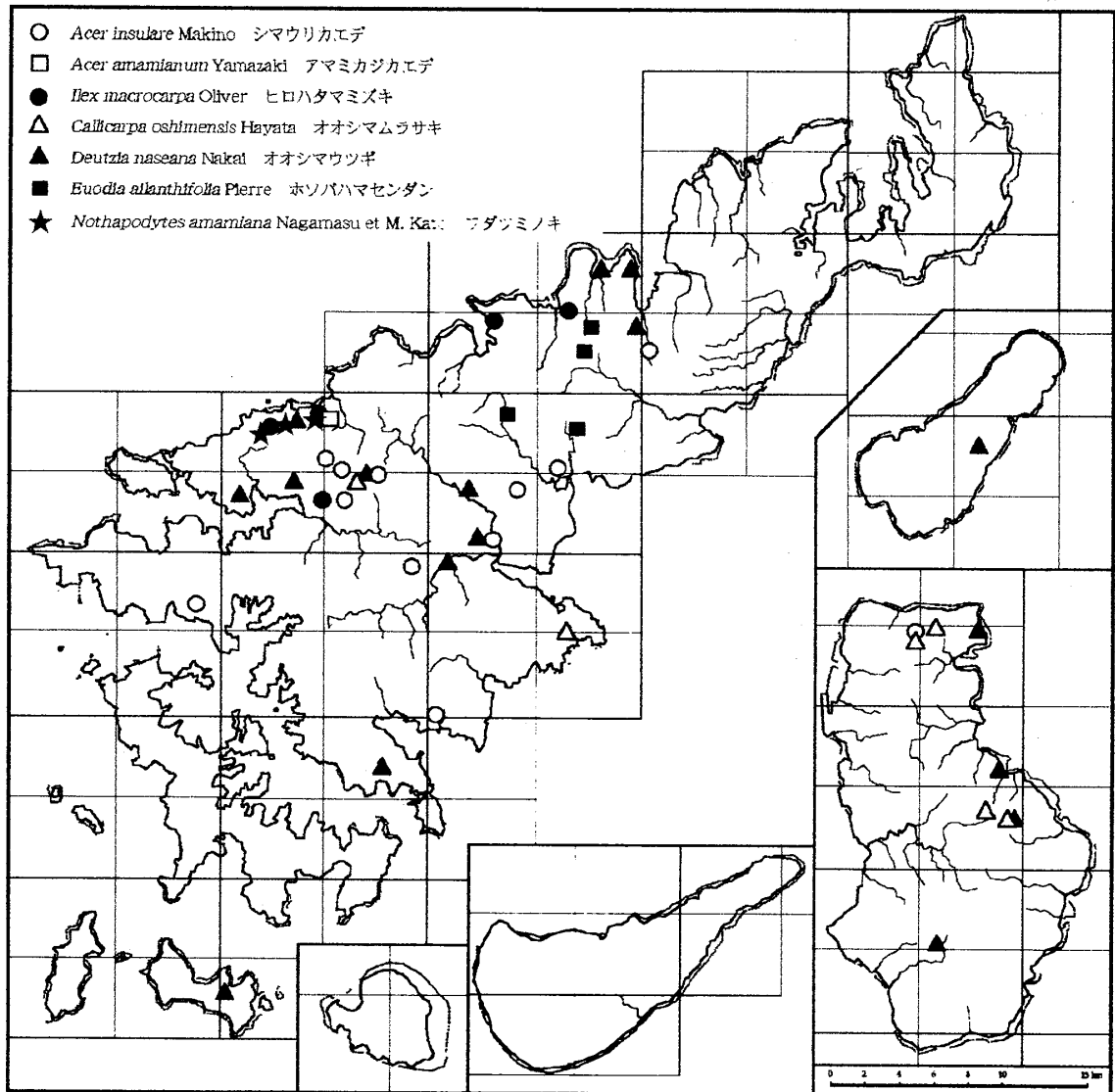
付図 51 ラン科植物の分布—8

ヤクシマネッタイランは南西諸島域から四国にかけて分布する。ヤクシマヒメアリドオシランはフィリピンから南西諸島に分布し、九州南部が北限となる。キヌランはマレーシア熱帯から九州南部に広く分布する。



付図 52 ラン科植物の分布— 9

ササバランは東南アジアから本州中部にかけて広く分布するが奄美群島で知られている分布地点は大島の朝戸や徳之島の三京などごく少ない。チケイランは中国大陸南部から四国にかけて分布する着生ランで、稀ではあるが点的に見られる。キノエササランは1900年に湯湾岳で採集され、記載された種であるが、その後は採集されていない。絶滅した可能性が高い。ヒメフタバランは西表島から本州にかけて分布する林床性の小型な地生ランである。ポウランは台湾から紀伊半島にかけて分布するが、乾燥によく適応しており、着生ランとしてはこの種だけが本島や徳之島以外に低平な隆起サンゴ石灰岩の島（沖永良部島）に分布することが知られている。ニラバランはときには芝生にも生育する陽地生のランで、知られている生育地点は少ないが、他にも分布している可能性が高い。フウランは中国大陸から本州関東地方にまで分布するが、採集圧が高く、数少ない生育地点で失われたところもある。



付図 53 落葉樹類の分布

常緑広葉樹林が極相林を形成する奄美群島に、落葉性木本植物の固有種や隔離分布種が見られるのは面白い問題である。シマウリカエデとアマミカジカエデはどちらも奄美群島に固有な種とされる。ヒロハタマミズキは中国大陸と奄美大島に隔離的に分布している種である。オオシマムラサキとオオシマウツギは低木の落葉樹であるが、奄美群島に固有である。ホソバハマセンダンは最近発見された種であるが、中国大陸南部と、そこから遠く隔たった奄美大島に隔離的に分布する。ワダツミノキは奄美固有種として2004年に新種記載されたが、近縁種は中国南部から八重山群島に分布する。このワダツミノキが分布する名音から今里にかけての地域はアマミカジカエデやヒロハタマミズキが分布しているだけでなく、ムクロジなどの落葉樹が多い二次林が広がる奄美大島の中では特異な地域である。

和名索引

アオバナハイノキ	14, 62 (F)	オオシママラサキ	6, 101 (F)
アカハダコバンノキ	11, 55 (F)	オオシロシヨウジョウバカマ	20, 89 (F)
アカミズキ	15, 76 (F)	オオバイヌビワ	8, 53 (F)
アカメイヌビワ	8, 53 (F)	オオバカナメモチ	12, 58 (F)
アキカサスゲ	18, 82 (F)	オオバカンアオイ	9, 50 (F)
アダン	22, 79 (F)	オオバチジミザサ	22, 87 (F)
アツバジシバリ	10, 73 (F)	オオハンゲ	22, 81 (F)
アツバハイチゴザサ	20, 85 (F)	オオヒンジガヤツリ	21, 84 (F)
アマシバ	14, 62 (F)	オオホシクサ	19, 81 (F)
アマノホシクサ	19, 81 (F)	オオマツバシバ	16, 85 (F)
アマミアワゴケ	11, 75 (F)	オオムラサキシキブ	6, 67 (F)
アマミイケマ	7, 66 (F)	オオヤブツルアズキ	15, 60 (F)
アマミイナモリ	11, 75 (F)	オキナワイボタ	11, 69 (F)
アマミイワウチワ	14, 56 (F)	オキナワウラジロガシ	12, 53 (F)
アマミエビネ	17, 93 (F)	オキナワギク	5, 72 (F)
アマミカジカエデ	4, 64 (F), 101 (F)	オキナワサルトリイバラ	23, 91 (F)
アマミカタバミ	12, 65 (F)	オキナワスゲ	17, 82 (F)
アマミクサアジサイ	6, 57 (F)	オキナワスズムシソウ	14, 70 (F)
アマミザンショウ	15, 65 (F)	オキナワソケイ	10, 69 (F)
アマミサンショウソウ	7, 54 (F)	オキナワチドリ	16, 92 (F)
アマミセイシカ	13, 57 (F)	オキナワハグマ	4, 71 (F)
アマミタムラソウ	13, 68 (F)	オキナワホシクサ	19, 81 (F)
アマミテンナンショウ	16, 80 (F)	オサラン	19, 95 (F)
アマミトンボ	22, 98 (F)	オナガエビネ	17, 94 (F)
アマミナツツタ	12, 63 (F)	オニキランソウ	4, 68 (F)
アマミナツトウダイ	8, 54 (F)	オニシバ	24, 88 (F)
アマミヒイラギモチ	9, 56 (F)	オニヘツカリンドウ	14, 65 (F)
アマミヒサカキ	8, 55 (F)	オヒルギ	6, 61 (F)
アマミヒメカカラ	23, 91 (F)	カエデドコロ	19, 92 (F)
アマミフユイチゴ	13, 58 (F)	カキバチシャノキ	7, 67 (F)
アマミリンドウ	8, 65 (F)	カキラン	19, 95 (F)
アミガサギリ	5, 54 (F)	カゲロウラン	20, 97 (F)
アワムヨウラン	21, 97 (F)	カケロマカンアオイ	9, 49 (F)
イソノギク	5, 73 (F)	カゴメラン	20, 96 (F)
イソフジ	14, 60 (F)	カシノキラン	23, 98 (F)
イトアゼガヤ	21, 86 (F)	カツウダケエビネ	17, 93 (F)
イヌタヌキモ	15, 70 (F)	カラスビシャク	22, 80 (F)
ウケユリ	21, 89 (F)	カワラヨモギ	5, 72 (F)
ウジルカンダ	11, 59 (F)	カンラン	18, 94 (F)
ウマノスズクサ	5, 51 (F)	キイルンヤマノイモ	19, 92 (F)
エビモ	23, 78 (F)	キキョウ	12, 71 (F)
オオアマミテンナンショウ	16, 80 (F)	キヌラン	24, 99 (F)
オオイナモリ	11, 76 (F)	キノエササラン	21, 100 (F)
オオオサラン	19, 95 (F)	キバナノセッコク	18, 95 (F)
オオキダチハマグルマ	15, 73 (F)	キンガヤツリ	18, 83 (F)
オオクロタマガヤツリ	19, 84 (F)	キンギンソウ	20, 96 (F)
オオシイバモチ	10, 56 (F)	キンチャクマメ	12, 60 (F)
オオシマアリドオシ	7, 74 (F)	キンバイザサ	18, 91 (F)
オオシマウツギ	7, 101 (F)	クサスギカズラ	16, 89 (F)
オオシマガマズミ	15, 77 (F)	クサトベラ	14, 71 (F)
オオシマガンビ	7, 55 (F)	グスクカンアオイ	9, 49 (F)
オオシマノジギク	7, 72 (F)	クスクスラン	17, 93 (F)
オオシマハグマ	4, 71 (F)	クスノハカエデ	4, 64 (F)
		クソエンドウ	14, 60 (F)
		グミモドキ	7, 54 (F)
		クモラン	24, 98 (F)
		クロイゲ	13, 63 (F)

クロイワザサ	24, 87 (F)	ショウキズイセン	22, 91 (F)
クロガヤ	20, 84 (F)	ショウブ	16, 80 (F)
クロタマガヤツリ	19, 84 (F)	シロミミズ	15, 76 (F)
クロツグ	16, 79 (F)	シンチクヒメハギ	12, 64 (F)
クロムヨウラン	21, 97 (F)	シンテンルリミノキ	10, 75 (F)
クロヨナ	12, 59 (F)	スイシャホシクサ	19, 81 (F)
ケシバニツケイ	6, 52 (F)	スズサイコ	7, 66 (F)
ケニオイグサ	9, 74 (F)	スプタ	16, 78 (F)
ケネズミモチ	10, 69 (F)	センブリ	14, 65 (F)
ケラマツツジ	13, 57 (F)	ソコベニヒルガオ	10, 67 (F)
コアマモ	24, 79 (F)	ソナレシバ	24, 87 (F)
コウシュンシバ	24, 88 (F)	タイワンアイアシ	21, 86 (F)
コウトウヤマヒハツ	5, 54 (F)	タイワンアシカキ	21, 86 (F)
コウボウシバ	18, 83 (F)	タイワンクズ	12, 59 (F)
コウライシバ	24, 88 (F)	タイワンツクバネウツギ	4, 77 (F)
コオニシバ	24, 88 (F)	タイワンヒデリコ	19, 84 (F)
コオニユリ	21, 89 (F)	タイワンルリミノキ	10, 74 (F)
コキンバイザサ	20, 91 (F)	タシロスゲ	18, 83 (F)
コ克蘭	21, 97 (F)	タシロルリミノキ	10, 75 (F)
コケセンボンギク	10, 73 (F)	タニムラアオイ	9, 49 (F)
コケタンポホ	10, 73 (F)	タネガシマカイロラン	18, 94 (F)
コゴメキノエラン	21, 97 (F)	タネガシマムヨウラン	16, 92 (F)
コショウジョウバカマ	20, 89 (F)	タマザキヤマビワソウ	13, 70 (F)
コバケイスゲ	18, 83 (F)	タマムラサキ	16, 89 (F)
コバナホウチャクソウ	19, 89 (F)	タンゲブ	6, 71 (F)
コバナアマミフユイチゴ	13, 58 (F)	ダンチアブラススキ	19, 85 (F)
ゴモジュ	15, 77 (F)	チケイラン	21, 100 (F)
コヤブミョウガ	22, 81 (F)	チャボイナモリ	11, 75 (F)
サガリバナ	5, 56 (F)	ツキイゲ	23, 87 (F)
サクライソウ	23, 90 (F)	ツクシタチドコロ	18, 92 (F)
サコスゲ	18, 83 (F)	ツユクサシュスラン	20, 96 (F)
ササバサンキライ	23, 91 (F)	ツルザンショウ	15, 65 (F)
ササバモ	23, 78 (F)	ツルツチアケビ (タカツルラン)	20, 95 (F)
ササバラ	21, 100 (F)	ツルラン	17, 93 (F)
サツマオモト	23, 90 (F)	テッポウユリ	21, 90 (F)
サルカケミカン	14, 64 (F)	トウツルモドキ	19, 82 (F)
サンカクイ	23, 84 (F)	トキワカモメズル	15, 66 (F)
シオクグ	18, 83 (F)	トクサラン	17, 94 (F)
シコウラン	17, 93 (F)	トクノシマエビネ	17, 94 (F)
シナヤブコウジ	5, 56 (F)	トクノシマカンアオイ	9, 49 (F)
シバニツケイ	6, 52 (F)	トクノシマスゲ	18, 82 (F)
シマアザミ	6, 72 (F)	トクノシマテンナンショウ	16, 80 (F)
シマイヌザンショウ	15, 65 (F)	トゲカズラ	12, 53 (F)
シマウリカエデ	4, 101 (F)	トリガミネカンアオイ	9, 49 (F)
シマカナメモチ	12, 58 (F)	ナガボスゲ	18, 82 (F)
シマコガネギク	14, 73 (F)	ナガミボチョウジ	12, 76 (F)
シマサルスベリ	10, 61 (F)	ナギラン	18, 94 (F)
シマシュスラン	20, 96 (F)	ナゴラン	23, 98 (F)
シマスナビキソウ	7, 67 (F)	ナタオレノキ	12, 69 (F)
(シマ)ソナレムグラ	8, 74 (F)	ナルコユリ	22, 90 (F)
シマタゴ	8, 69 (F)	ナンゴクアオキ	5, 62 (F)
シマチカラシバ	22, 87 (F)	ナンゴクシャジン	4, 71 (F)
シマヒョウタンボク	14, 76 (F)	ナンゴクネジバナ	23, 98 (F)
シマフジバカマ	8, 72 (F)	ナンバンアワブキ	11, 53 (F)
シマミサオノキ	13, 76 (F)	ニクキビモドキ	17, 85 (F)
ジャノヒゲ	22, 90 (F)	ニツケイ	6, 52 (F)
シュウブンソウ	13, 73 (F)	ニラバラ	22, 100 (F)

堀田 満；奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域 ((索引))

ノボタン	11, 61 (F)	ミカワタヌキモ	15, 70 (F)
ハイシバ	21, 86 (F)	ミズオオバコ	22, 78 (F)
ハウチワノキ	7, 64 (F)	ミズガンビ	12, 61 (F)
バケイスゲ	18, 83 (F)	ミズヒキモ	23, 79 (F)
ハツシマカンアオイ	9, 49 (F)	ミツバハマゴウ	15, 67 (F)
ハナガサノキ	12, 75 (F)	ミフクラギ	6, 66 (F)
ハナカモノハシ	21, 86 (F)	ミミカキグサ	15, 70 (F)
ハノジエビネ	17, 93 (F)	ミヤビカンアオイ	9, 49 (F)
ハマセンナ	12, 59 (F)	ミヤマシロバイ	14, 61 (F)
ハリツルマサキ	11, 62 (F)	ミヤマハシカンボク	6, 61 (F)
ハルザキヤツシロラン	20, 95 (F)	ムカゴソウ	20, 96 (F)
ヒイラギズイナ	10, 57 (F)	ムカゴトンボ	20, 96 (F)
ヒオウギ	16, 91 (F)	ムサシアブミ	16, 80 (F)
ヒゲスゲ	18, 82 (F)	ムツオレグサ	20, 85 (F)
ヒサカキサザンカ	15, 55 (F)	ムッチャガラ	9, 56 (F)
ヒメイヨカズラ	7, 66 (F)	メヒルギ	10, 61 (F)
ヒメキセワタ	10, 68 (F)	メンテンササガヤ	22, 86 (F)
ヒメクマヤナギ	5, 63 (F)	モクビャクコウ	7, 72 (F)
ヒメサザンカ	6, 55 (F)	モダマ	7, 59 (F)
ヒメスイカズラ	11, 77 (F)	ヤエガヤ	20, 85 (F)
ヒメタツナミソウ	14, 69 (F)	ヤエヤマキランソウ	4, 68 (F)
ヒメタムラソウ	13, 68 (F)	ヤエヤマネコノチチ	13, 63 (F)
ヒメトケンラン	24, 98 (F)	ヤエヤマハマナツメ	6, 63 (F)
ヒメナベワリ	18, 91 (F)	ヤクシマアカシユスラン	20, 97 (F)
ヒメノアズキ	13, 60 (F)	ヤクシマネツタイラン	24, 99 (F)
ヒメハイチゴザサ	21, 86 (F)	ヤクシマヒメアリドオシラン	24, 99 (F)
ヒメフタバラン	22, 100 (F)	ヤドリコケモモ	15, 57 (F)
ヒメミヤマコナスビ	11, 56 (F)	ヤナギスブタ	17, 78 (F)
ヒメヤブラン	21, 90 (F)	ヤナギモ	23, 79 (F)
ヒョウタンカズラ	6, 74 (F)	ヤブラン	21, 90 (F)
ヒラミレモン, シーカチャー	6, 64 (F)	ヤマアイ	11, 55 (F)
ヒルムシロ	23, 78 (F)	ヤマコンニャク	16, 80 (F)
ヒロハタマミズキ	9, 101 (F)	ヤマビワソウ	13, 70 (F)
フウラン	22, 100 (F)	ヤンバルアワブキ	11, 53 (F)
フクマンギ	6, 67 (F)	ヤンバルツルハッカ	10, 68 (F)
フジ	15, 60 (F)	ヤンバルハグロソウ	7, 70 (F)
フジノカンアオイ	9, 50 (F)	ヤンバルミョウガ	16, 81 (F)
ブゾロイバナ	5, 68 (F)	ユウコクラン	21, 97 (F)
ヘツカリンドウ	14, 65 (F)	ユワンオニドコロ	19, 92 (F)
ボウコツルマメ	8, 59 (F)	ユワンツチトリモチ	5, 62 (F)
ホウライカガミ	12, 66 (F)	ヨウラクラン	22, 98 (F)
ボウラン	22, 100 (F)	リュウキュウアマモ	18, 79 (F)
ホソバケラマツツジ	13, 57 (F)	リュウキュウアリドオシ	7, 74 (F)
ホソバシャリンバイ	13, 58 (F)	リュウキュウウマノスズクサ	5, 51 (F)
ホソバシンジュガヤ	23, 84 (F)	リュウキュウクロウメモドキ	13, 63 (F)
ホソバハマセンダン	8, 101 (F)	リュウキュウサギソウ	20, 96 (F)
ホソバミズヒキモ	23, 79 (F)	リュウキュウスゲ	17, 82 (F)
ポチョウジ	12, 76 (F)	リュウキュウタイゲキ	8, 54 (F)
マメツタラン	17, 93 (F)	リュウキュウツルマサキ	8, 62 (F)
マメヒサカキ	8, 55 (F)	リュウキュウツワブキ	8, 72 (F)
マヤイチゴ	13, 58 (F)	リュウキュウネズミノオ	23, 87 (F)
マヤラン	18, 95 (F)	リュウキュウハギ	10, 59 (F)
マルバチシャノキ	7, 67 (F)	リュウキュウハナイカダ	9, 62 (F)
マルバニッケイ	6, 52 (F)	リュウキュウハンゲ	24, 81 (F)
マルバハタケムシロ	11, 71 (F)	リュウキュウベンケイ	10, 57 (F)
マルバルリミノキ	10, 75 (F)	リュウキュウホウライカズラ	8, 66 (F)
マルミスブタ	16, 78 (F)	リュウキュウミヤマシキミ	14, 64 (F)

リュウキュウモクセイ	12, 69 (F)
リュウキュウヨツバムグラ	8, 74 (F)
ルリシヤクジョウ	17, 92 (F)
レンギョウエビネ	17, 94 (F)
ワセビエ	19, 85 (F)
ワダツミノキ	11, 63 (F), 101 (F)

学名索引

<i>Abelia chinensis</i> var. <i>ionandra</i>	4, 77 (F)
<i>Acer amamianum</i>	4, 64 (F), 101 (F)
<i>Acer insulare</i>	4, 101 (F)
<i>Acer oblongum</i> var. <i>itoanum</i>	4, 64 (F)
<i>Acorus calamus</i>	16, 80 (F)
<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>insularis</i>	4, 71 (F)
<i>Ainsliaea macroclinioides</i> var. <i>latifolia</i>	4, 71 (F)
<i>Ainsliaea macroclinioides</i> var. <i>okinawensis</i>	4, 71 (F)
<i>Ajuga dictyocarpa</i>	4, 68 (F)
<i>Ajuga taiwanensis</i>	4, 68 (F)
<i>Alchornea lukuensis</i>	5, 54 (F)
<i>Allium pseudojaponicum</i>	16, 89 (F)
<i>Amisotolype hispida</i>	16, 81 (F)
<i>Amitostigma lepidum</i>	16, 92 (F)
<i>Amorphophalus hirtus</i> var. <i>kiusianus</i>	16, 80 (F)
<i>Anisomeles indica</i>	5, 68 (F)
<i>Antidesma pentandrum</i> var. <i>barbatum</i>	4, 54 (F)
<i>Aphyllorchis montana</i>	16, 92 (F)
<i>Ardisia chinensis</i>	5, 56 (F)
<i>Arenga tremula</i> var. <i>engleri</i>	16, 79 (F)
<i>Arisaema heterocephalum</i>	16, 80 (F)
<i>Arisaema heterocephalum</i> var. <i>majus</i>	16, 80 (F)
<i>Arisaema kawashimae</i>	16, 80 (F)
<i>Arisaema ringens</i>	16, 80 (F)
<i>Aristida takeoi</i>	16, 85 (F)
<i>Aristolochia debilis</i>	5, 51 (F)
<i>Aristolochia lukuensis</i>	5, 51 (F)
<i>Artemisia capillaris</i> (Kamegaoka type)	5, 72 (F)
<i>Asparagus cochinchinensis</i>	16, 89 (F)
<i>Aster asa-grayi</i>	5, 73 (F)
<i>Aster miyagii</i>	5, 72 (F)
<i>Aucuba japonica</i>	5, 62 (F)
<i>Balanophora yuwanensis</i>	5, 62 (F)
<i>Barringtonia racemosa</i>	5, 56 (F)
<i>Belamcanda chinensis</i>	16, 91 (F)
<i>Berchemia lineata</i>	5, 63 (F)
<i>Blastus cochinchinensis</i>	6, 61 (F)
<i>Blyxa aubertii</i>	16, 78 (F)
<i>Blyxa echinosperma</i>	16, 78 (F)
<i>Blyxa japonica</i>	17, 78 (F)
<i>Brachiaria paspaloides</i>	17, 85 (F)
<i>Brugulera gymnorhiza</i>	6, 61 (F)
<i>Bulbophyllum affine</i>	17, 93 (F)
<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	17, 93 (F)
<i>Bulbophyllum macraei</i>	17, 93 (F)
<i>Burmannia itoana</i>	17, 92 (F)
<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>amamiana</i>	17, 93 (F)
<i>Calanthe discolor</i> var. <i>kanashiroi</i>	17, 93 (F)
<i>Calanthe discolor</i> var. <i>divericatipetala</i>	17, 93 (F)
<i>Calanthe furcata</i>	17, 93 (F)

<i>Calanthe gracilis</i> var. <i>venusta</i>	17, 94 (F)
<i>Calanthe lyroglossa</i>	17, 94 (F)
<i>Calanthe masuca</i>	17, 94 (F)
<i>Calanthe tokunoshimensis</i>	17, 94 (F)
<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	6, 67 (F)
<i>Callicarpa oshimensis</i>	6, 101 (F)
<i>Camellia lutchuensis</i>	6, 55 (F)
<i>Campanumoea lancifolia</i>	6, 71 (F)
<i>Cardiandra amamiohsimensis</i>	6, 57 (F)
<i>Carex alliformis</i>	17, 82 (F)
<i>Carex breviscapa</i>	17, 82 (F)
<i>Carex dolichostachya</i>	18, 82 (F)
<i>Carex kimurae</i>	18, 82 (F)
<i>Carex nemostachys</i>	18, 82 (F)
<i>Carex oahuensis</i> var. <i>robusta</i>	18, 82 (F)
<i>Carex pumila</i>	18, 83 (F)
<i>Carex sakonis</i>	18, 83 (F)
<i>Carex scabrifolia</i>	18, 83 (F)
<i>Carex sociata</i>	18, 83 (F)
<i>Carex tenuior</i>	18, 83 (F)
<i>Carex warburgiana</i>	18, 83 (F)
<i>Carmona retusa</i>	6, 67 (F)
<i>Cerbera manghas</i>	6, 66 (F)
<i>Cheirostylis lukuensis</i>	18, 94 (F)
<i>Cinnamomum daphnoides</i>	6, 52 (F)
<i>Cinnamomum doederleinii</i>	6, 52 (F)
<i>Cinnamomum doederleinii</i> var. <i>pseudodaphnoides</i>	6, 52 (F)
<i>Cinnamomum sieboldii</i>	6, 52 (F)
<i>Cirsium brevicaule</i>	6, 72 (F)
<i>Citrus depressa</i>	6, 64 (F)
<i>Colubria asiatica</i>	6, 63 (F)
<i>Coptosapelta diffusum</i>	6, 74 (F)
<i>Cordia dichotoma</i>	7, 67 (F)
<i>Croonia japonica</i>	18, 91 (F)
<i>Crossostephium chinense</i>	7, 72 (F)
<i>Croton cascarilloides</i>	7, 54 (F)
<i>Curculigo orchioides</i>	18, 91 (F)
<i>Cymbidium kanran</i>	18, 94 (F)
<i>Cymbidium lancifolium</i>	18, 94 (F)
<i>Cymbidium nipponicum</i>	18, 95 (F)
<i>Cymodocea serrulata</i>	18, 79 (F)
<i>Cynanchum auriculatum</i> var. <i>amamianum</i>	7, 66 (F)
<i>Cynanchum matsumurae</i>	7, 66 (F)
<i>Cynanchum paniculatum</i>	7, 66 (F)
<i>Cynoglossum lanceolatum</i> var. <i>formosanum</i>	7, 67 (F)
<i>Cyperus odoratus</i>	18, 83 (F)
<i>Damnacanthus biflorus</i>	7, 74 (F)
<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>pavispinus</i>	7, 74 (F)
<i>Dendranthema crassum</i>	7, 72 (F)
<i>Dendrobium tosaense</i>	18, 95 (F)
<i>Deutzia naseana</i>	7, 101 (F)
<i>Dicliptera chinensis</i>	7, 70 (F)
<i>Dioscorea asclepiadea</i>	18, 92 (F)
<i>Dioscorea pseudo-japonica</i>	19, 92 (F)
<i>Dioscorea quinqueloba</i>	19, 92 (F)
<i>Dioscorea tabatae</i>	19, 92 (F)
<i>Diplomorpha phymatoglossa</i>	7, 55 (F)
<i>Disporum sessile</i> var. <i>micrantha</i>	19, 89 (F)
<i>Dodonea viscosa</i>	7, 64 (F)
<i>Echinochloa colona</i>	19, 85 (F)
<i>Ehretia dicksonii</i>	7, 67 (F)

堀田 満 ; 奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域 ((索引))

<i>Elatostema oshimensis</i>	7, 54 (F)	<i>Ipomoea gracilis</i>	10, 67 (F)
<i>Entada phaseoloides</i>	7, 59 (F)	<i>Isachne kunthiana</i>	20, 85 (F)
<i>Eocoilopus cotulifer</i> var. <i>densiflorus</i>	19, 85 (F)	<i>Isachne nipponensis</i> var. <i>minor</i>	21, 86 (F)
<i>Epipactis thunbergii</i>	19, 95 (F)	<i>Ischaemum aureum</i>	21, 86 (F)
<i>Eria corneri</i>	19, 95 (F)	<i>Ischaemum rugosum</i> var. <i>segetum</i>	21, 86 (F)
<i>Eria reptans</i>	19, 95 (F)	<i>Itea oldhamii</i>	10, 57 (F)
<i>Eriocaulon amanoanum</i>	19, 81 (F)	<i>Ixeris debilis</i> var. <i>liuchuensis</i>	10, 73 (F)
<i>Eriocaulon buergerianum</i>	19, 81 (F)	<i>Jasminium sinense</i>	10, 69 (F)
<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>lutchuensis</i>	19, 81 (F)	<i>Kalanchoe integra</i>	10, 57 (F)
<i>Eriocaulon nigrum</i> var. <i>suishaense</i>	19, 81 (F)	<i>Kandelia candel</i>	10, 61 (F)
<i>Euodia ailanthifolia</i>	8, 101 (F)	<i>Lagenophora lanata</i>	10, 73 (F)
<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>austroliukuensis</i>	8, 62 (F)	<i>Lagenophora mikadoi</i>	10, 73 (F)
<i>Eupatorium luchuense</i>	8, 72 (F)	<i>Lagerstroemia subcostata</i>	10, 61 (F)
<i>Euphorbia liukuensis</i>	8, 54 (F)	<i>Lamium chinense</i> var. <i>tuberiferum</i>	10, 68 (F)
<i>Euphorbia sieboldiana</i> var. <i>amamiana</i>	8, 54 (F)	<i>Lasianthus cyanocarpus</i>	10, 74 (F)
<i>Eurya emarginata</i> var. <i>minutissima</i>	8, 55 (F)	<i>Lasianthus fordii</i>	10, 75 (F)
<i>Eurya osimensis</i>	8, 55 (F)	<i>Lasianthus fordii</i> var. <i>pubescens</i>	10, 75 (F)
<i>Farugium japonicum</i> var. <i>luchuense</i>	8, 72 (F)	<i>Lasianthus wallichii</i>	11, 75 (F)
<i>Ficus bengutensis</i>	8, 53 (F)	<i>Lecanorchis nigricans</i>	21, 97 (F)
<i>Ficus septica</i>	8, 53 (F)	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	21, 97 (F)
<i>Fimbristylis miliacea</i> var. <i>koidzumiana</i>	19, 84 (F)	<i>Leersia hexandra</i>	21, 86 (F)
<i>Flagellaria indica</i>	19, 82 (F)	<i>Leptochloa panicea</i>	21, 86 (F)
<i>Fraxinus floribunda</i>	8, 69 (F)	<i>Lepturus repens</i>	21, 86 (F)
<i>Fuirena ciliaris</i>	19, 84 (F)	<i>Lespedeza liukuensis</i>	10, 59 (F)
<i>Fuirena umbellata</i>	19, 84 (F)	<i>Leucas mollissima</i> var. <i>chinensis</i>	10, 68 (F)
<i>Gahnia tristis</i>	20, 84 (F)	<i>Ligustrum japonicum</i> var. <i>pubescens</i>	10, 69 (F)
<i>Galeola altissima</i>	20, 95 (F)	<i>Ligustrum liukuense</i>	10, 69 (F)
<i>Galium gracilens</i> var. <i>luchuense</i>	8, 74 (F)	<i>Lilium alexandrae</i>	21, 89 (F)
<i>Gardneria liukuensis</i>	8, 66 (F)	<i>Lilium leichtlinii</i> f. <i>pseudotigrinum</i>	21, 89 (F)
<i>Gastrodia nipponica</i>	20, 95 (F)	<i>Lilium longiflorum</i>	21, 90 (F)
<i>Gentiana scabra</i> var. <i>amamiana</i>	8, 65 (F)	<i>Liparis elliptica</i>	21, 97 (F)
<i>Glyceria acutiflora</i>	20, 85 (F)	<i>Liparis formosan</i>	21, 97 (F)
<i>Glycine clandestina</i>	8, 59 (F)	<i>Liparis nervosa</i>	21, 97 (F)
<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>commelinoides</i>	20, 96 (F)	<i>Liparis odorata</i>	21, 100 (F)
<i>Goodyera hachijoensis</i> var. <i>matsumurana</i>	20, 96 (F)	<i>Liparis plicata</i>	21, 100 (F)
<i>Goodyera procera</i>	20, 96 (F)	<i>Liparis uchiyamae</i>	21, 100 (F)
<i>Goodyera viridiflora</i> var. <i>ogatai</i>	20, 96 (F)	<i>Lipocarpha chinensis</i>	21, 84 (F)
<i>Habenaria flagellifera</i>	20, 96 (F)	<i>Liriope minor</i>	21, 90 (F)
<i>Habenaria polytricha</i>	20, 96 (F)	<i>Liriope platyphylla</i>	21, 90 (F)
<i>Hackelochloa granularis</i>	20, 85 (F)	<i>Listera japonica</i>	22, 100 (F)
<i>Hedyotis strigulosa</i> var. <i>parvifolia</i>	8, 74 (F)	<i>Lobelia loochoensis</i>	11, 71 (F)
<i>Hedyotis tenelliflora</i>	9, 74 (F)	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>miyagusiana</i>	11, 77 (F)
<i>Heloniopsis kawanoi</i>	20, 89 (F)	<i>Luisia teres</i>	22, 100 (F)
<i>Heloniopsis leucantha</i>	20, 89 (F)	<i>Lycoris traubii</i>	22, 91 (F)
<i>Helwingia japonica</i> var. <i>liukuensis</i>	9, 62 (F)	<i>Lysimachia liukuensis</i>	11, 56 (F)
<i>Herminium lanceum</i> var. <i>longicrura</i>	20, 96 (F)	<i>Margaritaria indica</i>	11, 55 (F)
<i>Hetaeria agyokuana</i>	20, 97 (F)	<i>Maytenus diversifolia</i>	11, 62 (F)
<i>Hetaeria cristata</i>	20, 97 (F)	<i>Melastoma candidum</i>	11, 61 (F)
<i>Heterotropa celsa</i>	9, 49 (F)	<i>Meliosma oldamii</i> var. <i>rhoifolia</i>	11, 53 (F)
<i>Heterotropa fudsinoi</i>	9, 50 (F)	<i>Meliosma squamulata</i>	11, 53 (F)
<i>Heterotropa gusuk</i>	9, 49 (F)	<i>Mercurialis leiocarpa</i>	11, 55 (F)
<i>Heterotropa hatsushimae</i>	9, 49 (F)	<i>Microstegium somai</i>	22, 86 (F)
<i>Heterotropa hatsushimae</i> var. <i>leucosepalum</i>	9, 49 (F)	<i>Microtis unifolia</i>	22, 100 (F)
<i>Heterotropa lutchuensis</i>	9, 50 (F)	<i>Morinda umbellata</i>	11, 75 (F)
<i>Heterotropa pellucida</i>	9, 49 (F)	<i>Mucuna macrocarpa</i>	11, 59 (F)
<i>Heterotropa simile</i>	9, 49 (F)	<i>Neofinetia falcata</i>	22, 100 (F)
<i>Heterotropa trinacriformis</i>	9, 49 (F)	<i>Nertera yamashitae</i>	11, 75 (F)
<i>Hypoxis aurea</i>	20, 91 (F)	<i>Nothapodytes amamiana</i>	11, 63 (F), 101 (F)
<i>Ilex dimorphophylla</i>	9, 56 (F)	<i>Oberonia japonica</i>	22, 98 (F)
<i>Ilex macrocarpa</i>	9, 101 (F)	<i>Ophiopogon japonicus</i>	22, 90 (F)
<i>Ilex maximowicziana</i> var. <i>kanehirae</i>	9, 56 (F)	<i>Ophiorrhiza japonica</i> var. <i>amamiana</i>	11, 75 (F)
<i>Ilex warburgi</i>	10, 56 (F)	<i>Ophiorrhiza japonica</i> var. <i>cantoniensis</i>	11, 76 (F)
		<i>Ophiorrhiza pumila</i>	11, 75 (F)

<i>Oplismenus compositus</i> var. <i>patens</i>	22, 87 (F)	<i>Smilax china</i> var. <i>kuru</i>	23, 91 (F)
<i>Ormocarpum cochinchinense</i>	12, 59 (F)	<i>Smilax nervo-marginata</i>	23, 91 (F)
<i>Osmanthus insularis</i>	12, 69 (F)	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>insularis</i>	14, 73 (F)
<i>Osmanthus marginatus</i>	12, 69 (F)	<i>Sophora tomentosa</i>	14, 60 (F)
<i>Ottelia japonica</i>	22, 78 (F)	<i>Spinifex littoreus</i>	23, 87 (F)
<i>Oxalis amamiana</i>	12, 65 (F)	<i>Spiranthes sinensis</i>	23, 98 (F)
<i>Pandanus odoratissimus</i>	22, 79 (F)	<i>Sporobolus fertilis</i> var. <i>pallidiorus</i>	23, 87 (F)
<i>Parsonsia laevigata</i>	12, 66 (F)	<i>Sporobolus virginicus</i>	24, 87 (F)
<i>Parthenocissus heterophylla</i>	12, 63 (F)	<i>Strobilanthes tashiroi</i>	14, 70 (F)
<i>Pemphis acidula</i>	12, 61 (F)	<i>Swertia japonica</i>	14, 65 (F)
<i>Pennisetum sordidum</i>	22, 87 (F)	<i>Swertia tashiroi</i>	14, 65 (F)
<i>Photinia serrulata</i>	12, 58 (F)	<i>Swertia tashiroi</i> "Island type"	14, 65 (F)
<i>Photinia wrightiana</i>	12, 58 (F)	<i>Symplocos confusa</i>	14, 61 (F)
<i>Pinellia ternata</i>	22, 80 (F)	<i>Symplocos microcalyx</i>	14, 62 (F)
<i>Pinellia tripartita</i>	22, 81 (F)	<i>Symplocos urceolaris</i>	14, 62 (F)
<i>Pisonia aculeata</i>	12, 53 (F)	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	24, 98 (F)
<i>Platanthera amamiana</i>	22, 98 (F)	<i>Tainia laxiflora</i>	24, 98 (F)
<i>Platycodon grandiflorum</i>	12, 71 (F)	<i>Thermopsis chinensis</i>	14, 60 (F)
<i>Pollia miranda</i>	22, 81 (F)	<i>Thuarea involuta</i>	24, 87 (F)
<i>Polygala chinensis</i>	12, 64 (F)	<i>Thyphonium divaricatu</i>	24, 81 (F)
<i>Polygonatum falcatum</i>	22, 90 (F)	<i>Thysanosperrum difusum</i>	14, 76 (F)
<i>Pongamia pinnata</i>	12, 59 (F)	<i>Toddalia asiatica</i>	14, 64 (F)
<i>Potamogeton crispus</i>	23, 78 (F)	<i>Tricalysia dubia</i>	15, 76 (F)
<i>Potamogeton distinctus</i>	23, 78 (F)	<i>Tropidia nipponica</i>	24, 99 (F)
<i>Potamogeton malaianus</i>	23, 78 (F)	<i>Tutcheria virgata</i>	15, 55 (F)
<i>Potamogeton octandrus</i>	23, 79 (F)	<i>Tylophora japonica</i>	15, 66 (F)
<i>Potamogeton octandrus</i> var. <i>mizuhikimo</i>	23, 79 (F)	<i>Utricularia australis</i>	15, 70 (F)
<i>Potamogeton oxyphyllus</i>	23, 79 (F)	<i>Utricularia bifida</i>	15, 70 (F)
<i>Protolirion sakuraii</i>	23, 90 (F)	<i>Utricularia exoleta</i>	15, 70 (F)
<i>Psychotria manillensis</i>	12, 76 (F)	<i>Vaccinium amamianum</i>	15, 57 (F)
<i>Psychotria rubra</i>	12, 76 (F)	<i>Vaccinium emarginatum</i>	15, 69 (F)
<i>Pueraria montana</i>	12, 59 (F)	<i>Vexillabium yakushimense</i>	24, 99 (F)
<i>Pycnospora lutescens</i>	12, 60 (F)	<i>Viburnum suspensum</i>	15, 77 (F)
<i>Quercus miyagii</i>	12, 53 (F)	<i>Viburnum tashiroi</i>	15, 77 (F)
<i>Randia canthioides</i>	13, 76 (F)	<i>Vigna reflexo-pilosa</i>	15, 60 (F)
<i>Rhamnella inaequilatera</i>	13, 63 (F)	<i>Vitex trifolia</i>	15, 67 (F)
<i>Rhamnus liukiensis</i>	13, 63 (F)	<i>Wedelia biflora</i> var. <i>ryukyuensis</i>	15, 73 (F)
<i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>liukiensis</i>	13, 58 (F)	<i>Wendlandia formosana</i>	15, 76 (F)
<i>Rhododendron amamiense</i>	13, 57 (F)	<i>Wisteria floribunda</i>	15, 60 (F)
<i>Rhododendron scabrum</i>	13, 57 (F)	<i>Zanthoxylum amamiense</i>	15, 65 (F)
<i>Rhododendron scabrum</i> var. <i>angustifolium</i>	13, 57 (F)	<i>Zanthoxylum scandens</i>	15, 65 (F)
<i>Rhynchosia minima</i>	13, 60 (F)	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> var. <i>okinawense</i>	15, 65 (F)
<i>Rhynchospermum verticillatum</i>	13, 73 (F)	<i>Zeuxine strateumatica</i>	24, 99 (F)
<i>Rhynchosyche discolor</i>	13, 70 (F)	<i>Zostera japonica</i>	24, 79 (F)
<i>Rhynchosyche discolor</i> var. <i>austrokiushuense</i>	13, 70 (F)	<i>Zoysia macrostachya</i>	24, 88 (F)
<i>Rohdea japonica</i> var. <i>latifolia</i>	23, 90 (F)	<i>Zoysia matrella</i>	24, 88 (F)
<i>Rubus × tawdaus</i>	13, 58 (F)	<i>Zoysia pacifica</i>	24, 88 (F)
<i>Rubus amamianus</i>	13, 58 (F)	<i>Zoysia sinica</i>	24, 88 (F)
<i>Rubus amamianus</i> var. <i>minor</i>	13, 58 (F)		
<i>Saccolabium japonicum</i>	23, 98 (F)		
<i>Sageretia theezans</i>	13, 63 (F)		
<i>Salvia pygmaea</i>	13, 68 (F)		
<i>Salvia pygmaea</i> var. <i>simplicior</i>	13, 68 (F)		
<i>Scaevola sericea</i>	14, 71 (F)		
<i>Scirpus triqueter</i>	23, 84 (F)		
<i>Scleria biflora</i>	23, 84 (F)		
<i>Scutellaria kikaiisularis</i>	14, 69 (F)		
<i>Sedirea japonica</i>	23, 98 (F)		
<i>Shortia rotundifolia</i> f. <i>amamiana</i>	14, 56 (F)		
<i>Skimmia japonica</i> var. <i>lutchuensis</i>	14, 64 (F)		
<i>Smilax biflora</i> var. <i>amamiana</i>	23, 91 (F)		